

独立行政法人日本芸術文化振興会委託

美術の創造普及活動に対する助成に関する調査研究

報告書

2018年3月

株式会社ニッセイ基礎研究所

◎ はじめに

この報告書は、独立行政法人日本芸術文化振興会から委託を受けて株式会社ニッセイ基礎研究所が実施した「美術の創造普及活動に対する助成に関する調査研究」の成果をとりまとめたものである。

独立行政法人日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金は、「すべての国民が文化芸術に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動、その他の文化振興又は普及を図る活動に対する援助を継続的・安定的に行う」ことを目的に1990年に創設された。以来、我が国の文化芸術に対する公的助成機関の中核として重要な役割を担ってきた。

芸術文化振興基金による助成事業には、現在、芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動として5つの分野が設定されており、今回の調査対象の「美術の創造普及活動」は1990年の基金創設以来、30年近く継続されてきたものである。しかし近年、応募件数、交付件数とも減少傾向にあり、過去の交付実績を見ると、助成対象団体が固定化し、広がりや新陳代謝が乏しいことが見受けられる。

一方で、国際芸術祭やアートプロジェクト、アーティスト・イン・レジデンスなど、美術分野では多種多様な活動が全国各地で増加しており、従来の「美術の創造普及活動」の助成の仕組みだけでは必ずしも十分に対応できない状況となっている。加えて、芸術文化振興基金の創設以降、文化芸術に対する支援は文化庁が大幅な拡充を行ってきた他、民間財団等の助成プログラムも多様化している。

そこで本調査研究では、「美術の創造普及活動」について、より効果的で戦略的な支援の方法を検討するため、助成対象となりうる美術分野の各種活動について、情報収集とアンケート調査を実施し、あわせて代表例に対するヒアリング調査、他の助成金制度に関する調査、当該分野の専門家から構成された「有識者検討委員会」による検討などを行った。

調査の結果、現在の「美術の創造普及活動」の助成の仕組みについて、美術館や美術団体等から改善点や要望が多数寄せられるとともに、多様化する美術活動に対応するためには、様々な課題があることが明らかとなった。その結果に基づき、本報告書では「美術の創造普及活動」の募集案内について改正の方向性と改正案をとりまとめた。それらを参考に、今後、「美術の創造普及活動」の助成金制度の仕組み等が、各地に広がる美術の創造普及活動の実態により即したものとなり、ひいては効果的な助成や応募件数の増加に結びつくことを期待したい。

末筆ではあるが、今回この貴重な調査研究の機会を与えられた独立行政法人日本芸術文化振興会、ならびに本調査研究の実施に際してご協力いただいた有識者検討委員会委員、アンケート調査やグループ・ヒアリング調査にご協力いただいた関係団体に対し、心より謝意を表するとともに、この成果が、美術をはじめとした日本の文化芸術の振興に有効に活用されることを願うものである。

2018年3月

株式会社 ニッセイ基礎研究所

◎ 目次

序章

第Ⅰ部 募集案内の改正の方向性と改正案	1
1. 「美術の創造普及活動」の明示方法	3
2. 助成の趣旨・目的	4
3. 助成の対象となる活動	6
4. 助成金の額	8
5. 助成対象経費	10
6. 申請の手続き・スケジュール	14
7. 提出書類	16
8. 審査の仕組み、審査基準	18
9. 資金提供以外の支援の仕組み	20
第Ⅱ部 調査結果の概要	21
1. 助成の趣旨・目的	23
2. 助成の対象となる活動	25
3. 助成金の額	28
4. 助成対象経費	30
5. 申請の手続き・スケジュール	32
6. 提出書類	36
7. 審査の仕組み、審査基準	37
8. その他(資金提供以外の支援)	38
第Ⅲ部 アンケート調査結果	39
1. 芸術文化振興基金及びその他の美術分野の助成金制度について	44
2. 2016年度の代表的な展覧会について	96
3. 団体の概要	130

序章：調査研究の目的と実施概要

1. 調査研究の目的

本調査研究は、独立行政法人日本芸術文化振興会が実施する芸術文化振興基金による助成事業のうち、「美術の創造普及活動」に対する応募件数が減少傾向にあることを踏まえ、応募件数の増加と応募者層の拡大に向けた問題点を抽出し、「美術の創造普及活動」の助成事業の在り方や改正案について提案を行うことを目的としている。

2. 調査研究の構成と実施内容

(1) 文献及びインターネット検索による情報収集

既存資料やインターネット検索に基づいて、過去3～5年間の国内における美術の創造、普及、展示活動を対象に、次の調査項目を調査、把握し、一覧表に整理した。調査対象は、芸術文化振興基金、文化庁、地域創造、アーツカウンシル東京、民間助成財団等、美術分野の助成金制度の採択実績等を参照し、2013～15年度に実施された事業の中から十分な成果を挙げるなど、公的な助成の対象になりうると思われる活動を選定した。

一覧表に整理した展覧会等の件数は、2013年度161件、2014年度167件、2015年度214件、計542件となった。

[調査項目]

- 開催概要(展覧会名、主催者名、会期、会場、住所・連絡先)
- ジャンル(絵画、彫刻、工芸、書、デザイン、建築、写真、漫画等)
- 事業種別(個展、グループ展、芸術祭、アートプロジェクト、レジデンス等)
- 助成金交付の有無、助成機関の名称

(2) アンケート調査

「(1) 文献及びインターネット検索による情報収集」で把握した事業の主催団体に対し、芸術文化振興基金及びその他の美術分野の助成金制度への応募状況や交付実績、2016年度の代表的な展覧会等の内容、事業の企画から実施までのプロセス、主催団体の概要等についてアンケート調査を実施した。

「(1) 文献及びインターネット検索による情報収集」で作成した一覧表には同一団体の複数の活動が含まれているため、それを334件の団体リストに再整理し、アンケート調査の対象とした。アンケート調査の実施概要は以下のとおりである。

[実施期間]

2017年5月19日～7月18日

[実施方法]

配布・回収方法は次の2通りを併用した。

- アンケート票(書面)の郵送による配布・回収
- 電子アンケート票(PDF フォーム形式)の特設サイトからのダウンロード、電子メールでの返信

[配布数・回収数]

- 配布数:334件(内、住所不明などによる未達数:15件)
- 回収数:161件
- 回収率:50.5%(未達分を除く)

[設問項目](詳細は p.136のアンケート調査票を参照)

- **芸術文化振興基金及びその他の美術分野の助成金制度について**
 - 芸術文化振興基金への応募状況、採択実績、応募の理由、要望等
 - 芸術文化振興基金以外の美術分野を対象とした助成金制度の認知の有無、応募状況、交付実績
 - 美術分野全体の助成金制度への応募件数、採択件数、交付金額、問題点
- **2016年度の代表的な展覧会等の実施内容について**
 - 交付された助成金額の最も大きかった展覧会名
 - 助成金の交付実績
 - 事業の目的、種類、ジャンル、作品点数、延べ入場者数・参加者数、展示以外の事業内容、会場
 - 会期、企画検討時期、助成金等の検討時期、助成金等の交付決定時期、交付決定時期の妥当性、非採択の場合の対応方法
 - 総事業費、収入と支出の内訳比率
 - 事業の実施、助成金等の申請・交付に関する課題
- **団体について**
 - 団体種別、博物館・美術館の開館年、団体の設立年、活動拠点、団体名称・住所・連絡先

(3) ヒアリング調査

「(2) アンケート調査」の回答団体の中から、芸術文化振興基金の「美術の創造普及活動」の応募・交付実績、団体の特性、事業の種類・内容、地域バランスなどを考慮して選定した20団体を対象に、アンケート調査では把握できない問題点や課題、要望等を把握するため、グループ・ヒアリングの形式でヒアリング調査を実施した。ヒアリングの協力団体、調査項目は次のとおりである。

[ヒアリング協力団体]

- 特定非営利活動法人あおもり NPO サポートセンター
- アートプログラム青梅実行委員会
- 公益財団法人いわさきちひろ記念事業団
- 公益財団法人大垣市文化事業団
- 公益財団法人京都市芸術文化協会・京都芸術センター
- 公立大学法人京都市立芸術大学・京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(アクア)
- 町立久万美術館
- 認定非営利活動法人クリエイティブサポート レッツ
- 特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋 ココローム
- 特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター
- 公益財団法人滋賀県陶芸の森

- 公益財団法人静岡市文化振興財団・静岡市美術館
- 月出工舎実行委員会
- 公益財団法人東京オペラシティ文化財団
- 特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィス
- 奈良・町家の芸術祭はならあと実行委員会
- Naked Craft Project
- 福島現代美術ビエンナーレ実行委員会
- 公益財団法人水戸市芸術振興財団・水戸芸術館
- 公益財団法人ミモカ美術振興財団・丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（順不同）

〔調査項目〕

- 団体の概要及び事業・活動について
- 芸術文化振興基金「美術の創造普及活動」について（応募・採択等の実績、助成の趣旨・目的、助成の対象となる活動、申請の手続き・スケジュール、提出書類、審査の仕組み、審査基準、助成対象経費、助成金額など）
- 芸術文化振興基金以外の助成金制度について（応募・採択等の実績、助成の趣旨・目的、助成の対象となる活動、助成金額、助成対象経費、自己負担金の有無、応募や交付の手続き、提出書類、募集時期や交付内定時期、募集回数など）
- 美術分野の助成制度に関する問題点、課題、要望など

(4) 他の助成金制度に関する調査

芸術文化振興基金の「美術の創造普及活動」の助成金制度について、改正の方向性や改正案の検討の参考とするため、他の公的機関や民間財団が実施する美術分野の主な助成金制度について、次の調査項目ごとに整理を行い、参考となるポイントを抽出した。

〔調査項目〕

- 助成機関及び助成制度の名称
- 助成の趣旨や目的
- 対象分野・事業
- 対象期間
- 助成対象経費
- 助成金額
- 申請期間／選考結果の通知時期
- 報告書の提出時期

(5) 有識者検討委員会による検討

有識者による検討委員会を設置し、(1)～(3)の調査結果の報告に基づいて、芸術文化振興基金の「美術の創造普及活動」に関する問題点や課題、募集案内の改正の方向性や改正案の検討を行った。

〔有識者検討委員会委員〕

柏木智雄 横浜美術館 副館長、主席学芸員
 岡部あおみ 美術評論家、キュレーター
 荻原康子 (公財)墨田区文化振興財団 常務理事

住友文彦 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 准教授
日沼禎子 女子美術大学 芸術学部 准教授、ARTizan プログラムディレクター
田島怜子 NPO法人 BEPPU PROJECT クリエイティブ事業班 アートディレクター (順不同)

(6) 調査結果のとりまとめと「美術の創造普及活動」の助成金制度の改正案の検討

① 調査結果の概要

次の項目に沿って、(1)～(5)の調査結果ごとに、主要なポイントや、コメント、意見等を整理し、調査結果の概要としてとりまとめた。

- 助成の趣旨・目的
- 助成の対象となる活動
- 助成金の額
- 助成対象経費
- 申請の手続き・スケジュール
- 提出書類
- 審査の仕組み、審査基準
- その他

② 募集案内の改正の方向性と改正案の検討

(1)～(5)の調査結果、「(6)①調査結果の概要」を総合的に勘案し、「独立行政法人日本芸術文化振興会法」及び「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」の内容を踏まえながら、「美術の創造普及活動」の助成金募集案内の項目ごとに、改正の方向性と改正案を検討、整理した。

3. 報告書の構成

報告書は次の3部構成とした。

(1) 第Ⅰ部 募集案内の改正の方向性と改正案

第Ⅰ部では、本調査研究のとりまとめとして、「美術の創造普及活動」の昨今の動向に対応し、実態により即した助成金制度とすることによって、効果的な助成や幅広い活動からの応募を促し、ひいては応募件数の増加につながると考えられる改正について、現在の募集案内に即し、改正の方向性と改正案を提示した。

(2) 第Ⅱ部 調査結果の概要

第Ⅱ部では、アンケート調査やヒアリング調査、他の助成金制度に関する調査、有識者検討委員会による検討で得られた調査結果や意見、要望などから主要なものをピックアップし、上記「2.(6)①調査結果の概要」で示した項目ごとに整理・分析を行った。第Ⅰ部の募集案内の改正の方向性や改正案は、より具体的で即効性が高いと考えられる内容を優先したが、ここではそれ以外の項目も幅広く整理することで、「美術の創造普及活動」のさらなる改善や改正のヒントが得られるよう配慮した。

(3) 第Ⅲ部 アンケート調査結果

本調査研究で実施したアンケート調査について、クロス集計分析を含め、集計結果の詳細を掲載した。美術団体等の芸術文化振興基金やその他の助成金制度への応募・採択状況、現

在の助成金制度に対する要望や課題、美術の創造普及活動の具体的な内容や制作プロセスなどについて、アンケート調査のデータに基づいた把握が可能となっている。

4. 調査期間と調査体制

(1) 調査研究実施期間

2016年12月9日～2018年3月23日

(2) 調査研究体制

吉本光宏 (研究理事・芸術文化プロジェクト室長、統括責任者)

稲村太郎 (芸術文化プロジェクト室 研究員、主担当)

大澤寅雄 (芸術文化プロジェクト室 准主任研究員、副担当)

塩澤誠一郎 (芸術文化プロジェクト室 准主任研究員、副担当)

太田真奈美 (研究アシスタント)

第Ⅰ部 募集案内の改正の方向性と改正案

ここでは、本調査研究の総合的なとりまとめとして、アンケート調査やヒアリング調査、他の助成金制度に関する調査、有識者検討委員会による検討などの調査結果を総合的に勘案し、「独立行政法人日本芸術文化振興会法」及び「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」の内容を踏まえながら、以下に示した「美術の創造普及活動」の助成金募集案内の項目ごとに、改正の方向性と改正案、留意事項を整理し、今後の検討事項をあわせて記載した。

1. 「美術の創造普及活動」の明示方法(募集案内に記載のない項目)
2. 助成の趣旨・目的
3. 助成の対象となる活動
4. 助成金の額
5. 助成対象経費
6. 申請の手続き・スケジュール
7. 提出書類
8. 審査の仕組み、審査基準
9. 資金提供以外の支援の仕組み(募集案内に記載のない項目)

なお、改正のポイントを容易に把握できるよう、各項目とも募集案内(平成29年度)の該当箇所を掲載し、改正案に関連する部分を青枠で囲んで表示するとともに、見出し部分に「第Ⅱ部 調査結果の概要」の関連ページも記載した。

1. 「美術の創造普及活動」の明示方法

現在の募集案内では、「美術の創造普及活動」は「舞台芸術等の創造普及活動」のひとつの活動区分として設定されており、調査では、美術分野が助成対象となっていることがわかりにくいという指摘があった。この点に関して、次に示したような改正が考えられる。

【改正の方向性】

(1) 美術分野の助成金制度の明示

- 美術分野を対象とした助成金制度の存在を明示する。



【改正案】

(1) 「舞台芸術等の創造普及活動」の名称の改正

- 「舞台芸術等の創造普及活動」の名称を、「舞台芸術・美術等の創造普及活動」に変更する。

(2) 募集案内の表紙等への明示

- 募集案内の表紙、HP等に以下の助成対象となる活動区分を明示し、「美術の創造普及活動」の存在を周知させる。
 1. 現代舞台芸術創造普及活動(音楽・舞踊・演劇)
 2. 伝統芸能の公開活動
 3. 美術の創造普及活動
 4. 多分野共同等芸術創造活動

【平成29年度募集案内 p.4】

助成の趣旨

本事業は、すべての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図ることを目的に、政府からの出資金、民間からの出えん金を原資とした運用益により、文化芸術活動に対して支援するものです。

特に、以下のような活動を助成の対象として配慮します。

- 芸術文化の新たな局面を切り開く先駆的・実験的な創造活動
- 次代を担うことが期待される芸術家等の芸術文化活動
- 優れた実績や豊かな将来性を有するが財政的基盤が十分でない芸術文化団体等の創造・普及活動
- 優れた芸術文化活動で、かつ、その性格上採算の望めない活動

改正案(1)
項目追加

現在の募集案内に記載された助成の趣旨、とりわけ「芸術文化の新たな局面を切り開く先駆的・実験的な創造活動」、「次代を担うことが期待される芸術家等の芸術文化活動」は、本助成金制度の趣旨を明確に提示し、現在の美術の創造普及活動にとっても重要な要件だと考えられるが、地域振興や市民との交流、教育や福祉等との連携を視野に入れた活動が増えている近年の動向を踏まえ、また、助成対象の間口を広げる観点から、次のような改正が考えられる。

【改正の方向性】

(1) 美術の動向や潮流を踏まえ、助成対象となる事業や活動を追加

- 近年の美術の動向や潮流を踏まえ、美術を通じた地域振興や市民との交流、教育・普及活動、アートプロジェクトや芸術祭等が助成対象であることを明示するため、そのことに対応した項目を追加する。



【改正案】

(1) 助成の趣旨に配慮する活動を追加

- 助成の対象として配慮する活動に赤字の項目を追加し、以下のとおりとする。
 - 芸術文化の新たな局面を切り開く先駆的・実験的な創造活動
 - 次代を担うことが期待される芸術家等の芸術文化活動
 - **芸術文化を通じた創造的な地域振興や市民との交流、教育や福祉等の領域横断的な活動**
 - 優れた実績や豊かな将来性を有するが財政的基盤が十分でない芸術文化団体等の創造・普及活動
 - 優れた芸術文化活動で、かつ、その性格上採算の望めない活動

【留意事項】

- 助成の趣旨は「美術の創造普及活動」だけでなく、他の活動区分と共通するため、上記の改正案では、「美術」ではなく「芸術文化」と表記した。

3. 助成の対象となる活動 | 第Ⅱ部 調査結果の概要 p.25-28参照

【平成29年度募集案内 p.4, 18】

助成対象となる活動

応募できる活動の期間は、平成29年4月1日から30年3月31日までとし、日本国内で行われる、以下の活動区分（分野・ジャンル）に該当する活動が、助成の対象となります（年度をまたぐ事業は対象となりません。）。詳しくは、各活動区分のページを参照してください。

また、一つの活動を複数の活動区分に重複応募することはできません。

助成の対象となる活動

助成の対象となる者が自ら主催して我が国において行う絵画、彫刻、工芸、書、デザイン、建築、写真、漫画等の美術に関する展示（作品の制作は含まれません。）を対象とします。

なお、下記「助成の対象となる者」が行う、いわゆる個展、グループ展等の展示については、それぞれ自ら制作した作品を5日間以上展示するものとします。

（注1） 作品を販売するものは助成の対象にはなりません。

（注2） 美術館等が主催する美術に関する展示については、別に募集する「地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）」に応募してください。（助成金募集案内－その3－参照）

また、アマチュア等の文化団体が主催する美術に関する展示については、別に募集する「アマチュア等の文化団体活動」に応募してください。（助成金募集案内－その3－参照）

→ 改正案(1)

応募できない活動

以下の活動は原則として助成の対象とならず、応募できません。

- 政治的又は宗教的な宣伝意図を有する活動
- 慈善事業への寄付を目的として行われる活動
- あらかじめ企画・制作されたものを購入する公演（買取公演、招へい公演等）
- **文化庁の補助金や委託費等が支出される活動**
（※ P. 8「他の助成事業等への重複応募」参照）
- 特定の企業名等を活動名に付す、いわゆる「名称冠公演」
（ネーミングライツにより施設名に企業名が入る場合を除きます。）
- コンクール・コンテストを主たる目的とする活動
- 教育研究を主たる目的とする活動
- ワークショップ・講演会・シンポジウム

（注） 企業からの協賛金等や民間の助成団体・地方公共団体からの助成金・補助金等の交付を受ける活動については助成の対象となり得ますが、その場合は助成金交付要望書の所定欄に必ずその旨を記載してください。

→ 改正案(2)

調査の結果、美術作品の制作が助成対象となっていないことが応募の妨げになり、「展示」に限定することが美術の創造普及活動の実態にそぐわないものとなっている、ということが明らかとなり、改善を望む意見やコメントが多数寄せられた。さらに美術の表現や事業の形態が多様化していること、講座やワークショップ、シンポジウム等が増加し、助成への要望が多いことなどを踏まえると、次のような改正が考えられる。

【改正の方向性】

(1) 美術の動向や潮流を踏まえ、助成の対象となる活動の文言を修正

- 近年の美術の動向や潮流を踏まえ、助成の対象となる活動を、既存の美術分野に基づいて細かく規定するのではなく、美術やデザイン、メディア芸術等、概括的な表現とする。

(2) 助成の対象となる活動に、美術の制作活動が含まれることを明示

- 「作品の制作は含まれません」という文言を削除し、「企画・制作」という文言を追加する。

(3) 多様化する事業形態を考慮し、助成の対象となる活動を付加

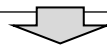
- 多様化する美術の事業形態を考慮し、「展示・公開」とするなど、展示以外にも公共性のある活動を含める。

(4) ワークショップや講演会、シンポジウムの実施条件を緩和

- 事業や活動の一環としてワークショップやアウトリーチ、講演会やトーク、シンポジウム等が行われるケース増加傾向にあるため、それらを考慮して応募できない活動の要件を緩和する。

(5) 教育や研究に関する文言を修正

- 応募できない活動とされている「教育研究を主たる目的とする活動」は一般に公開をしないものを想定していると思われるが、助成の趣旨の改正案で追加した項目「美術を通じた創造的な地域振興や市民との交流、教育や福祉等の領域横断的な活動」と整合性を図る。



【改正案】

(1) 助成の対象となる活動の追加・修正(赤字部分)

- 「助成の対象となる者が自ら主催して我が国において行う美術(絵画、彫刻、インスタレーション、写真、映像、パフォーマンス、工芸、書等)やデザイン、建築、メディア芸術(漫画、アニメーション、メディア・アート等※)に関する企画・制作、展示・公開を対象とします。また、アートプロジェクトや芸術祭も対象ですが、必ず5日間以上の展示・公開を行うものとします。」

※映画については、別に募集する「映画製作への支援」もしくは「国内映画祭等の活動」に応募してください。

(2) 応募できない活動の文言修正、削除

- 「応募する活動と関係のないワークショップ・講演会・シンポジウム」とする。
※「5. 助成対象経費 (3)ワークショップや講演会、シンポジウムの実施条件を緩和」(p.11, 13)も参照
- 教育を削除し「研究を主たる目的とする活動」とする。

【留意事項】

- 「企画・制作」を助成の対象となる活動に含める点については、補助金適正化法の「財産の処分の制限」との関係を考慮の上、助成の仕組みや体制を整える必要がある。
- 上記の改正案(1)のとおり改正する場合、助成金制度の名称を「美術等の創造普及活動」と変更することが望ましい。

【その他の検討事項】

- 複数年の助成制度を望む意見やコメントが多数寄せられたが、この点については「美術の創造普及活動」のみならず、今後、他の活動区分や助成金制度とあわせて検討することが望まれる。

4. 助成金の額 | 第Ⅱ部 調査結果の概要 p.28-30参照

【平成29年度募集案内 p.5】

助成金の額

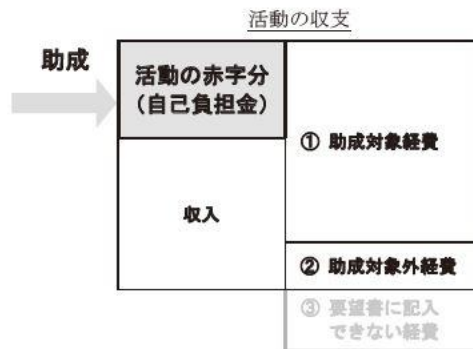
助成金の額は、助成対象経費の合計額の2分の1以内かつ自己負担金と同額以下の額となります。
 なお、助成金の額は予算の範囲内で算定されますので、要望額の全額が認められるとは限りません。

改正案①

改正案②

助成制度の特徴

- 活動の公演・展示部分等に対して助成します。
- 活動の支出は以下の三つに区別されます。
 - ① 「助成対象経費」
 - ② 「助成対象外経費」
 - ③ 「要望書に記入できない経費」
- 応募できる活動の規模は、交付を受けようとする助成金の要望額が20万円以上の活動とします。



【調査結果に基づいた参考データ】

- 定額支援額の参考として、アンケート調査の結果から各費目の支出の推計額を算出した。

	総事業費1,348万円 (平均値)	総事業費1,000万円 以下の団体	総事業費500万円以下 の団体	総事業費300万円以下 の団体
作品借料	約81万円	約49万円	約25万円	約13万円
出演費・諸謝金	約156万円	約129万円	約74万円	約39万円
会場費	約56万円	約42万円	約25万円	約12万円
設営費・運搬費	約465万円	約326万円	約140万円	約96万円
旅費	約98万円	約79万円	約68万円	約33万円
宣伝費	約182万円	約147万円	約74万円	約44万円
その他	約310万円	約230万円	約94万円	約63万円

- 定率支援の参考として、アンケート調査の結果から、総事業費の規模別に採択金額の平均額と総事業費に占める割合を算出した。

	総事業費1,000万円 以下の団体	総事業費500万円 以下の団体	総事業費300万円 以下の団体
2016年度平均採択金額	約418万円	約207万円	約154万円
総事業費に占める割合	41.8%	41.4%	51.3%

注：複数の助成金を獲得した団体については、その合計金額に基づいて平均採択金額を算出した。そのため、総事業費300万円以下の団体の「総事業費に占める割合」は50%を超え、51.3%となっている。

調査の結果、助成対象団体にとっては、「助成対象経費の合計額の2分の1以内」という条件によって、それ以外の経費を調達しなければならないことがハードルとなっていることが明らかとなった。また、この仕組みは実績報告書とともに事業に要したすべての経費に関する証拠書類の提出と確認が必要で、助成対象団体ばかりか芸術文化振興基金の事務局にとっても大きな負担となっている。

このことから、次のとおり「定額支援の導入」もしくは「定率割合の変更という二種類の改正が考えられる。

【改正の方向性①】

(1) 2分の1助成という仕組みを変更し、定額支援を導入

- 助成金の額に関する「助成対象経費の2分の1以内」という制度を見直し、費目を限定した定額支援の方法を検討・導入する。



【改正案①】

(1) 費目を限定した定額支援の導入

- 定額支援として、例えば、作品借料や作品制作費の支援に限定した助成金制度や、会場費、設営費・運搬費、旅費、宣伝費等に限定した助成金制度を検討する。その際、総事業費の規模に応じて複数の支援額を設定することも視野に入れる。

【留意事項】

- この場合、金額に上限を設けるなど、助成対象団体の収益とにならないような工夫が必要である。
- 金額については、アンケート調査の推計結果(左頁)なども参考に、別途、検討・設定する。

【改正の方向性②】

(2) 財政的な基盤が十分でない団体に配慮し、定率支援の割合を変更

- 財政的な基盤が十分でない小規模の助成対象団体などでは、自己資金の調達がハードルとなって申請を見送るケースがあるため、定率支援の割合の変更を検討する。



【改正案②】

(2) 定率支援の割合の変更

- 団体の年間予算の規模や助成対象活動の総事業費の規模に応じて、助成対象経費の合計額の2分の1以上の支援を検討する。

【留意事項】

- この場合、経費に関する証拠書類の提出と確認が必要な点は、現行の仕組みと変わらない。
- 参考までに、アンケート調査の結果から、総事業費の規模別に採択金額の割合を算出した(左頁)。

【その他の検討事項】

- 「上記①(定額支援の導入)、②(定率支援の割合の変更)のどちらを導入すべきか」もしくは「①②の両方を用意して応募団体が選べるようにするか」については、さらに詳細な検討が必要。

5. 助成対象経費(1) | 第Ⅱ部 調査結果の概要 p.30-32参照

【平成29年度募集案内 p.46】

経費区分表

①・②要望書に記入する経費（平成29年度に自ら支払った経費であることが銀行振込明細書等により確認できること）

	項目	細目	内 訳
① 助 成 対 象 経 費	作品借料	作品借料	作品借料、作品保険料
		出演費	演奏料、舞踊家・俳優等出演料
	出演費・音楽費・文芸費	音楽費	作曲料、編曲料、作詞料、調律料、楽器借料
		文芸費	演出料、振付料、音響・照明プラン料、舞台美術・衣装等デザイン料、著作権使用料
	会場費・設営費・運搬費	会場費	会場使用料（付帯設備費を含む）
		設営費	会場設営費、会場撤去費
		運搬費	作品運搬費 （作品借用・返却及び搬入から搬出までの期間で必要な場合のみ）
	謝金・旅費・宣伝費等	謝金	原稿執筆謝金、会場監視員謝金、託児謝金、講演謝金、駐車場整理謝金
		旅費	交通費、宿泊費、日当（宿泊を伴う場合のみ） （作品借用・返却及び搬入から搬出までの期間で必要な場合のみ）
		通信費	案内状送付料 ※作品の募集に係る経費を含む
		宣伝費	広告宣伝費（新聞、雑誌、駅貼り、宣伝デザイン料等）、 入場券等販売手数料、立看板費、当該活動の告知用ウェブページ作成料
		印刷費	図録印刷費、チラシ印刷費、ポスター印刷費、入場券印刷費、 アンケート用紙印刷費、各種デザイン料 ※作品の募集に係る経費を含む ※会期後に製作する記録集に係る経費は除く
記録費		録画費、写真費 ※当該活動の成果として記録するものに限る	

→ 改正案(1)

②
助
成
対
象
外
経
費

- コンクールに係る審査経費（謝金・旅費等）及び賞金・賞品代
- 航空・列車運賃の特別料金（ファーストクラス・ビジネス料金、グリーン料金等）
- 自ら設置し又は管理する会場施設において展示を行う場合の会場使用料
- 催事（イベント）保険料
- ※ 助成対象外経費については、上記に記載された費目のみ記入できます。

→ 改正案(2)
(次頁)

(注) ○ワークショップ等に係る経費は、展示期間に展示会場において行う場合に限り、助成対象経費に計上することができます。

○展示の一環として同一会場で行われるパフォーマンス等の経費は、「出演費・音楽費・文芸費」欄に記入してください。

○①に記載のない経費についてはお問合せください。

→ 改正案(1)

調査では、助成対象経費の費目が舞台芸術を念頭に置いた設定となっており、美術にそぐわないこと、美術作品の制作費は美術の創造普及活動にとって極めて重要な経費であり、従来とは異なり、事業終了後に作品が物理的な財産として残らないケースが多数を占めるようになってきていること、などが指摘された。したがって、助成対象経費については次のような改正が考えられる。

【改正の方向性】

(1) 美術の事業や活動の支出項目に対応する経費区分表に改正

- 舞台芸術系の事業や活動をベースにした経費項目ではなく、美術の事業や活動に合わせた経費項目を検討し、経費区分表を改正する。

(2) 制作費を助成対象経費に含め、美術の創造活動を支援する仕組みを明確化

- アーティストへの謝金やアートプロジェクトの企画・制作費を助成対象とし、美術の創造活動を支援する仕組みを明確にする。また、主に音楽や演劇、舞踊に関わる経費項目を整理(削除)する。
- 舞台芸術と同様、企画制作料として助成対象事業の企画制作や運営に直接関わる人件費を助成対象経費とする。

(3) ワークショップや講演会、シンポジウムの実施条件を緩和

- 事業や活動と密接に結びついたワークショップやアウトリーチ、トーク等が増加する傾向にあるため、それらを考慮した実施条件に緩和する(対応する改正案は次頁に記載)。



【改正案】

(1) 助成対象経費の項目・内訳を美術にあわせ、経費区分表を改正

- 出演費・音楽費・文芸費を企画・制作費に変更するなど、経費区分表を以下のように改正する。

	項目	細目	内訳
助成対象経費	作品借料	作品借料	作品借料、作品保険料
	企画・制作費	企画・制作費 (注1)	アーティストフィー(活動費を含む)、キュレーターフィー、企画制作料(注2)、音響・照明プラン料、著作権使用料
	会場費・設営費・運搬費	会場費	会場使用料(付帯設備費含む)
		設営費	会場設営費、会場撤去費
		運搬費	作品梱包・運搬費 (作品借用・返却及び搬入から搬出までの期間で必要な場合のみ)
	謝金・旅費・宣伝費等	謝金	原稿執筆謝金、会場監視員謝金、託児謝金、講演謝金、駐車場整理謝金
		旅費	交通費、宿泊費、日当(宿泊を伴う場合のみ) (展覧会の準備のための調査や出品交渉、作品借用・返却、作品制作、搬入から搬出までの期間で必要な場合のみ)
		通信費	送付料 ※作品の募集に係る経費を含む
		宣伝費	広告宣伝費(新聞、雑誌、駅張り、宣伝デザイン料等)、入場券等販売手数料、立看板費、当該活動の告知用ウェブページ作成料 ※作品の募集に係る経費を含む
印刷費		図録印刷費(注3)、チラシ印刷費、ポスター印刷費、入場券印刷費、アンケート用紙印刷費、各種デザイン料 ※作品の募集に係る経費を含む	
	記録費	撮影費(映像、写真)、編集費 ※当該活動の成果として記録するものに限る	

(注1) 展示の一環として同一会場で行われるパフォーマンス等の経費は「企画・制作費」欄に記入してください。

(注2) 企画制作料は事務職員の給与や事務所維持費のような管理経費ではなく、助成対象活動における企画・制作等に直接関わるスタッフ人件費が対象となる。

(注3) 会期前、会期中に製作を行う記録集に係る経費を対象とするが、助成対象活動実績報告書の提出までに経費精算をすること

【平成29年度募集案内 p.46, 47】

経費区分表

(注) ○ワークショップ等に係る経費は、展示期間に展示会場において行う場合に限り、助成対象経費に計上することができます。

○展示の一環として同一会場で行われるパフォーマンス等の経費は、「出演費・音楽費・文芸費」欄に記入してください。

○①に記載のない経費についてはお問合せください。

→ 改正案(2)

③要望書に記入できない経費 (㉗)～(㉜)の詳細についてはP. 5参照)

(㉗)	○事務所維持費 ○職員給与 ○振込手数料 ○電話代 ○ホームページ運用費 ○予備費 等
(㉘)	○事務機器・事務用品等の購入・借用費 ○書籍・CD等資料購入費 ○制作用具購入費 ○備品等購入費 等
(㉙)	○印紙代 ○ビザ取得経費 等
(㉚)	○交際費・接待費 ○レセプション・パーティーに係る経費 ○打ち上げ費 ○飲食に係る経費 ○記念品代 等
(㉜)	○美術作品の制作費 ○美術作品の買い上げ費 ○作品の恒久的な設置経費 ○取材・会議等に係る経費 ○ガソリン代 (レンタカーに係る場合は除く) 等

→ 改正案(3)

(注) これらの経費は、外部に委託した場合についても記入できません。



【改正案】

(2) ワークショップ等の経費の対象時期の改正

- ワークショップに関する注記を以下のように改正する。
○ワークショップや講演会、シンポジウム等に係る経費は対象事業に関連することが明確で、対象年度内であれば期間を問わない。

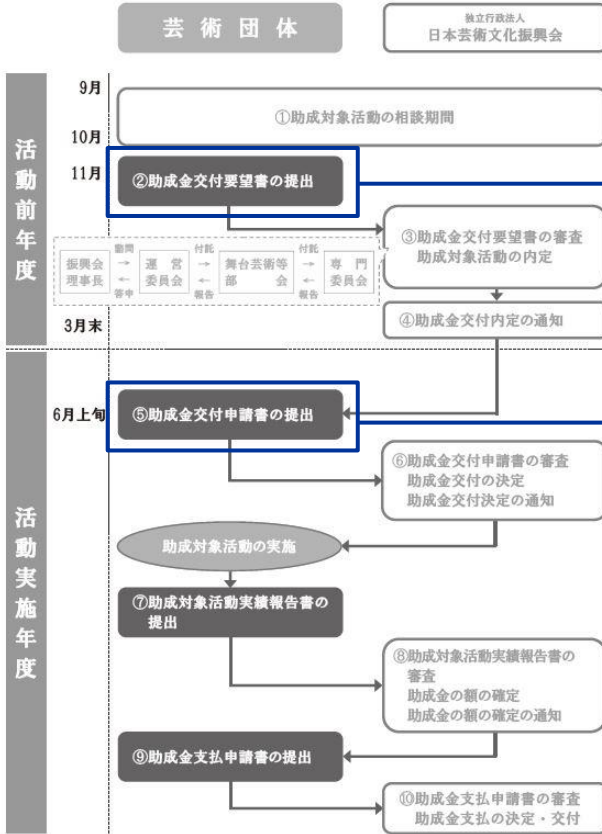
(3) 要望書に記入できない経費の改正

- 一覧表から「美術作品の制作費」を削除

6. 申請の手続き・スケジュール | 第Ⅱ部 調査結果の概要 p.32-36参照

【平成29年度募集案内 p.2-3】

事務手続きの流れ
～募集から助成金の支払まで～



改正案(1)

項目	時期	内容
①助成対象活動の相談期間	平成28年 9月下旬～ 10月31日まで	助成金の交付の対象となる活動（以下「助成対象活動」という。）や助成金交付要望書の記載手続きについては応募相談会やホームページで御案内します。お電話や御来訪での御相談も可能です。
②助成金交付要望書の提出	平成28年 11月1日～ 11日	助成金の交付を希望する団体は、助成金交付要望書（以下「要望書」という。）を提出してください。
③助成金交付要望書の審査 助成対象活動の内定	平成28年 12月～ 平成29年 3月下旬	提出された要望書の内容を審査し、助成対象活動及び交付しようとする額を内定します。審査の詳細については、P.11を参照してください。
④助成金交付内定の通知	平成29年 3月下旬	助成対象活動に内定した団体（以下「内定者」という。）に対して交付内定通知書により通知します。不採択となった団体に対しても審査結果を通知します。
⑤助成金交付申請書の提出	平成29年 6月上旬	内定者が内定を受諾した場合、助成金交付申請書（以下「申請書」という。）を提出してください。
⑥助成金交付申請書の審査 助成金交付決定 助成金交付決定の通知	申請書受理後 すみやかに	申請書の内容を審査し、助成金を交付すべきと認めるときは、内定者に交付決定通知書により通知します。
⑦助成対象活動実績報告書の提出	活動終了後 1か月以内	助成対象活動終了後1か月以内に助成対象活動実績報告書（以下「実績報告書」という。）を提出してください。
⑧助成対象活動実績報告書の審査 助成金の額の確定 助成金の額の確定の通知	実績報告書 提出後	実績報告書の内容を審査し、適正に活動が終了したと認められるときは、助成金の額を確定し、確定通知書により通知します。
⑨助成金支払申請書の提出	額の確定の 通知受取後	額の確定の通知を受けた助成対象者は、助成金支払申請書を提出してください。
⑩助成金支払申請書の審査 助成金支払決定・交付	助成金 支払申請書 提出後	助成金支払申請書の審査の後、助成対象者に対して助成金を交付します。

改正案(2)

※ 助成対象活動が4月～6月上旬の間に完了する場合は、別途お問合せください。

調査では、応募から助成金交付までの手続きの簡素化、提出期限の緩和などに対する意見や要望が多数寄せられた。特に、助成金交付要望書と助成金交付申請書は内容が重複している、助成対象活動実績報告書を事業終了後1ヶ月で提出するのは難しいという意見が多く、申請の手続きやスケジュールについては次のような改正が考えられる。

【改正の方向性】

(1) 助成金交付申請に関わる手続きの簡略化の検討

- 応募から助成金が交付されるまで、都合4回にわたって書類を提出しなければならない手続きを簡素化するため、例えば、助成金交付要望書ではなく最初から助成金交付申請書を提出する形とし、助成金交付申請書の内容に変更がある場合に変更申請を提出するなどの方法を検討する。

(2) 助成対象活動実績報告書の提出期限を緩和

- 活動終了後1ヶ月以内に助成対象活動実績報告書を提出するのは厳しいという意見が多いことから、提出期限の緩和を検討する。



【改正案】

(1) 助成金交付申請に関わる手続きの改正

- 「②助成金交付要望書の提出」を「②助成金交付申請書の提出」に、また、「⑤助成金交付申請書の提出」を「⑤変更申請書の提出」に変更し、助成金交付申請書に記載した実施時期や実施会場、主な活動内容に変更がある場合や、収支予算書の収支に20%以上の増減があるなど、助成金交付申請書の記載内容に相当程度の変更があった場合に、変更申請書を提出する流れに変更する。

(2) 助成対象活動実績報告書の提出期限の改正

- 助成対象活動実績報告書の提出時期を活動終了後2ヶ月以内とする。ただし、最終期限は翌年度の4月初旬とする。
例：(平成29年度の募集の場合)助成対象活動が平成30年2月7日から平成30年3月31日の間に終了する場合は、平成30年4月6日までに提出する。

【留意事項】

- どの程度の変更があった場合に変更申請書の提出を求めるかについては、別途検討が必要。

【その他の検討事項】

- 他の助成金や補助金の制度でも助成金交付要望書等の提出が同時期に重なっているケースが多いことから、募集開始時期や助成金交付要望書の提出のスケジュールについても検討の余地がある。
- 調査の中では、年2回の募集や電子申請の導入についても要望が寄せられたが、この点については「美術の創造普及活動」のみならず、今後、他の活動区分や助成金制度とあわせて検討することが望まれる。

7. 提出書類 | 第Ⅱ部 調査結果の概要 p.36-37参照

【平成29年度募集案内 p.16-17】

提出書類一覧表

○：必ず添付 可：添付可 (提出書類は原則としてA4判とします。)

活動区分		助成金交付 要望書			その他の添付書類又は資料										
		1 総表	2 個表	3 活動の収支予算	4 団体概要	5 個人略歴 (代表者)	6 個人略歴 (団体の芸術上中核者)	7 個人略歴 (活動の芸術上中核者)	8 規約等	9 会場資料	10 公演・展示実績資料	11 参考資料	12 作品ファイル	13 推薦書	
1. 現代舞台 芸術創造普及活動	音楽	団体	○	○	○	○	○	○	可	○	可	○	可	—	—
		グループ	○	○	○	○	○	○	可	—	可	○	可	—	—
	舞踊	団体	○	○	○	○	○	○	可	○	可	○	可	—	—
		グループ	○	○	○	○	○	○	可	—	可	○	可	—	—
	演劇	団体	○	○	○	○	○	○	可	○	可	○	可	—	—
2. 伝統芸能 の公開活動	団体	○	○	○	○	○	○	可	○	可	○	可	—	—	
3. 美術の創造 普及活動	団体	○	○	○	○	○	○	可	○	○	○	○	—	—	
	グループ	○	○	○	○	○	○	可	—	○	○	○	○	○	
	個人	○	○	○	—	○	—	可	—	○	○	○	○	○	
4. 多分野共 同等芸術創造活動	団体	○	○	○	○	○	○	可	○	○	○	可	—	—	
	グループ	○	○	○	○	○	○	可	—	○	○	可	—	—	
	個人	○	○	○	—	○	—	可	—	○	○	可	—	—	

→ 改正案(1)

アンケート調査やヒアリング調査では、提出書類の簡素化についても多数の意見や要望が示された。応募のハードルを下げ、応募件数を増加させる方策のひとつとして、次のような改正が考えられる。

【改正の方向性】

1. 申請や報告に必要な提出書類の簡素化を検討

- 助成金額の規模や助成方法(定額もしくは定率)に応じて、申請や報告に必要な提出書類の簡略化を検討する。

2. 申請者の負担を軽減する提出書類の様式を検討

- 申請者の負担を軽減するために、助成金交付要望書や助成金交付申請書の記入様式の簡素化や字数制限、収支に関する様式に自動計算機能を設定するなどの工夫を検討する。



【改正案】

1. 申請や報告に必要な提出書類の改正

- 助成金額の規模に応じて、助成対象活動の収支予算書や収支決算書の簡略化や、助成対象活動に係る収入や支出を証明する証拠書類の提出の簡素化を行う。
- 定額助成を導入した場合、助成対象活動に係る収入や支出を証明する証拠書類は助成対象項目のみとする。
- 個表の「活動の目的及び内容」を重視し、提出書類の数を減らす。(下表は有識者検討委員会の発言に基づいた改正案。P.36・37参照)。

		助成金交付申請書			その他の添付書類又は資料									
		1 総評	2 個表	3 活動の収支予算	4 団体概要	5 個人略歴 (代表者)	6 個人略歴 (団体の芸術上中核者)	7 個人略歴 (活動の芸術上中核者)	8 規約等	9 会場資料	10 公演・展示実績資料	11 参考資料	12 作品ファイル	13 推薦書
3. 美術の創造普及活動	団体	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	可	—	—
	グループ	○	○	○	○	—	—	○	—	○	○	可	—	—
	個人	○	○	○	—	—	—	○	—	○	○	可	—	—

- 過去3年以内に申請を行って、団体概要や個人略歴、規約等を提出した場合、それらの書類に変更がなければ、その提出を省略できるものとする。

2. 提出書類の様式の簡素化

- 助成金交付要望書や助成金交付申請書に関して、活動の目的及び内容を記述する「本活動の企画意図」や「本活動の社会に対する波及効果」等の項目について、例えば、300字以内等の字数制限を設定する。また、個表の「本活動の内容」については、展示作品の種類・点数、主な作品名の項目を省略し、出品者名と展示内容を中心に記述する様式にする。
- 団体概要の展示実績に関して、団体概要別紙への記入分を含め、最大で10事業までにするなど、記入負担の軽減を図る。
- 収支予算書や収支決算書に関して、収入や支出の内訳、予算額や決算額が自動計算される様式にする。

【平成29年度募集案内 p.11, 19】

審査の仕組み

応募のあった活動については、振興会理事長から運営委員会へ助成対象活動の採択について諮問を行います。これを受けて運営委員会から部会へ、更に専門委員会へと順次調査審議の付託が行われます。

専門委員会においては、審査基準に基づき、分野ごとに審査方法が定められた上で、付託された調査審議について、専門委員による書面審査及びその結果に基づく合議審査が行われ、助成対象活動の選定が行われます。

専門委員会での審査結果をもとに、各部会では採択すべき助成対象活動について審議が行われ、この結果が運営委員会に報告されます。

これを受けて運営委員会では慎重な審議が行われ、当該年度の助成対象活動と助成金の額が決定され、振興会理事長に答申されます。

運営委員会組織図



審査基準

応募のあった活動については、以下の基準により審査を行いますので、必ず御確認ください。

【企画内容】

- ア 活動内容が具体的であること
- イ 活動計画が当該団体等の過去の実績等から推測して実現可能であること
- ウ 活動の目的及び内容が優れていること
- エ 当該団体等及び当該活動の今後の発展に期待が持てること

【運営】

- オ 団体の場合は、団体の運営（経理処理を含む）が適正であること
- カ 予算積算等が適切であること

【社会性】

- キ 活動が社会的に開かれたものであること
- ク 観客層拡充等に努力を行っていること

【その他】

- ケ 助成の緊要度が高い活動であること
- コ グループ・個人の場合は、推薦書において、推薦内容及び理由が具体的に示されていること

審査の仕組みや審査基準については、舞台芸術の中に美術が埋もれている、美術分野にはプログラム・ディレクターやプログラム・オフィサーが配置されていないという指摘、不採択の理由を知りたいという要望などがあつた。審査体制の強化や不採択理由の公表は容易ではないが、この点については次のような改正が考えられる。

【改正の方向性】

(1) 審査体制の検討

- 音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能等では、プログラム・ディレクターやプログラム・オフィサーが配置されているが、美術にはその体制が整っていない。審査会では参考となる書類や資料が多く求められる傾向にあるため、美術の専門家を起用し、審査体制を整える。



【改正案】

(1) 審査体制の改正

- 現在、運営委員会の組織図では、舞台芸術等部会の下に美術専門委員会が置かれているが、その部会の名称を「舞台芸術・美術等部会」に変更する。
- 美術を専門とするプログラム・ディレクターやプログラム・オフィサーを配置する。

【その他の検討事項】

- 不採択になった団体が次回申請するために不採択の理由を知りたいなど、不採択理由の公表については、アンケート調査、ヒアリング調査でも要望があつたが、現実には対応が難しいため、採択団体の助成対象活動実績報告書を、了解を得て公開し、参考にしてもらおうという方法について、可能性を検討する。

調査では、募集案内に記載のない項目として、資金提供以外の支援について、意見や要望が出された。この点については、「美術の創造普及活動」に限らず、芸術文化振興基金全体の仕組みとして検討が望まれる。

【検討事項】

(1) 団体間の交流・ネットワーク化の支援

- 民間の助成事業で行われている事業説明会や報告会に参加し、他の団体の事業や活動が参考になったという意見や他の団体とのネットワークができたという意見が多くあった。
- 事業説明会や報告会の実施等、助成団体の交流や情報交換、ネットワーク化を促す方法について、資金提供以外の支援の仕組みのひとつとして検討する。

(2) 団体の運営基盤を強化する人材育成への支援

- 美術の創造普及活動を促進するためには、助成金など運営財源の確保に加えて、企画や制作などを担えるアートマネジメント分野の人材育成が大きな課題だとする意見も聞かれた。
- 事業や活動に対する支援ではなく、人材育成という運営基盤を支える側面的な支援は、美術分野に限らず芸術団体等に共通することとして検討の余地があると思われる。

第Ⅱ部 調査結果の概要

ここでは、アンケート調査やヒアリング調査、他の助成金制度に関する調査、有識者検討委員会による検討などの調査結果から、主要なポイントをピックアップし、次の項目別に要点を整理・分析した。第Ⅰ部の募集案内の改正の方向性や改正案では、より具体的で即効性が高いと考えられる内容を優先したが、ここではそれ以外の項目も幅広く整理することで、「美術の創造普及活動」のさらなる改善や改正のヒントが得られるよう配慮した。

1. 助成の趣旨・目的
2. 助成の対象となる活動
3. 助成金の額
4. 助成対象経費
5. 申請の手続き・スケジュール
6. 提出書類
7. 審査の仕組み、審査基準
8. その他

アンケート調査の結果については、クロス集計などを含めた詳しい分析結果を参照できるよう該当項目の掲載ページを記載したが、ここに掲載しなかった設問項目・結果もあるため、アンケート調査の詳細については「第Ⅲ部 アンケート調査結果」を参照されたい。

1. 助成の趣旨・目的

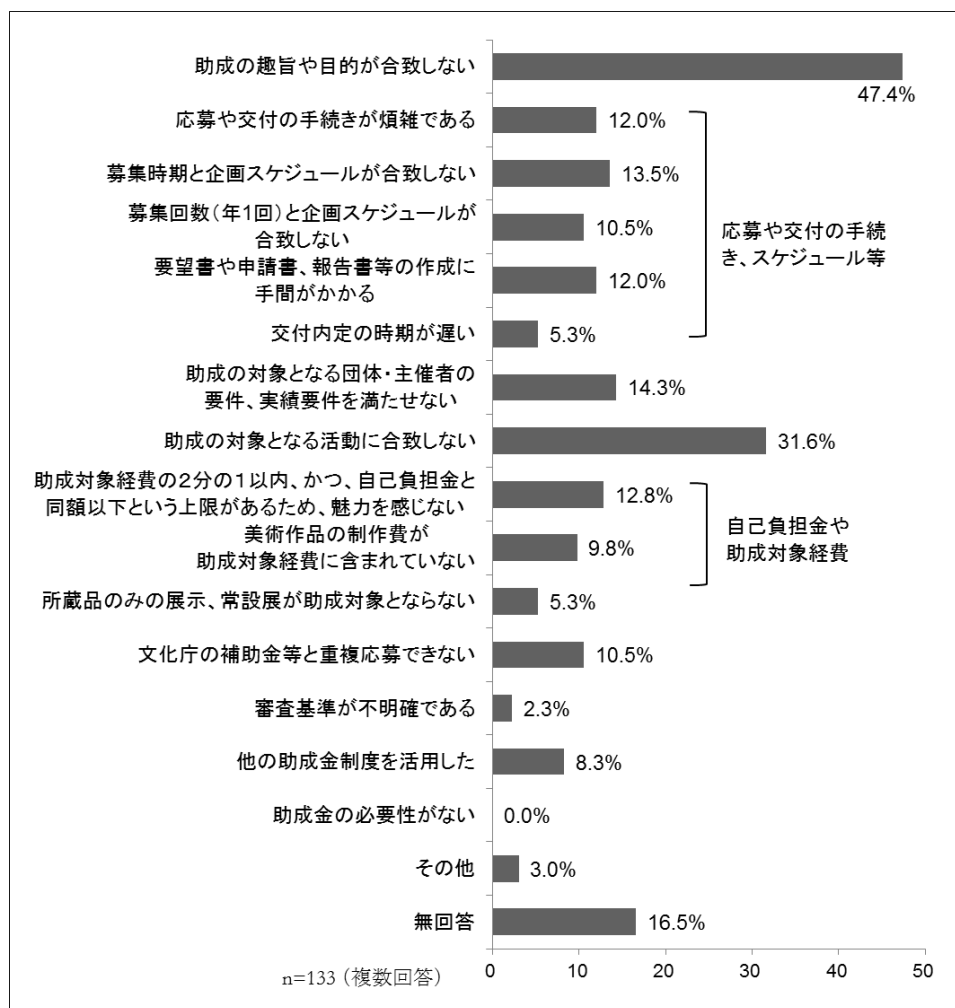
助成の趣旨・目的に関して調査で明らかになった問題点や課題は、多くの団体にとって助成の趣旨や目的が合致しない、助成の趣旨と現在のアートの制作手法とが噛み合わなくなっている、制作費が対象にならないことが助成の趣旨と矛盾している、などであった。

改正の方向については、多分野の横断的な活動や社会課題解決型の活動を支援する、地域振興や市民との交流を目的に加える、などの意見や要望があった。

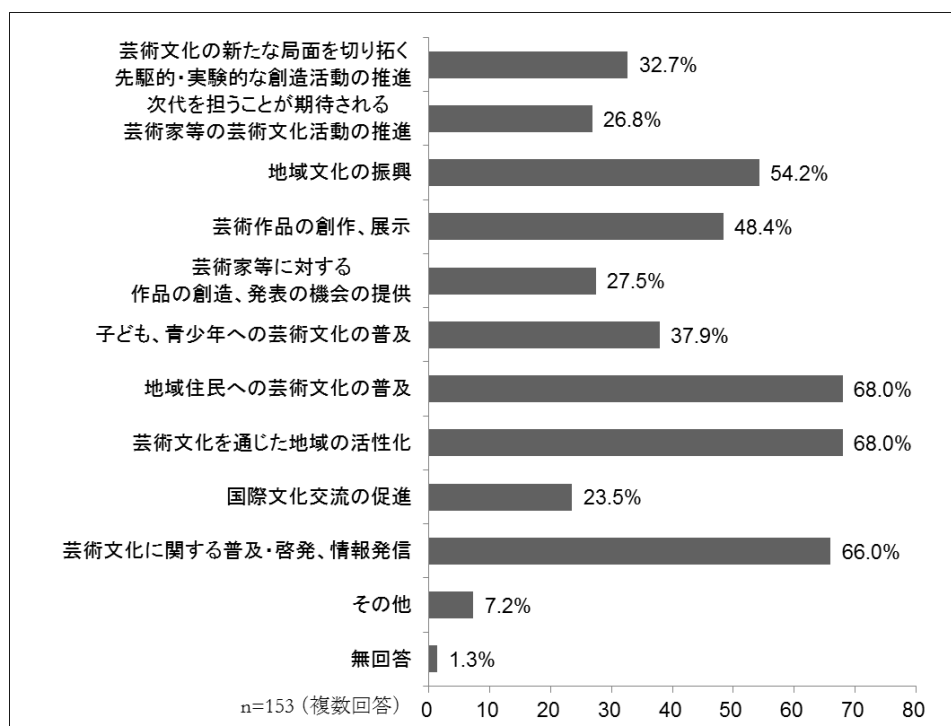
[アンケート調査の結果から]

- 芸術文化振興基金の「美術の創造普及活動」及び「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」に応募したことのない理由で、最も回答が多かったのは「助成の趣旨や目的が合致しない」(47.4%)で、特に、国公立文化施設、民間文化施設では、そのことを理由にあげる回答が多かった(図表Ⅱ-1/p.50)。
- 美術分野の助成金制度の全体的な問題点でも、「助成の趣旨や目的が合致する助成金制度が少ない」という回答が34.2%で5番目に多い(図表Ⅱ-9/p.90)。
- 「当該事業や活動の目的」で、最も回答が多かったのは「地域住民への芸術文化の普及」と「芸術文化を通じた地域の活性化」(共に68.0%)で、次いで「芸術文化に関する普及・啓発、情報発信」(66.0%)、「地域文化の振興」(54.2%)であった(図表Ⅱ-2/p.104)。

図表Ⅱ-1 「美術の創造普及活動」及び「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」に応募したことのない理由



図表Ⅱ-2 事業や活動の目的



[ヒアリング調査の結果から]

○助成の趣旨

- 「舞台芸術等の創造普及活動」となっているため、自分たちの活動との関連性がないように感じる。申請したことがないのは美術作品の制作等を経費として計上できないのが理由の一つ。(実行委員会(芸術祭等))(非営利団体)
- 「芸術文化の新たな局面を切り開く先駆的・実験的な創造活動」とあるが、制作費が対象にならないのは矛盾している。これでは日本を代表する若手の作家に時流に合った新作を委嘱できない。(公立美術館)(非営利団体)
- 「芸術文化の新たな局面を切り開く先駆的・実験的な創造活動」とあるのは良いが、社会の中で芸術が何を担っていくべきなのかという説明が必要だと思う。(非営利団体)
- 現状の募集案内からは助成制度の目指す姿を読み解くことができないため、具体的にどのような事業や人を支援したいのかを明確にすべき。(民間美術館)(公立美術館)
- 大きな問題点は「美術の創造普及活動」の趣旨と今のアートの制作手法とが噛み合わなくなっていること。絵画の仲間のグループ展などと、地域振興を目的とする事業では制作手法が異なる。(実行委員会(芸術祭等))

○地域振興や分野横断的な助成について

- 近年、地域振興を目的とする助成金が増えているが、新たな表現や活動の支援を主眼とする助成金が必要だと思う。(公立美術館)
- 福祉でもなく、美術でもない活動をしているが、本当の意味で現代アートを支援してくれる助成金は少ない。(非営利団体)
- 文化芸術が他の分野に横断すると大きな効果があることは皆分かっているが、そうした活動は文化以外の助成金では支援してもらえない。多分野の横断的な文化芸術活動を支援する助成制度があると良い。(非営利団体)
- 例えば、社会包摂など、社会課題解決型の芸術活動を支援する助成制度があると良い。(非営利団体)

[他の助成金制度に関する調査の結果から]

- 民間財団の助成制度では、文化振興を主眼とする制度と、地域振興を主眼とする制度がある。

[有識者検討委員会の発言から]

- 趣旨だけ読むと、自由に読み解ける内容だと思う。手法とかみ合わなくなっていることが問題。

- 毎年応募を検討しているが、実際に応募に至らないのは趣旨の問題ではなく、この後に続く仕組み等の項目の問題である。
- 美術を通じた地域振興など、「地域」という文言を入れると印象が変わるかもしれない。各地のアートプロジェクトも対象になる。あるいは「交流」や「教育」という文言を入れるのはどうか。
- 「新たな表現や活動の支援を主眼とする美術の振興」と「地域振興や交流を含めた幅広い領域の事業や活動」を分けるのではなく、趣旨に「地域振興や市民との交流を目的にした活動」を加える方が申請しやすい。
- その場合も「美術を通じた創造的な」ということが前提。
- 美術館の立場から言うと、ワークショップなどのニーズが増えている。さらに言えば、人件費的な部分も支援してもらえると、もっと要望に応えられる活動が展開できる。

○ 趣旨・目的について

- 「教育や福祉領域の横断的な活動」に関しては、「多分野共同等芸術創造活動」にも含まれているが、この助成金にも加えた方が良い。
- (改正案では)「美術を通じた創造的な地域振興」となっているが、例えば、「創造的で領域横断的な活動」とするのはどうか。
- («教育や福祉領域の横断的な活動」は、)あまり市民との交流や地域振興とは結び付かないこともあるため、「新たな価値観をつくる教育・福祉の分野に関わる創造的な活動」と別に記載するのはどうか。

2. 助成の対象となる活動

助成の対象となる活動について、「展示」以外の活動が増えており、「展示」を前提とすることで活動の幅が狭くなること、絵画、彫刻、工芸等の従来の定義では捉えられない美術活動、映像やインスタレーションなどが増えていることなどが明らかとなった。

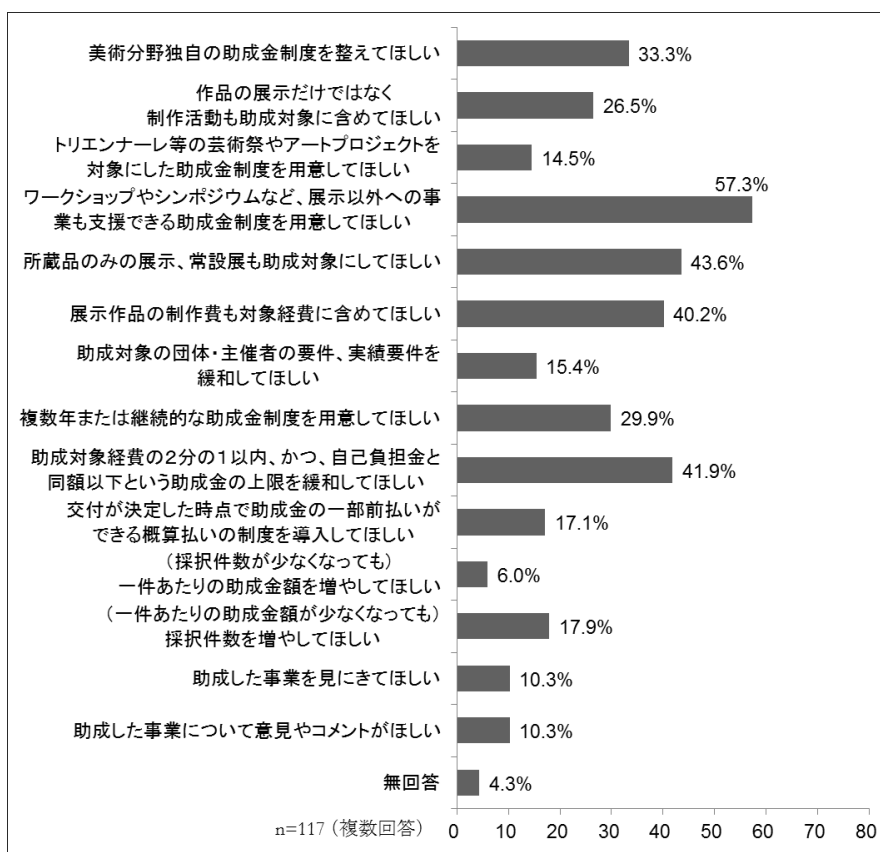
展示以外の事業として講座やワークショップ、シンポジウムを実施している事例が多く、それらを支援対象にしてほしいという要望が最も多い。

また、複数年の助成についても検討を望む意見が少なくなく、他の助成制度で導入している事例もあった。

[アンケート調査の結果から]

- 「美術の創造普及活動」及び「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」に応募したことのない理由として、「助成の対象となる活動に合致しない」(31.6%)が2番目に多かった(図表Ⅱ-1/p.50)。
- 「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の内容や制度に関する要望では、「ワークショップやシンポジウムなど、展示以外への事業も支援できる助成金制度を用意してほしい」(57.3%)が最も多かった(図表Ⅱ-3/p.58)。
- 実行委員会や非営利団体、国公立大学は、国公立や民間の文化施設に比べ、「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の内容や制度に関する要望で、「作品の展示だけではなく制作活動も助成対象に含めてほしい」や「トリエンナーレ等の芸術祭やアートプロジェクトを対象にした助成金制度を用意してほしい」への回答が多い(図表Ⅱ-4/p.59)。
- 「当該事業や活動で展示以外に実施している活動・事業」で、最も回答が多かったのは「展示内容に関連する講演、シンポジウム、トーク」(79.7%)、次いで「幅広い市民を対象とした講座、ワークショップ」(61.4%)、「展示内容に関連するパフォーマンス、映画、映像等の上映」(27.5%)であった(図表Ⅱ-5/p.118)。

図表 II-3 「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の内容や制度に関する要望

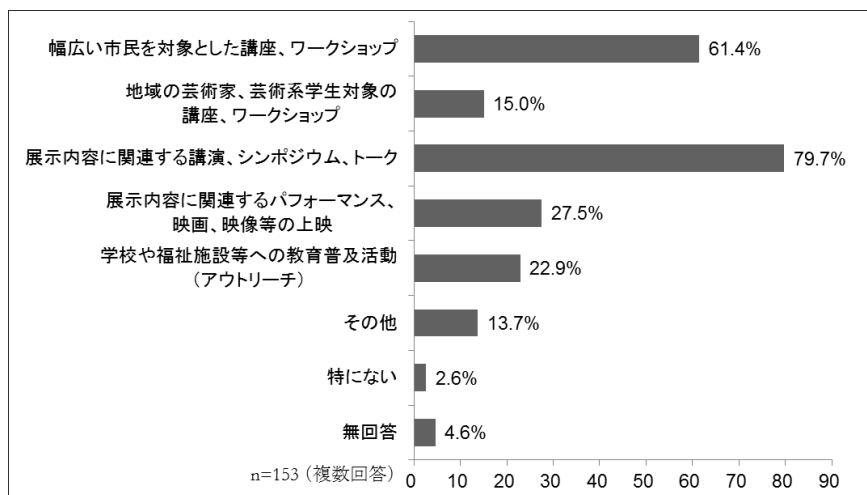


図表 II-4 「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の内容や制度に関する要望(続き)

(単位: %)

	合計	Q3-SQ3-2.芸術文化振興基金の助成金の内容や制度に関するご要望									
		美術分野独自の助成金制度を整えてほしい	作品の展示だけではなく制作活動も助成対象に含めてほしい	トリエンナーレ等の芸術祭やアートプロジェクトを対象にした助成金制度を用意してほしい	ワークショップやシンポジウム等、展示以外への事業も支援できる助成金制度を用意してほしい	所蔵品のみでの展示、常設展も助成対象にしてほしい	展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい	助成対象の団体・主催者の要件、実績要件を緩和してほしい	複数年または継続的な助成金制度を用意してほしい	助成対象経費の二分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という上限を緩和してほしい	
全体	117	33.3	26.5	14.5	57.3	43.6	40.2	15.4	29.9	41.9	
Q14団体の種類											
国公立文化施設	81	28.4	19.8	9.9	58.0	50.6	33.3	12.3	28.4	39.5	
民間文化施設	6	33.3	16.7	0.0	33.3	66.7	16.7	16.7	16.7	66.7	
国公私立大学	3	66.7	66.7	33.3	100.0	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3	
実行委員会	11	45.5	54.5	54.5	54.5	9.1	63.6	27.3	36.4	54.5	
非営利団体	6	33.3	33.3	16.7	50.0	50.0	50.0	16.7	33.3	33.3	
その他	9	55.6	44.4	11.1	55.6	22.2	66.7	22.2	44.4	33.3	

図表 II-5 事業や活動で展示以外に実施している活動・事業



[ヒアリング調査の結果から]

○助成の対象となる活動

- 「展示」という条件がとてつもなくハードルが高い。展示以外の方法も数多くある。(非営利団体)
- 美術館の役割を考えたときに、必ずしも展示だけではないと多くの人が気付いている。展示という形式にそぐわないアート活動がとてつもなく増えているので、そうしたものを視野に入れた支援ができると素晴らしい。(公立美術館)
- 過去に申請した事業が展示として認められず、書類自体を受け付けてもらえなかったため、それ以降は申請していない。(非営利団体)
- 芸術祭では、作品を借りて展示するだけでは、地域の活性化になりにくい。「先駆的・実験的な創造活動」と趣旨にあるが、現場でのインスタレーションを含む作品制作が対象でないと、応募しにくい。(実行委員会(芸術祭等))
- アーティストが小学生と一緒に作品を制作し、展示したが、展覧会の会期前の活動は助成対象外と言われた。社会の中での美術の日常性とのつながりを考えて、展示以外の活動も支援して欲しい。(実行委員会(芸術祭等))
- 「応募できない活動」の「教育研究を主たる目的とする活動」や「ワークショップ・講演会・シンポジウム」が増えているため、それらが対象になると応募件数が増えるのではないかと。(公立美術館)
- いわゆる社会包摂という活動に力を入れ、美術をツールとしたワークショップやアウトリーチを実施しているが、それらは助成対象となっていない。(公立美術館)

○助成の対象となる芸術分野

- 「舞台芸術等の創造普及活動」というタイトルを「舞台芸術・美術等の創造普及活動」とするのはどうか。
- 絵画、彫刻、工芸という従来の定義では捉えられない活動が増えている。(公立美術館)
- 近年は映像やインスタレーションが多く、「絵画、彫刻、工芸、書」とあると、自分たちの活動は審査で評価されにくいと感じる。(非営利団体)
- 音楽や映像のインタラクティブな作品やパフォーマンスと切り離せない作品など、音楽、演劇、舞踊といった領域で活動するアーティストも増えているため、アーティストの創作のニーズとリンクする活動を対象とするべき。(実行委員会(芸術祭等))

○助成の対象となる期間、複数年助成

- 複数年をまたぐ展覧会も対象になると検討しやすくなる。(公立美術館)(民間美術館)
- 展覧会やアートプロジェクトで複数年を要する事業が増えているが、2年や3年という特別な枠組みができれば、中長期計画を持って事業を推し進める機会となる。(実行委員会(芸術祭等))
- 民間財団から複数年の支援を受けた結果、2年、3年の計画を具体的に作れたので、継続審査のようなかたちで複数年制の導入を検討していただきたい。(実行委員会(芸術祭等))
- 福武財団やアサヒ・アート・フェスティバルから継続して助成をいただけたので、団体の活動が軌道に乗った。(非営利団体)
- 2年先の事業を申請できるともう少し考えやすい。(公立美術館)

[他の助成金制度に関する調査の結果から]

- 文化庁は、地域に存する文化財の活用、観光振興、多言語化による国際発信、国際交流、地域へのアウトリーチ活動、人材育成等、美術館・歴史博物館を活用・強化する取組等、助成対象の事業を具体的に記載している。
- 花王芸術・科学財団では、「絵画」「版画」「彫刻」「インスタレーション」「その他」の5部門としている。
- 花王芸術・科学財団、朝日新聞文化財団、三菱 UFJ 信託地域文化財団の助成制度では、展覧会や展示活動としているが、アサヒグループ芸術文化財団、野村財団、福武財団では、展覧会や展示活動を含む芸術活動としている。
- アーツカウンシル東京では、アートプロジェクトを対象とし、美術作品制作費(アーティスト・フィー、制作材料費含む)、映像作品制作費(フィルム関係費、機材使用料、ロケーション費等含む)を助成対象としている。
- 地域創造やアーツカウンシル東京では、2カ年または3カ年の継続支援が行われている。

[有識者検討委員会の発言から]

○作品の制作費について

- 現代美術では、美術館活動以上に、制作費に一番経費が掛かる。作家への謝礼であったりもするが、それが出せないため、どこに何を申請したらいいのか困っている。

- 創造が対象で、制作は対象外と、すごく矛盾している気がする。制作の内容も、アートプロジェクトやインスタレーションが増えてきている。

○ 助成の対象となる活動

- (募集案内の例示は)ジャンルや表現方法を限定しているので、むしろ美術やメディア芸術など、ざっくりしたものが良い。
- 今やあまり意味を成さないジャンルを列記するというのは、非常に分かりにくくしている原因で、細かくするとそこから漏れてくるものが明らかにある。
- 美術に関する活動は展示であるという前提があるように思う。そこから議論し直さないと、求められている活動に合致していかない。
- 創造を支援することが公共性を持つかどうか分かりにくいから、「展示」という言葉になっていると思うが、展示という言葉を使わずに、公共性を持つ活動を提示すれば、もう少し広がりが出ると思う。
- 例えば、展示・公開とするのはどうか。

○ 展示以外の活動(ワークショップ、アウトリーチ、パフォーマンス、教育研究等)

- 美術館活動は展示だけが主幹事業ではない。教育普及的な事業が従属的なものであるという認識は良くない。
- 別の会場で行うワークショップは助成対象とならない。小さい美術館だと会場がなかったりするが、その場合には払えないとなっている。
- ワークショップやアウトリーチはとても求められて需要もあるが、期間や場所を限定するとそれらが萎縮してしまう。
- 「アートプロジェクトや芸術祭」の場合、パフォーマンスや音楽を含めた申請を考える団体があるかもしれない。
- 「多分野共同等芸術創造活動」とのすみ分けを考えるべきだが、美術の流れはジャンルを超えた方向に向っており、それを止めるのは難しい。
- 美術、建築、工芸、メディア芸術、パフォーマンス等と、「パフォーマンス」を加えるのはどうか。
- 展覧会は研究の成果でもあるので、応募できない活動に「教育研究を主たる目的とする活動」という文言は必要ない。

○ 複数年の助成について

- 芸術祭のような海外から作家を招く場合、単年度では準備が難しいので、複数年が欲しいところ。
- 複数年の支援は美術だけに限らない事項なので、他の分野も含めて検討するということが良いか。

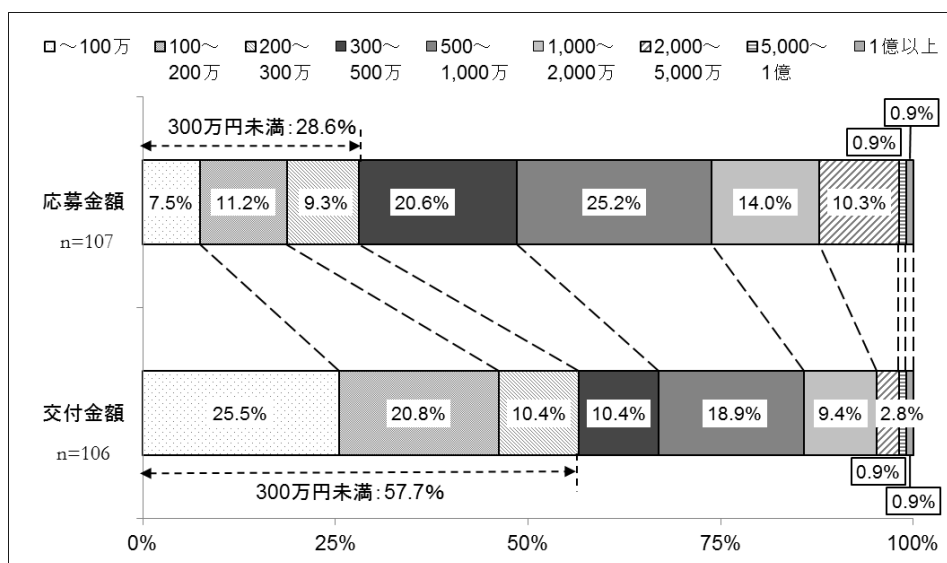
3. 助成金の額

助成金の額に関しては、2分の1助成で他の経費を調達しなければならないことが、特に財政基盤の弱い非営利団体や実行委員会等で大きなハードルとなっていることが判明した。民間財団だけではなく、国際交流基金のように、定額助成を採用している公的機関もある。

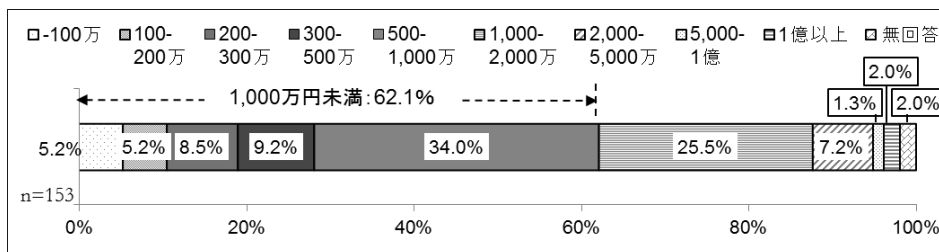
[アンケート調査の結果から]

- 内容や制度に関する要望では、「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい」(41.9%)が3番目に多かった(図表Ⅱ-3/p.58)。
- 2016年度に応募した助成金制度の応募金額は、「500万円以上1,000万円未満」(25.2%)が最も多く、次いで「300万円以上500万円未満」(20.6%)、「1,000万円以上2,000万円未満」(14.0%)、交付金額は「100万円未満(25.5%)」が最も多く、次いで、「100万円以上200万円未満」(20.8%)、「500万円以上1,000万円未満」(18.9%)であった(図表Ⅱ-6/p.86)。
- 応募金額では、全体の約3割が300万円未満となっているのに対し、交付金額では全体の約6割が300万円未満となっている(図表Ⅱ-6/p.86)。
- 当該事業や活動に関する総事業費は、「500万円以上1,000万円未満」(34.0%)が最も多く、次いで「1,000万円以上2,000万円未満」(25.5%)、「300万円以上500万円未満」(9.2%)であった。全体の約6割が総事業費1,000万円未満となっている(図表Ⅱ-7/p.128)。

図表Ⅱ-6 2016年度に応募した助成金制度の応募金額と交付金額



図表Ⅱ-7 事業や活動に関する総事業費(万円)



[ヒアリング調査の結果から]

○2分の1助成について

- 「優れた芸術・文化活動で、かつ、その性格上、採算が望めない活動に助成する」とあるが、2分の1の助成は負担感が大きい。(非営利団体)
- NPOの場合、担保する活動の基盤がないと、2分の1の助成は本当にハードルが高い。(非営利団体)
- 2分の1助成は自己財源が多くある都市部の文化施設に有利な制度で、地方の文化施設との格差が広がる一方だと感じている。(公立美術館)
- 2分の1助成のため、それ以外の資金を予め準備することができない。(実行委員会(芸術祭等))
- 財政基盤のない団体にとっては、事業助成は団体を疲弊させる仕組みだと思う。(非営利団体)
- 展覧会の開催前に出品作家を交えたシンポジウムやワークショップなどをよく実施するが、それらの経費が対象外で、それらの経費を除いて2分の1の自己負担額の計画を立てるのは容易ではない。(大学)

○申請額と交付額、支払い時期

- 書類の不備によって減額されるのは当然だが、採択されて助成金額が申請金額の10分の1では、事業計画がゼロベースに戻ってしまう。せめて申請金額の8割や7割といった保証があると、円滑に進められる。(実行委員会(芸術祭等))
- 民間の助成制度では活動が始まる月の初めに助成金が振り込まれるケースが少なくない。(民間美術館)

[他の助成金制度に関する調査の結果から]

- 文化庁や地域創造の助成金額は1,000万円単位であるが、芸術文化振興基金と同様、助成対象経費の合計額の2分の1以下である。
- 民間財団の助成金額の多くは上限100万円であるが、助成対象経費の合計額の2分の1以下等の条件はない。
- 民間財団の助成金制度では、事業が始まる前に助成金が支払われる制度が少なくない。

[有識者検討委員会の発言から]

○申請金額

- 美術だと、一番多い申請金額は300万から500万ぐらい。
- 300万～500万の助成金に対して、人件費が何%掛かるかという計算をする。それが負担であったら、見送ろうという判断をする。
- 実質的には民間と同じぐらいの支援額、100万や200万になってきているので、それと同じように200万までとしたときに、民間の助成とどう差異化していくのかが重要になってくる。

○定額助成

- 国際交流基金アジアセンターの助成・フェロシッププログラム、「アジア・文化創造協働助成」では、原則1,000万円上限で、5項目の費目の中から最大3項目を自由を選べる。また、精算時に申請額とずれがある場合は費目間で20%までの移管ができ、とても使いやすい。(定額にするのであれば、)費目を選べるようにするのはどうか。
- 定額の場合、助成金額に上限があり、なおかつ自己負担金未満であれば問題ないか。
- 一般的な美術展では、一番費用の負担が大きいのは輸送や、会場設営で、それらに配分したいと考えると思う。しかし、創造普及は全然違う。

○事業費の規模に応じた助成

- 事業費の規模に応じて助成する場合、事業規模の大きい団体が有利になる可能性がある。事業費の規模に応じて助成率を変更することも考えられるが、その計算方法は複雑になるだろう。

4. 助成対象経費

調査では、助成対象経費の項目や細目、内容が舞台芸術を念頭に置いたものとなっており、美術にそぐわないものとなっている点が、大きな問題点として指摘された。

また、昨今の美術の創造普及活動では制作費が最も重要な経費であり、制作費を助成対象経費に含めるべきという意見や要望が多数寄せられた。実際、公的助成金制度の中には、制作費を助成対象経費に含めている事例もある。さらに、舞台芸術の企画制作料と同様、申請事業の企画制作に要する人件費を助成対象経費に含めるべきという意見や要望もあった。

[アンケート調査の結果から]

- 「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の内容や制度に関する要望は、図表Ⅱ-3に示したとおりであるが、実行委員会や非営利団体、国公私立大学は「作品の展示だけではなく制作活動も助成対象に含めてほしい」や「トリエンナーレ等の芸術祭やアートプロジェクトを対象にした助成金制度を用意してほしい」を比較的多く回答している(図表Ⅱ-4/p.59)。
- また、自由記述への回答として、「新作の委嘱の制作費も助成の対象にしてほしい」、「滞在制作費の滞在費を対象してほしい」、「展覧会の準備のための調査費や出品交渉費、印刷物用写真撮影費も助成対象にしてほしい」、「(販売を目的としない)事業の記録集を助成の対象してほしい」、「運営費(内部人件費などを含む)を対象してほしい」などの要望があった。

[ヒアリング調査の結果から]

○助成対象経費の項目

- 美術が念頭に置かれている感じがしない。(公立美術館)
- 経費区分がどう見ても舞台芸術の項目に見えてしまう。美術と呼ばれている絵画や彫刻に該当する内容に見えない。なぜ、展覧会の会場制作が舞台費となのかという素朴な疑問があり、次第に解釈が必要だと分かるようになるが、初めて申請する団体はそれができないと思う。(実行委員会(芸術祭等))

○制作費、作品借料等

- 事業で一番必要な経費は制作費。(公立美術館)(実行委員会(芸術祭等))

- 主に若手の作家の新作を展示する展覧会を実施しているが、制作費が対象ではないため、なかなか当てはまりにくい。(民間美術館)
- インスタレーションの制作費は会場設営費で賄うなどの予算執行上のテクニックはあるが、やはり文言的に明快にしていくのが今の時代には合っている。(実行委員会(芸術祭等))(公立美術館)
- 近年の現代アートでは、映像やインスタレーションが多く、映像作品の制作にはお金がかかるが、作家にその制作費用を自己負担してもらわねばならない。(公立美術館)
- 演奏料や作曲料、出演料という舞台芸術のアーティストに対する謝金は明記されているが、美術家の謝金は記載されていない。アーティストに謝金は支払っているが、もしかすると、それが作品借料なのだろうか。(公立美術館)
- 制作費ではなく、作品制作謝礼など、アーティストへの謝金にするのはどうか。(公立美術館)
- 美術館ではなく、アートセンターとして活動しているが、作品借料という支出はほとんどゼロに近い。(民間美術館)
- 絵画や彫刻などは「作品借料」という文言でしっくりくるが、インスタレーションの場合、「作品借料」では言葉としてしっくりこない。(大学)

○制作人件費、調査研究費、会場費等

- NPO や民間団体は人件費が対象となるかどうかを基準に、応募するかどうかを考える。(非営利団体)
- 民間の助成金では、人件費を経費に含めることができる。(非営利団体)
- 展覧会をつくっていくには、人手が必要になるので、コーディネート費やその他の人件費などを助成対象にするべき。(非営利団体)
- 事務所の職員給が出ないという理屈は理解できるが、運営に関わるスタッフへの謝金は助成対象経費として欲しい。(非営利団体)
- 「取材・会議等に係る経費」が対象外だが、展覧会の準備に必要な取材や調査研究のための経費が計上できるともっと資金計画を立てやすい。地方公共団体などは出張のための予算があるが、その予算のない団体も少なくない。(大学)
- 「自ら設置している会場施設においては、会場使用料を認めません」とあるが、家賃を支払って運営しているので、それが対象外だと死活問題となってしまう。(非営利団体)
- 文房具の費用が対象外、飲食にかかる費用も対象外、ホームページ運用費も対象外となると、本当にやりづらい。(非営利団体)

[他の助成金制度に関する調査の結果から]

- アーツカウンシル東京の助成制度では、美術作品制作費(アーティスト・フィー、制作材料費含む)、映像作品制作費(フィルム関係費、機材使用料、ロケーション費等含む)を対象としている。
- 民間財団の助成制度では、助成対象外経費を指定している制度は少なく、また、指定している場合も、主に団体等の管理運営費やパソコン、デジタルカメラ等の固定資産になるものの購入費等である。

[有識者検討委員会の発言から]

○助成対象経費全体について

- この表を見た時に申請者は迷うと思う。こういうこともやらなければ申請できないのかなと、この助成で何を支援したいかを、費目で表現すべき。

○制作費、アーティストフィー

- アートプロジェクトでは日本の作家が多く、何を一番大きな額として申請したいかという、一番お金の掛かる制作費である。
- これまでに作品を借りたことは、本当に数えるほどしかない。アーティストがどのように地域を捉えて、この地域のためにどういう考えで作品をつくったかが、その地域の人々には一番大事なポイントになる。
- 例えば、作曲料だと、その作曲する行為に対する報酬があるが、制作費も作曲料とか演出料とかと同じ扱いにし、アーティストに対するフィーを支払うとするのはどうか。
- 「アーティストフィー」と「作品制作費」を謝金とするのはどうか。これからの方向としては、アーティストは作品を残していく方向になると思う。
- 「企画・制作費」として、その中にアーティストフィーを入れ、活動費を含むとするのはどうか。

- 制作費自体が割と曖昧なところがあるが、新作を創作する費用としては項目が立てられないため、結局、作家負担にさせてしまうという課題がある。
- アーティストにフィーとして支払い、その中で制作もやってもらうケースが多いが、足が出る場合もある。

○作品の売買、制作委託契約

- 制作されたものが形として残らない一過性のももあるが、そういったものとすみ分けをすることは考えられないか。
- 制作費の支援については、その後市場に流通して資金を生むものは対象外とし、それ以外は対象とすると注で書くのはどうか。
- 公的資金が財源となっているため、制作費を満額負担するのではなく、制作を支援するという立場で費用の一部を支援し、出品してくださいというスタンス。新作の所有権は作家に帰属している。
- 一番懸念されるのは、出来上がった作品をギャラリー等が売買するときに利益が出るのではないかというパターンで、それ以外は問題にならないのではないか。美術館の資金で作品を制作する場合、作家と作品の売却に関して取り決めをしている。
- 作品の制作依頼に関して、弁護士に監修を依頼して契約書を作成した。様々な可能性を考え、作品が売買された場合の項目を付け加えた。著作権はあくまでアーティストだが、販売の可能性が出てきた場合は両者で協議することになっている。
- コミッションワークとして長期的にその場所に設置する作品の場合は、購入という形で契約している。
- 補助金適正化法の財産処分制限では、「補助金の対象事業者等」という文言があるが、展覧会を申請する団体は、作品制作費で作家に制作を依頼して展示を行っても、展示後にその団体がその作品を所有するケースは極めて少ないと思われる。

○その他の経費

- 「案内状送付料」は「送付料」や「郵送料」とすべき。
- 公募のケースがあるので、「作品の募集にかかる経費を含む」という表現は残すべき。
- コンクールは対象外となっているが、国際展で公募を行う場合もあるため、コンクールのみの実施は NG で、展示があれば OK とするのはどうか。
- 記録費で、録画費、写真費となっているが、「編集費」がない。アートプロジェクトでは、ドキュメンテーションの作業の中で、編集が重要となってくる。

5. 申請の手続き・スケジュール

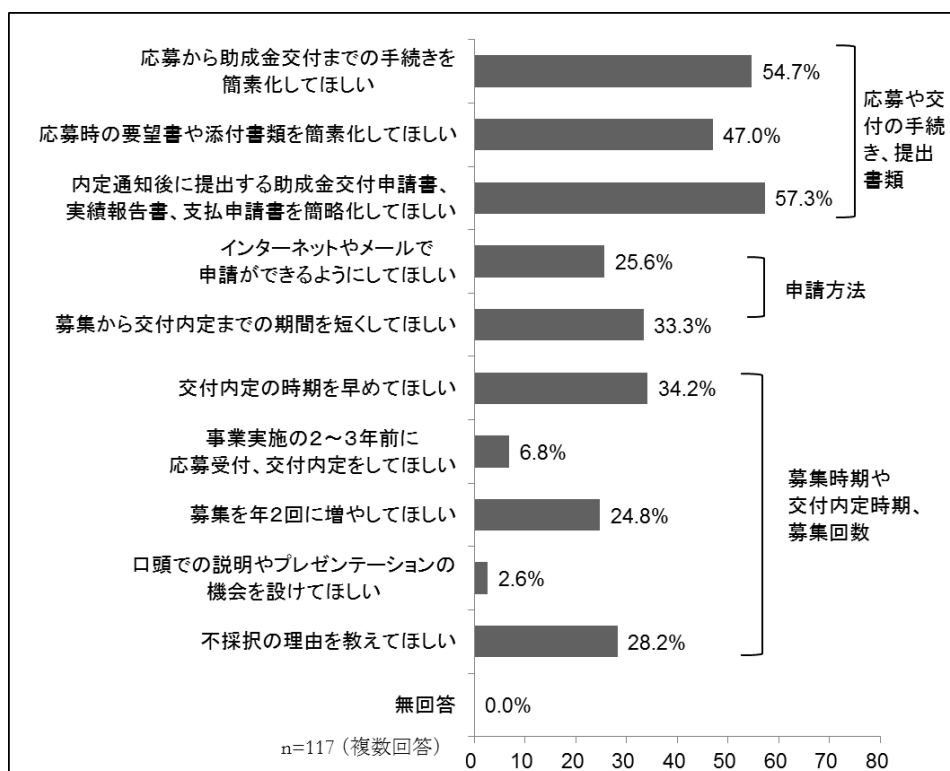
申請の手続きや提出書類の簡素化については、アンケート調査でもヒアリング調査でも、改善に対する要望が数多く寄せられた。特に、助成金交付要望書と助成金交付申請書は内容が重複しており、簡素化できるのではないか、という意見が目立った。

助成対象活動実績報告書については、精算や支払い、領収書等の書類の添付などを考えると、1ヶ月は厳しく、提出スケジュールの緩和に対する意見や要望が多かった。

[アンケート調査の結果から]

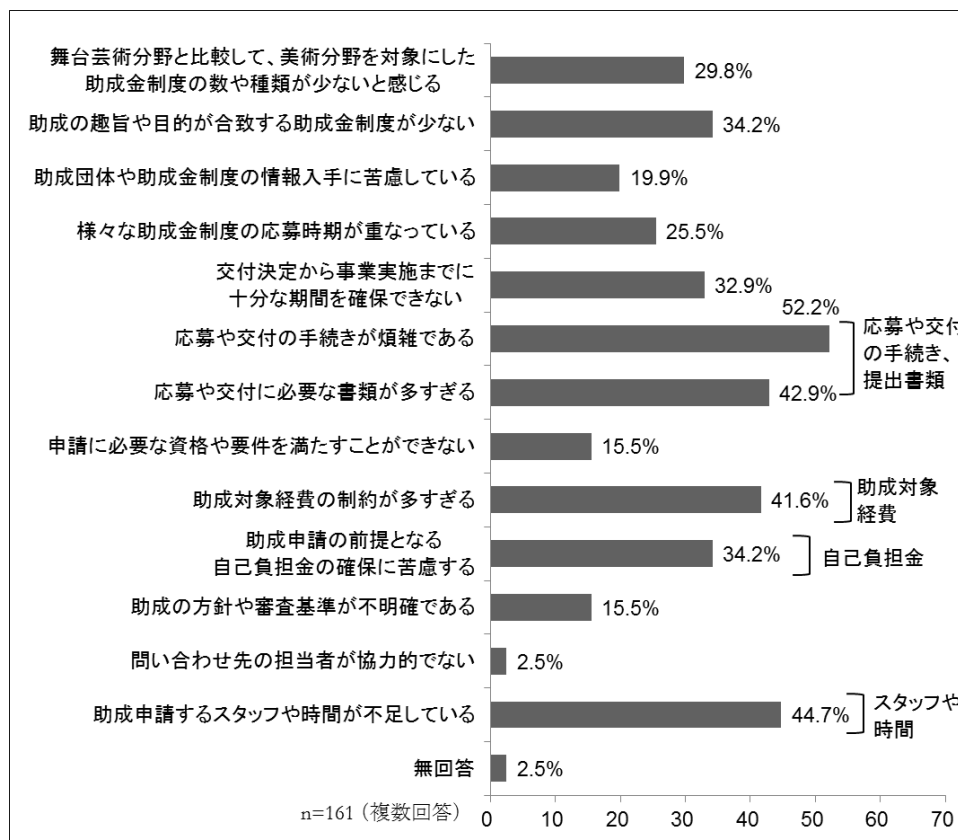
- 応募や交付の手続きに関する要望で、最も多かったのは「内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい」(57.3%)で、次いで「応募から助成金交付までの手続きを簡素化してほしい」(54.7%)、「応募時の要望書や添付書類を簡素化してほしい」(47.0%)などとなっており、手続きや書類の簡素化への要望が多い(図表 II-8/p.56)。

図表 II-8 「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の応募や交付や手続きに関する要望



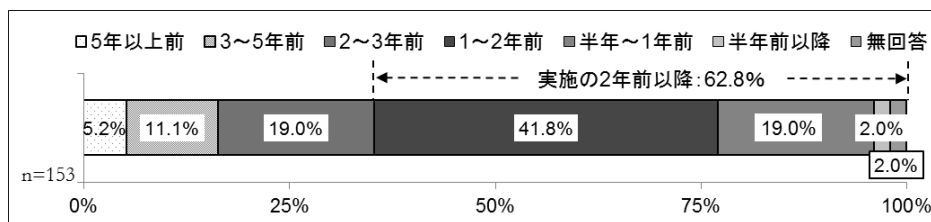
- 美術分野の助成金制度全般の問題点で、最も多かったのは「応募や交付の手続きが煩雑である」(52.2%)で、次いで「助成申請するスタッフや時間が不足している」(44.7%)、「応募や交付に必要な書類が多すぎる」(42.9%)であった(図表 II-9/p.90)。

図表 II-9 美術分野の助成金制度全般の問題点



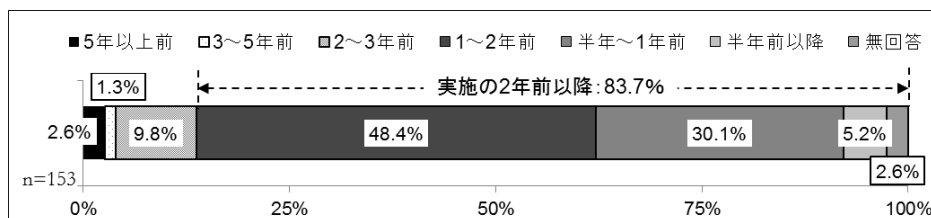
- 当該事業の企画の検討時期は、「実施の1～2年前」(41.8%)が最も多く、次いで「実施の2～3年前」「実施の半年から1年前」(19.0%)で、実施まで2年を切ってから企画の検討に着手する割合が6割を超えている(図表Ⅱ-10/p.122)。

図表Ⅱ-10 事業の企画の検討時期



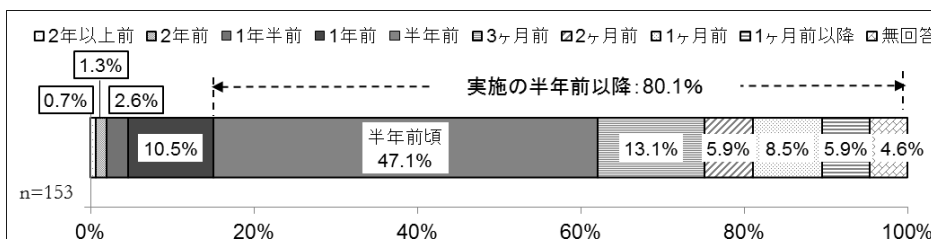
- 当該事業の助成金や協賛金への申請の検討時期は、「実施の1～2年前」(48.4%)が最も多く、次いで「実施の半年から1年前」(30.1%)、「実施の2～3年前」(9.8%)で、実施まで2年を切ってから助成金、協賛金への申請を検討する割合が8割を超えている(図表Ⅱ-11/p.123)。

図表Ⅱ-11 事業の助成金や協賛金への申請の検討時期



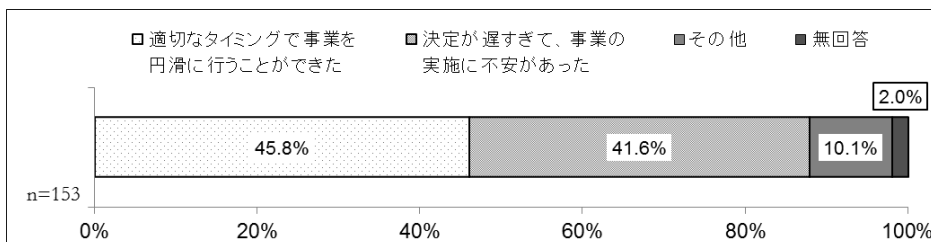
- 助成金や協賛金の交付決定時期については、「半年前頃」(47.1%)が最も多く、次いで「3ヶ月前」(13.1%)、「1ヶ月前頃」(10.5%)であり、全体の約8割が実施まで半年を切っからの決定となっている(図表Ⅱ-12/p.124)。

図表Ⅱ-12 事業や活動に関する助成金や協賛金の交付決定時期



- 当該事業や活動に関する助成金や協賛金の交付決定時期については、「適切なタイミングで事業を円滑に行うことができた」(45.8%)と「決定が遅すぎて、事業の実施に不安があった」(41.6%)がほぼ同数であるが、その他、無回答を除けば、半数は「決定が遅すぎる」と感じている(図表Ⅱ-13/p.125)。
- また、国公立文化施設、民間文化施設では「適切なタイミングで事業を円滑に行うことができた」の方が多かったのに対し、実行委員会や非営利団体、国公立大学では「決定が遅すぎて、事業の実施に不安があった」の方が多く、美術館等の文化施設と実行委員会や非営利団体との間では、助成金や協賛金の交付決定時期に関する認識が異なっている(図表Ⅱ-14/p.125)。

図表Ⅱ-13 事業や活動に関する助成金や協賛金の交付決定時期に関するコメント



図表Ⅱ-14 事業や活動に関する助成金や協賛金の交付決定時期に関するコメント

(単位：%)

	合計	Q11-SQ11-5.その交付の決定時期についてどのようにお感じですか			
		適切なタイミングで事業を円滑に行うことができた	決定が遅すぎて、事業の実施に不安があった	その他	無回答
全体	153	45.8	41.8	10.5	2.0
Q14団体の種類					
国公立文化施設	89	51.7	37.1	10.1	1.1
民間文化施設	9	77.8	22.2	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	80.0	20.0	0.0
実行委員会	22	31.8	54.5	9.1	4.5
非営利団体	12	16.7	58.3	25.0	0.0
その他	14	42.9	42.9	7.1	7.1

[ヒアリング調査の結果から]

○手続きやスケジュール

- 要望書の提出、申請書の提出と2回あるが、なぜ2回提出する必要があるのかがいつもよく分からない。ほとんど同じ内容の書類を2回も提出するのは、手間だと思う。(非営利団体)
- 要望書を提出し、内定後にもう一度、申請書の提出をするが、例えば、予算の半分以上を超える変更があったときだけ提出するなど、変更のない場合には省略できるようにしてほしい。(公立美術館)
- 3年に1度、4月上旬から5月下旬に事業を開催しているが、内定が3月で、申請書の提出が6月上旬では、事業は既に終了してしまっている。(実行委員会(芸術祭等))(大学)
- 3館とか4館で共同企画する展覧会の場合、年度内に巡回しなければならない。そうすると、4月や5月ぐらいから開始しないと年度末までに終わらない。(公立美術館)
- 年に複数回、申請可能な機会があると、より創造的な発想で企画を申請しやすい。(実行委員会(芸術祭等))
- 民間の助成では、年に何回か募集がある助成金制度がある。(民間美術館)

○助成対象活動実績報告書の提出

- 活動終了後1ヶ月以内に報告書を提出するのは意外に厳しい。事前に概算払いができればいいが、交通費の精算等、事業終了後に領収書を集めていくと、1ヶ月ではなかなか終わられない。(実行委員会(芸術祭等))
- 報告書の提出は活動終了後、1ヶ月以内となっているが、1ヶ月以内で経理処理が完了しない支出もある。せめて、2ヶ月は必要。(公立美術館)
- 現代美術の展覧会の場合、展覧会の会期中に写真撮影をし、会期終了後に図録ができるパターンが多く、活動終了後1ヶ月以内に経費を精算するのは容易ではない。(大学)
- 書類のチェックが2重、3重となっているが、もう少し違うかたちでチェック機能を検討してほしい。(民間美術館)

[他の助成金制度に関する調査の結果から]

- 地域創造の助成制度では、7月から9月に募集を行い、12月に内定を通知している。
- 民間財団の助成制度の申請締め切りは、10月から11月に集中している。
- 公的機関ではアーツカウンシル東京が、民間財団では野村財団が年2回、募集をしている。

[有識者検討委員会の発言から]

- 「手続きが煩雑である」というのは、美術分野に限った問題ではない。本制度を改定していくに当たっては、他分野を含めた全体の制度設計をにらみながらやっていく必要がある
- 毎年、申請している団体は比較的簡単に準備できるが、初めて申請しようと思うと、敷居が高い。
- 海外では、申請金額で差を付けるという方法がある。提出書類ではないが、英国のアーツカウンシルでは、少額の申請については審査の期間が短い。
- 申請書は要望書とその内容が90%以上変わらないとか、大きな変化がない場合は省略するのはどうか。
- 要望書を出して申請書を出すというよりも、申請書を出して変更があった場合に変更届を出すほうが負担感は減るだろう。
- 公金のため帳票類が必要なのは理解できるが、申請の時期に展覧会の業務が重なると、負担感が大きい。

- 申請期間に合わせて書類を作成し、組織内でオーサライズするプロセスがすごく負担感が大きい。報告書もそうだが、事業を終了して1ヶ月以外に経理処理も全て終えてということ、実際のところかなり厳しい。
- 実績報告書の提出期限は、2ヶ月に緩和してはどうか。

6. 提出書類

調査では、提出書類の種類や数が多く、書類によっては記入に手間を要する項目もあり、それが申請の際の事務負担になっていることが指摘された。助成金の規模に応じて提出書類を簡略化したり、字数制限を設けるなどの提案があった。

[ヒアリング調査の結果から]

○助成金交付要望書や助成金交付申請書等の提出

- 助成金額は20万円以上となっており、小口から大口まであるだろうが、助成金額の規模に応じて、申請や報告に必要な書類の数や種類を検討するのはどうか。(実行委員会(芸術祭等))
- 助成金額に応じて、提出書類を考えた方が良いと思う。100万や200万の助成金額で、これだけの書類を提出するのは、とても手間に感じる。(非営利団体)
- ベテランの団体は申請書類の作成に慣れているかもしれないが、新しい団体は手を上げにくい。(非営利団体)
- 展覧会に関する申請書類と、団体の概要や規約に関わる申請書類を、別々のタイミングで提出できると良いと思う。例えば、団体の概要や規約については年度の始めに、申請するしないに関わらず一括登録できるようにし、それが何年間か有効になるようなシステムになると手間が省ける。(民間美術館)
- 要望書や申請書の経費に関して、詳細な旅費の算出を求められるが、流動的な上に、それを事前に調べるのにとても手間が掛かる。要望書や申請書では、もう少し大枠で考えられると書類作成がスムーズになる。(公立美術館)
- 理事長の略歴の提出が求められているが、公立施設の理事長は必ずしも芸術活動の経歴を持つ人物ではないので、なぜそのプロフィールが必要なのか疑問に感じている。(非営利団体)

○他の助成制度で参考になる発言

- 民間の助成制度では、提出書類に字数制限がある場合が多く、無駄がない。(非営利団体)
- アサヒ・アート・フェスティバルでは領収書が必要なく、求められたのは報告書1枚の提出だけであった。(非営利団体)
- 文化庁の収支に関する申請書の様式は、単価と回数を入れるとその合計が自動的に計算される仕組みとなっていて、とても便利。(非営利団体)

○美術分野の助成制度全般に関する問題点や課題

- 助成金の申請は事務の負担が大きく、事務職員は仕事が増えるから嫌がっている。当然、学芸員もそれが分かっているので、助成金を活用しようとしなない。そう意味でも、事務の簡素化はとても重要だと思う。(公立美術館)
- 報告書に関して、決算書の作成は大きな負担と感じていないが、請求書や領収書等の添付資料を全て揃える必要があることがとても負担に感じている。(公立美術館)

[他の助成金制度に関する調査の結果から]

- 公的機関や民間財団では、申請書や団体概要以外に、個人略歴や会場資料、作品ファイル、推薦書等の資料の提出を求めるケースは少ない。
- 助成額が上限100万円以下の民間財団の助成制度では、申請書に団体概要が含まれるなど、簡略化されている。
- アーツカウンシル東京及び民間財団の助成金制度では、報告書の提出時期を事業終了後2ヶ月以内としている。

[有識者検討委員会の発言から]

- 審査の際、知らないアーティストについてはネットで調べているが、それだけでは足りない。実際に見ている人たちの意見を聞くと、こういう意味がある人でこういう活動をされている人だというのが分かり、ああそうなのかと思ったりもする。

- 例えばヒアリングをすれば、申請者が出す書類を少し減らすことができるのではないか。
- 推薦書、作品ファイル、参考資料は不要。審査員は企画内容で大体分かる。
- 参考資料は「可」にしてはどうか。
- 「5 個人略歴(代表者)」、「6 個人略歴(団体の芸術上中核者)」は不要で、「7 個人略歴(活動の芸術上中核者)」は必要。
- 団体は「6 個人略歴(団体の芸術上中核者)」に「○(マル)」を付けて、グループと個人は「7 個人略歴(活動の芸術上中核者)」に「○(マル)」を付けるということでしょうか。
- 団体も「7 個人略歴(活動の芸術上中核者)」は必要。

7. 審査の仕組み、審査基準

舞台芸術と比較して美術の審査体制は必ずしも十分ではなく、他分野と同様に、美術でもプログラム・ディレクターやプログラム・オフィサーを導入してはどうか、という意見があった。

アンケート調査では、不採択の理由を教えてほしいという要望が一定数あった。応募件数や事務対応などを考えると現実的ではないが、書類審査以外に面接やプレゼンテーションを行ってはどうか、という意見もあった。

[アンケート調査の結果から]

- 応募や交付の手続きに関する要望で、「不採択の理由を教えてほしい」という回答は28.2%であった(図表Ⅱ-8/p.56)。
- 美術分野の助成金制度全般の問題点で、「助成の方針や審査基準が不明確である」と回答した割合は15.5%で、他の項目と比較して低かった(図表Ⅱ-9/p.90)。

[ヒアリング調査の結果から]

○審査制度等

- 舞台芸術の中に美術が埋もれているイメージがあり、申請しづらい。美術の部会は別にあったほうが分かりやすい。(実行委員会(芸術祭等))
- 申請が不採択だった団体の多くは不採択の理由が分からず、どのように事業を改善すれば良いのか分かっていない。例えば、審査基準の項目について5段階評価だけでも通知するのはどうか。(大学)
- 実際に助成を受けて展覧会を実施した団体の成果がどのような評価を受けたのかが見えてくると、応募する側にとっては参考になる。(非営利団体)
- 業界全体として雇用が不安定で、10年後に人材が残っているのかをととても危惧している。審査基準に「運営」とあるが、雇用に対する安定性を審査基準にすることで、地方自治体や外郭団体の人材に対する考え方が変わるのではないか。(公立美術館)

○美術分野の助成金制度全般に関する問題点や課題

- 審査の中で書類審査だけでなく、面談等、審査員と話ができる機会があるとよい。(大学)

[他の助成金制度に関する調査の結果から]

- アーツカウンシル東京の長期助成プログラムでは、第二次審査をプレゼンテーションと面接としている。

[有識者検討委員会の発言から]

- 審査の方法について、書類主義に疑問を感じる時がある。
- 美術の創造普及活動と地域文化施設公演・展示活動の両方を同じ審査員が審査しているため、現代美術を知らない、あまり興味がないという審査員もいるのではないか。
- この助成金制度の名称を現代美術創造普及活動とするのはどうか。
- 審査員は全ての事業を見に行くことができないため、資料は多いほうが判断しやすい。ただ、実際に見ないと分からないことが多く、調査に行くと話ができるとその後の判断にもつながる。しかし、審査員は3年任期となっている。

- どうして駄目だったのかを知りたい方にとっては、この助成制度の趣旨、目的の間口の広さが逆にネックになっている気がする。例えば、こういう未来を目指すためにこういう活動を助成するというのが明確であれば、その点において至らない部分があったなど、分かりやすいかもしれない。
- 美術分野も PO、PD の導入を検討してはどうか。
- 美術が「舞台芸術等の部会」の中に入っている。独立は難しいだろうから、「舞台芸術・美術等部会」ではどうか。

8. その他(資金提供以外の支援など)

募集案内に記載のない項目として、他団体との交流や意見交換などの機会が有効であること、人材育成や運営能力の向上を望む団体も少なくないことから、資金提供以外の支援方法として、それらを検討してはどうか、という意見があった。

[ヒアリング調査の結果から]

○資金提供以外の支援(ネットワークづくり)

- アサヒ・アート・フェスティバルによく申請していたが、資金だけの助成ではなく、他の団体との交流や意見交換をする機会があった。(非営利団体)
- アサヒ・アート・フェスティバルでは、事業の中間報告会や最終報告会があったり、福武財団では、芸術祭を他の団体と一緒に視察する機会があり、ネットワークが広がった。(非営利団体)
- まちづくりや環境分野の助成制度では、民間財団が各地で合同の助成金説明会を実施している。(実行委員会(芸術祭等))

○資金提供以外の支援(人材育成・雇用)

- 新しい芸術祭が増加しているが、一部の組織や団体に委託しているのが現状で、地域でそういった活動を支援する人が育っていないと感じている。アートマネジメントに関わる地域の若者を支援する仕組みが必要だと思う。(実行委員会(芸術祭等))
- 人材の雇用が課題で、現在、アート・ディレクターを配置することができていない。コーディネーターがその代役を担っているが、非常勤なので事務局の負担が大きく、安定した運営ができない。(実行委員会(芸術祭等))
- 自主事業を活発に行っている都市部の文化施設では正規職員が少なく、全員が正規職員という地方の文化施設では自主事業が少ないというやや不可解な状態となっている。(公立美術館)
- 人件費の問題があるが、アートに関わることに夢や希望を持ってもらえる環境が必要だと思う。(非営利団体)

○美術分野の助成制度全般について

- 活動開始から約20年が経過し、老舗ということで助成金が採択されづらくなっている。スタートアップも大事だと思うが、長くやってきた団体だからこそできることもあるので、その可能性にかける助成金があると良い。(非営利団体)
- 民間の助成制度では、1年、2年、3年とステップアップを求められることが多いが、常にステップアップを求められても困る場合もある。(非営利団体)

[有識者検討委員会の発言から]

- アサヒ・アート・フェスティバルとかでは、支援団体が集まって交流できてすごく良かったという意見があった。
- アサヒ・アート・フェスティバルや福武財団の助成では交流を目的としているため、事業説明会や報告会に参加する経費として、交通費を支援している。
- 人材育成や運営能力の向上についてもニーズがあるのではないか。
- マネジメントの実務者の交流やネットワークを企図したシンポジウムがあったが、大変な評判で全国から人が集まった。シンポジウムや講演会も OK にすれば、そういった教育的側面のある事業も対象にできるだろう。

第Ⅲ部 アンケート調査結果

◎ 目次

アンケート調査結果

1. 芸術文化振興基金及びその他の美術分野の助成金制度について	44
(1) 「美術の創造普及活動」の認知度、応募・採択状況	44
(2) 「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の認知度、応募・採択状況	46
(3) 「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の認知度、応募・採択状況の比較	48
(4) 「美術の創造普及活動」及び「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」に応募したことのない理由	50
(5) 「美術の創造普及活動」及び「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」に応募したことのない理由(第1-3位)	52
(6) 「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の応募や交付の手続きに関する要望	56
(7) 「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の内容や制度に関する要望	58
(8) 「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」に関する要望(第1位)	60
(9) 「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」に関する要望(第2位)	62
(10) 「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」に関する要望(第3位)	64
(11) 公的機関及び民間財団等の助成金制度の認知度	66
(12) 公的機関及び民間財団等に対する2013-15年度の応募・交付実績	68
(13) 公的機関及び民間財団等に対する2013-15年度の応募・交付実績に関する採択率	71
(14) 公的機関及び民間財団等に対する2016年度の応募・交付実績	72
(15) 公的機関及び民間財団等に対する2016年度の応募・交付実績に関する採択率	75
(16) その他の公的機関及び民間財団等の助成金制度	76
(17) 2013~2015年度に応募した助成金制度の件数と採択された助成金制度の件数	78
(18) 2013~2015年度に応募した助成金制度の採択率	80
(19) 2016年度に応募した助成金制度の件数と採択された助成金制度の件数	82
(20) 2016年度に応募した助成金制度の採択率	84
(21) 2016年度に応募した助成金制度の応募金額と交付金額	86
(22) 2016年度に応募した助成金制度の交付金額率	88
(23) 美術分野の助成金制度の問題点	90
(24) 美術分野の助成金制度の問題点(第1-3位)	92

2. 2016年度の代表的な展覧会について	96
(25) 2016年度の展覧会等の事業や活動に対する芸術文化振興基金の助成金交付の有無	96
(26) 当該事業や活動に対する芸術文化振興基金以外からの助成金制度の種類	98
(27) 当該事業や活動の目的	104
(28) 当該事業や活動の種類	106
(29) 当該事業や活動のジャンル	108
(30) 当該事業や活動の最も中心的なジャンル	110
(31) 当該事業や活動の展示作品数	112
(32) 当該事業や活動の入場者・参加者数	114
(33) 当該事業や活動で展示以外に実施している活動・事業	118
(34) 当該事業や活動で使用した会場	120
(35) 当該事業の企画の検討時期	122
(36) 当該事業の助成金や協賛金への申請の検討時期	123
(37) 当該事業や活動に関する助成金や協賛金の交付決定時期	124
(38) 当該事業や活動に関する助成金や協賛金の交付決定時期に関するコメント	125
(39) 当該事業や活動に関する助成金や協賛金の交付がない場合の対応	126
(40) 当該事業や活動に関する総事業費	128
(41) 当該事業や活動に関する総事業費の内訳	129
3. 団体の概要	130
(42) 団体の種類	129
(43) 文化施設の開館年または団体の設立年	132
(44) 団体の活動や事業の拠点の地域	133
アンケート調査票	136

アンケート調査の実施要領

◎ 実施期間

2017年5月19日～7月18日

◎ 実施方法

配布・回収方法は次の2通りを併用した。

- ・アンケート票(書面)の郵送による配布・回収
- ・電子アンケート票(PDF フォーム形式)の特設サイトからのダウンロード、電子メールでの返信

◎ 配布数・回収数

- ・配布数:334件(内、住所不明などによる未達数:15件)
- ・回収数:161件
- ・回収率:50.5%(未達分を除く)

凡例:クロス集計の集計表

・各属性で最も大きい値(第1位)をグリーンのハイライトで表示し、各属性の2番目に大きい値(第2位)をオレンジのハイライトは表示した。なお、第1位で50%以上の場合は濃いグリーンで、50%未満の場合は薄いグリーンで表示した。

第1位 (50%以上)		第2位	
第1位 (50%未満)			

・また、クロス集計の分析に参考となる特徴的な数値を太枠で表示した。

1. 芸術文化振興基金及びその他の美術分野の助成金制度について

(1)「美術の創造普及活動」の認知度、応募・採択状況

SQ1-1

【単純集計】

「美術の創造普及活動」の認知度、応募・採択状況を尋ねたところ、アンケートに回答した161の団体のうち、「その助成金制度のことは知らない」と答えた団体が11.2%、「知っているが応募したことはない」と答えた団体が74.5%、「応募したことはあるが、採択されたことはない」と答えた団体が1.9%、「応募して採択されたことがある」と答えた団体が9.3%であった。

全体として、「美術の創造普及活動」の認知度は85.7%で、応募経験は11.2%であった。

【クロス集計】

[団体種類]

・国公立文化施設、民間文化施設の7割以上は「知っているが応募したことはない」と回答し、また、非営利団体の7割以上も同様の回答をしている。

・「応募して採択されたことがある」と比較的多く回答した団体は国公立大学、実行委員会、非営利団体であった。

・「その助成金制度のことは知らない」と比較的多く回答した団体は、民間文化施設、国公立大学であった。

[設立年・開館年]

・1999年以前に設立・開館した団体・施設の8割以上が「知っているが応募したことはない」と回答。

・2000年以降に設立・開館した団体・施設が比較的多く応募している。

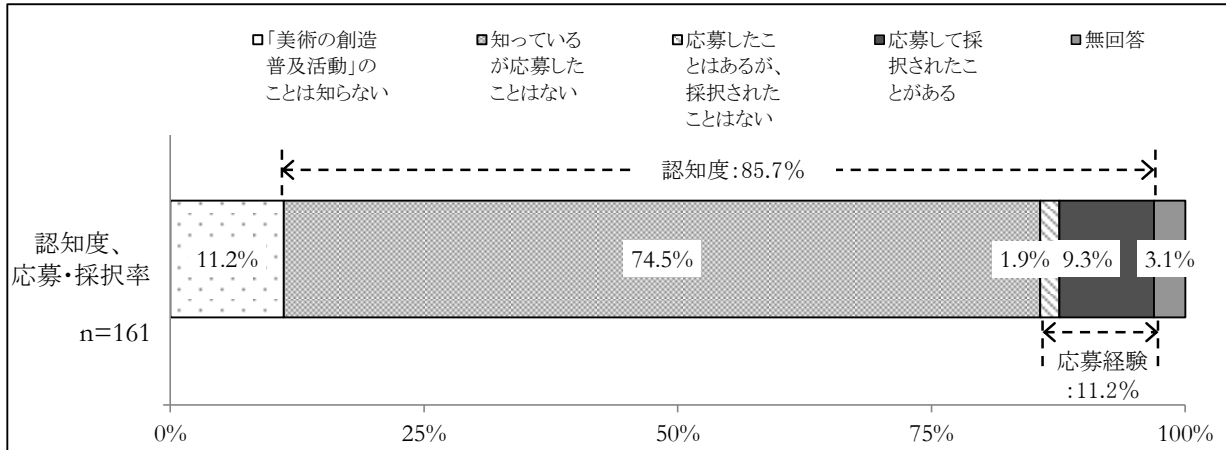
[地域文化施設展示活動の応募・採択状況]

・地域文化施設展示活動に応募して採択された団体の8割以上、また、応募したが採択されたことがない団体、知っているが応募したことがない団体の7割以上が「知っているが応募したことはない」と回答。

[応募件数]

・応募件数が20件未満の団体の7割以上は「知っているが応募したことはない」と回答している。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

	合計	Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動					
		その助成金制度のことは知らない	知っているが応募したことはない	応募したことはあるが、採択されたことはない	応募して採択されたことがある	無回答	
全体	161	11.2	74.5	1.9	9.3	3.1	
Q14団体の種類	国公立文化施設	93	11.2	74.5	1.9	9.3	3.1
	民間文化施設	10	11.2	74.5	1.9	9.3	3.1
	国公立大学	5	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0
	実行委員会	25	16.0	48.0	8.0	20.0	8.0
	非営利団体	12	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0
	その他	14	7.1	64.3	0.0	21.4	7.1
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0
	1970-1979年	14	14.3	85.7	0.0	0.0	0.0
	1980-1989年	33	12.1	81.8	0.0	3.0	3.0
	1990-1999年	36	8.3	80.6	0.0	8.3	2.8
	2000-2009年	33	12.1	66.7	3.0	15.2	3.0
	2010-2016年	17	17.6	58.8	5.9	11.8	5.9
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	18	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	120	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	15	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	9	88.9	0.0	11.1	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	44	4.5	70.5	2.3	22.7	0.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	0.0	71.4	14.3	14.3	0.0
	応募して採択されたことがある	96	8.3	84.4	0.0	2.1	5.2
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	73	13.7	72.6	1.4	9.6	2.7
	5-9	47	6.4	74.5	0.0	12.8	6.4
	10-19	25	4.0	88.0	8.0	0.0	0.0
	20以上	9	33.3	44.4	0.0	22.2	0.0

【単純集計】

「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の認知度、応募・採択状況を尋ねたところ、アンケートに回答した161の団体のうち、「その助成金制度のことは知らない」と答えた団体が5.6%、「知っているが応募したことはない」と答えた団体が27.3%、「応募したことはあるが、採択されたことはない」と答えた団体が4.3%、「応募して採択されたことがある」と答えた団体が59.6%であった。

全体として、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の認知度は91.2%で、応募経験は63.9%であった。

【クロス集計】

[団体種類]

・国公立文化施設の8割以上は「応募して採択されたことがある」と回答し、また、民間文化施設の5割も同様の回答をしている。

・実行委員会、非営利団体の6割以上は「知っているが応募したことはない」と回答している。

[設立年・開館年]

・1999年以前に設立・開館した団体・施設の6割以上が「応募して採択されたことがある」と回答。

・2010年以降に設立・開館した団体・施設の7割以上が「知っているが応募したことはない」と回答している。

[美術の創造普及活動の応募・採択状況]

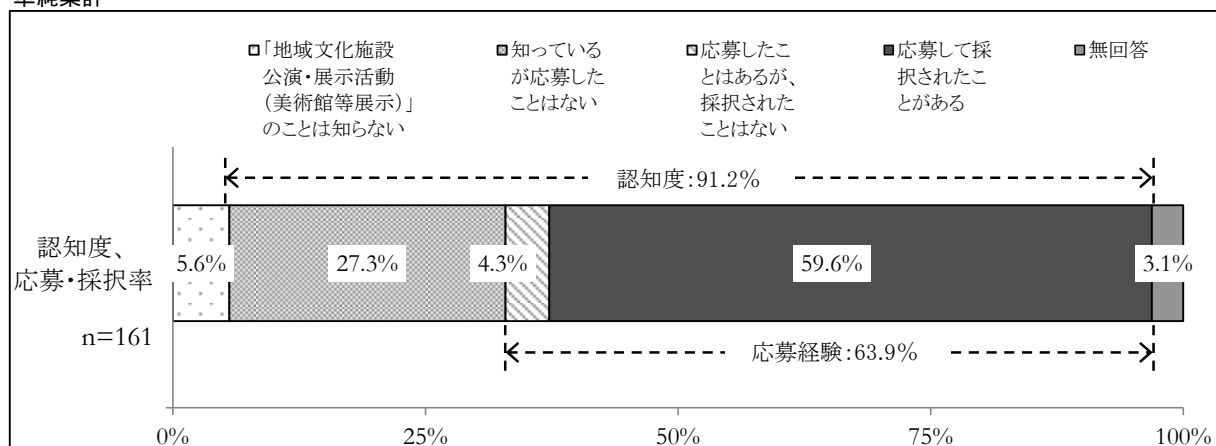
・美術の創造普及活動を知っているが応募したことがない団体の6割以上が、「応募して採択されたことがある」と回答。

・美術の創造普及活動に応募して採択されたことがある団体の6割以上が、「知っているが応募したことはない」と回答している。

[応募件数]

・応募件数が20件未満の5割以上が「応募して採択されたことがある」と回答。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

	合計	Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）					
		その助成金制度のことは知らない	知っているが応募したことはない	応募したことはあるが、採択されたことはない	応募して採択されたことがある	無回答	
全体	161	5.6	27.3	4.3	59.6	3.1	
Q14団体の種類	国公立文化施設	93	1.1	11.8	3.2	82.8	1.1
	民間文化施設	10	10.0	20.0	10.0	50.0	10.0
	国公立大学	5	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0
	実行委員会	25	16.0	60.0	8.0	12.0	4.0
	非営利団体	12	0.0	66.7	8.3	16.7	8.3
	その他	14	0.0	42.9	0.0	50.0	7.1
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	8.3	16.7	0.0	75.0	0.0
	1970-1979年	14	0.0	28.6	7.1	64.3	0.0
	1980-1989年	33	0.0	12.1	0.0	87.9	0.0
	1990-1999年	36	2.8	16.7	2.8	77.8	0.0
	2000-2009年	33	9.1	21.2	12.1	45.5	12.1
	2010-2016年	17	11.2	74.5	1.9	9.3	3.1
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	18	44.4	11.1	0.0	44.4	0.0
	知っているが応募したことはない	120	0.0	25.8	4.2	67.5	2.5
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	15	0.0	66.7	6.7	13.3	13.3
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）	その助成金制度のことは知らない	9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	44	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	96	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	73	2.7	27.4	2.7	64.4	2.7
	5-9	47	4.3	29.8	4.3	57.4	4.3
	10-19	25	8.0	12.0	12.0	64.0	4.0
	20以上	9	22.2	55.6	0.0	22.2	0.0

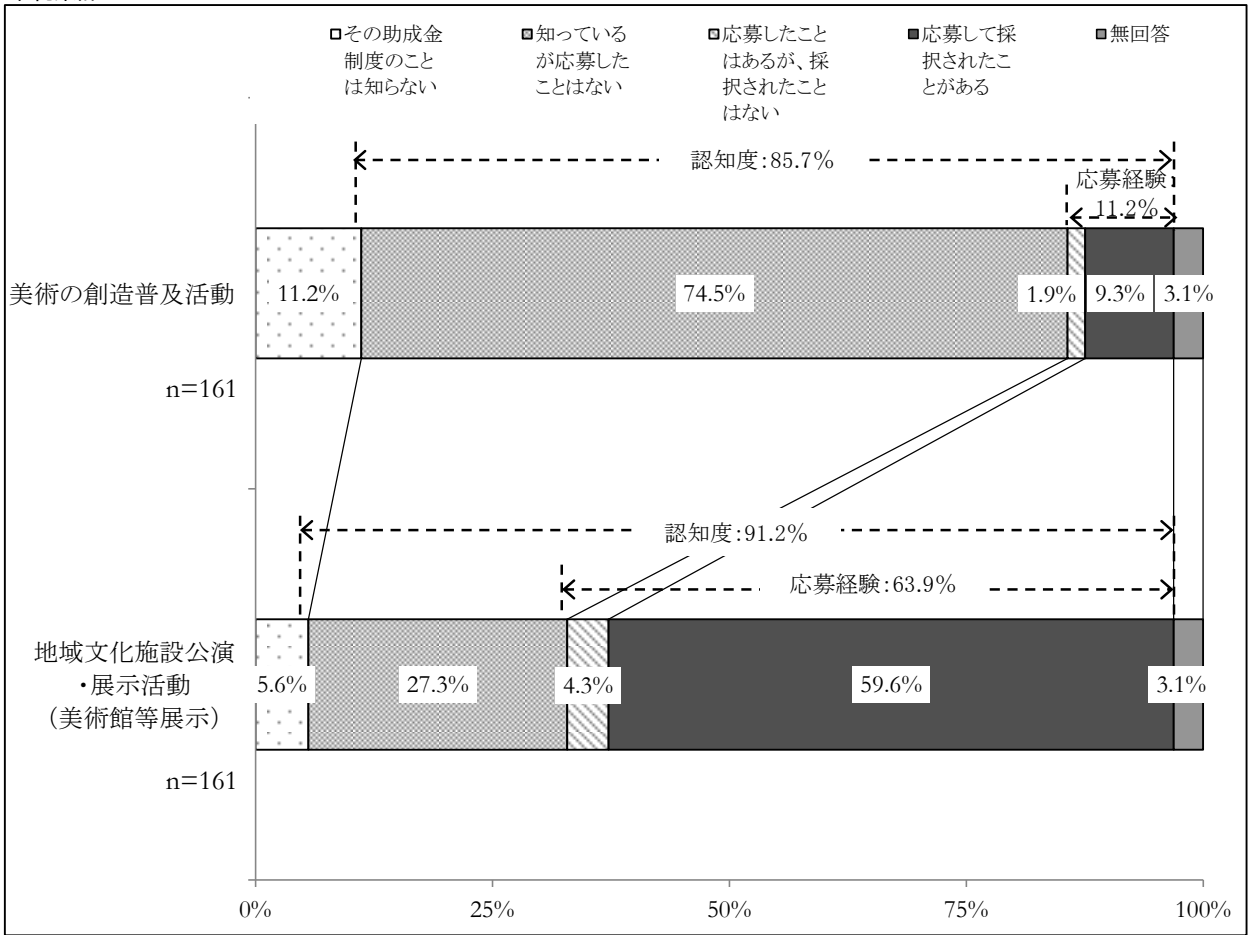
(3)「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の認知度、応募・採択状況の比較 SQ1

【単純集計】

「美術の創造普及活動」の認知度は85.7%、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の認知度は91.2%で、共に85%以上の認知度はあるが、美術の創造普及活動の応募経験は11.2%で、地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募経験、63.9%に比べて非常に少ない。

また、「応募したことはあるが、採択されたことはない」と「応募して採択されたことがある」を選択した回答数から採択率を算出したところ、「美術の創造普及活動」は83.3%で、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」は93.2%であった。

単純集計



(4)「美術の創造普及活動」及び「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」に応募したことのない理由 Q2

【単純集計】

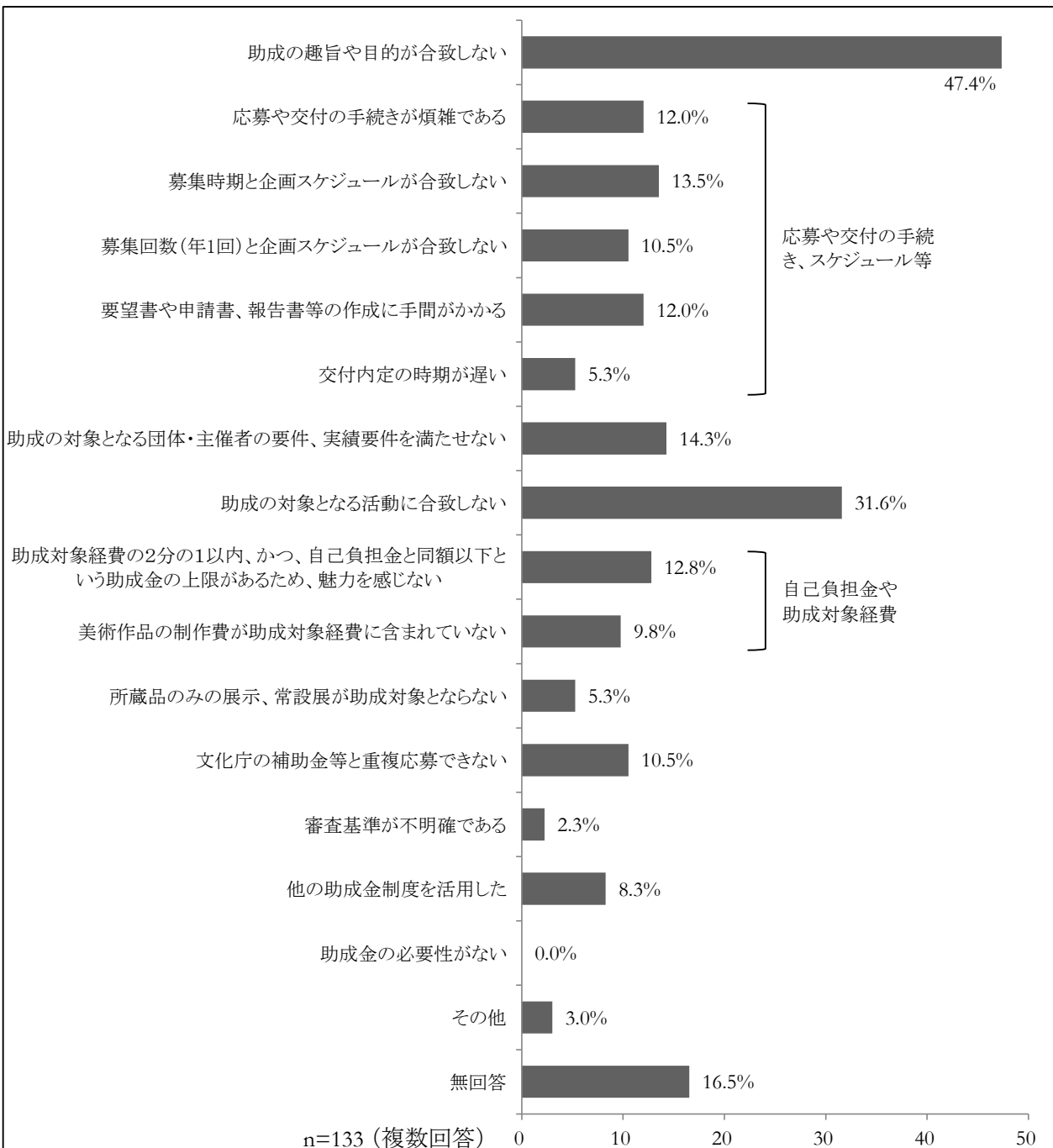
SQ1-1、SQ1-2のどちらかもしくは両方で「2. 知っているが応募したことはない」と回答した団体に、「美術の創造普及活動」及び「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」に応募したことのない理由について尋ねたところ、

「助成の趣旨や目的が合致しない」が47.4%で最も多く、次いで「助成の対象となる活動に合致しない」が31.6%であった。

応募したことのない理由として、応募や交付の手続き、スケジュール、自己負担金、助成対象経費に関する回答数は比較的少なかった。

なお、「その他」の主な理由としては、「ワークショップは助成対象外であった」、「企画や準備に割く時間がない」、「助成金交付が確定払いのため」などの意見があった。

単純集計



【クロス集計】

[団体種類]

・「助成の趣旨や目的が合致しない」と約5割以上回答した団体は、国公立文化施設、民間文化施設、国公立大学であった。

・実行委員会、非営利団体は「助成の趣旨や目的が合致しない」以外に、「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限があるため、魅力を感じない」と回答する団体も比較的多い。

[美術の創造普及活動、地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

・美術の創造普及活動を知っているが応募したことない団体に比べ、地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)を知っているが応募したことない団体は、応募や交付の手続きやスケジュール、自己負担金、助成対象経費に関する回答が比較的多い。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q2.理由									
		助成の趣旨や目的が合致しない	応募や交付の手續きが煩雑である	募集時期と企画スケジュールが合致しない	募集回数(年1回)と企画スケジュールが合致しない	要望書や申請書、報告書等の作成に手間がかかる	交付内定の時期が遅い	助成の対象となる団体・主催者の要件、実績要件を満たさない	助成の対象となる活動に合致しない	助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限があるため、魅力を感じない	
全体	133	47.4	12.0	13.5	10.5	12.0	5.3	14.3	31.6	12.8	
Q14団体の種類											
国公立文化施設	81	49.4	7.4	9.9	7.4	8.6	3.7	4.9	35.8	6.2	
民間文化施設	8	50.0	12.5	25.0	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5	25.0	
国公立大学	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	33.3	0.0	
実行委員会	18	33.3	16.7	22.2	11.1	16.7	0.0	27.8	27.8	33.3	
非営利団体	12	41.7	33.3	16.7	25.0	25.0	16.7	25.0	16.7	33.3	
その他	10	50.0	10.0	20.0	30.0	10.0	20.0	30.0	40.0	0.0	
Q15団体・施設の設立年・開館年											
1969年以前	11	27.3	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	27.3	27.3	9.1	
1970-1979年	12	66.7	8.3	33.3	16.7	16.7	8.3	16.7	16.7	16.7	
1980-1989年	28	64.3	7.1	7.1	14.3	7.1	10.7	14.3	39.3	7.1	
1990-1999年	30	50.0	16.7	13.3	6.7	13.3	3.3	10.0	30.0	6.7	
2000-2009年	26	38.5	3.8	11.5	11.5	11.5	3.8	3.8	46.2	15.4	
2010-2016年	13	15.4	30.8	30.8	7.7	15.4	0.0	30.8	23.1	23.1	
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動											
その助成金制度のことは知らない	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
知っているが応募したことはない	120	47.5	10.8	14.2	11.7	11.7	5.0	11.7	30.0	12.5	
応募したことはあるが、採択されたことはない	1	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	
応募して採択されたことがある	10	40.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	30.0	50.0	20.0	
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)											
その助成金制度のことは知らない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
知っているが応募したことはない	44	31.8	25.0	27.3	15.9	18.2	4.5	25.0	27.3	22.7	
応募したことはあるが、採択されたことはない	5	80.0	20.0	60.0	40.0	60.0	0.0	0.0	40.0	40.0	
応募して採択されたことがある	81	53.1	4.9	2.5	4.9	3.7	4.9	9.9	34.6	2.5	
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数											
1-4	60	53.3	13.3	16.7	10.0	16.7	1.7	10.0	35.0	11.7	
5-9	38	31.6	18.4	15.8	18.4	10.5	10.5	18.4	36.8	15.8	
10-19	22	50.0	4.5	4.5	4.5	9.1	4.5	18.2	22.7	9.1	
20以上	7	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	28.6	

(単位：%)

	合計	理由							
		美術作品の制作費が助成対象経費に含まれていない	所蔵品のみの展示、常設展が助成対象とならない	文化庁の補助金等と重複応募できない	審査基準が不明確である	他の助成金制度を活用した	助成金の必要性がない	その他	無回答
全体	133	9.8	5.3	10.5	2.3	8.3	0.0	3.0	16.5
Q14団体の種類									
国公立文化施設	81	2.5	6.2	6.2	0.0	3.7	0.0	2.5	23.5
民間文化施設	8	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
国公立大学	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
実行委員会	18	33.3	0.0	27.8	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1
非営利団体	12	8.3	8.3	25.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0
その他	10	30.0	0.0	10.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年									
1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.4
1970-1979年	12	8.3	16.7	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3
1980-1989年	28	3.6	3.6	10.7	0.0	3.6	0.0	0.0	10.7
1990-1999年	30	10.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	6.7	23.3
2000-2009年	26	7.7	11.5	15.4	0.0	15.4	0.0	0.0	19.2
2010-2016年	13	38.5	7.7	30.8	15.4	7.7	0.0	15.4	7.7
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動									
その助成金制度のことは知らない	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	120	10.0	5.8	10.8	1.7	7.5	0.0	2.5	17.5
応募したことはあるが、採択されたことはない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	10	10.0	0.0	10.0	10.0	20.0	0.0	10.0	10.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)									
その助成金制度のことは知らない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	44	18.2	2.3	13.6	6.8	22.7	0.0	6.8	2.3
応募したことはあるが、採択されたことはない	5	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	81	2.5	3.7	7.4	0.0	1.2	0.0	1.2	25.9
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数									
1-4	60	6.7	5.0	5.0	1.7	6.7	0.0	3.3	15.0
5-9	38	15.8	5.3	15.8	5.3	10.5	0.0	2.6	18.4
10-19	22	4.5	0.0	13.6	0.0	9.1	0.0	0.0	22.7
20以上	7	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3

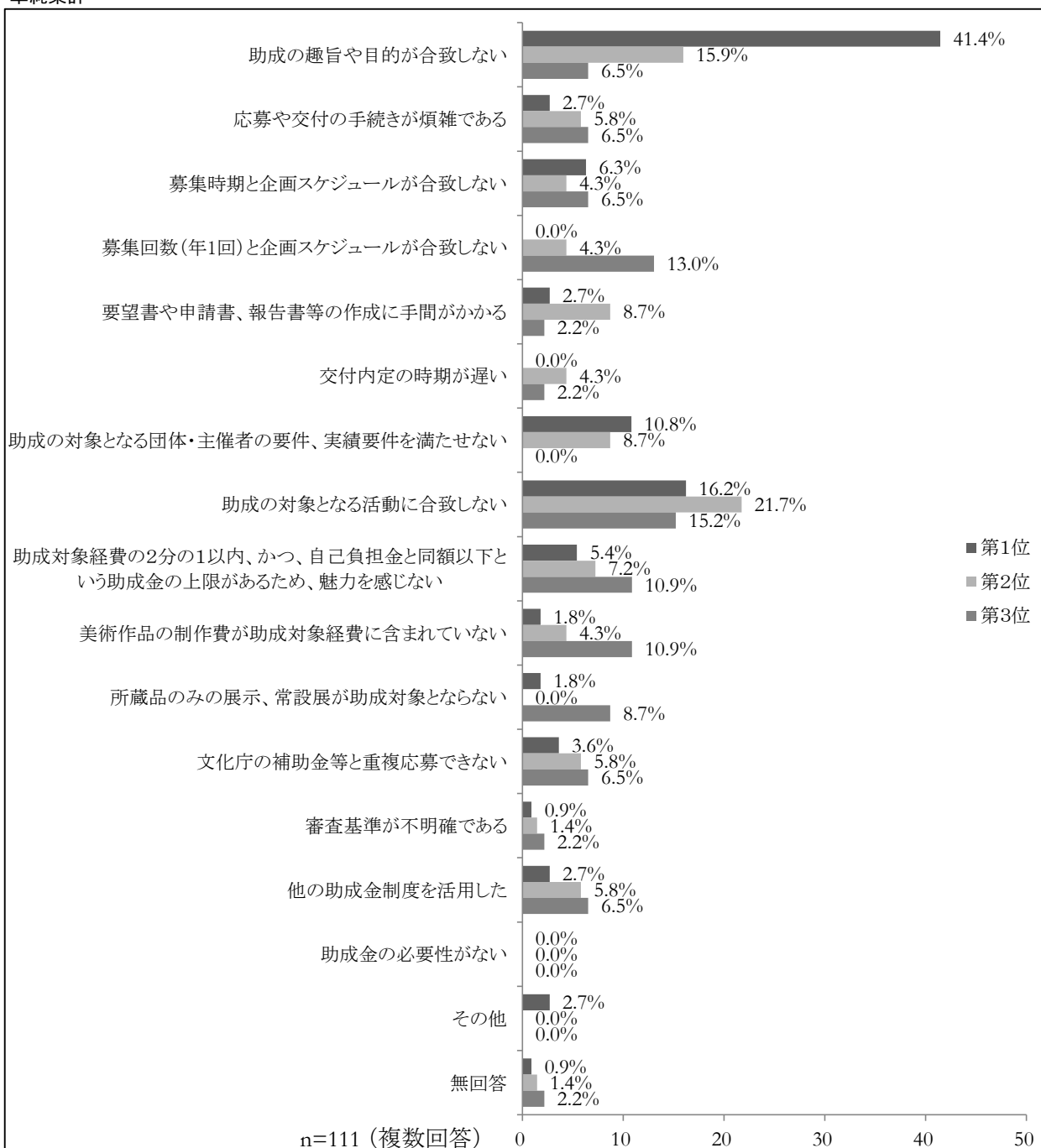
【単純集計】

Q2の回答のうち、最も大きな理由を順に3つ選択していただいたところ、第1位の理由として、「助成の趣旨や目的が合致しない」が41.4%で最も多く、次いで「助成の対象となる活動に合致しない」が16.2%、「助成の対象となる団体・主催者の要件、実績要件を満たせない」が10.8%となっている。

第2位の理由として、「助成の対象となる活動に合致しない」が21.7%で最も多く、次いで「助成の趣旨や目的が合致しない」が15.9%、「助成の対象となる団体・主催者の要件、実績要件を満たせない」が8.7%となっている。

第3位の理由として、「助成の対象となる活動に合致しない」が15.2%で最も多く、次いで「募集回数(年1回)と企画スケジュールが合致しない」が13.0%、「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限があるため、魅力を感じない」「美術作品の制作費が助成対象経費に含まれていない」が10.9%となっている。

単純集計



【クロス集計(最も大きな理由第1位)】

[団体種類]

- ・国公立大学以外は「助成の趣旨や目的が合致しない」を最大の理由としている。
- ・国公立大学は「助成の対象となる団体・主催者の要件、実績要件を満たせない」を最大の理由としている。

[美術の創造普及活動の応募・採択状況]

- ・美術の創造普及活動を知っているが応募したことのない団体は、「助成の趣旨や目的が合致しない」を応募したことのない最大の理由とし、「助成の対象となる活動に合致しない」をその次の理由としている。

[地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

- ・地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)を知っているが応募したことのない団体は、「助成の趣旨や目的が合致しない」を応募したことのない最大の理由とし、「募集時期と企画スケジュールが合致しない」をその次の理由としている。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q2-SQ2-1.最も大きな理由(第1位)									
		助成の趣旨や目的が合致しない	応募や交付の手續きが煩雑である	募集時期と企画スケジュールが合致しない	募集回数(年1回)と企画スケジュールが合致しない	要望書や申請書、報告書等の作成に手間がかかる	交付内定の時期が遅い	助成の対象となる団体・主催者の要件、実績要件を満たせない	助成の対象となる活動に合致しない	助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限があるため、魅力を感じない	
全体	111	41.4	2.7	6.3	0.0	2.7	0.0	10.8	16.2	5.4	
Q14団体の種類	国公立文化施設	62	46.8	4.8	3.2	0.0	3.2	0.0	6.5	22.6	1.6
	民間文化施設	7	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	
	国公立大学	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
	実行委員会	16	31.3	0.0	18.8	0.0	0.0	6.3	12.5	6.3	
	非営利団体	12	33.3	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3	10.0	16.7
	その他	10	40.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	30.0	10.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	7	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9	28.6	0.0	
	1970-1979年	11	54.5	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	
	1980-1989年	25	64.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	12.0	12.0	4.0
	1990-1999年	23	47.8	4.3	8.7	0.0	4.3	0.0	13.0	13.0	0.0
	2000-2009年	21	23.8	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0	4.8	38.1	9.5
	2010-2016年	12	16.7	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
	知っているが応募したことはない	99	42.4	2.0	6.1	0.0	3.0	9.1	17.2	6.1	
	応募したことはあるが、採択されたことはない	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	応募して採択されたことがある	9	33.3	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0	
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	知っているが応募したことはない	43	23.3	4.7	14.0	0.0	4.7	11.6	9.3	9.3	
	応募したことはあるが、採択されたことはない	5	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	51	41.2	3.9	5.9	0.0	5.9	7.8	15.7	5.9	
	5-9	31	32.3	3.2	9.7	0.0	0.0	12.9	25.8	3.2	
	10-19	17	47.1	0.0	0.0	0.0	0.0	17.6	5.9	11.8	
	20以上	6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	

(単位：%)

	合計	美術作品の制作費が助成対象経費に含まれていない	所蔵品のみの展示、常設展が助成対象とならない	文化庁の補助金等と重複応募できない	審査基準が不明確である	他の助成金制度を活用した	助成金の必要性がない	その他	無回答	
全体	111	1.8	1.8	3.6	0.9	2.7	0.0	2.7	0.9	
Q14団体の種類	国公立文化施設	62	0.0	3.2	0.0	0.0	3.2	0.0	3.2	1.6
	民間文化施設	7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	国公立大学	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実行委員会	16	6.3	0.0	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0
	非営利団体	12	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
	その他	10	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1970-1979年	11	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
	1980-1989年	25	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1990-1999年	23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7	0.0
	2000-2009年	21	0.0	4.8	0.0	0.0	9.5	0.0	0.0	0.0
	2010-2016年	12	16.7	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	99	2.0	2.0	3.0	1.0	3.0	0.0	2.0	1.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	9	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	43	4.7	0.0	7.0	2.3	4.7	0.0	4.7	0.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	5	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	51	0.0	3.9	0.0	0.0	3.9	0.0	3.9	2.0
	5-9	31	6.5	0.0	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	10-19	17	0.0	0.0	11.8	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0
	20以上	6	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0

【クロス集計(最も大きな理由第2位)】

[団体種類]

- ・国公立文化施設で最も多い回答は「助成の対象となる活動に合致しない」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は「要望書や申請書、報告書等の作成に手間がかかる」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は「助成の趣旨や目的が合致しない」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は「助成の対象となる団体・主催者の要件、実績要件を満たせない」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限があるため、魅力を感じない」であった。

クロス集計

		Q2-SQ2-1.最も大きな理由(第2位)										(単位: %)
		合計	助成の趣旨や目的が合致しない	応募や交付の手續きが煩雑である	募集時期と企画スケジュールが合致しない	募集回数(年1回)と企画スケジュールが合致しない	要望書や申請書、報告書等の作成に手間がかかる	交付内定の時期が遅い	助成の対象となる団体・主催者の要件、実績要件を満たせない	助成の対象となる活動に合致しない	助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限があるため、魅力を感じない	
全体		69	15.9	5.8	4.3	4.3	8.7	4.3	8.7	21.7	7.2	
Q14団体の種類	国公立文化施設	33	27.3	6.1	6.1	3.0	6.1	6.1	0.0	30.3	6.1	
	民間文化施設	4	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	
	国公立大学	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	実行委員会	13	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	30.8	15.4	7.7	
	非営利団体	8	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5	25.0	
	その他	8	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	25.0	0.0	
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	1970-1979年	6	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	
	1980-1989年	14	7.1	7.1	14.3	0.0	0.0	21.4	0.0	42.9	0.0	
	1990-1999年	15	26.7	6.7	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	40.0	0.0	
	2000-2009年	13	23.1	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	15.4	
	2010-2016年	10	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	40.0	0.0	10.0	
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	知っているが応募したことはない	61	14.8	6.6	3.3	4.9	9.8	4.9	8.2	21.3	6.6	
	応募したことはあるが、採択されたことはない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
	応募して採択されたことがある	6	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	知っているが応募したことはない	33	9.1	9.1	6.1	6.1	12.1	0.0	15.2	12.1	6.1	
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	
	応募して採択されたことがある	30	26.7	3.3	3.3	3.3	3.3	10.0	3.3	33.3	0.0	
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	31	25.8	12.9	9.7	3.2	3.2	3.2	3.2	19.4	9.7	
	5-9	24	8.3	0.0	0.0	8.3	12.5	4.2	12.5	25.0	4.2	
	10-19	8	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5	12.5	25.0	0.0	
	20以上	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	

		Q2-SQ2-1.最も大きな理由(第2位)								(単位: %)
		合計	美術作品の制作費が助成対象経費に含まれていない	所蔵品のみの展示、常設展が助成対象とならない	文化庁の補助金等と重複応募できない	審査基準が不明確である	他の助成金制度を活用した	助成金の必要性がない	その他	無回答
全体		69	4.3	0.0	5.8	1.4	5.8	0.0	0.0	1.4
Q14団体の種類	国公立文化施設	33	0.0	0.0	6.1	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
	民間文化施設	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	国公立大学	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実行委員会	13	7.7	0.0	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0
	非営利団体	8	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	その他	8	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1970-1979年	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1980-1989年	14	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1990-1999年	15	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7
	2000-2009年	13	0.0	0.0	23.1	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0
	2010-2016年	10	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	61	4.9	0.0	6.6	0.0	6.6	0.0	0.0	1.6
	応募したことはあるが、採択されたことはない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	6	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	33	6.1	0.0	3.0	3.0	12.1	0.0	0.0	0.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	30	3.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	31	0.0	0.0	3.2	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0
	5-9	24	0.0	0.0	8.3	0.0	12.5	0.0	0.0	4.2
	10-19	8	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20以上	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【クロス集計(最も大きな理由第3位)】

〔団体種類〕

- ・国公立文化施設で最も多い回答は「募集回数(年1回)と企画スケジュールが合致しない」、「助成の対象となる活動に合致しない」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は「助成の趣旨や目的が合致しない」、「募集時期と企画スケジュールが合致しない」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は「助成の対象となる活動に合致しない」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限があるため、魅力を感じない」、「美術作品の制作費が助成対象経費に含まれていない」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は「応募や交付の手続きが煩雑である」であった。

クロス集計

		(単位: %)									
		合計	Q2-SQ2-1.最も大きな理由(第3位)								
			助成の趣旨や目的が合致しない	応募や交付の手續きが煩雑である	募集時期と企画スケジュールが合致しない	募集回数(年1回)と企画スケジュールが合致しない	要望書や申請書、報告書等の作成に手間がかかる	交付内定の時期が遅い	助成の対象となる団体・主催者の要件、実績要件を満たせない	助成の対象となる活動に合致しない	助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限があるため、魅力を感じない
全体		46	6.5	6.5	6.5	13.0	2.2	2.2	0.0	15.2	10.9
Q14団体の種類	国公立文化施設	20	0.0	0.0	10.0	20.0	5.0	5.0	0.0	20.0	10.0
	民間文化施設	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	国公立大学	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	実行委員会	10	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	30.0
	非営利団体	8	0.0	37.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	1970-1979年	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	1980-1989年	9	11.1	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1
	1990-1999年	8	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	25.0
	2000-2009年	9	22.2	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0
	2010-2016年	8	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	40	7.5	5.0	7.5	15.0	2.5	2.5	0.0	12.5	10.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	応募して採択されたことがある	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	23	0.0	13.0	8.7	13.0	0.0	0.0	0.0	13.0	13.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	17	5.9	0.0	0.0	17.6	0.0	5.9	0.0	23.5	11.8
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	21	4.8	4.8	9.5	19.0	4.8	0.0	0.0	23.8	4.8
	5-9	15	0.0	6.7	6.7	13.3	0.0	6.7	0.0	0.0	20.0
	10-19	6	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	20以上	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	合計	46	10.9	8.7	6.5	2.2	6.5	0.0	0.0	0.0	2.2

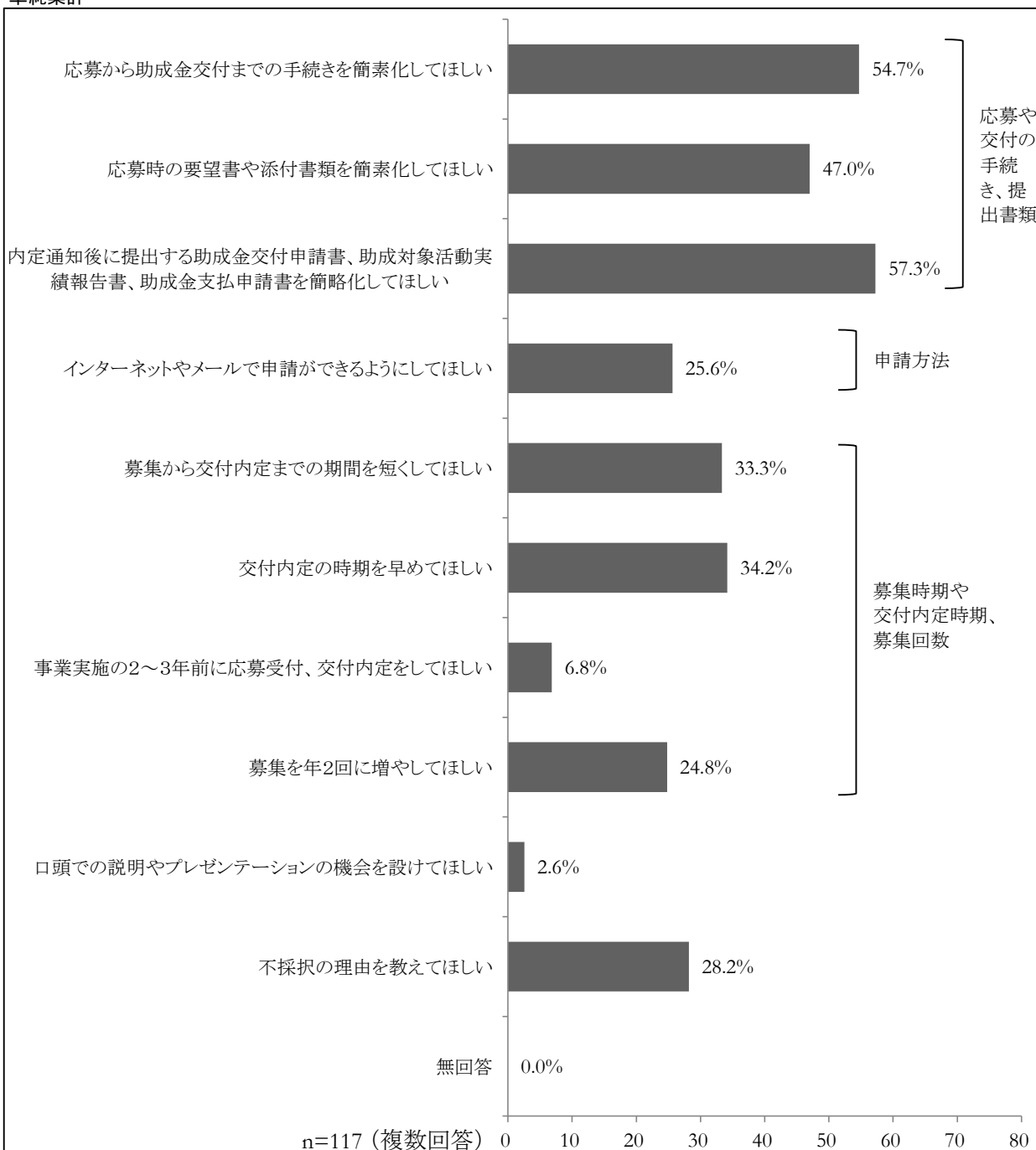
(単位: %)

		合計	美術作品の制作費が助成対象経費に含まれていない	所蔵品のみの展示、常設展が助成対象とならない	文化庁の補助金等と重複応募できない	審査基準が不明確である	他の助成金制度を活用した	助成金の必要性がない	その他	無回答
全体		46	10.9	8.7	6.5	2.2	6.5	0.0	0.0	2.2
Q14団体の種類	国公立文化施設	20	5.0	15.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	民間文化施設	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	国公立大学	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実行委員会	10	30.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	非営利団体	8	0.0	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	その他	5	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1970-1979年	4	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1980-1989年	9	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1990-1999年	8	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5
	2000-2009年	9	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2010-2016年	8	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	40	10.0	10.0	7.5	2.5	5.0	0.0	0.0	2.5
	応募したことはあるが、採択されたことはない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	5	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	23	13.0	0.0	8.7	4.3	13.0	0.0	0.0	0.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	17	5.9	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	21	9.5	4.8	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8
	5-9	15	20.0	6.7	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0
	10-19	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
	20以上	3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	合計	46	10.9	8.7	6.5	2.2	6.5	0.0	0.0	2.2

【単純集計】

「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の応募や交付の手続きに関する要望について尋ねたところ、「内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい」が57.3%で最も多く、次いで「応募から助成金交付までの手続きを簡素化してほしい」が54.7%、「応募時の要望書や添付書類を簡素化してほしい」が47.0%となっている。全体として、応募や交付の手続きや提出書類に関する要望が比較的多く、募集時期や交付内定時期、募集回数に関する要望は比較的少ない。

単純集計



【クロス集計】

[団体種類]

- ・国公立文化施設や民間文化施設は手続きや提出書類に関する要望が比較的多く、募集時期や交付内定時期、募集回数に関する要望は比較的少ない。
- ・国公立大学、実行委員会、非営利団体は手続きや提出書類に関する要望以外に、募集から交付内定までの期間を短くしてほしいとの要望も比較的多い。

[美術の創造普及活動の応募・採択状況]

- ・美術の創造普及活動に応募して採択された団体で最も多い回答は、「内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい」であった。

[地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

- ・地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)に応募して採択された団体で最も多い回答は、「応募から助成金交付までの手続きを簡素化してほしい」、「内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい」であった。

[応募件数]

- ・応募件数が20件以上の団体は、手続きや提出書類、申請方法に関する要望が比較的多い。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q3-SQ3-1.芸術文化振興基金の助成金の応募や交付の手続きに関するご要望									
		応募から助成金交付までの手続きを簡素化してほしい	応募時の要望書や添付書類を簡素化してほしい	内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい	インターネットやメールで申請ができるようにしてほしい	募集から交付内定までの期間を短くしてほしい	交付内定の時期を早めてほしい	事業実施の2～3年前に応募受付、交付内定をしてほしい	募集を年2回に増やしてほしい	口頭での説明やプレゼンテーションの機会を設けてほしい	不採択の理由を教えてほしい
全体	117	54.7	47.0	57.3	25.6	33.3	34.2	6.8	24.8	2.6	28.2
Q14団体の種類											
国公立文化施設	81	49.4	46.9	55.6	21.0	25.9	37.0	4.9	24.7	1.2	30.9
民間文化施設	6	83.3	66.7	33.3	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3
国公立大学	3	0.0	0.0	66.7	33.3	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0
実行委員会	11	72.7	45.5	63.6	27.3	54.5	36.4	18.2	27.3	9.1	27.3
非営利団体	6	83.3	66.7	83.3	66.7	66.7	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7
その他	9	55.6	33.3	55.6	22.2	44.4	33.3	11.1	22.2	11.1	22.2
Q15団体・施設の設立年・開館年											
1969年以前	9	55.6	55.6	55.6	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	33.3
1970-1979年	10	60.0	50.0	50.0	40.0	10.0	30.0	10.0	30.0	0.0	30.0
1980-1989年	30	53.3	53.3	53.3	20.0	30.0	36.7	6.7	23.3	0.0	30.0
1990-1999年	30	60.0	50.0	70.0	20.0	46.7	40.0	6.7	16.7	0.0	26.7
2000-2009年	23	52.2	34.8	52.2	17.4	26.1	17.4	8.7	39.1	13.0	26.1
2010-2016年	6	66.7	66.7	50.0	50.0	33.3	66.7	0.0	16.7	0.0	50.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動											
その助成金制度のことは知らない	8	87.5	37.5	50.0	12.5	50.0	50.0	0.0	37.5	0.0	12.5
知っているが応募したことはない	86	50.0	47.7	57.0	24.4	26.7	32.6	7.0	22.1	1.2	33.7
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	66.7	66.7	33.3	0.0	66.7	66.7	33.3	66.7	0.0	66.7
応募して採択されたことがある	15	60.0	40.0	73.3	33.3	53.3	26.7	0.0	26.7	13.3	6.7
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)											
その助成金制度のことは知らない	1	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	11	72.7	54.5	72.7	36.4	72.7	36.4	0.0	18.2	18.2	18.2
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	28.6	42.9	42.9	28.6	14.3	14.3	42.9	85.7	0.0	14.3
応募して採択されたことがある	96	56.3	47.9	56.3	25.0	30.2	35.4	5.2	19.8	1.0	31.3
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数											
1-4	56	55.4	44.6	53.6	23.2	37.5	32.1	3.6	19.6	3.6	23.2
5-9	33	57.6	54.5	60.6	24.2	30.3	45.5	12.1	24.2	0.0	27.3
10-19	20	35.0	30.0	50.0	15.0	35.0	20.0	10.0	40.0	5.0	45.0
20以上	4	100.0	75.0	100.0	100.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0

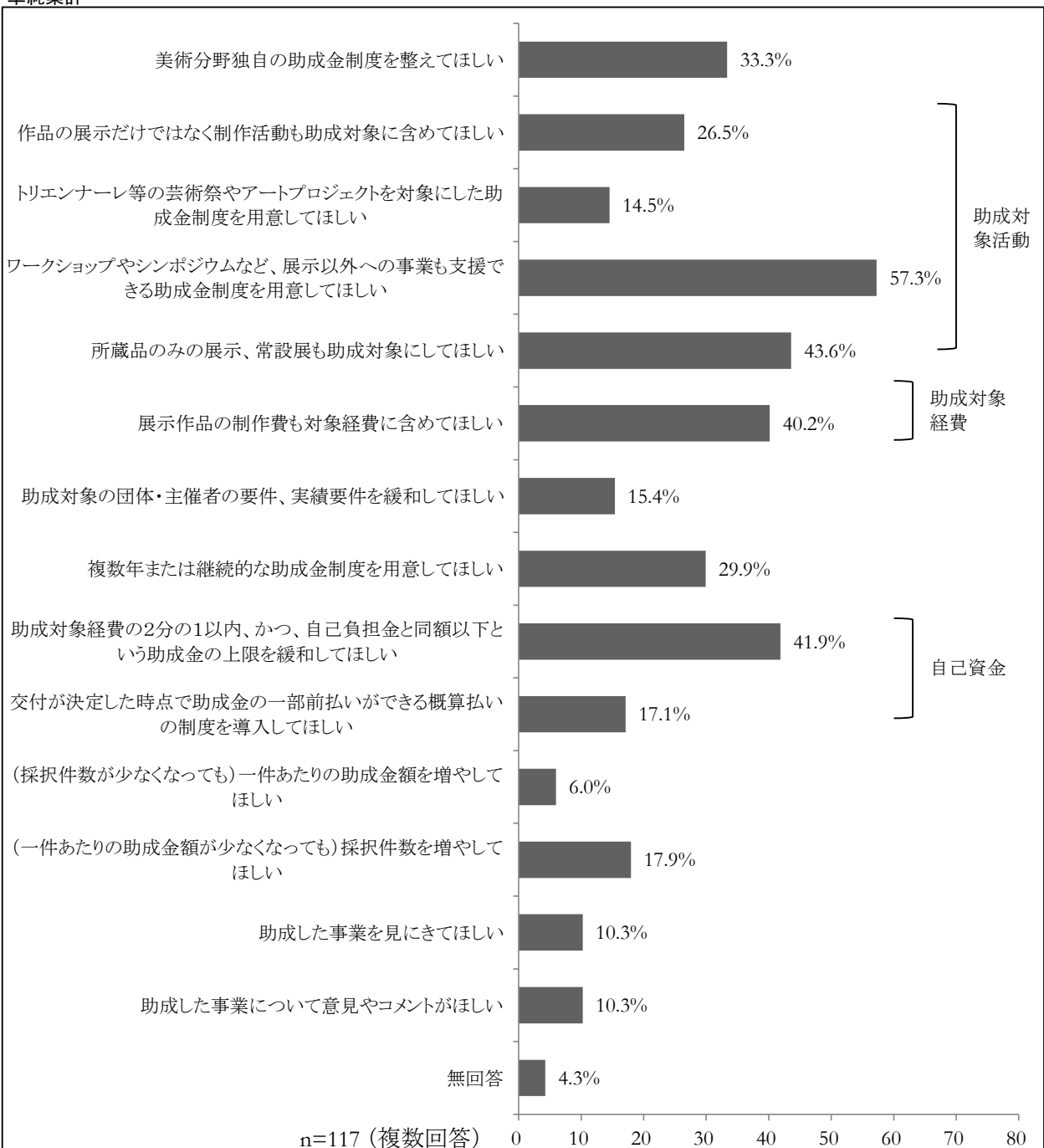
【単純集計】

「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の内容や制度に関する要望について尋ねたところ、

「ワークショップやシンポジウムなど、展示以外への事業も支援できる助成金制度を用意してほしい」が57.3%で最も多く、次いで「所蔵品のみの展示、常設展も助成対象にしてほしい」が43.6%、「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい」が41.9%、また、「展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい」が40.2%となっている。

全体として、助成対象活動の中では、「ワークショップやシンポジウムなど、展示以外への事業も支援できる助成金制度を用意してほしい」、「所蔵品のみの展示、常設展も助成対象にしてほしい」といった要望が比較的多いが、制作活動やアートプロジェクト等を対象とする活動の要望は比較的小さい。

単純集計



【クロス集計】

〔団体種類〕

・国公立大学、実行委員会、非営利団体は、国公立文化施設や民間文化施設に比べ、「作品の展示だけではなく制作活動も助成対象に含めてほしい」、「トリエンナーレ等の芸術祭やアートプロジェクトを対象にした助成金制度を用意してほしい」、「展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい」を比較的多く要望として回答している。

〔応募件数〕

・応募件数の多い団体ほど、「作品の展示だけではなく制作活動も助成対象に含めてほしい」、「展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい」を多く要望として回答している。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q3-SQ3-2.芸術文化振興基金の助成金の内容や制度に関するご要望									
		美術分野独自の助成金制度を整えてほしい	作品の展示だけではなく制作活動も助成対象に含めてほしい	トリエンナーレ等の芸術祭やアートプロジェクトを対象にした助成金制度を用意してほしい	ワークショップやシンポジウムなど、展示以外の事業も支援できる助成金制度を用意してほしい	所蔵品のみの展示、常設展も助成対象にしてほしい	展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい	助成対象の団体・主催者の要件、実績要件を緩和してほしい	複数年または継続的な助成金制度を用意してほしい	助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい	
全体	117	33.3	26.5	14.5	57.3	43.6	40.2	15.4	29.9	41.9	
Q14団体の種類											
国公立文化施設	81	28.4	19.8	9.9	58.0	50.6	33.3	12.3	28.4	39.5	
民間文化施設	6	33.3	16.7	0.0	33.3	66.7	16.7	16.7	16.7	66.7	
国公立大学	3	66.7	66.7	33.3	100.0	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3	
実行委員会	11	45.5	54.5	54.5	54.5	9.1	63.6	27.3	36.4	54.5	
非営利団体	6	33.3	33.3	16.7	50.0	50.0	50.0	16.7	33.3	33.3	
その他	9	55.6	44.4	11.1	55.6	22.2	66.7	22.2	44.4	33.3	
Q15団体・施設の設立年・開館年											
1969年以前	9	11.1	22.2	0.0	55.6	66.7	33.3	11.1	11.1	44.4	
1970-1979年	10	20.0	0.0	0.0	50.0	80.0	10.0	30.0	20.0	30.0	
1980-1989年	30	36.7	16.7	6.7	60.0	46.7	33.3	16.7	30.0	46.7	
1990-1999年	30	20.0	26.7	20.0	60.0	40.0	53.3	6.7	36.7	46.7	
2000-2009年	23	43.5	39.1	17.4	52.2	39.1	39.1	21.7	21.7	34.8	
2010-2016年	6	50.0	50.0	33.3	66.7	16.7	50.0	16.7	50.0	66.7	
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動											
その助成金制度のことは知らない	8	25.0	25.0	0.0	37.5	37.5	37.5	12.5	12.5	62.5	
知っているが応募したことはない	86	30.2	20.9	9.3	57.0	51.2	37.2	14.0	32.6	39.5	
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	100.0	100.0	66.7	100.0	33.3	66.7	66.7	33.3	100.0	
応募して採択されたことがある	15	53.3	40.0	46.7	60.0	13.3	60.0	20.0	26.7	40.0	
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）											
その助成金制度のことは知らない	1	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
知っているが応募したことはない	11	63.6	45.5	54.5	72.7	9.1	54.5	36.4	36.4	45.5	
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	42.9	71.4	42.9	85.7	28.6	85.7	57.1	71.4	71.4	
応募して採択されたことがある	96	28.1	19.8	8.3	54.2	50.0	35.4	10.4	27.1	39.6	
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数											
1-4	56	35.7	16.1	14.3	58.9	48.2	30.4	21.4	17.9	41.1	
5-9	33	18.2	30.3	12.1	60.6	42.4	45.5	12.1	33.3	45.5	
10-19	20	50.0	45.0	15.0	40.0	30.0	55.0	10.0	50.0	30.0	
20以上	4	50.0	75.0	25.0	100.0	25.0	75.0	0.0	50.0	75.0	

(単位：%)

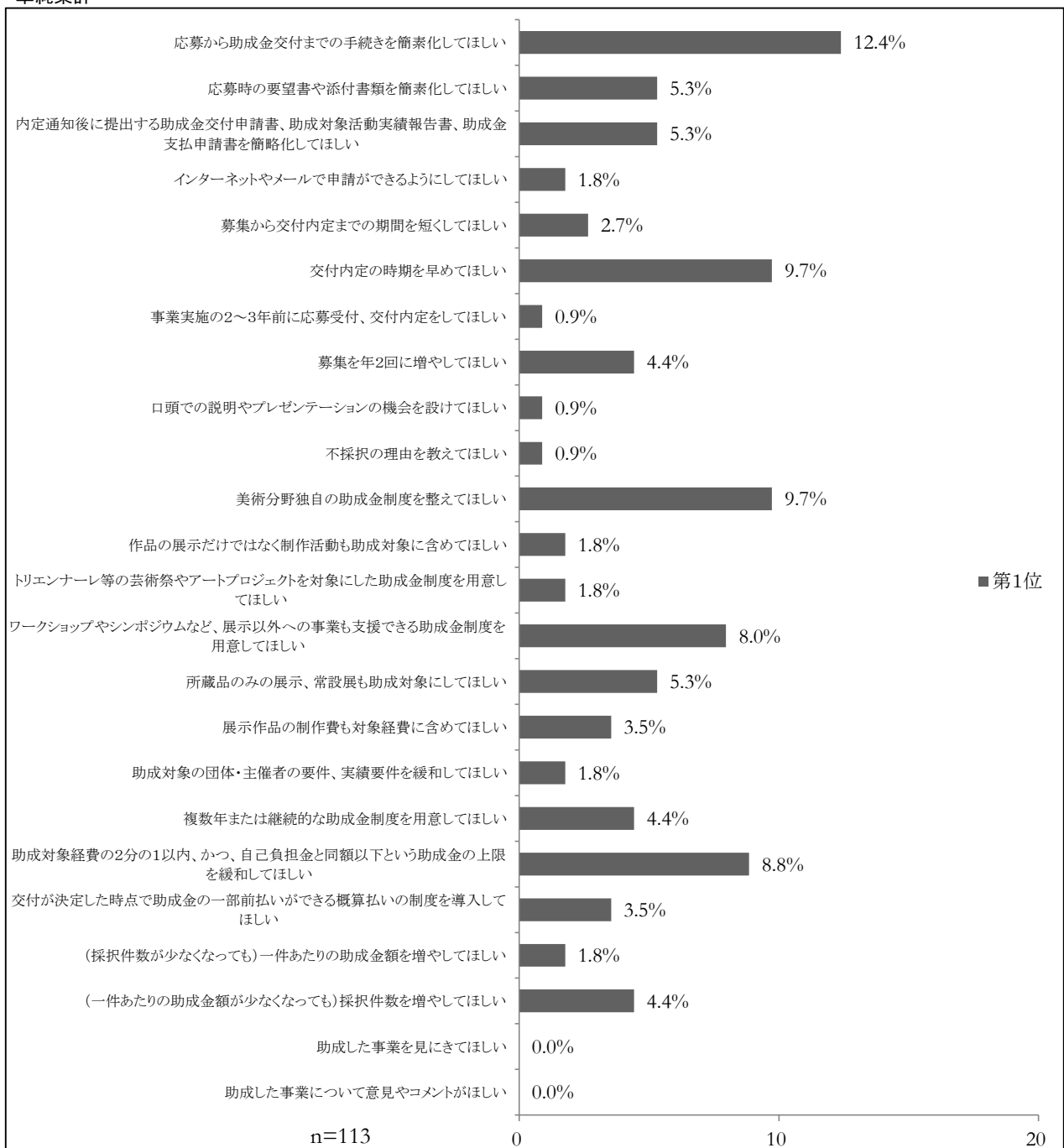
	合計	Q3-SQ3-2.芸術文化振興基金の助成金の内容や制度に関するご要望					
		交付が決定した時点で助成金の一部前払いができる縦断払いの制度を導入してほしい	(採択件数が少なくなった) 一件あたりの助成金額を増やしてほしい	(一件あたりの助成金額が少なくなった) 採択件数を増やしてほしい	助成した事業を見きてほしい	助成した事業について意見やコメントがほしい	無回答
全体	117	17.1	6.0	17.9	10.3	10.3	4.3
Q14団体の種類							
国公立文化施設	81	9.9	4.9	17.3	8.6	8.6	4.9
民間文化施設	6	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0
国公立大学	3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
実行委員会	11	54.5	9.1	27.3	18.2	0.0	9.1
非営利団体	6	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0
その他	9	33.3	11.1	22.2	11.1	22.2	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年							
1969年以前	9	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
1970-1979年	10	20.0	10.0	20.0	10.0	0.0	10.0
1980-1989年	30	3.3	3.3	16.7	6.7	6.7	0.0
1990-1999年	30	16.7	6.7	10.0	10.0	10.0	3.3
2000-2009年	23	17.4	4.3	17.4	8.7	13.0	8.7
2010-2016年	6	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動							
その助成金制度のことは知らない	8	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	86	12.8	5.8	20.9	7.0	9.3	4.7
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	33.3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	15	40.0	13.3	0.0	26.7	26.7	0.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）							
その助成金制度のことは知らない	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	11	36.4	18.2	9.1	9.1	18.2	0.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	57.1	14.3	28.6	28.6	14.3	0.0
応募して採択されたことがある	96	11.5	4.2	17.7	9.4	9.4	5.2
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数							
1-4	56	19.6	5.4	16.1	8.9	7.1	7.1
5-9	33	15.2	0.0	21.2	12.1	9.1	0.0
10-19	20	15.0	10.0	20.0	15.0	20.0	5.0
20以上	4	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0

【単純集計】

Q3の回答のうち、最も大きな理由を順に3つ選択していただいたところ、第1位の理由としては、「応募から助成金交付までの手続きを簡素化してほしい」が12.4%で最も多く、次いで「交付内定の時期を早めてほしい」、「美術分野独自の助成金制度を整えてほしい」が9.7%となっている。

また、「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい(8.8%)」や「ワークショップやシンポジウムなど、展示以外への事業も支援できる助成金制度を用意してほしい(8.0%)」も比較的多い回答であった。

単純集計



【クロス集計】

[団体種類]

・国公立文化施設、民間文化施設は「応募から助成金交付までの手続きを簡素化してほしい」を最も多く回答しているが、国公立大学、実行委員会、非営利団体は「交付内定の時期を早めてほしい」や「募集から交付内定までの期間を短くしてほしい」を比較的多く回答している。

[美術の創造普及活動の応募・採択状況]

・美術の創造普及活動に採択された団体で最も多い回答は「ワークショップやシンポジウムなど、展示以外の事業も支援できる助成金制度を用意してほしい」、「交付が決定した時点で助成金の一部前払いができる概算払いの制度を導入してほしい」であった。

[地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

・地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)に採択された団体で最も多い回答は「応募から助成金交付までの手続きを簡素化してほしい」であった。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q3-SQ3.芸術文化振興基金の助成金に関するご要望											
		応募から助成金交付までの手続きを簡素化してほしい	応募時の要望や添付書類を簡素化してほしい	内定通知後に出す助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金交付申請書を簡略化してほしい	インターネットやメールで申請ができるようにしてほしい	募集から交付内定までの期間を短くしてほしい	交付内定の時期を早めてほしい	事業実施の2～3年前に応募受付、交付内定をしてほしい	募集を年2回に増やしてほしい	口頭での説明やプレゼンテーションの機会を設けてほしい	不採択の理由を教えてください	美術分野独自の助成金制度を整えてほしい	作品の展示だけでなく制作活動も助成対象に含めてほしい
全体	117	54.7	47.0	57.3	25.6	33.3	34.2	6.8	24.8	2.6	28.2	33.3	26.5
Q14団体の種類													
国公立文化施設	81	49.4	46.9	55.6	21.0	25.9	37.0	4.9	24.7	1.2	30.9	28.4	19.8
民間文化施設	6	83.3	66.7	33.3	50.0	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3	33.3	16.7
国公立大学	3	0.0	0.0	66.7	33.3	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	66.7	66.7
実行委員会	11	72.7	45.5	63.6	27.3	54.5	36.4	18.2	27.3	9.1	27.3	45.5	54.5
非営利団体	6	83.3	66.7	83.3	66.7	66.7	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	33.3	33.3
その他	9	55.6	33.3	55.6	22.2	44.4	33.3	11.1	22.2	11.1	22.2	55.6	44.4
Q15団体・施設の設立年・開館年													
1969年以前	9	55.6	55.6	55.6	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	33.3	11.1	22.2
1970-1979年	10	60.0	50.0	50.0	40.0	10.0	30.0	10.0	30.0	0.0	30.0	20.0	0.0
1980-1989年	30	53.3	53.3	53.3	20.0	30.0	36.7	6.7	23.3	0.0	30.0	36.7	16.7
1990-1999年	30	60.0	50.0	70.0	20.0	46.7	40.0	6.7	16.7	0.0	26.7	20.0	26.7
2000-2009年	23	52.2	34.8	52.2	17.4	26.1	17.4	8.7	39.1	13.0	26.1	43.5	39.1
2010-2016年	6	66.7	66.7	50.0	50.0	33.3	66.7	0.0	16.7	0.0	50.0	50.0	50.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動													
その助成金制度のことは知らない	8	87.5	37.5	50.0	12.5	50.0	50.0	0.0	37.5	0.0	12.5	25.0	25.0
知っているが応募したことはない	86	50.0	47.7	57.0	24.4	26.7	32.6	7.0	22.1	1.2	33.7	30.2	20.9
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	66.7	66.7	33.3	0.0	66.7	66.7	33.3	66.7	0.0	66.7	100.0	100.0
応募して採択されたことがある	15	60.0	40.0	73.3	33.3	53.3	26.7	0.0	26.7	13.3	6.7	53.3	40.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)													
その助成金制度のことは知らない	1	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0
知っているが応募したことはない	11	72.7	54.5	72.7	36.4	72.7	36.4	0.0	18.2	18.2	18.2	63.6	45.5
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	28.6	42.9	42.9	28.6	14.3	14.3	42.9	85.7	0.0	14.3	42.9	71.4
応募して採択されたことがある	96	56.3	47.9	56.3	25.0	30.2	35.4	5.2	19.8	1.0	31.3	28.1	19.8
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数													
1-4	56	55.4	44.6	53.6	23.2	37.5	32.1	3.6	19.6	3.6	23.2	35.7	16.1
5-9	33	57.6	54.5	60.6	24.2	30.3	45.5	12.1	24.2	0.0	27.3	18.2	30.3
10-19	20	35.0	30.0	50.0	15.0	35.0	20.0	10.0	40.0	5.0	45.0	50.0	45.0
20以上	4	100.0	75.0	100.0	100.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	50.0	75.0

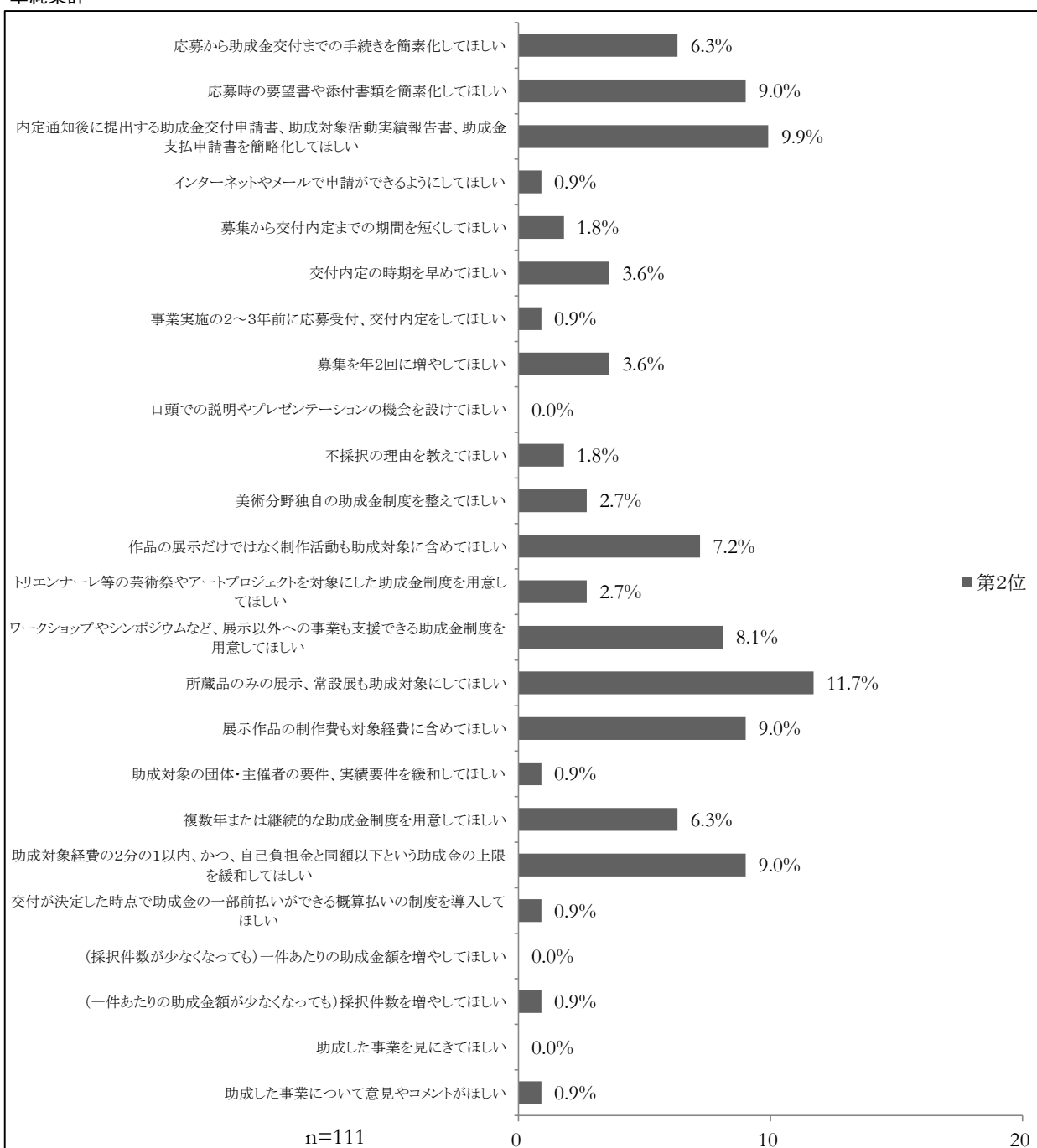
(単位：%)

	合計	(単位：%)											
		ワゴン等、芸術祭やアートプロジェクトを対象にした助成金制度を用いてほしい	ワークショップやシンポジウムなど、展示以外の事業も支援できる助成金制度を導入してほしい	所蔵品のみの展示、常設展も助成対象にしてほしい	展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい	助成対象の団体・主催者の要件、実績要件を緩和してほしい	複数年または継続的な助成金制度を用意してほしい	助成対象経費の2分以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい	交付が決定した時点で助成金の一部前払いの制度を導入してほしい	(採択件数が少なくなっても)一件あたりの助成金額を増やしてほしい	(一件あたりの助成金額が少なくなっても)採択件数を増やしてほしい	助成した事業を見直してほしい	助成した事業について意見やコメントがほしい
全体	117	14.5	57.3	43.6	40.2	15.4	29.9	41.9	17.1	6.0	17.9	10.3	10.3
Q14団体の種類													
国公立文化施設	81	9.9	58.0	50.6	33.3	12.3	28.4	39.5	9.9	4.9	17.3	8.6	8.6
民間文化施設	6	0.0	33.3	66.7	16.7	16.7	16.7	66.7	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0
国公立大学	3	33.3	100.0	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3
実行委員会	11	54.5	54.5	9.1	63.6	27.3	36.4	54.5	54.5	9.1	27.3	18.2	0.0
非営利団体	6	16.7	50.0	50.0	50.0	16.7	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3
その他	9	11.1	55.6	22.2	66.7	22.2	44.4	33.3	33.3	11.1	22.2	11.1	22.2
Q15団体・施設の設立年・開館年													
1969年以前	9	0.0	55.6	66.7	33.3	11.1	11.1	44.4	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3
1970-1979年	10	0.0	50.0	80.0	10.0	30.0	20.0	30.0	20.0	10.0	20.0	10.0	0.0
1980-1989年	30	6.7	60.0	46.7	33.3	16.7	30.0	46.7	3.3	3.3	16.7	6.7	6.7
1990-1999年	30	20.0	60.0	40.0	53.3	6.7	36.7	46.7	16.7	6.7	10.0	10.0	10.0
2000-2009年	23	17.4	52.2	39.1	39.1	21.7	21.7	34.8	17.4	4.3	17.4	8.7	13.0
2010-2016年	6	33.3	66.7	16.7	50.0	16.7	50.0	66.7	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動													
その助成金制度のことは知らない	8	0.0	37.5	37.5	37.5	12.5	12.5	62.5	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0
知っているが応募したことはない	86	9.3	57.0	51.2	37.2	14.0	32.6	39.5	12.8	5.8	20.9	7.0	9.3
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	66.7	100.0	33.3	66.7	66.7	33.3	100.0	33.3	0.0	100.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	15	46.7	60.0	13.3	60.0	20.0	26.7	40.0	40.0	13.3	0.0	26.7	26.7
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)													
その助成金制度のことは知らない	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	11	54.5	72.7	9.1	54.5	36.4	36.4	45.5	36.4	18.2	9.1	9.1	18.2
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	42.9	85.7	28.6	85.7	57.1	71.4	57.1	57.1	14.3	28.6	28.6	14.3
応募して採択されたことがある	96	8.3	54.2	50.0	35.4	10.4	27.1	39.6	11.5	4.2	17.7	9.4	9.4
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数													
1-4	56	14.3	58.9	48.2	30.4	21.4	17.9	41.1	19.6	5.4	16.1	8.9	7.1
5-9	33	12.1	60.6	42.4	45.5	12.1	33.3	45.5	15.2	0.0	21.2	12.1	9.1
10-19	20	15.0	40.0	30.0	55.0	10.0	50.0	30.0	15.0	10.0	20.0	15.0	20.0
20以上	4	25.0	100.0	25.0	75.0	0.0	50.0	75.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0

【単純集計】

Q3の回答のうち、第2位の理由としては、「所蔵品のみの展示、常設展も助成対象にしてほしい」が11.7%で最も多く、次いで「内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい」が9.9%、「応募時の要望書や添付書類を簡素化してほしい」、「展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい」、「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい」が9.0%となっている。

単純集計



【クロス集計】

〔団体種類〕

- ・国公立文化施設で最も多い回答は、「所蔵品のみの展示、常設展も助成対象にしてほしい」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は、「所蔵品のみの展示、常設展も助成対象にしてほしい」、「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい」などであった。
- ・実行委員会で最も多い回答は、「内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい」、「トリエンナーレ等の芸術祭やアートプロジェクトを対象にした助成金制度を用意してほしい」、「展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は、「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい」であった。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q3-SQ3-3.優先順位(第3位)												
		応募から助成金交付までの手続きを簡略化してほしい	応募時の要望書や添付書類を簡略化してほしい	内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい	インターネットやメールで申請ができるようにしてほしい	募集から交付内定までの期間を短くしてほしい	交付内定の時期を早めてほしい	事業実施の2～3年前に応募交付、交付内定をしてほしい	募集を年2回に増やしてほしい	口頭での説明やプレゼンテーションの機会を設けてほしい	不採択の理由を教えてほしい	美術分野独自の助成金制度を整えてほしい	作品の展示だけでなく制作活動も助成対象に含めてほしい	
Q14団体の種類	全体	110	3.6	4.5	12.7	1.8	3.6	4.5	0.9	0.9	0.0	0.9	1.8	2.7
	国公立文化施設	75	4.0	4.0	12.0	2.7	2.7	6.7	0.0	1.3	0.0	1.3	2.7	0.0
	民間文化施設	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	国公立大学	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実行委員会	10	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	非営利団体	6	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	9	0.0	11.1	33.3	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
Q15団体・施設の設定年・開館年	1969年以前	9	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1970-1979年	9	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1980-1989年	30	6.7	3.3	16.7	3.3	0.0	6.7	0.0	3.3	0.0	0.0	3.3	0.0
	1990-1999年	28	3.6	3.6	10.7	0.0	3.6	7.1	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0	3.6
	2000-2009年	20	0.0	5.0	10.0	0.0	5.0	5.0	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0	0.0
	2010-2016年	6	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	8	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	80	2.5	3.8	10.0	1.3	2.5	5.0	0.0	1.3	0.0	1.3	2.5	1.3
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	応募して採択されたことがある	15	6.7	6.7	26.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	11	9.1	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
	応募して採択されたことがある	89	3.4	4.5	12.4	2.2	3.4	5.6	1.1	1.1	0.0	1.1	2.2	1.1
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	51	3.9	3.9	9.8	2.0	5.9	3.9	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0
	5-9	33	3.0	6.1	15.2	3.0	3.0	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0	3.0	3.0
	10-19	18	5.6	5.6	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	11.1	0.0
	20以上	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

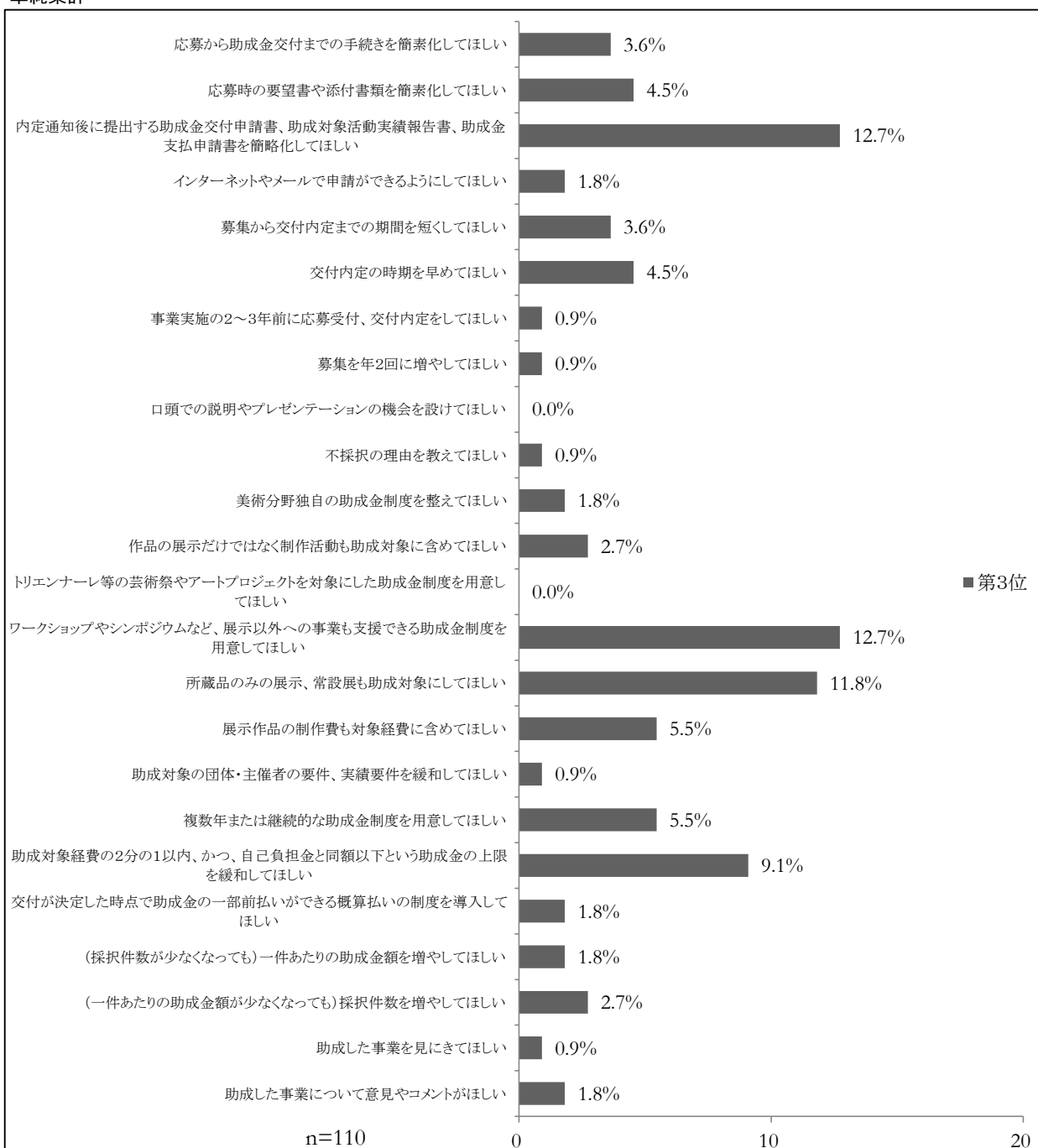
(単位：%)

	合計	トリエンナーレ等の芸術祭やアートプロジェクトを対象にした助成金制度を用意してほしい												
		ワークショップやシンポジウムなど、展示以外の事業も支援できる助成金制度を用意してほしい	所蔵品のみの展示、常設展も助成対象にしてほしい	展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい	助成対象の団体・主催者の要件、実績要件を緩和してほしい	複数年または継続的な助成金制度を用意してほしい	助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい	交付が決定した時点で助成金の一部前払いができる概算払いの制度を導入してほしい	(採択件数が少なくても)一件あたりの助成金額を増やしてほしい	(一件あたりの助成金額が少なくても)採択件数を増やしてほしい	助成した事業を見きてほしい	助成した事業について意見やコメントがほしい		
Q14団体の種類	全体	110	0.0	12.7	11.8	5.5	0.9	5.5	9.1	1.8	1.8	2.7	0.9	1.8
	国公立文化施設	75	0.0	17.3	14.7	4.0	0.0	6.7	5.3	2.7	1.3	2.7	0.0	1.3
	民間文化施設	6	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	国公立大学	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	実行委員会	10	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	非営利団体	6	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	その他	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設定年・開館年	1969年以前	9	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1
	1970-1979年	9	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1980-1989年	30	0.0	16.7	13.3	3.3	0.0	3.3	10.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0
	1990-1999年	28	0.0	10.7	7.1	7.1	0.0	7.1	10.7	3.6	3.6	3.6	0.0	3.6
	2000-2009年	20	0.0	15.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	5.0	5.0	0.0	0.0
	2010-2016年	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	8	0.0	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	80	0.0	13.8	13.8	6.3	0.0	7.5	7.5	2.5	2.5	3.8	1.3	2.5
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	15	0.0	6.7	0.0	6.7	6.7	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	11	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	89	0.0	14.6	14.6	4.5	0.0	5.6	5.6	2.2	1.1	3.4	1.1	2.2
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	51	0.0	9.8	17.6	5.9	2.0	5.9	7.8	2.0	2.0	3.9	0.0	3.9
	5-9	33	0.0	12.1	12.1	3.0	0.0	0.0	15.2	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10-19	18	0.0	16.7	0.0	11.1	0.0	5.6	5.6	0.0	5.6	5.6	5.6	0.0
	20以上	4	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【単純集計】

Q3の回答のうち、第3位の理由としては、「内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい」、「ワークショップやシンポジウムなど、展示以外への事業も支援できる助成金制度を用意してほしい」が12.7%で最も多く、次いで「所蔵品のみの展示、常設展も助成対象にしてほしい」が11.8%、「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい」が9.1%となっている。

単純集計



【クロス集計】

[団体種類]

- ・国公立文化施設で最も多い回答は、「ワークショップやシンポジウムなど、展示以外への事業も支援できる助成金制度を用意してほしい」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は、「所蔵品のみの展示、常設展も助成対象にしてほしい」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は、「内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい」、「助成対象の団体・主催者の要件、実績要件を緩和してほしい」、「助成した事業を見にきてほしい」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は、「助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は、「展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい」であった。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q3-SQ3-3.優先順位(第3位)											
		応募から助成金交付までの手続きを簡略化してほしい	応募時の要請書類を簡略化してほしい	内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい	インターネットやメールで申請ができるようにしてほしい	募集から交付内定までの期間を短くしてほしい	交付内定の時期を早めてほしい	事業実施の2～3年前に応募受付、交付内定をしてほしい	募集を年2回に増やしてほしい	口頭での説明やプレゼンテーションの機会を設けてほしい	不採択の理由を教えてください	美術分野独自の助成金制度を整えてほしい	作品の展示だけでなく制作活動も助成対象に含めてほしい
全体	110	3.6	4.5	12.7	1.8	3.6	4.5	0.9	0.9	0.0	0.9	1.8	2.7
Q14団体の種類													
国公立文化施設	75	4.0	4.0	12.0	2.7	2.7	6.7	0.0	1.3	0.0	1.3	2.7	0.0
民間文化施設	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
実行委員会	10	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
非営利団体	6	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	9	0.0	11.1	33.3	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
Q15団体・施設の設定年・開館年													
1969年以前	9	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1970-1979年	9	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1980-1989年	30	6.7	3.3	16.7	3.3	0.0	6.7	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	3.3
1990-1999年	28	3.6	3.6	10.7	0.0	3.6	7.1	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0	3.6
2000-2009年	20	0.0	5.0	10.0	0.0	5.0	5.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	5.0
2010-2016年	6	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動													
その助成金制度のことは知らない	8	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	80	2.5	3.8	10.0	1.3	2.5	5.0	0.0	1.3	0.0	1.3	2.5	1.3
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
応募して採択されたことがある	15	6.7	6.7	26.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)													
その助成金制度のことは知らない	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	11	9.1	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
応募して採択されたことがある	89	3.4	4.5	12.4	2.2	3.4	5.6	1.1	1.1	0.0	1.1	2.2	1.1
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数													
1-4	51	3.9	3.9	9.8	2.0	5.9	3.9	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0
5-9	33	3.0	6.1	15.2	3.0	3.0	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	3.0
10-19	18	5.6	5.6	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	11.1	0.0
20以上	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位：%)

	合計	トピエナール等の芸術祭やアートプロジェクトを対象にした助成金制度を用意してほしい											
		ワークショップやシンポジウムなど、展示以外への事業も支援できる助成金制度を用意してほしい	所蔵品のみの展示、常設展も助成対象にしてほしい	展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい	助成対象の団体・主催者の要件、実績要件を緩和してほしい	複数年または継続的な助成金制度を用意してほしい	助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい	交付が決定した時点で助成金の一部前払いができる額を拡大してほしい	(採択件数が少なくなっても)一件あたりの助成金額を増やしてほしい	(一件あたりの助成金額が少なくなっても)採択件数を増やしてほしい	助成した事業を見にきてほしい	助成した事業について意見やコメントがほしい	
全体	110	0.0	12.7	11.8	5.5	0.9	5.5	9.1	1.8	1.8	2.7	0.9	1.8
Q14団体の種類													
国公立文化施設	75	0.0	17.3	14.7	4.0	0.0	6.7	5.3	2.7	1.3	2.7	0.0	1.3
民間文化施設	6	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
実行委員会	10	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非営利団体	6	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
その他	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
Q15団体・施設の設定年・開館年													
1969年以前	9	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1
1970-1979年	9	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1980-1989年	30	0.0	16.7	13.3	3.3	0.0	3.3	10.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0
1990-1999年	28	0.0	10.7	7.1	7.1	0.0	7.1	10.7	3.6	3.6	3.6	0.0	3.6
2000-2009年	20	0.0	15.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	5.0	5.0	5.0	0.0	0.0
2010-2016年	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動													
その助成金制度のことは知らない	8	0.0	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	80	0.0	13.8	13.8	6.3	0.0	7.5	7.5	2.5	2.5	3.8	1.3	2.5
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	15	0.0	6.7	0.0	6.7	6.7	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)													
その助成金制度のことは知らない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	11	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	89	0.0	14.6	14.6	4.5	0.0	5.6	5.6	2.2	1.1	3.4	1.1	2.2
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数													
1-4	51	0.0	9.8	17.6	5.9	2.0	5.9	7.8	2.0	2.0	3.9	0.0	3.9
5-9	33	0.0	12.1	12.1	3.0	0.0	0.0	15.2	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10-19	18	0.0	16.7	0.0	11.1	0.0	5.6	5.6	0.0	5.6	5.6	5.6	0.0
20以上	4	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

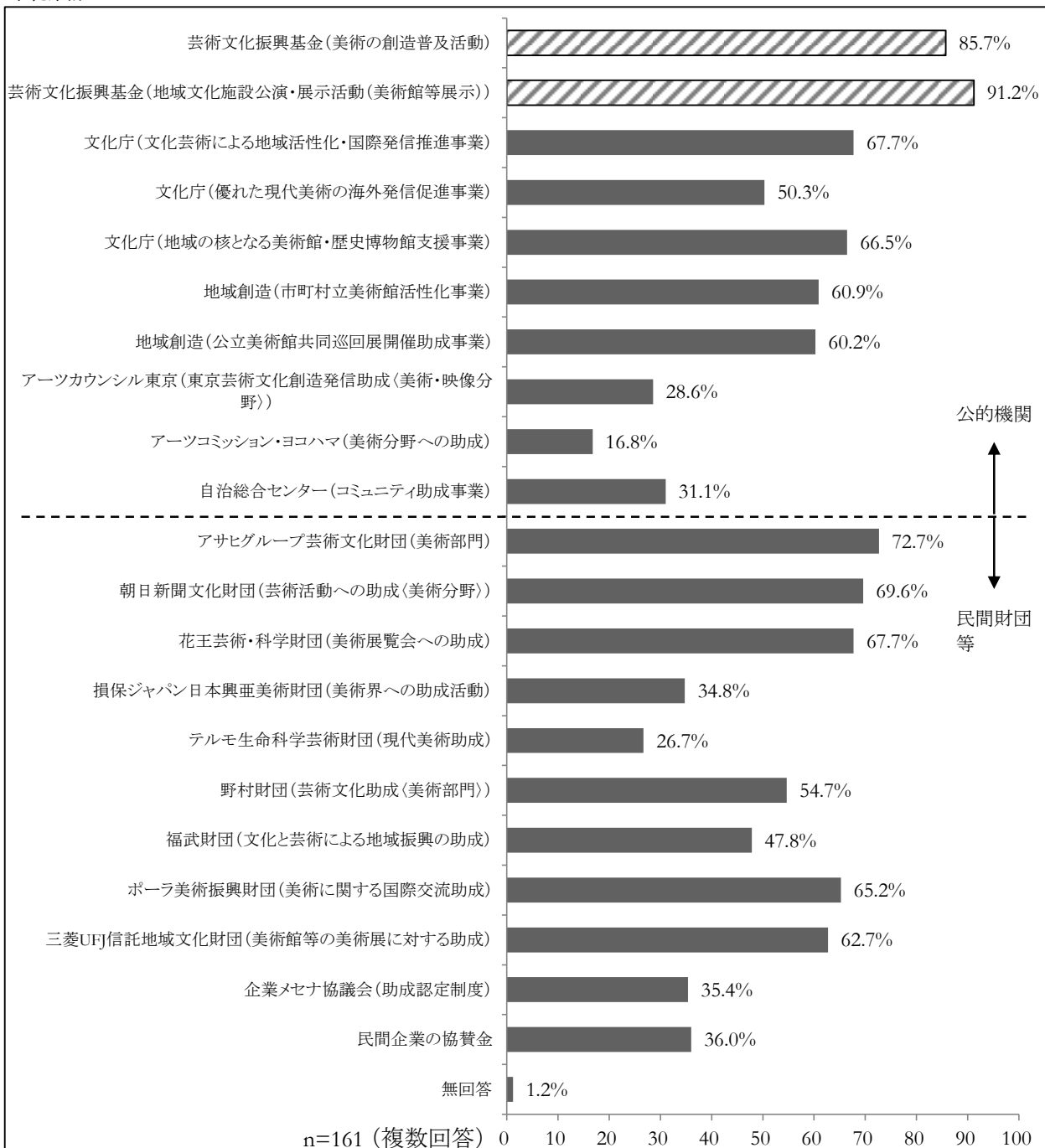
【単純集計】

公的機関及び民間財団等の助成金制度の認知度について尋ねたところ、「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」が72.7%で最も多く、次いで「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」が69.6%、「文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)」、「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」が67.7%となっている。

上記以外には、公的機関では、「文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)(66.5%)」、民間財団等では、「ポーラ美術振興財団(美術に関する国際交流助成)(65.2%)」、「三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)(62.7%)」などが比較的回答率の高い項目であった。

また、Q1の芸術文化振興基金の「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」への回答と比較した場合、芸術文化振興基金の助成制度の認知度の方が公的機関及び民間財団等の助成金制度の上位よりも高い。

単純集計



【クロス集計】

[団体の種類]

- ・国公立文化施設で最も多い回答は「文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)」であった。
- ・民間文化施設、実行委員会で最も多い回答は「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は「文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)」、「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は「文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)」であった。

[美術の創造普及活動、地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

- ・美術の創造普及活動や地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)のことを知らないと答えた団体は、民間財団等の助成金制度を知っていると回答した割合が比較的高いが、公的機関の助成金制度を知っていると回答した割合が比較的低い。

クロス集計

		(単位: %)										
		合計	Q5-SQ5-1.知っている助成金制度									
			文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)	文化庁(優れた現代美術の海外発信促進事業)	文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)	地域創造(市町村立美術館活性化事業)	地域創造(公立美術館共同巡回展開催助成事業)	アーツカウンシル東京(県芸術文化創造発信助成(美術映像分野))	アーツカウンシル東京(県芸術文化創造発信助成(美術分野への助成))	自治総合センター(コピニア助成事業)	アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)	朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))
全体		161	67.7	50.3	66.5	60.9	60.2	28.6	16.8	31.1	72.7	69.6
Q14団体の種類	国公立文化施設	93	61.3	47.3	83.9	73.1	79.6	24.7	11.8	33.3	63.4	61.3
	民間文化施設	10	60.0	40.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	70.0	60.0
	国公立大学	5	100.0	80.0	80.0	40.0	20.0	40.0	40.0	20.0	100.0	80.0
	実行委員会	25	64.0	32.0	24.0	24.0	12.0	16.0	12.0	24.0	88.0	84.0
	非営利団体	12	91.7	75.0	33.3	66.7	58.3	50.0	33.3	25.0	83.3	75.0
	その他	14	85.7	78.6	71.4	64.3	64.3	50.0	35.7	42.9	85.7	92.9
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	66.7	50.0	83.3	58.3	75.0	41.7	41.7	41.7	83.3	75.0
	1970-1979年	14	64.3	42.9	85.7	57.1	64.3	21.4	21.4	21.4	71.4	71.4
	1980-1989年	33	60.6	48.5	81.8	63.6	78.8	24.2	6.1	36.4	63.6	54.5
	1990-1999年	36	72.2	61.1	75.0	72.2	63.9	30.6	16.7	27.8	69.4	63.9
	2000-2009年	33	66.7	48.5	54.5	69.7	60.6	24.2	18.2	39.4	72.7	78.8
	2010-2016年	17	70.6	41.2	23.5	29.4	29.4	17.6	5.9	11.8	88.2	100.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	18	38.9	16.7	33.3	5.6	22.2	5.6	5.6	5.6	61.1	55.6
	知っているが応募したことはない	120	73.3	55.8	75.0	73.3	70.0	31.7	18.3	36.7	70.8	69.2
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	100.0	66.7
	応募して採択されたことがある	15	73.3	60.0	46.7	46.7	40.0	40.0	20.0	20.0	93.3	93.3
	その助成金制度のことは知らない	9	66.7	22.2	22.2	11.1	11.1	22.2	22.2	11.1	66.7	77.8
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	知っているが応募したことはない	44	75.0	56.8	52.3	47.7	43.2	38.6	20.5	22.7	81.8	84.1
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	71.4	57.1	57.1	71.4	42.9	42.9	28.6	42.9	85.7	71.4
	応募して採択されたことがある	96	63.5	47.9	80.2	69.8	75.0	22.9	11.5	34.4	66.7	60.4
	1-4	73	60.3	41.1	69.9	58.9	63.0	20.5	13.7	23.3	58.9	60.3
	5-9	47	72.3	51.1	61.7	53.2	53.2	27.7	10.6	31.9	76.6	70.2
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	10-19	25	80.0	68.0	68.0	84.0	68.0	48.0	28.0	56.0	100.0	88.0
	20以上	9	55.6	55.6	44.4	44.4	44.4	44.4	44.4	33.3	88.9	88.9

		(単位: %)										
		合計	花王芸術科学財団(美術展覧会への助成)	損保ジャパン日本興亜美術財団(美術界への助成活動)	テルモ生命科学芸術財団(現代美術助成)	野村財団(芸術文化助成(美術部門))	福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)	ホーア美術振興財団(美術に関する国際交流助成)	三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)	企業VETA協議会(助成認定制度)	民間企業の協賛金	
全体		161	67.7	34.8	26.7	54.7	47.8	65.2	62.7	35.4	36.0	
Q14団体の種類	国公立文化施設	93	68.8	36.6	24.7	50.5	40.9	66.7	69.9	23.7	23.7	
	民間文化施設	10	60.0	30.0	40.0	60.0	40.0	60.0	40.0	40.0	60.0	
	国公立大学	5	60.0	20.0	20.0	60.0	20.0	40.0	40.0	40.0	60.0	
	実行委員会	25	56.0	32.0	24.0	52.0	64.0	64.0	48.0	48.0	56.0	
	非営利団体	12	75.0	33.3	16.7	58.3	83.3	66.7	50.0	66.7	50.0	
	その他	14	78.6	42.9	35.7	71.4	50.0	85.7	78.6	64.3	50.0	
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	75.0	41.7	33.3	75.0	50.0	83.3	75.0	58.3	41.7	
	1970-1979年	14	64.3	42.9	42.9	50.0	50.0	64.3	64.3	28.6	28.6	
	1980-1989年	33	60.6	33.3	12.1	42.4	33.3	69.7	66.7	30.3	24.2	
	1990-1999年	36	72.2	30.6	30.6	52.8	36.1	52.8	58.3	25.0	36.1	
	2000-2009年	33	78.8	39.4	36.4	66.7	54.5	78.8	69.7	30.3	42.4	
	2010-2016年	17	64.7	29.4	23.5	64.7	70.6	52.9	52.9	47.1	58.8	
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	18	50.0	16.7	27.8	50.0	27.8	44.4	50.0	16.7	38.9	
	知っているが応募したことはない	120	69.2	37.5	26.7	53.3	50.8	67.5	65.0	34.2	33.3	
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	33.3	33.3	0.0	33.3	66.7	33.3	66.7	33.3	33.3	
	応募して採択されたことがある	15	86.7	46.7	40.0	86.7	53.3	86.7	60.0	80.0	60.0	
	その助成金制度のことは知らない	9	55.6	33.3	44.4	77.8	55.6	55.6	44.4	44.4	77.8	
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	知っているが応募したことはない	44	68.2	38.6	22.7	61.4	61.4	72.7	56.8	54.5	45.5	
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	71.4	42.9	42.9	42.9	71.4	57.1	57.1	28.6	42.9	
	応募して採択されたことがある	96	67.7	32.3	22.9	47.9	37.5	61.5	67.7	22.9	25.0	
	1-4	73	58.9	27.4	21.9	39.7	39.7	60.3	60.3	26.0	28.8	
	5-9	47	72.3	42.6	25.0	63.8	46.8	68.1	63.8	42.6	38.3	
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	10-19	25	88.0	36.0	32.0	68.0	68.0	68.0	68.0	52.0	48.0	
	20以上	9	77.8	55.6	44.4	88.9	66.7	77.8	77.8	44.4	66.7	

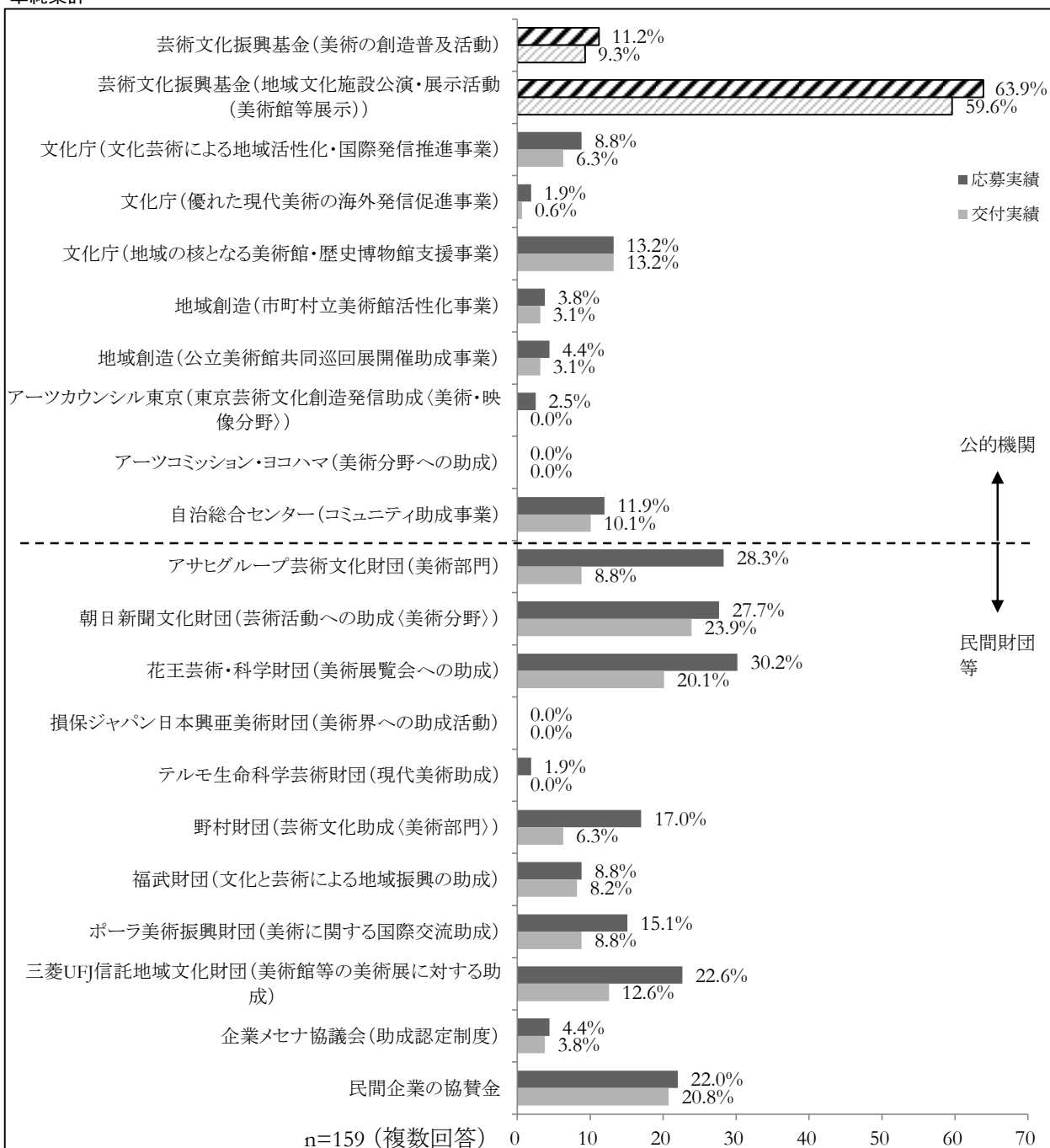
【単純集計】

公的機関及び民間財団等に対する2013-15年度の応募・交付実績について尋ねたところ、応募については、「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」が30.2%で最も多く、次いで「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」が28.3%、「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」が27.7%となっている。

交付については、「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」が23.9%で最も多く、次いで「民間企業の協賛金」が20.8%、「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」が20.1%となっている。

また、Q1の芸術文化振興基金の「美術の創造普及活動」、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」への回答と比較した場合、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」の応募や交付の割合は公的機関及び民間財団等の助成金制度の上位よりも高いが、「美術の創造普及活動」は他に比べて応募や交付の割合が低い。

単純集計



【クロス集計】

〔団体種類〕

- ・国公立文化施設で最も多い回答は、「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」、「三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)」であった。
- ・民間文化施設、国公立大学、実行委員会で比較的多い回答は、「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」や「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は、「福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)」であった。

〔設立年・開館年〕

- ・「文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)」への応募実績があると回答したのは、2000年以降に開館・設立した団体よりも、2000年以前に開館・設立した団体が多い。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q5-SQ5-2.2013-15年度の応募実績									
		文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)	文化庁(優れた現代美術の海外発信促進事業)	文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)	地域創造(市町村立美術館活性化事業)	地域創造(公立美術館共同巡回展開催助成事業)	アーツカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術・映像分野))	アーツカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術分野への助成))	自治総合センター(コミュニティ助成事業)	アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)	朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))
全体	159	8.8	1.9	13.2	3.8	4.4	2.5	0.0	11.9	28.3	27.7
Q14団体の種類											
国公立文化施設	92	6.5	1.1	17.4	4.3	6.5	0.0	0.0	14.1	13.0	16.3
民間文化施設	9	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
国公立大学	5	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0	40.0
実行委員会	25	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	52.0	56.0
非営利団体	12	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	41.7	41.7
その他	14	21.4	0.0	21.4	14.3	7.1	14.3	0.0	7.1	50.0	35.7
Q15団体・施設の設立年・開館年											
1969年以前	12	0.0	8.3	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	25.0	16.7
1970-1979年	13	7.7	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.8	30.8
1980-1989年	32	6.3	0.0	18.8	0.0	6.3	0.0	0.0	21.9	9.4	21.9
1990-1999年	36	2.8	2.8	22.2	13.9	5.6	2.8	0.0	16.7	19.4	16.7
2000-2009年	33	24.2	3.0	6.1	3.0	6.1	6.1	0.0	6.1	39.4	24.2
2010-2016年	17	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	58.8	64.7
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動											
その助成金制度のことは知らない	16	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
知っているが応募したことはない	120	9.2	2.5	14.2	5.0	5.8	0.8	0.0	13.3	24.2	24.2
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	100.0	66.7
応募して採択されたことがある	15	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	13.3	0.0	6.7	46.7	53.3
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)											
その助成金制度のことは知らない	9	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	55.6	44.4
知っているが応募したことはない	44	4.5	0.0	11.4	2.3	2.3	2.3	0.0	4.5	40.9	38.6
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	28.6
応募して採択されたことがある	94	7.4	2.1	16.0	5.3	6.4	1.1	0.0	18.1	18.1	18.1
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数											
1-4	71	7.0	0.0	8.5	0.0	2.8	1.4	0.0	8.5	14.1	15.5
5-9	47	6.4	0.0	17.0	8.5	6.4	4.3	0.0	8.5	25.5	31.9
10-19	25	16.0	12.0	24.0	8.0	8.0	4.0	0.0	28.0	64.0	52.0
20以上	9	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	66.7	44.4

(単位：%)

	合計	Q5-SQ5-2.2013-15年度の応募実績								
		花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)	損保ジャパン日本興亜美術財団(美術界への助成活動)	テルモ生命科学芸術財団(現代美術助成)	野村財団(芸術文化助成(美術部門))	福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)	ホーア美術振興財団(美術に関する国際交流助成)	三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)	企業メサ協議会(助成認定制度)	民間企業の協賛金
全体	159	30.2	0.0	1.9	17.0	8.8	15.1	22.6	4.4	22.0
Q14団体の種類										
国公立文化施設	92	26.1	0.0	1.1	9.8	0.0	14.1	26.1	0.0	16.3
民間文化施設	9	22.2	0.0	0.0	22.2	11.1	22.2	0.0	0.0	11.1
国公立大学	5	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0
実行委員会	25	40.0	0.0	8.0	24.0	24.0	24.0	12.0	16.0	36.0
非営利団体	12	25.0	0.0	0.0	33.3	50.0	8.3	16.7	8.3	25.0
その他	14	42.9	0.0	0.0	35.7	0.0	7.1	35.7	7.1	42.9
Q15団体・施設の設立年・開館年										
1969年以前	12	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	16.7	0.0	8.3
1970-1979年	13	46.2	0.0	0.0	7.7	0.0	23.1	7.7	7.7	15.4
1980-1989年	32	21.9	0.0	0.0	12.5	0.0	3.1	18.8	0.0	18.8
1990-1999年	36	33.3	0.0	0.0	11.1	2.8	11.1	27.8	2.8	22.2
2000-2009年	33	39.4	0.0	6.1	27.3	9.1	27.3	36.4	3.0	30.3
2010-2016年	17	23.5	0.0	5.9	29.4	29.4	11.8	11.8	11.8	23.5
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動										
その助成金制度のことは知らない	16	25.0	0.0	6.3	18.8	18.8	31.3	6.3	12.5	31.3
知っているが応募したことはない	120	27.5	0.0	1.7	13.3	7.5	10.8	23.3	2.5	17.5
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	66.7	33.3	33.3
応募して採択されたことがある	15	53.3	0.0	0.0	46.7	13.3	20.0	26.7	6.7	46.7
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)										
その助成金制度のことは知らない	9	33.3	0.0	11.1	44.4	33.3	44.4	22.2	33.3	55.6
知っているが応募したことはない	44	36.4	0.0	0.0	22.7	20.5	15.9	11.4	9.1	25.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	28.6	0.0	0.0	28.6	14.3	28.6	28.6	0.0	42.9
応募して採択されたことがある	94	28.7	0.0	1.1	9.6	0.0	11.7	27.7	0.0	16.0
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数										
1-4	71	16.9	0.0	1.4	2.8	2.8	4.2	16.9	1.4	12.7
5-9	47	36.2	0.0	2.1	21.3	10.6	14.9	23.4	4.3	23.4
10-19	25	56.0	0.0	4.0	32.0	20.0	24.0	40.0	4.0	40.0
20以上	9	33.3	0.0	0.0	66.7	22.2	77.8	33.3	33.3	55.6

【クロス集計】

〔団体種類〕

- ・国公立文化施設で最も多い交付実績は「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」であった。
- ・民間文化施設、実行委員会で最も多い交付実績は「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」であった。
- ・国公立大学で最も多い交付実績は「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」であった。
- ・非営利団体で最も多い交付実績は「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」、「福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)」であった。

クロス集計

		Q5-SQ5-3.2013-15年度の交付実績											(単位: %)
		合計	文化庁(文 化芸術による 地域活性化・国際発 信推進事 業)	文化庁(優 れた現代美 術の海外発 信促進事 業)	文化庁(地 域の核となる 美術館・歴 史博物館支 援事業)	地域創造 (市町村立 美術館活性 化事業)	地域創造 (公立美術 館共同巡回 展開催助成 事業)	アートカウ ンシル東京(東 京芸術文化創造 発信助成(美術・ 映像分野))	アーツコミ ッション・ココハ マ(美術分 野への助 成)	自治総合セ ンター(コミュ ニティ助成事 業)	アサヒグル ープ芸術文化 財団(美術 部門)	朝日新聞文 化財団(芸 術活動への 助成(美術 分野))	
全体		159	6.3	0.6	13.2	3.1	3.1	0.0	0.0	10.1	8.8	23.9	
Q14団体の種類	国公立文化施設	95	5.4	0.0	17.4	4.3	4.3	0.0	0.0	12.0	2.2	12.0	
	民間文化施設	9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	33.3	
	国公立大学	5	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	40.0	
	実行委員会	25	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	12.0	52.0	
	非営利団体	12	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	41.7	
	その他	14	14.3	0.0	21.4	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	28.6	
Q15団体・施設の設 立年・開館年	1969年以前	12	0.0	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	16.7	
	1970-1979年	13	7.7	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	23.1	
	1980-1989年	32	3.1	0.0	18.8	0.0	6.3	0.0	0.0	21.9	0.0	18.8	
	1990-1999年	36	2.8	0.0	22.2	11.1	5.6	0.0	0.0	11.1	2.8	13.9	
	2000-2009年	33	18.2	0.0	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0	6.1	12.1	18.2	
	2010-2016年	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.6	58.8	
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	16	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	21.4	
	知っているが応募したことはない	120	8.6	1.1	18.3	5.4	5.4	0.0	0.0	14.0	6.5	26.9	
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	66.7	
	応募して採択されたことがある	15	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	26.7	53.3	
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)	その助成金制度のことは知らない	9	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	37.5	
	知っているが応募したことはない	44	5.0	0.0	12.5	2.5	2.5	0.0	0.0	2.5	15.0	40.0	
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	
	応募して採択されたことがある	94	7.1	1.4	21.4	5.7	5.7	0.0	0.0	21.4	2.9	18.6	
Q6-SQ6-1.2013~ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数	1-4	71	10.2	0.0	12.2	0.0	2.0	0.0	0.0	10.2	10.2	22.4	
	5-9	47	4.7	0.0	18.6	9.3	7.0	0.0	0.0	9.3	4.7	25.6	
	10-19	25	8.0	4.0	24.0	4.0	4.0	0.0	0.0	24.0	20.0	44.0	
	20以上	9	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	44.4	

		合計	花王芸術・ 科学財団 (美術展覧 会への助 成)	損保ジャパン 日本興亜美 術財団(美 術界への助 成活動)	テルモ生命科 学芸術財団 (現代美術 助成)	野村財団 (芸術文化 助成(美術 部門))	福武財団 (文化と芸 術による地 域振興の助 成)	ポーラ美術振 興財団(美 術に関する国 際交流助成)	三菱UFJ信 託地域文化 財団(美術 館等の美術 展に対する助 成)	企業メセコ 協議会(助成 認定制度)	民間企業の 協賛金
全体		159	20.1	0.0	0.0	6.3	8.2	8.8	12.6	3.8	20.8
Q14団体の種類	国公立文化施設	95	22.8	0.0	0.0	3.3	0.0	10.9	16.3	0.0	14.1
	民間文化施設	9	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1
	国公立大学	5	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
	実行委員会	25	16.0	0.0	0.0	12.0	24.0	12.0	4.0	12.0	36.0
	非営利団体	12	16.7	0.0	0.0	8.3	41.7	0.0	0.0	8.3	25.0
	その他	14	21.4	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	28.6	7.1	42.9
Q15団体・施設の設 立年・開館年	1969年以前	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3
	1970-1979年	13	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7	7.7	15.4
	1980-1989年	32	18.8	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	12.5	0.0	15.6
	1990-1999年	36	27.8	0.0	0.0	5.6	2.8	2.8	19.4	2.8	22.2
	2000-2009年	33	27.3	0.0	0.0	9.1	9.1	21.2	21.2	3.0	27.3
	2010-2016年	17	5.9	0.0	0.0	17.6	23.5	0.0	0.0	5.9	23.5
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	16	18.8	0.0	0.0	6.3	18.8	31.3	0.0	12.5	31.3
	知っているが応募したことはない	120	20.8	0.0	0.0	4.2	6.7	5.8	15.0	1.7	16.7
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
	応募して採択されたことがある	15	26.7	0.0	0.0	20.0	13.3	6.7	6.7	6.7	40.0
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)	その助成金制度のことは知らない	9	11.1	0.0	0.0	22.2	33.3	33.3	0.0	33.3	55.6
	知っているが応募したことはない	44	18.2	0.0	0.0	9.1	18.2	6.8	6.8	6.8	25.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6
	応募して採択されたことがある	94	23.4	0.0	0.0	3.2	0.0	7.4	17.0	0.0	14.9
Q6-SQ6-1.2013~ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数	1-4	71	11.3	0.0	0.0	0.0	2.8	4.2	9.9	1.4	12.7
	5-9	47	14.9	0.0	0.0	12.8	8.5	4.3	10.6	2.1	19.1
	10-19	25	52.0	0.0	0.0	8.0	20.0	12.0	28.0	4.0	40.0
	20以上	9	22.2	0.0	0.0	11.1	22.2	55.6	11.1	33.3	55.6

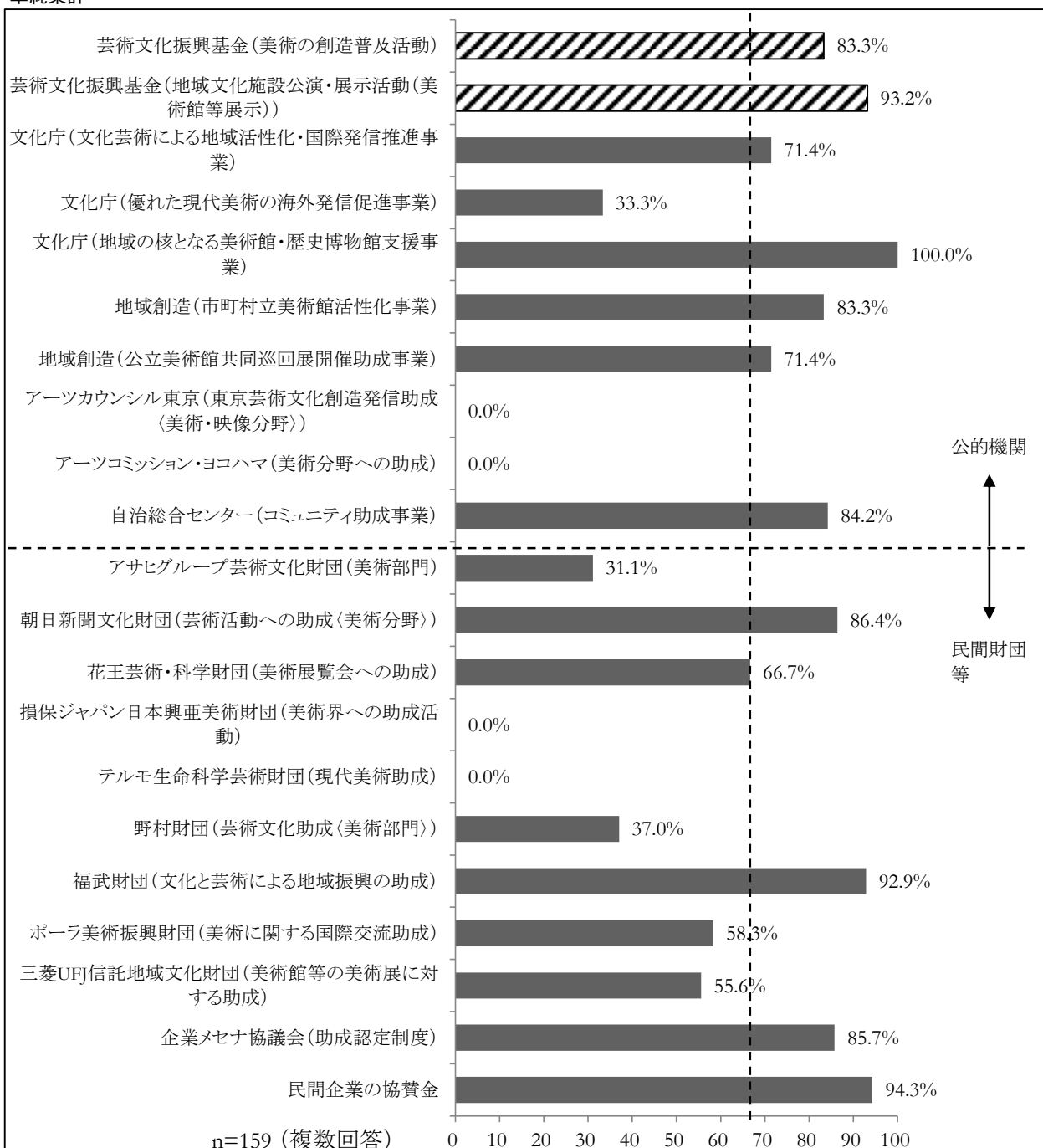
【単純集計】

公的機関及び民間財団等に対する2013-15年度の応募実績と交付実績から採択率を算出したところ、公的機関で、7割以上の採択率があった助成金制度は、「文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)」、「文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)」、「地域創造(市町村立美術館活性化事業)」、「地域創造(公立美術館共同巡回展開催助成事業)」、「自治総合センター(コミュニティ助成事業)」であった。

民間財団等で、7割以上の採択率があった助成金制度は、「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」、「福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)」、「企業メセナ協議会(助成認定制度)」、「民間企業の協賛金」であった。

なお、アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)は応募実績は非常に高いが、採択率は低い。

単純集計

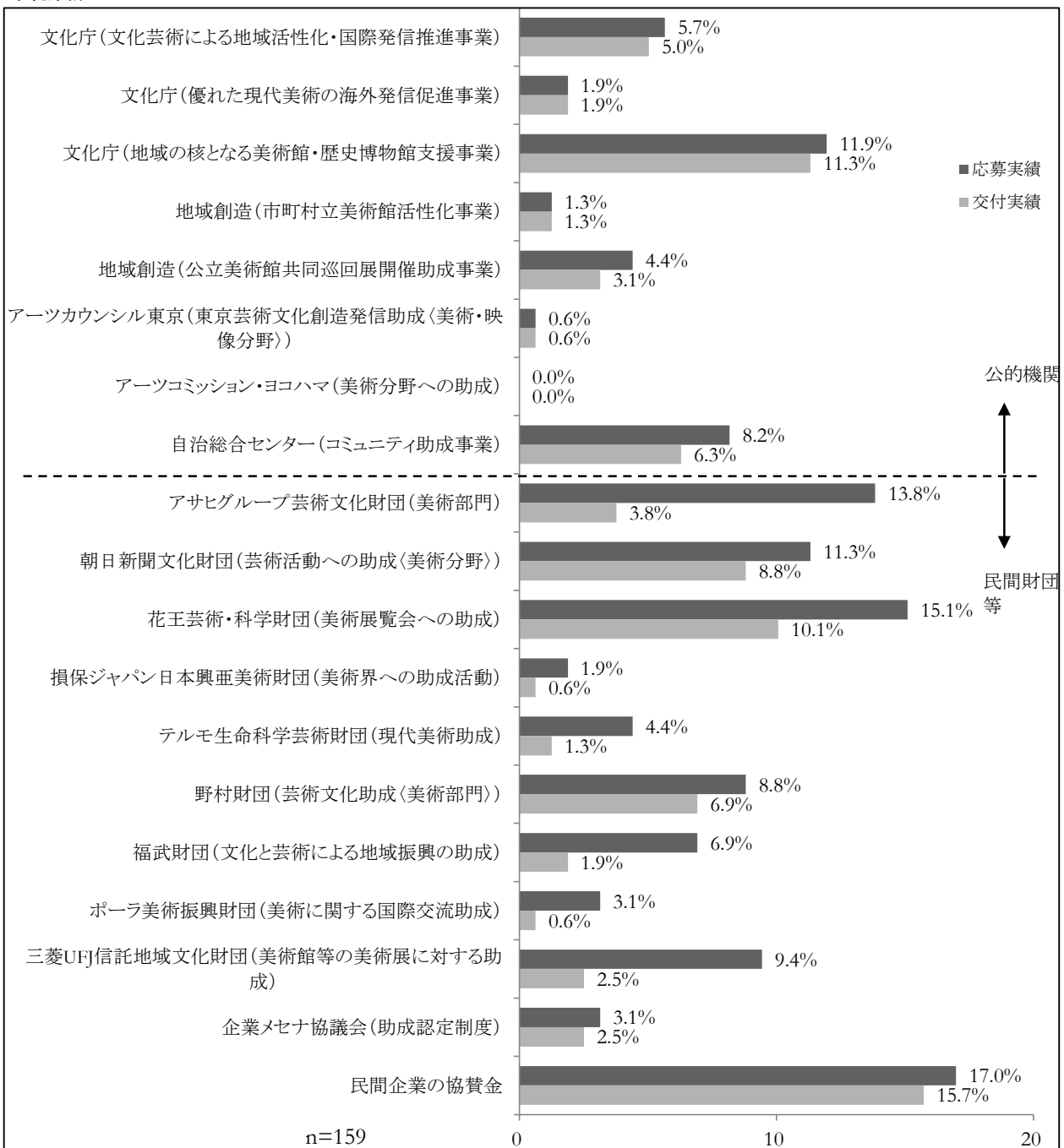


【単純集計】

公的機関及び民間財団等に対する2016年度の応募・交付実績について尋ねたところ、応募については、「民間企業の協賛金」が17.0%で最も多く、次いで「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」が15.1%、「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」が13.8%となっている。

交付については、「民間企業の協賛金」が15.7%で最も多く、次いで「文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)」が11.3%、「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」が10.1%となっている。

単純集計



【クロス集計】

〔団体種類〕

- ・国公立文化施設で最も多い回答は「文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」、「民間企業の協賛金」であった。
- ・国公立大学、非営利団体で最も多い回答は「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」であった。
- ・実行委員会が最も多い回答は「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」、「民間企業の協賛金」であった。

〔美術の創造普及活動、地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況〕

- ・美術の創造普及活動で採択された団体で最も多い回答は「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」で、地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)では「福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)」であった。

クロス集計

		Q5-SQ5-4.2016年度の応募実績											(単位: %)
		合計	文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)	文化庁(優れた現代美術の海外発信促進事業)	文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)	地域創造(市町村立美術館活性化事業)	地域創造(公立美術館共同巡回展開催助成事業)	アートカウンスル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術・映像分野))	アートミュージック・ココハマ(美術分野への助成)	自治総合センター(コミュニティ助成事業)	アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)	朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))	
全体		159	5.7	1.9	11.9	1.3	4.4	0.6	0.0	8.2	13.8	11.3	
Q14団体の種類	国公立文化施設	92	5.4	1.1	19.6	1.1	7.6	0.0	0.0	9.8	9.8	9.8	
	民間文化施設	9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	
	国公立大学	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0	
	実行委員会	25	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	24.0	
	非営利団体	12	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	33.3	16.7	
	その他	14	7.1	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	0.0	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7	8.3	
	1970-1979年	13	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	23.1	15.4		
	1980-1989年	32	3.1	3.1	21.9	0.0	9.4	0.0	0.0	18.8	15.6	12.5	
	1990-1999年	36	2.8	0.0	16.7	5.6	5.6	0.0	0.0	8.3	5.6	2.8	
	2000-2009年	33	15.2	3.0	6.1	0.0	3.0	3.0	0.0	6.1	15.2	9.1	
	2010-2016年	17	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.6	35.3	
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	16	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	
	知っているが応募したことはない	120	5.8	1.7	14.2	1.7	5.0	0.8	0.0	9.2	12.5	11.7	
	応募したことはあるが採択されたことはない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	
	応募して採択されたことがある	15	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	26.7	20.0	
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	知っているが応募したことはない	44	2.3	0.0	9.1	2.3	2.3	0.0	0.0	2.3	18.2	20.5	
	応募したことはあるが採択されたことはない	7	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	
	応募して採択されたことがある	94	5.3	2.1	16.0	1.1	5.3	0.0	0.0	12.8	13.8	9.6	
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	71	7.0	0.0	9.9	0.0	4.2	0.0	0.0	1.4	9.9	5.6	
	5-9	47	2.1	4.3	14.9	4.3	8.5	2.1	0.0	10.6	8.5	12.8	
	10-19	25	8.0	4.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.0	40.0	16.0	
	20以上	9	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	33.3	

(単位: %)

		合計	花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)	損保ジャパン日本興亜美術財団(美術界への助成活動)	テルモ生命科学芸術財団(現代美術助成)	野村財団(芸術文化助成(美術部門))	福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)	ポーラ美術振興財団(美術に関する国際交流助成)	三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)	企業メセナ協議会(助成認定制度)	民間企業の協賛金
全体		159	15.1	1.9	4.4	8.8	6.9	3.1	9.4	3.1	17.0
Q14団体の種類	国公立文化施設	92	12.0	1.1	3.3	7.6	2.2	3.3	7.6	1.1	9.8
	民間文化施設	9	33.3	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	33.3
	国公立大学	5	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	実行委員会	25	16.0	4.0	4.0	12.0	16.0	4.0	8.0	12.0	24.0
	非営利団体	12	8.3	0.0	8.3	8.3	25.0	0.0	16.7	8.3	25.0
	その他	14	21.4	0.0	14.3	7.1	0.0	7.1	14.3	0.0	28.6
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	25.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
	1970-1979年	13	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	23.1	7.7	0.0	15.4
	1980-1989年	32	21.9	0.0	0.0	9.4	0.0	0.0	9.4	0.0	15.6
	1990-1999年	36	8.3	5.6	11.1	11.1	2.8	2.8	2.8	2.8	16.7
	2000-2009年	33	15.2	3.0	6.1	9.1	12.1	3.0	9.1	6.1	21.2
	2010-2016年	17	11.8	0.0	0.0	17.6	17.6	0.0	17.6	11.8	17.6
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	16	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	18.8
	知っているが応募したことはない	120	18.3	2.5	5.0	10.0	7.5	4.2	10.8	2.5	17.5
	応募したことはあるが採択されたことはない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	15	13.3	0.0	6.7	13.3	0.0	0.0	6.7	6.7	20.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	33.3
	知っているが応募したことはない	44	15.9	2.3	2.3	11.4	11.4	4.5	6.8	4.5	20.5
	応募したことはあるが採択されたことはない	7	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3
	応募して採択されたことがある	94	17.0	1.1	5.3	9.6	2.1	3.2	11.7	0.0	12.8
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	71	9.9	0.0	0.0	4.2	1.4	0.0	5.6	1.4	11.3
	5-9	47	12.8	2.1	4.3	10.6	2.1	0.0	12.8	6.4	14.9
	10-19	25	32.0	4.0	12.0	12.0	32.0	4.0	16.0	0.0	32.0
	20以上	9	22.2	11.1	22.2	33.3	11.1	33.3	11.1	11.1	44.4

【クロス集計】

〔団体種類〕

- ・国公立文化施設で最も多い交付実績は「文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)」であった。
- ・民間文化施設で最も多い交付実績は「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」、「民間企業の協賛金」であった。
- ・国公立大学で最も多い交付実績は「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」、「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」、「民間企業の協賛金」であった。
- ・実行委員会で最も多い交付実績は「民間企業の協賛金」であった。
- ・非営利団体で最も多い交付実績は「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」、「民間企業の協賛金」であった。

クロス集計

		Q5-SQ5-5.2016年度の交付実績										
		合計	文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)	文化庁(優れた現代美術の海外発信促進事業)	文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)	地域創造(市町村立美術館活性化事業)	地域創造(公立美術館共同巡回展開催助成事業)	アーツカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術・映像分野への助成))	アーツカウンシル東京(アート・コホマ(美術分野への助成))	自治総合センター(コミュニティ助成事業)	アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)	朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))
全体		159	5.0	1.9	11.3	1.3	3.1	0.6	0.0	6.3	3.8	8.8
Q14団体の種類	国公立文化施設	92	4.3	1.1	18.5	1.1	5.4	0.0	0.0	8.7	0.0	6.5
	民間文化施設	9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	国公立大学	8	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0
	実行委員会	25	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	20.0
	非営利団体	12	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	25.0	16.7
	その他	14	7.1	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3
	1970-1979年	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4
	1980-1989年	32	3.1	3.1	21.9	0.0	9.4	0.0	0.0	15.6	0.0	3.1
	1990-1999年	36	2.8	0.0	16.7	5.6	5.6	0.0	0.0	5.6	5.6	2.8
	2000-2009年	33	15.2	3.0	6.1	0.0	0.0	3.0	0.0	3.0	0.0	9.1
	2010-2016年	17	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	29.4
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	16	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	120	5.0	1.7	13.3	1.7	3.3	0.8	0.0	6.7	3.3	8.3
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	応募して採択されたことがある	15	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	13.3	20.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知っているが応募したことはない	44	2.3	0.0	9.1	2.3	0.0	0.0	2.3	11.4	18.2	18.2
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	94	5.3	2.1	14.9	1.1	5.3	0.0	0.0	9.6	1.1	6.4
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	71	5.6	0.0	9.9	0.0	1.4	0.0	0.0	1.4	2.8	4.2
	5-9	47	2.1	4.3	12.8	4.3	8.5	2.1	0.0	6.4	2.1	10.6
	10-19	25	8.0	4.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	8.0	8.0
	20以上	9	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	33.3

		合計	花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)	損保ジャパン日本興亜美術財団(美術界への助成活動)	テルモ生命科学芸術財団(現代美術助成)	野村財団(芸術文化助成(美術部門))	福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)	ポラ美術振興財団(美術に関する国際交流助成)	三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)	企業メナ協賛金(助成認定制度)	民間企業の協賛金
全体		159	10.1	0.6	1.3	6.9	1.9	0.6	2.5	2.5	15.7
Q14団体の種類	国公立文化施設	92	8.7	1.1	1.1	6.5	0.0	1.1	2.2	1.1	7.6
	民間文化施設	9	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	33.3
	国公立大学	8	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	実行委員会	25	8.0	0.0	4.0	12.0	4.0	0.0	4.0	8.0	24.0
	非営利団体	12	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7	0.0	0.0	8.3	25.0
	その他	14	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7
	1970-1979年	13	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4
	1980-1989年	32	15.6	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	6.3	0.0	12.5
	1990-1999年	36	5.6	2.8	2.8	11.1	0.0	0.0	0.0	2.8	16.7
	2000-2009年	33	9.1	0.0	3.0	9.1	0.0	3.0	0.0	6.1	18.2
	2010-2016年	17	5.9	0.0	0.0	17.6	5.9	0.0	5.9	5.9	17.6
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	18.8
	知っているが応募したことはない	120	11.7	0.8	1.7	7.5	2.5	0.8	3.3	1.7	15.8
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	応募して採択されたことがある	15	13.3	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	6.7	20.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	33.3
	知っているが応募したことはない	44	11.4	0.0	2.3	11.4	6.8	0.0	2.3	2.3	20.5
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	応募して採択されたことがある	94	11.7	1.1	1.1	6.4	0.0	1.1	3.2	0.0	10.6
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	71	9.9	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	2.8	1.4	11.3
	5-9	47	6.4	2.1	0.0	8.5	2.1	0.0	4.3	4.3	14.9
	10-19	25	16.0	0.0	0.0	8.0	8.0	0.0	0.0	0.0	24.0
	20以上	9	11.1	0.0	22.2	33.3	0.0	11.1	0.0	11.1	44.4

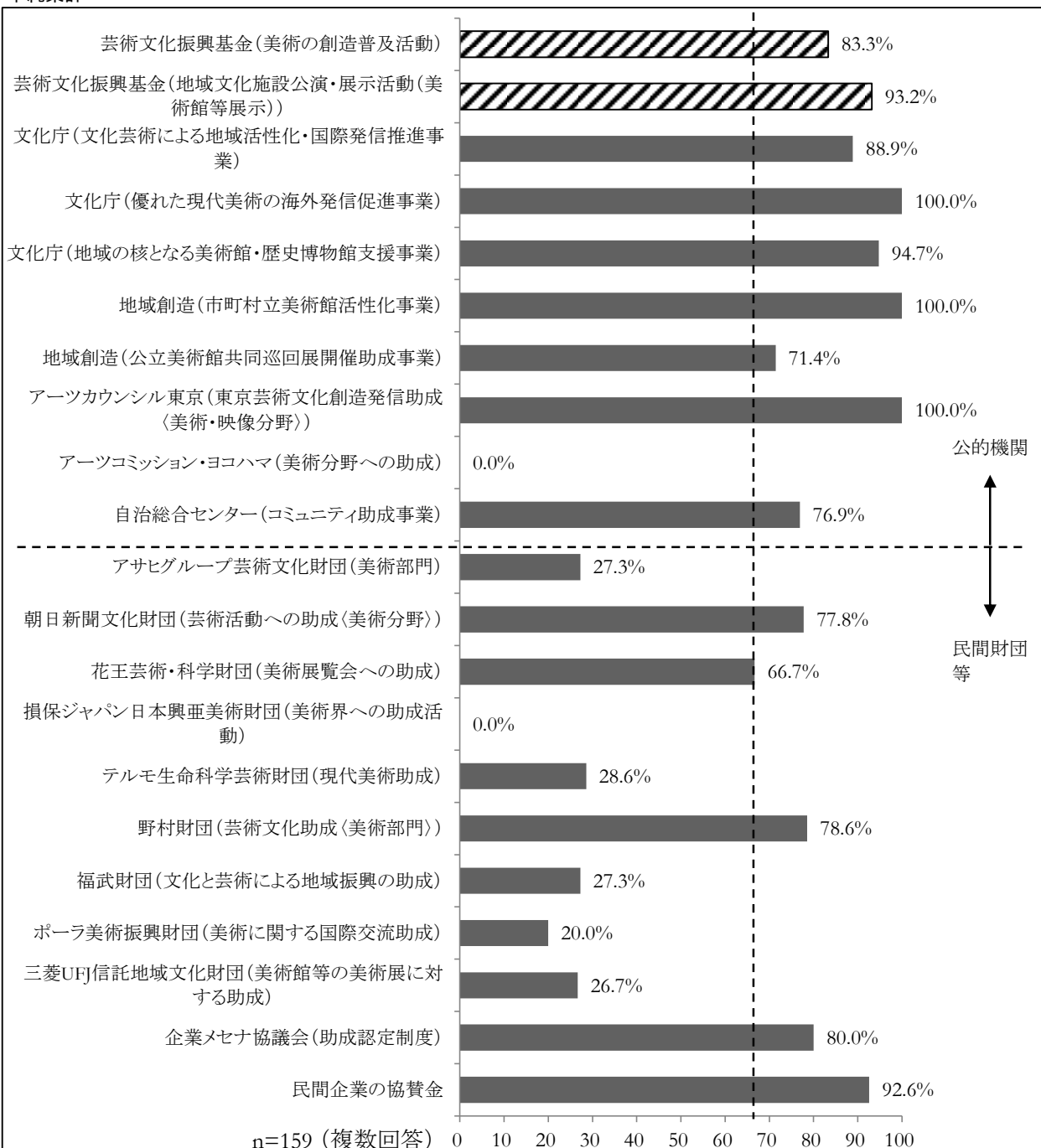
【単純集計】

公的機関及び民間財団等に対する2013-15年度の応募実績と交付実績から採択率を算出したところ、公的機関で、7割以上の採択率があった助成金制度は、アーツコミッション・ヨコハマ(美術分野への助成)を除く全ての助成金制度であった。

民間財団等で、7割以上の採択率があった助成金制度は、「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」、「野村財団(芸術文化助成(美術部門))」、「企業メセナ協議会(助成認定制度)」、「民間企業の協賛金」であった。

なお、アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)は応募実績は非常に高いが、採択率は低い。

単純集計



【自由記述】

「(11) 公的機関及び民間財団等の助成金制度の認知度(SQ5-1)」に掲載した助成金制度以外に、これまでに応募したり、採択された助成金制度を尋ねたところ、以下のような回答があった。

① 公的機関

総務省:オープンリノベーション 2015年度

文化庁:AIR活動支援を通じた国際文化交流促進事業

文化庁:次代の文化を創造する新進芸術家育成事業

文化庁:重要文化財公開促進事業

文化庁:大学を活用した文化芸術推進事業

文化庁:地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業 【2件】

文化庁:地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ 【2件】

文化庁:文化遺産活用事業

文化庁:文化芸術の海外発信拠点形成事業 【2件】

国際交流基金:アジア・市民交流助成

国際交流基金:国内展助成プログラム

国際交流基金:知的交流会議助成プログラム

国際交流基金:日本文化紹介助成

国際交流基金:文化芸術交流 【2件】

地域創造:地域の文化・芸術活動助成 【6件】

国立青少年教育振興機構:子どもゆめ基金 【6件】

日本学術振興会:科学研究費助成金 【2件】

静岡県:東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムモデル事業

千代田区:文化事業助成

徳島県

浜松市:みんなの浜松創造プロジェクト

兵庫県:ふるさと文化の伝承・発信サポート事業

福島県:福島県森林環境交付金

港区:港区政70周年記念事業「港区文化プログラム連携事業」

港区:文化芸術活動サポート事業助成・文化プログラム連携事業

青森市文化スポーツ振興公社:アートで音楽のあるまち青森 文化芸術創造活動助成事業

置県百年記念香川県文化芸術振興財団:文化芸術振興活動助成金 【2件】

長崎県文化団体協議会

福岡文化財団:助成事業 【2件】

福島県文化振興財団:福島県文化振興財団助成金

北海道文化財団:まちの文化創造事業

② 民間企業・財団等

阿波銀行

安藤忠雄文化財団

石橋財団:寄付助成事業

エネルギー文化・スポーツ財団:芸術文化の展示・公演活動への助成 【10件】

岡田文化財団:美術分野への助成 【3件】

金子財団:文化および芸術の振興に関する事業への助成(佐賀県内対象)

カメイ社会教育振興財団 【3件】

韓国国際交流財団

関西・大阪21世紀協会:日本万国博覧会記念基金助成金 【5件】

京都市立芸術大学サイレントアクア実行委員会:サイレントアクア2016義援金

グレートブリテン・ササカワ財団:芸術・文化 【4件】

五島記念文化財団:五島記念文化賞

サービスグラント(プロボノ):事業提案支援

笹川日仏財団

JT:JT NPO助成

資生堂:芸術文化支援【6件】
松翁記念財団:国際交流助成金
住友財団:文化財維持・修復事業助成【3件】
セゾン文化財団:国際プロジェクト支援
瀬戸信用金庫:せとしん地域振興協力基金
全国税理士共栄会文化財団【3件】
大和日英基金【2件】
タカシマヤ文化基金:団体助成【10件】
ツネイシみらい財団:イベント支援・運営支援
DNP文化振興財団:グラフィック文化に関する学術研究助成
テラ・アメリカ美術基金:Exhibition Grants
テルモ株式会社:アーツアンドクラフツ助成金
東京倶楽部:東京倶楽部文化活動助成金
東京藝術大学:芸大フレンズ賛助金
トヨタ財団:国内助成プログラム
中内カコンベンション振興財団
日韓文化交流基金:人物交流助成
日韓文化交流基金:日韓共同制作事業助成金
ニッシャ印刷文化振興財団:特別助成金
日本財団:「海と船の企画展」支援事業【3件】
日本財団:助成事業
日本財団:平成28年度 熊本地震災害に関わる支援活動助成
野村財団
ハウジングコミュニティ財団:住まいとコミュニティづくり活動助成【2件】
バンクオブアメリカメリルリンチ:文化財保護プロジェクト
美術館連絡協議会:海外研修派遣
美術館連絡協議会:美術館活動助成【7件】
ファイザー
フィリップモリスジャパン:市民活動～住民活動助成「生きる場としてのコミュニティー」
仏教美術教会:研究等助成金
船の科学館:海の学び ミュージアムサポート
文化財保護・芸術研究助成財団【2件】
ポーラ美術振興財団:美術館職員の調査研究助成【2件】
北海道国際交流・協力総合センター:国際交流助成
マルセンスポーツ・文化振興財団:文化活動助成
みちのくふるさと貢献基金:地域振興助成事業
みなと銀行文化振興財団
みなとの博物館ネットワーク・フォーラム:みなとの博物館ネットワーク・フォーラム助成制度
みらい芸術文化基金
むつ小川原地域・産業振興財団:むつ小川原地域・産業振興プロジェクト支援助成
吉野石膏美術振興財団:美術に関する国際交流の助成【3件】
六甲アイランド基金
YS市庭コミュニティー財団:コミュニティー振興及びまちづくりに関する事業
YS市庭コミュニティ財団:社会教育及び文化・スポーツに関する事業

③ 海外政府機関等

ifa(ドイツ対外文化研究所)
駐日アメリカ合衆国大使館:Federal Assistant Award
フランス大使館

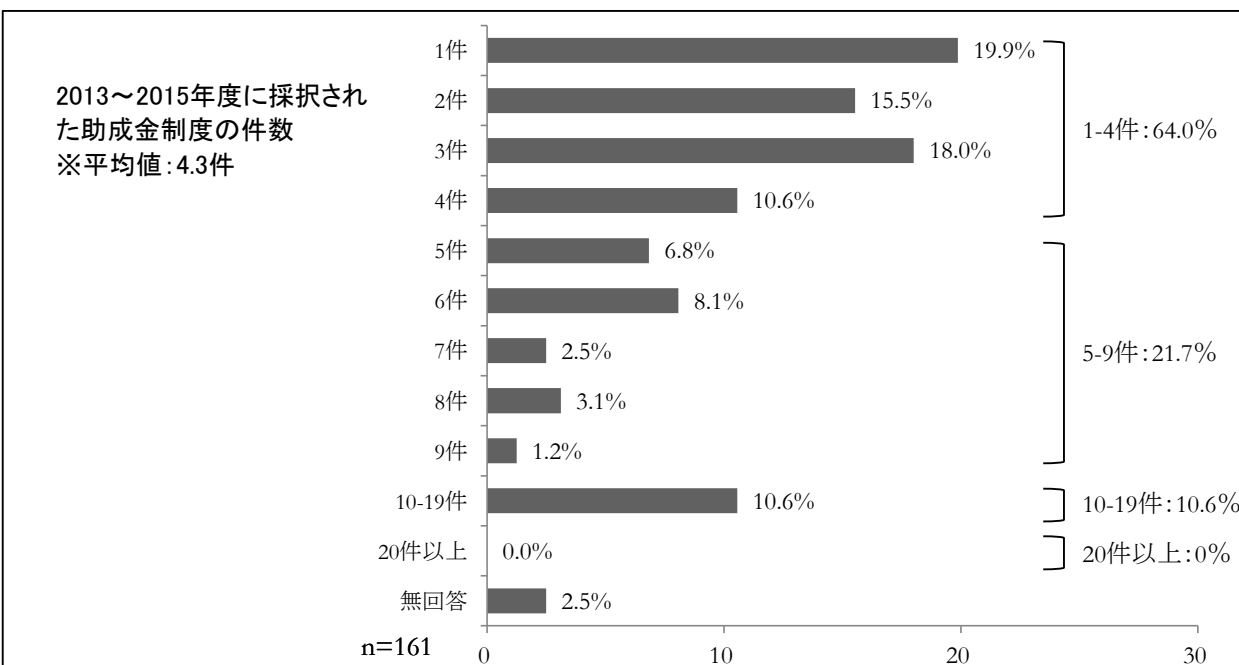
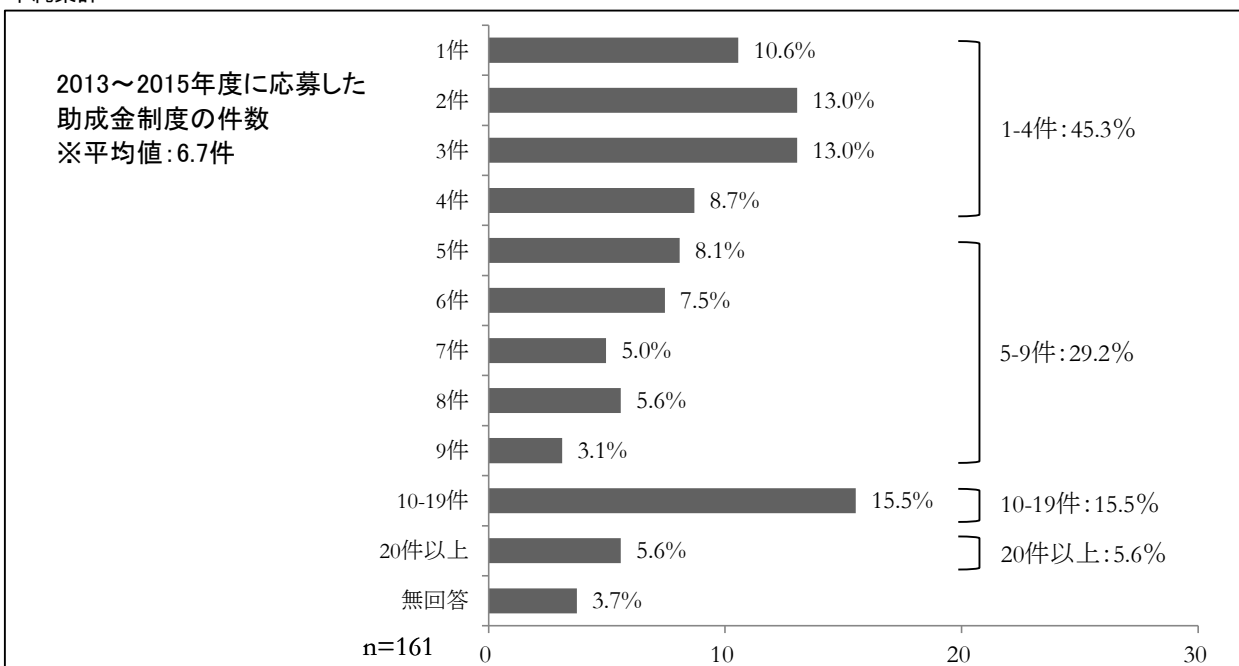
【単純集計】

2013～2015年度に応募した助成金制度の件数と採択された助成金制度の件数について尋ねたところ、応募した助成金制度の件数の最大値は48件、最小値は0件、平均値は6.7件で、採択された助成金制度の件数の最大値は19件、最小値は0件、平均値は4.3件であった。

応募件数では、「10-19件」が15.5%で最も多く、次いで「2件」、「3件」が13.0%となっているが、以下のグラフ（右）のようなグループに区分したところ、「1-4件」が45.3%で最も多く、「5-9件」が29.2%、「10-19件」が15.5%であった。

また、採択件数では、「1件」が19.9%で最も多く、次いで「3件」が18.0%、「2件」が15.5%となっているが、以下のグラフ（右）のグループに区分したところ、「1-4件」が64.0%で最も多く、「5-9件」が21.7%、「10-19件」が10.6%であった。

単純集計



【クロス集計】

[団体種類(応募件数)]

- ・国公立文化施設、国公立大学で応募件数に関して最も多い回答は「1-4件」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は「1-4件」、「5-9件」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は「5-9件」で、非営利団体では「10-19件」であった。

[団体種類(採択件数)]

- ・全ての団体で最も多い回答は「1-4件」で、その次に多い回答は非営利団体を除いて「5-9件」で、非営利団体は「10-19件」であった。

[応募件数]

- ・「5-9件」の応募件数の団体の採択数の半数は「1-4件」で、「10-19件」の応募件数の団体の採択数の半数は「5-9件」であった。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数				
		1-4	5-9	10-19	20以上	無回答
全体	161	45.3	29.2	15.5	5.6	4.3
Q14団体の種類						
国公立文化施設	93	57.0	23.7	11.8	3.2	4.3
民間文化施設	10	30.0	30.0	20.0	0.0	20.0
国公立大学	5	60.0	0.0	40.0	0.0	0.0
実行委員会	25	32.0	48.0	8.0	12.0	0.0
非営利団体	12	25.0	25.0	33.3	16.7	0.0
その他	14	21.4	42.9	21.4	7.1	7.1
Q15団体・施設の設 立年・開館年						
1969年以前	12	50.0	25.0	8.3	16.7	0.0
1970-1979年	14	57.1	14.3	7.1	7.1	14.3
1980-1989年	33	51.5	30.3	15.2	0.0	3.0
1990-1999年	36	47.2	30.6	13.9	2.8	5.6
2000-2009年	33	45.5	24.2	21.2	6.1	3.0
2010-2016年	17	23.5	58.8	5.9	11.8	0.0
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動						
その助成金制度のことは知らない	18	55.6	16.7	5.6	16.7	5.6
知っているが応募したことはない	120	44.2	29.2	18.3	3.3	5.0
応募したことがあるが採択されたことはない	3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	15	46.7	40.0	0.0	13.3	0.0
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)						
その助成金制度のことは知らない	9	22.2	22.2	22.2	22.2	11.1
知っているが応募したことはない	44	45.5	31.8	6.8	11.4	4.5
応募したことがあるが採択されたことはない	7	28.6	28.6	42.9	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	96	49.0	28.1	16.7	2.1	4.2
Q6-SQ6-1.2013～ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数						
1-4	73	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5-9	47	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
10-19	25	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
20以上	9	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

(単位：%)

	合計	Q6-SQ6-1.そのうち採択されて助成金が交付された助成金制度の件				
		1-4	5-9	10-19	20以上	無回答
全体	161	64.0	21.7	10.6	0.0	3.7
Q14団体の種類						
国公立文化施設	93	66.7	20.4	8.6	0.0	4.3
民間文化施設	10	60.0	30.0	0.0	0.0	10.0
国公立大学	5	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0
実行委員会	25	68.0	20.0	12.0	0.0	0.0
非営利団体	12	58.3	8.3	33.3	0.0	0.0
その他	14	50.0	35.7	7.1	0.0	7.1
Q15団体・施設の設 立年・開館年						
1969年以前	12	58.3	8.3	25.0	0.0	8.3
1970-1979年	14	71.4	7.1	14.3	0.0	7.1
1980-1989年	33	63.6	30.3	3.0	0.0	3.0
1990-1999年	36	58.3	27.8	11.1	0.0	2.8
2000-2009年	33	66.7	21.2	9.1	0.0	3.0
2010-2016年	17	70.6	23.5	5.9	0.0	0.0
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動						
その助成金制度のことは知らない	18	61.1	16.7	16.7	0.0	5.6
知っているが応募したことはない	120	63.3	22.5	10.0	0.0	4.2
応募したことがあるが採択されたことはない	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	15	60.0	26.7	13.3	0.0	0.0
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)						
その助成金制度のことは知らない	9	33.3	33.3	22.2	0.0	11.1
知っているが応募したことはない	44	68.2	11.4	15.9	0.0	4.5
応募したことがあるが採択されたことはない	7	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	96	64.6	24.0	8.3	0.0	3.1
Q6-SQ6-1.2013～ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数						
1-4	73	98.6	0.0	0.0	0.0	1.4
5-9	47	57.4	42.6	0.0	0.0	0.0
10-19	25	16.0	52.0	32.0	0.0	0.0
20以上	9	0.0	11.1	88.9	0.0	0.0

【単純集計】

2013～2015年度に応募した助成金制度の件数と採択された助成金制度の件数から採択率を算出したところ(無回答を除く)、「100%」が37.7%で最も多く、次いで「40%以上60%未満」と「60%以上80%未満」が20.1%、「20%以上40%未満」が11.7%となっている。

なお、採択率が60%以上の団体は全体の66.9%であった。

【クロス集計】**[団体種類]**

- ・国公立文化施設の約5割、国公立大学の6割以上が「100%」と回答している。
- ・民間文化施設で最も回答が多かったのは「20%以上40%未満」、「60%以上80%未満」、「100%」であった。
- ・実行委員会で最も回答が多かったのは「60%以上80%未満」、「100%」であった。
- ・非営利団体で最も回答が多かったのは「40%以上60%未満」であった。

[美術の創造普及活動の応募・採択状況]

・美術の創造普及活動に応募したことがあるが採択されることがない団体の採択率は60%未満であるが、採択されることがある団体の採択率は60%以上が多い。

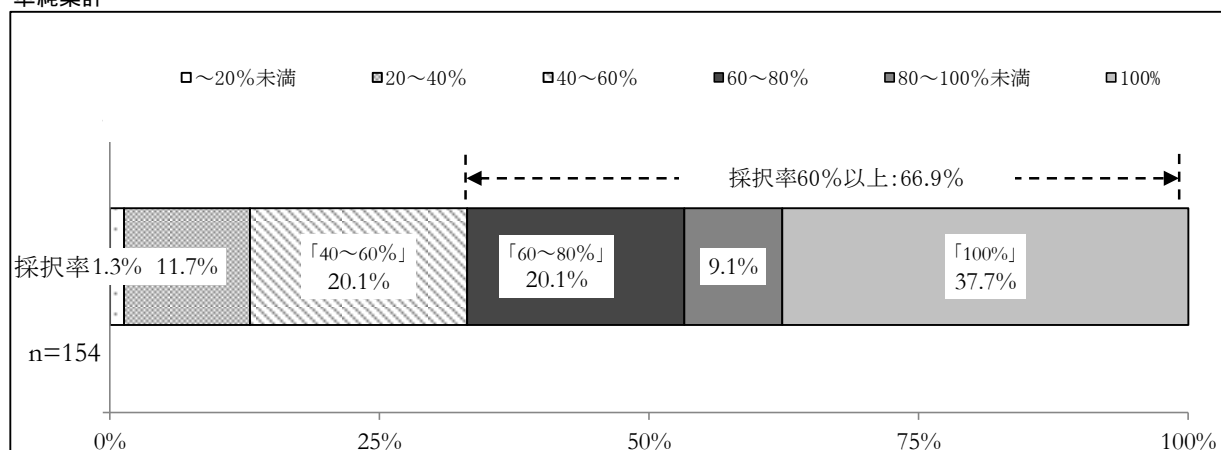
[地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

・地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)に応募したことがあるが採択されることがない団体の採択率は60%未満が多い回答であったが、採択されることがある団体の採択率は60%以上が多い。

[応募件数]

・応募件数が多い団体ほど、採択率はやや低くなる傾向にある。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

	合計	SQ6-1採択率					
		20%未満	20%以上 40%未満	40%以上 60%未満	60%以上 80%未満	80%以上 100%未満	100%
全体	154	1.3	11.7	20.1	20.1	9.1	37.7
Q14団体の種類							
国公立文化施設	89	1.1	9.0	19.1	16.9	5.6	48.3
民間文化施設	8	0.0	25.0	12.5	25.0	12.5	25.0
国公立大学	5	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	60.0
実行委員会	25	4.0	8.0	20.0	28.0	12.0	28.0
非営利団体	12	0.0	16.7	33.3	25.0	8.3	16.7
その他	13	0.0	30.8	15.4	30.8	15.4	7.7
Q15団体・施設の設 立年・開館年							
1969年以前	12	8.3	8.3	25.0	25.0	8.3	25.0
1970-1979年	12	0.0	8.3	25.0	16.7	0.0	50.0
1980-1989年	32	0.0	18.8	18.8	15.6	3.1	43.8
1990-1999年	34	0.0	0.0	17.6	11.8	17.6	52.9
2000-2009年	32	3.1	15.6	12.5	25.0	6.3	37.5
2010-2016年	17	0.0	23.5	29.4	23.5	11.8	11.8
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動							
その助成金制度のことは知らない	17	1.3	11.7	20.1	20.1	9.1	37.7
知っているが応募したことはない	117	0.9	11.4	20.2	18.4	9.6	39.5
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	15	0.0	20.0	20.0	33.3	6.7	20.0
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)							
その助成金制度のことは知らない	8	0.0	0.0	50.0	12.5	25.0	12.5
知っているが応募したことはない	42	0.0	11.9	21.4	23.8	7.1	35.7
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	14.3	28.6	28.6	14.3	0.0	14.3
応募して採択されたことがある	92	1.1	12.0	17.4	16.3	9.8	43.5
Q6-SQ6-1.2013~ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数							
1-4	73	1.4	5.5	19.2	8.2	0.0	65.8
5-9	47	0.0	14.9	14.9	36.2	14.9	19.1
10-19	25	4.0	16.0	32.0	16.0	28.0	4.0
20以上	9	0.0	33.3	22.2	44.4	0.0	0.0

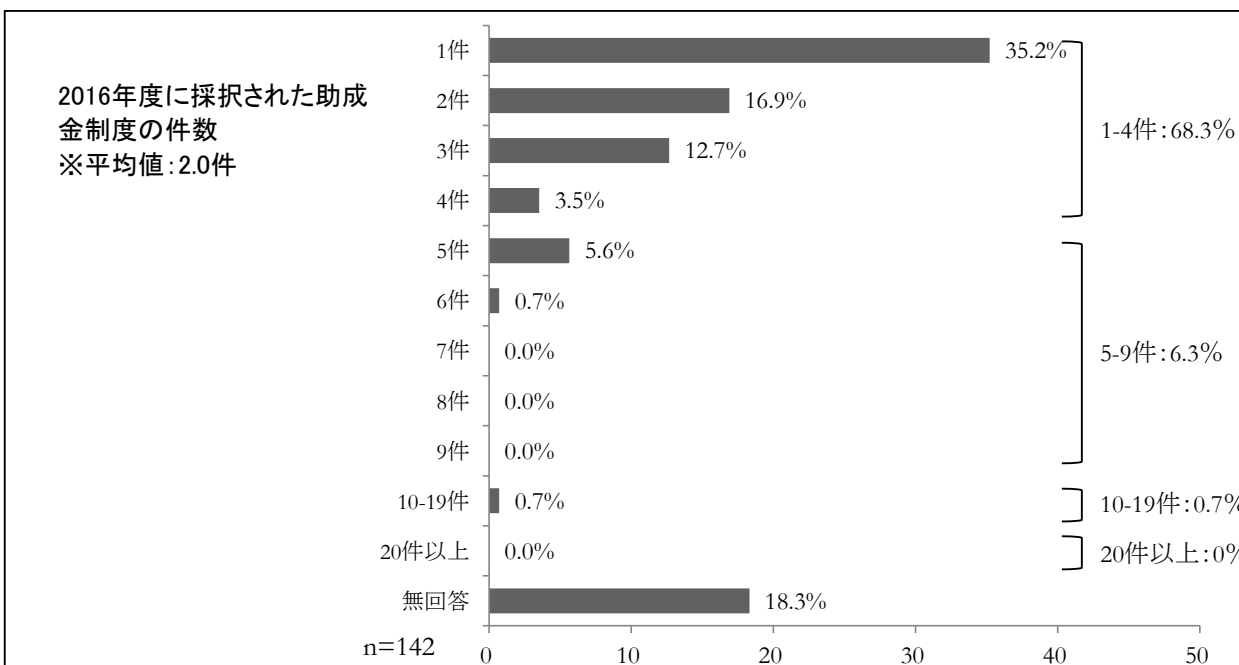
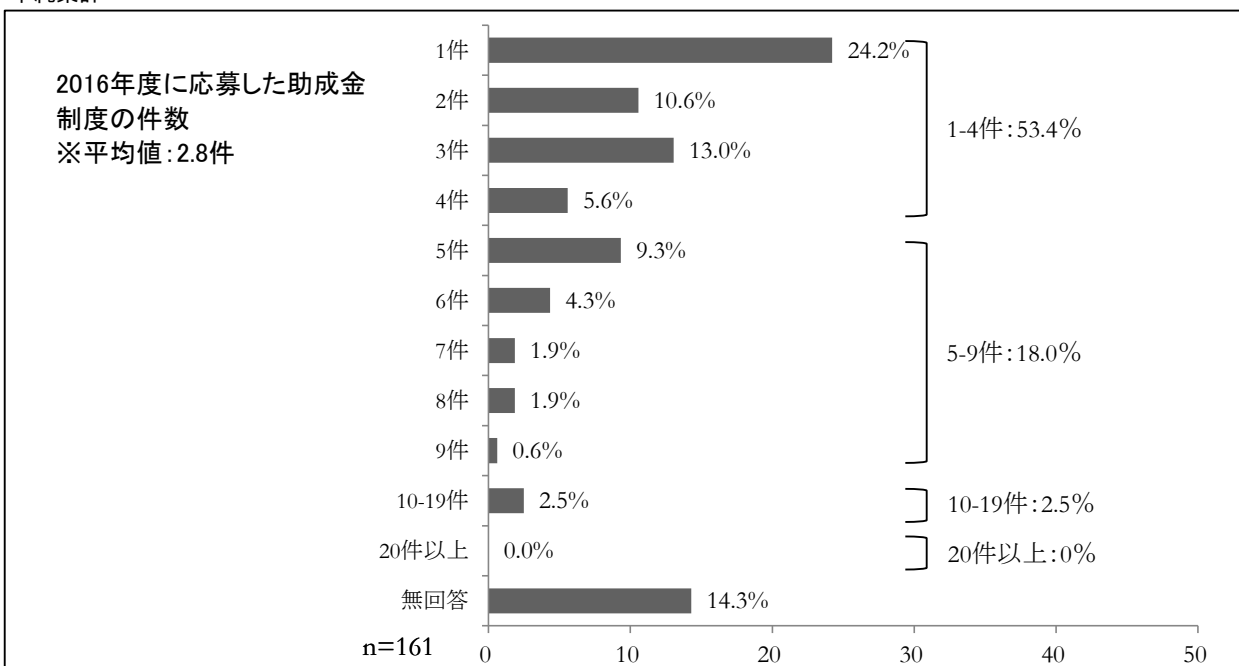
【単純集計】

2016年度に応募した助成金制度の件数と採択された助成金制度の件数について尋ねたところ、応募した助成金制度の件数の最大値は15件、最小値は0件、平均値は2.8件で、採択された助成金制度の件数の最大値は12件、最小値は0件、平均値は2.0件であった。

応募件数では、「1件」が24.2%で最も多く、次いで、「3件」が13.0%、「2件」が10.6%となっているが、以下のグラフ(右)のようなグループに区分したところ、「1-4件」が53.4%で最も多く、「5-9件」が18.0%、「10-19件」が2.5%であった。

また、採択件数では、「1件」が35.2%で最も多く、「2件」が16.9%、「3件」が12.7%となっているが、以下のグラフ(右)のようなグループに区分したところ、「1-4件」が68.3%で最も多く、「5-9件」が6.3%、「10-19件」が0.7%となっている。

単純集計



【クロス集計】

[団体種類(応募件数)]

・国公立大学を除く全ての団体で最も多い回答は「1-4件」であった。

[美術の創造普及活動、地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

・美術の創造普及活動、地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)で採択された団体で最も多い回答は「1-4件」であった。

[団体種類(採択件数)]

・全ての団体で最も多い回答は「1-4件」であった。

[美術の創造普及活動、地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

・美術の創造普及活動、地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)で採択された団体で最も多い回答は「1-4件」であった。

クロス集計

(単位: %)

	合計	Q6-SQ6-2.2016年度に応募した助成金制度の応募件数				
		1-4	5-9	10-19	20以上	無回答
全体	161	53.4	18.0	2.5	0.0	26.1
Q14団体の種類						
国公立文化施設	93	54.8	15.1	1.1	0.0	29.0
民間文化施設	10	70.0	10.0	0.0	0.0	20.0
国公立大学	5	20.0	40.0	0.0	0.0	40.0
実行委員会	25	52.0	24.0	4.0	0.0	20.0
非営利団体	12	41.7	25.0	16.7	0.0	16.7
その他	14	50.0	21.4	0.0	0.0	28.6
Q15団体・施設の設 立年・開館年						
1969年以前	12	41.7	41.7	0.0	0.0	16.7
1970-1979年	14	50.0	14.3	0.0	0.0	35.7
1980-1989年	33	66.7	12.1	0.0	0.0	21.2
1990-1999年	36	55.6	13.9	2.8	0.0	27.8
2000-2009年	33	42.4	24.2	3.0	0.0	30.3
2010-2016年	17	70.6	17.6	5.9	0.0	5.9
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動						
その助成金制度のことは知らない	18	44.4	16.7	0.0	0.0	38.9
知っているが応募したことはない	120	56.7	18.3	1.7	0.0	23.3
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3
応募して採択されたことがある	15	46.7	13.3	13.3	0.0	26.7
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)						
その助成金制度のことは知らない	9	33.3	22.2	0.0	0.0	44.4
知っているが応募したことはない	44	43.2	20.5	6.8	0.0	29.5
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	71.4	14.3	0.0	0.0	14.3
応募して採択されたことがある	96	59.4	15.6	1.0	0.0	24.0
Q6-SQ6-1.2013~ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数						
1-4	73	56.2	4.1	0.0	0.0	39.7
5-9	47	59.6	27.7	0.0	0.0	12.8
10-19	25	56.0	40.0	0.0	0.0	4.0
20以上	9	22.2	33.3	44.4	0.0	0.0

(単位: %)

	合計	Q6-SQ6-2.採択された助成金制度の件数				
		1-4	5-9	10-19	20以上	無回答
全体	142	68.3	6.3	0.7	0.0	24.6
Q14団体の種類						
国公立文化施設	77	71.4	3.9	1.3	0.0	23.4
民間文化施設	10	80.0	0.0	0.0	0.0	20.0
国公立大学	5	40.0	20.0	0.0	0.0	40.0
実行委員会	24	66.7	8.3	0.0	0.0	25.0
非営利団体	11	63.6	18.2	0.0	0.0	18.2
その他	13	53.8	7.7	0.0	0.0	38.5
Q15団体・施設の設 立年・開館年						
1969年以前	11	72.7	9.1	0.0	0.0	18.2
1970-1979年	13	61.5	0.0	0.0	0.0	38.5
1980-1989年	29	72.4	3.4	0.0	0.0	24.1
1990-1999年	31	67.7	9.7	0.0	0.0	22.6
2000-2009年	26	73.1	3.8	3.8	0.0	19.2
2010-2016年	17	76.5	5.9	0.0	0.0	17.6
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動						
その助成金制度のことは知らない	14	64.3	0.0	0.0	0.0	35.7
知っているが応募したことはない	106	72.6	6.6	0.9	0.0	19.8
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3
応募して採択されたことがある	15	40.0	13.3	0.0	0.0	46.7
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)						
その助成金制度のことは知らない	8	62.5	0.0	0.0	0.0	37.5
知っているが応募したことはない	41	51.2	14.6	0.0	0.0	34.1
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	85.7	0.0	0.0	0.0	14.3
応募して採択されたことがある	81	75.3	3.7	1.2	0.0	19.8
Q6-SQ6-1.2013~ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数						
1-4	59	54.2	3.4	0.0	0.0	42.4
5-9	44	84.1	6.8	0.0	0.0	9.1
10-19	25	84.0	12.0	0.0	0.0	4.0
20以上	9	66.7	11.1	11.1	0.0	11.1

【単純集計】

2016年度に応募した助成金制度の件数と採択された助成金制度の件数から採択率を算出したところ(無回答を除く)、「100%」が41.7%で最も多く、次いで「40%以上60%未満」が16.5%、「20%以上40%未満」が14.8%となっている。

なお、採択率が60%以上の団体は全体の59.1%であった。

【クロス集計】**[団体種類]**

・非営利団体を除く全ての団体で最も多い回答は「100%」であった。

・非営利団体で最も多い回答は「20%以上40%未満」であった。

[美術の創造普及活動の応募・採択状況]

・美術の創造普及活動に応募したことはあるが採択されたことのない団体で最も多い回答は「20%以上40%未満」であった。

・美術の創造普及活動に採択されたことがある団体で最も多い回答は「100%」であった。

[地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

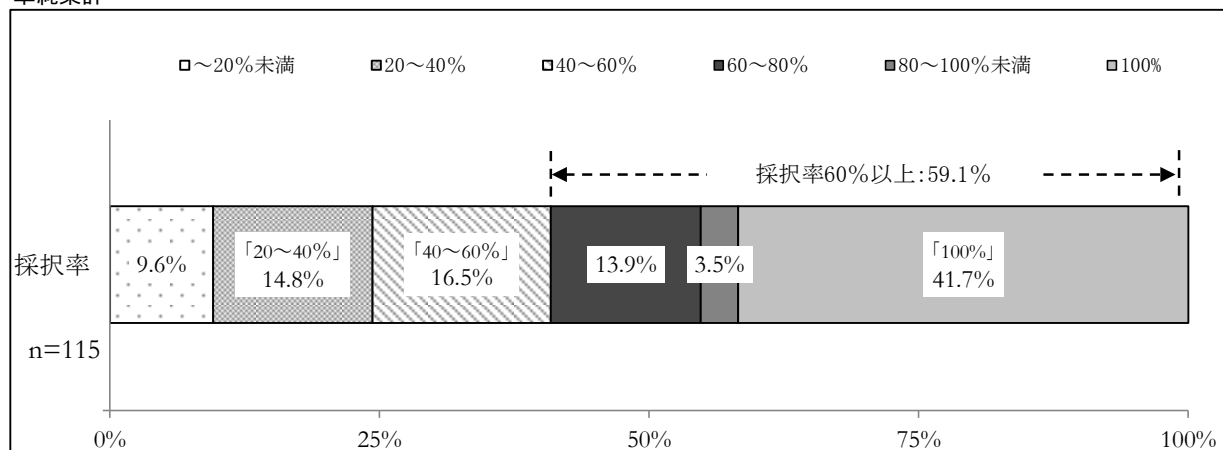
・地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)に応募したことはあるが採択されたことのない団体で最も多い回答は「20%以上40%未満」、「40%以上60%未満」、「100%」であった。

・地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)に採択されたことがある団体で最も多い回答は「100%」であった。

[応募件数]

・応募件数が20件未満の団体で最も多い回答は「100%」であったが、応募件数が20件以上の団体で最も多い回答は「40%以上60%未満」であった。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

	合計	SQ6-2採択率					
		20%未満	20%以上 40%未満	40%以上 60%未満	60%以上 80%未満	80%以上 100%未満	100%
全体	115	9.6	14.8	16.5	13.9	3.5	41.7
Q14団体の種類							
国公立文化施設	63	9.5	9.5	17.5	14.3	3.2	46.0
民間文化施設	8	0.0	12.5	37.5	0.0	0.0	50.0
国公立大学	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
実行委員会	20	15.0	30.0	0.0	15.0	5.0	35.0
非営利団体	10	10.0	30.0	20.0	10.0	10.0	20.0
その他	9	11.1	11.1	33.3	11.1	0.0	33.3
Q15団体・施設の設 立年・開館年							
1969年以前	10	10.0	0.0	30.0	40.0	0.0	20.0
1970-1979年	9	11.1	11.1	33.3	0.0	0.0	44.4
1980-1989年	23	8.7	8.7	17.4	17.4	0.0	47.8
1990-1999年	26	7.7	3.8	15.4	15.4	0.0	57.7
2000-2009年	22	9.1	31.8	9.1	4.5	13.6	31.8
2010-2016年	16	18.8	31.3	0.0	12.5	6.3	31.3
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動							
その助成金制度のことは知らない	10	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	60.0
知っているが応募したことはない	90	7.8	15.6	17.8	14.4	3.3	41.1
応募したことはあるが、採択されたことはない	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	10	20.0	10.0	20.0	10.0	10.0	30.0
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動（美術館等展 示）							
その助成金制度のことは知らない	5	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0
知っているが応募したことはない	29	6.9	24.1	6.9	13.8	3.4	44.8
応募したことはあるが、採択されたことはない	6	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3
応募して採択されたことがある	71	11.3	8.5	19.7	16.9	1.4	42.3
Q6-SQ6-1.2013~ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数							
1-4	41	17.1	9.8	12.2	4.9	0.0	56.1
5-9	40	5.0	10.0	17.5	22.5	7.5	37.5
10-19	24	4.2	29.2	16.7	16.7	0.0	33.3
20以上	9	11.1	22.2	33.3	11.1	11.1	11.1

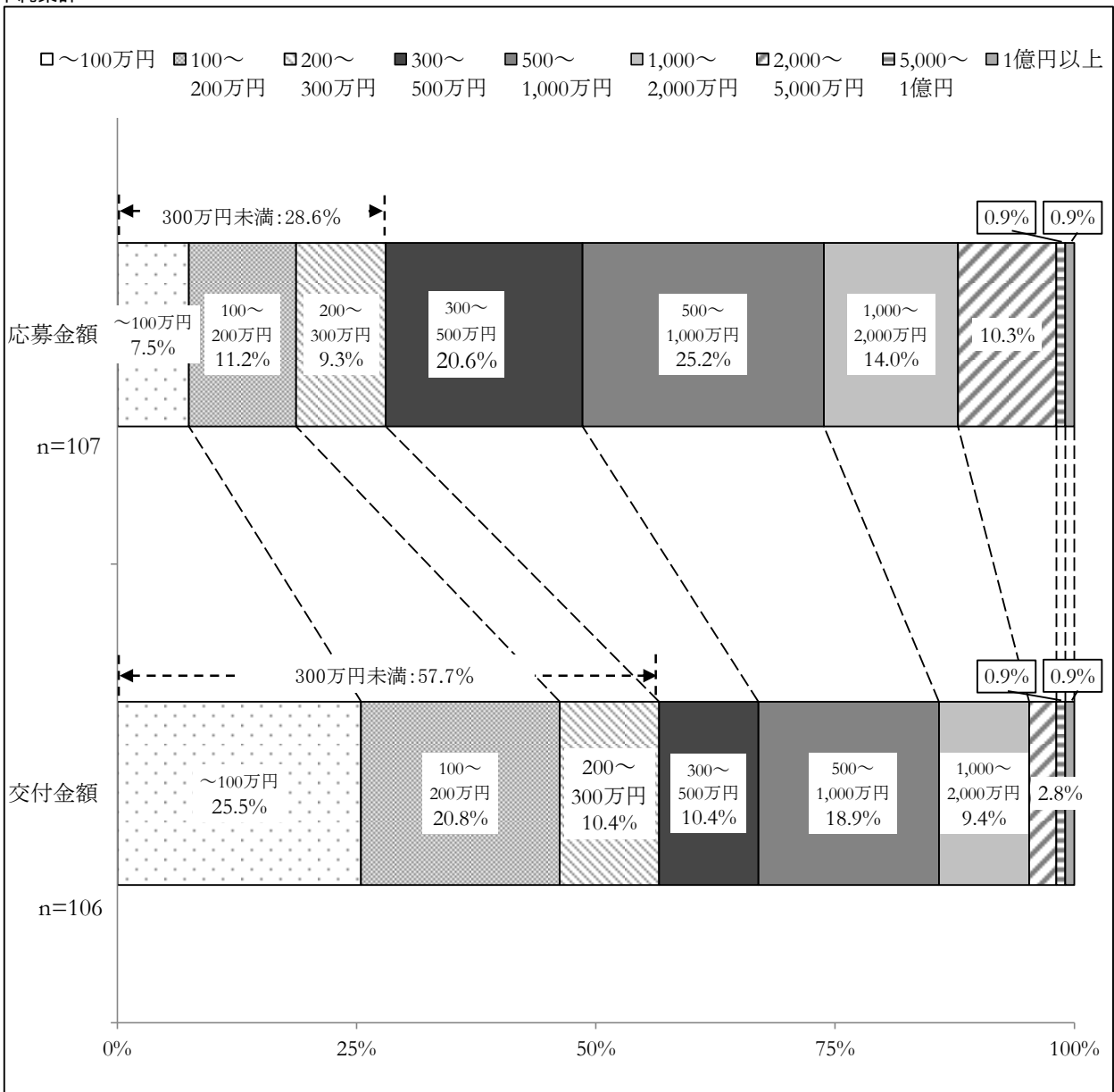
【単純集計】

2016年度に応募した助成金制度の応募金額の合計額について尋ねたところ、応募金額の最大値は2億450万円で、最小値は5万円、平均値は1,024万円で、応募金額を以下のようなグループに区分したところ、「500万円以上1,000万円未満」が25.2%で最も多く、「300万円以上500万円未満」が20.6%、「1,000万円以上2,000万円未満」が14.0%となっている（無回答を除く）。

2016年度に応募した助成金制度の採択金額の合計額について尋ねたところ、採択金額の最大値は1億5,857万円で、最小値は4万円、平均値は649万円で、交付金額を以下のようなグループに区分したところ、「100万円未満」が25.5%で最も多く、「100万円以上200万円未満」が20.8%、500万円以上1,000万円未満」が18.9%となっている（無回答を除く）。

なお、応募金額が300万円未満の団体は全体の28.6%であるが、交付金額が300万円未満の団体は全体の57.7%であった。

単純集計



【クロス集計】

[団体種類]

- ・国公立文化施設で最も多い回答は「300万円以上500万円未満」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は「100万円未満」、「300万円以上500万円未満」、「500万円以上1,000万円未満」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は「200万円以上300万円未満」、「300万円以上500万円未満」、「500万円以上1,000万円未満」であった。
- ・実行委員会、非営利団体で最も多い回答は「500万円以上1,000万円未満」であった。

[応募件数]

- ・応募件数に比例し、応募金額、交付金額は増える傾向にある。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q6-SQ6-2.応募金額の合計								
		100万円未満	100万円以上200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上500万円未満	500万円以上1,000万円未満	1,000万円以上2,000万円未満	2,000万円以上5,000万円未満	5,000万円以上1億円未満	1億円以上
全体	107	7.5	11.2	9.3	20.6	25.2	14.0	10.3	0.9	0.9
Q14団体の種類										
国公立文化施設	61	3.3	11.5	9.8	23.0	18.0	18.0	13.1	1.6	1.6
民間文化施設	7	28.6	14.3	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
実行委員会	18	16.7	16.7	5.6	11.1	27.8	11.1	11.1	0.0	0.0
非営利団体	8	0.0	0.0	12.5	25.0	37.5	12.5	12.5	0.0	0.0
その他	8	0.0	12.5	12.5	12.5	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年										
1969年以前	10	0.0	0.0	10.0	30.0	30.0	20.0	10.0	0.0	0.0
1970-1979年	8	12.5	37.5	0.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
1980-1989年	23	8.7	4.3	8.7	21.7	17.4	17.4	17.4	4.3	0.0
1990-1999年	24	4.2	12.5	12.5	4.2	37.5	20.8	8.3	0.0	0.0
2000-2009年	18	0.0	11.1	11.1	27.8	22.2	16.7	5.6	0.0	5.6
2010-2016年	15	26.7	13.3	6.7	6.7	33.3	6.7	6.7	0.0	0.0
その助成金制度のことは知らない	10	20.0	10.0	10.0	20.0	20.0	10.0	10.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	86	5.8	10.5	9.3	20.9	26.7	16.3	8.1	1.2	1.2
応募したことはあるが、採択されたことはない	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	7	14.3	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）										
その助成金制度のことは知らない	5	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	27	11.1	18.5	3.7	18.5	25.9	3.7	18.5	0.0	0.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	4	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	67	4.5	10.4	10.4	20.9	25.4	17.9	7.5	1.5	1.5
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数										
1-4	39	5.1	17.9	12.8	35.9	17.9	2.6	7.7	0.0	0.0
5-9	39	10.3	7.7	7.7	12.8	33.3	15.4	10.3	2.6	0.0
10-19	20	5.0	5.0	5.0	10.0	35.0	30.0	5.0	0.0	5.0
20以上	8	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	25.0	37.5	0.0	0.0

(単位：%)

	合計	Q6-SQ6-2.交付金額の合計								
		100万円未満	100万円以上200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上500万円未満	500万円以上1,000万円未満	1,000万円以上2,000万円未満	2,000万円以上5,000万円未満	5,000万円以上1億円未満	1億円以上
全体	106	25.5	20.8	10.4	10.4	18.9	9.4	2.8	0.9	0.9
Q14団体の種類										
国公立文化施設	58	20.7	22.4	6.9	13.8	15.5	13.8	3.4	1.7	1.7
民間文化施設	7	57.1	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
実行委員会	18	38.9	22.2	11.1	5.6	11.1	5.6	5.6	0.0	0.0
非営利団体	9	11.1	22.2	22.2	0.0	33.3	11.1	0.0	0.0	0.0
その他	9	22.2	22.2	0.0	11.1	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年										
1969年以前	9	11.1	11.1	11.1	11.1	44.4	11.1	0.0	0.0	0.0
1970-1979年	8	37.5	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1980-1989年	21	28.6	9.5	4.8	19.0	14.3	9.5	9.5	4.8	0.0
1990-1999年	24	25.0	4.2	12.5	8.3	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0
2000-2009年	21	19.0	33.3	9.5	9.5	14.3	9.5	0.0	0.0	4.8
2010-2016年	14	42.9	28.6	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
その助成金制度のことは知らない	8	62.5	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	84	20.2	22.6	9.5	13.1	21.4	7.1	3.6	1.2	1.2
応募したことはあるが、採択されたことはない	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	9	33.3	11.1	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）										
その助成金制度のことは知らない	5	80.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	28	21.4	28.6	17.9	3.6	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	5	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	64	20.3	20.3	7.8	15.6	21.9	9.4	1.6	1.6	1.6
Q6-SQ6-1.2013～2015年度に応募した助成金制度の件数										
1-4	35	37.1	25.7	11.4	2.9	14.3	2.9	5.7	0.0	0.0
5-9	39	15.4	28.2	12.8	15.4	12.8	12.8	0.0	2.6	0.0
10-19	23	26.1	4.3	4.3	17.4	34.8	4.3	4.3	0.0	4.3
20以上	8	12.5	12.5	12.5	0.0	25.0	37.5	0.0	0.0	0.0

【単純集計】

2016年度に応募した助成金制度の応募金額と採択金額から交付金額率を算出したところ(無回答を除く)、「60%以上80%未満」が21.6%で最も多く、次いで「20%以上40%未満」が20.6%、「40%以上60%未満」が18.6%となっている。

なお、60%以上の交付金額率の団体は全体の50.4%であった。

【クロス集計】**[団体種類]**

- ・国公立文化施設で最も多い回答は、「20%以上40%未満」、「60%以上80%未満」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は、「20%以上40%未満」、「40%以上60%未満」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は、「60%以上80%未満」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は、「20%以上40%未満」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は、「40%以上60%未満」であった。

[美術の創造普及活動の応募・採択状況]

- ・美術の創造普及活動に採択されたことがある団体で最も多い回答は「40%以上60%未満」であった。

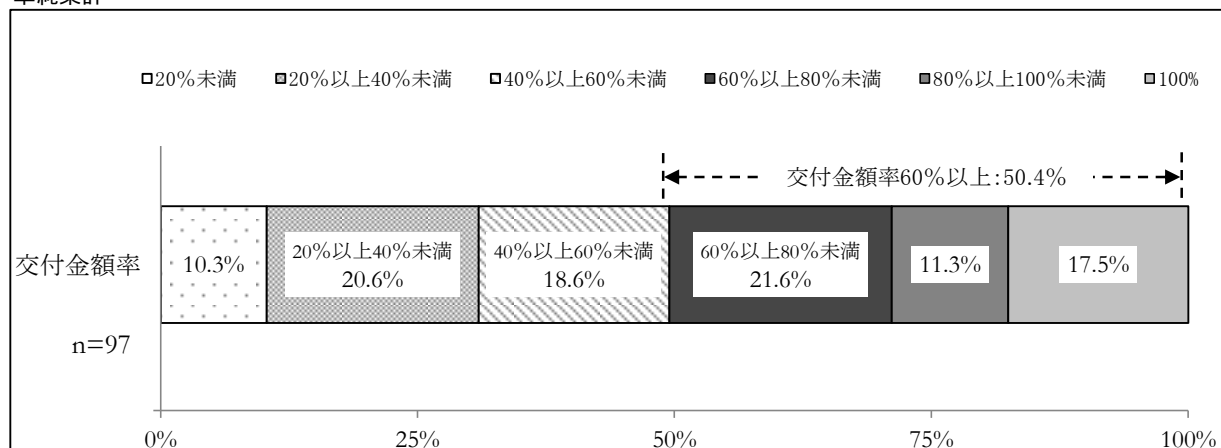
[地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

- ・地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)に採択されたことがある団体で最も多い回答は「60%以上80%未満」であった。

[応募件数]

- ・応募件数が20未満の団体で最も多い回答は「60%以上80%未満」であったが、応募件数が20以上の団体で最も多い回答は「20%以上40%未満」、「40%以上60%未満」であった。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

	合計	SQ6-2交付率					
		20%未満	20%以上 40%未満	40%以上 60%未満	60%以上 80%未満	80%以上 100%未満	100%
全体	97	10.3	20.6	18.6	21.6	11.3	17.5
Q14団体の種類							
国公立文化施設	54	13.0	20.4	18.5	20.4	9.3	18.5
民間文化施設	7	14.3	28.6	28.6	14.3	0.0	14.3
国公立大学	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
実行委員会	16	12.5	31.3	6.3	12.5	18.8	18.8
非営利団体	8	0.0	12.5	50.0	12.5	12.5	12.5
その他	7	0.0	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3
Q15団体・施設の設 立年・開館年							
1969年以前	9	11.1	11.1	22.2	55.6	0.0	0.0
1970-1979年	7	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	28.6
1980-1989年	20	15.0	20.0	15.0	20.0	10.0	20.0
1990-1999年	22	4.5	18.2	9.1	22.7	22.7	22.7
2000-2009年	17	5.9	35.3	17.6	29.4	0.0	11.8
2010-2016年	13	23.1	30.8	7.7	0.0	30.8	7.7
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動							
その助成金制度のことは知らない	8	12.5	37.5	12.5	0.0	12.5	25.0
知っているが応募したことはない	79	10.1	19.0	16.5	24.1	11.4	19.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	6	16.7	0.0	50.0	33.3	0.0	0.0
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)							
その助成金制度のことは知らない	5	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0
知っているが応募したことはない	25	4.0	20.0	28.0	12.0	16.0	20.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	4	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0
応募して採択されたことがある	59	10.2	22.0	13.6	27.1	10.2	16.9
Q6-SQ6-1.2013~ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数							
1-4	32	15.6	15.6	12.5	21.9	9.4	25.0
5-9	37	10.8	21.6	18.9	21.6	13.5	13.5
10-19	20	5.0	20.0	20.0	25.0	15.0	15.0
20以上	7	0.0	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0

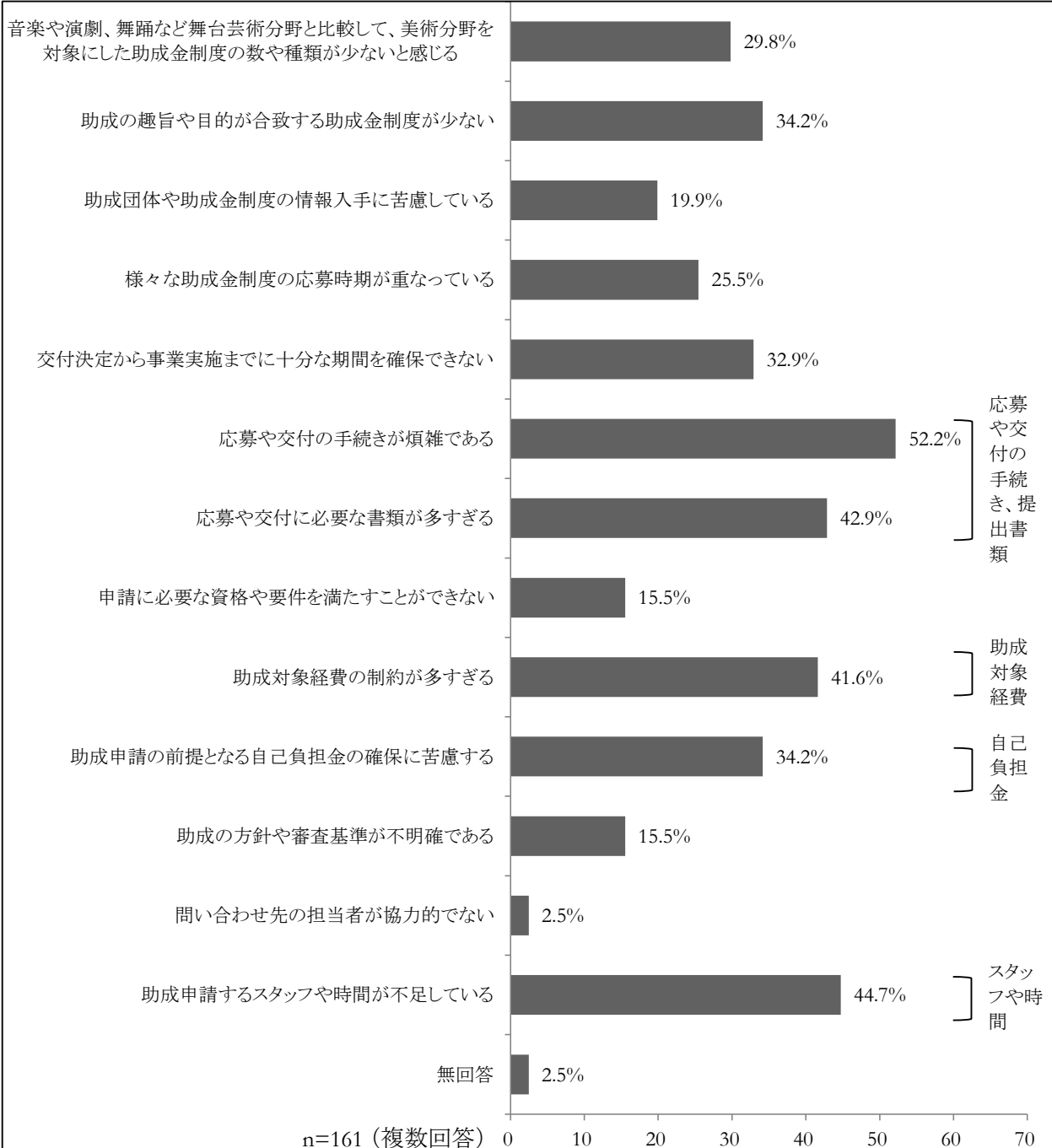
【単純集計】

美術分野の助成金制度の問題点について尋ねたところ、

「応募や交付の手続きが煩雑である」が52.2%で最も多く、次いで「助成申請するスタッフや時間が不足している」が44.7%、「応募や交付に必要な書類が多すぎる」が42.9%、「助成対象経費の制約が多すぎる」が41.6%となっている。

応募や交付の手続きや提出書類を問題点とする回答が多く、また、それらに関係した回答として、申請に関するスタッフや時間の不足を問題点とする回答が多くあった。そして、助成対象経費や自己負担金の確保、助成の趣旨や目的を問題点とする回答も比較的多くあった。

単純集計



【クロス集計】

[団体種類]

・「応募や交付の手続きが煩雑である」や「応募や交付に必要な書類が多すぎる」と多く回答した団体は、国公立文化施設や民間文化施設、実行委員会、非営利団体であるが、それらに関係すると思われる「助成申請するスタッフや時間が不足している」に多く回答した団体は、民間文化施設と非営利団体であった。

[美術の創造普及活動の応募・採択状況]

・美術の創造普及活動に採択された団体で最も多い回答は、「助成申請の前提となる自己負担金の確保に苦慮する」と「助成申請するスタッフや時間が不足している」であった。

[地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

・地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)に採択された団体で最も多い回答は「応募や交付の手続きが煩雑である」であった。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q7.美術分野の助成金制度についてどのような問題点がありますか								
		音楽や演劇、舞踊など舞台芸術分野と比較して、美術分野を対象にした助成金制度の数が種類が少なく感じる	助成の趣旨や目的が合致する助成金制度が少ない	助成団体や助成金制度の情報入手に苦慮している	様々な助成金制度の応募時期が重なっている	交付決定から事業実施までに十分な期間を確保できない	応募や交付の手続きが煩雑である	応募や交付に必要な書類が多すぎる	申請に必要な資格や要件を満たすことができない	
全体	161	29.8	34.2	19.9	25.5	32.9	52.2	42.9	15.5	
Q14団体の種類	国公立文化施設	93	17.2	30.1	16.1	20.4	31.2	55.9	47.3	9.7
	民間文化施設	10	30.0	20.0	50.0	40.0	20.0	50.0	40.0	30.0
	国公立大学	5	60.0	60.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	60.0
	実行委員会	25	56.0	40.0	24.0	28.0	32.0	48.0	36.0	12.0
	非営利団体	12	41.7	33.3	25.0	33.3	41.7	50.0	50.0	16.7
	その他	14	42.9	50.0	14.3	35.7	50.0	42.9	28.6	35.7
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	25.0	8.3	8.3	25.0	25.0	58.3	33.3	16.7
	1970-1979年	14	7.1	35.7	21.4	21.4	42.9	50.0	57.1	14.3
	1980-1989年	33	12.1	30.3	18.2	24.2	36.4	69.7	48.5	6.1
	1990-1999年	36	27.8	41.7	16.7	25.0	30.6	44.4	41.7	16.7
	2000-2009年	33	36.4	27.3	21.2	27.3	27.3	63.6	51.5	15.2
	2010-2016年	17	52.9	41.2	41.2	47.1	35.3	47.1	41.2	17.6
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	18	16.7	27.8	22.2	16.7	38.9	55.6	27.8	5.6
	知っているが応募したことはない	120	28.3	34.2	21.7	25.0	30.0	51.7	44.2	17.5
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	100.0	66.7	33.3	33.3	33.3	66.7	66.7	66.7
	応募して採択されたことがある	15	33.3	40.0	0.0	26.7	53.3	40.0	40.0	6.7
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	9	22.2	22.2	33.3	22.2	22.2	33.3	11.1	11.1
	知っているが応募したことはない	44	40.9	40.9	18.2	20.5	29.5	45.5	45.5	25.0
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	28.6	28.6	0.0	0.0	57.1	42.9	28.6	14.3
	応募して採択されたことがある	96	24.0	32.3	21.9	27.1	31.3	57.3	44.8	12.5
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	73	26.0	38.4	19.2	13.7	32.9	54.8	42.5	13.7
	5-9	47	34.0	27.7	23.4	36.2	38.3	59.6	44.7	17.0
	10-19	25	40.0	36.0	16.0	40.0	32.0	36.0	44.0	28.0
	20以上	9	33.3	33.3	22.2	33.3	22.2	55.6	33.3	0.0

(単位：%)

	合計	Q7.美術分野の助成金制度についてどのような問題点がありますか						
		助成対象経費の制約が多すぎる	助成申請の前提となる自己負担金の確保に苦慮する	助成の方針や審査基準が不明確である	問い合わせ先の担当者として協力的でない	助成申請するスタッフや時間が不足している	無回答	
全体	161	41.6	34.2	15.5	2.5	44.7	2.5	
Q14団体の種類	国公立文化施設	93	39.8	26.9	14.0	1.1	33.3	3.2
	民間文化施設	10	40.0	40.0	20.0	0.0	90.0	0.0
	国公立大学	5	80.0	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0
	実行委員会	25	32.0	52.0	16.0	0.0	52.0	4.0
	非営利団体	12	66.7	50.0	8.3	0.0	66.7	0.0
	その他	14	35.7	28.6	28.6	21.4	57.1	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	66.7	33.3	25.0	0.0	41.7	8.3
	1970-1979年	14	35.7	28.6	21.4	21.4	64.3	0.0
	1980-1989年	33	51.5	24.2	15.2	3.0	45.5	0.0
	1990-1999年	36	44.4	25.0	2.8	0.0	36.1	0.0
	2000-2009年	33	27.3	27.3	18.2	0.0	42.4	6.1
	2010-2016年	17	29.4	70.6	29.4	0.0	47.1	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動	その助成金制度のことは知らない	18	33.3	33.3	22.2	0.0	50.0	5.6
	知っているが応募したことはない	120	40.8	29.2	15.8	3.3	42.5	2.5
	応募したことはあるが、採択されたことはない	3	66.7	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	応募して採択されたことがある	15	53.3	60.0	6.7	0.0	60.0	0.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その助成金制度のことは知らない	9	22.2	55.6	33.3	0.0	66.7	11.1
	知っているが応募したことはない	44	50.0	43.2	13.6	4.5	52.3	4.5
	応募したことはあるが、採択されたことはない	7	28.6	71.4	0.0	0.0	57.1	0.0
	応募して採択されたことがある	96	39.6	25.0	16.7	2.1	36.5	1.0
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数	1-4	73	45.2	32.9	15.1	0.0	42.5	4.1
	5-9	47	40.4	34.0	19.1	2.1	46.8	0.0
	10-19	25	32.0	36.0	12.0	4.0	44.0	0.0
	20以上	9	55.6	33.3	22.2	11.1	44.4	11.1

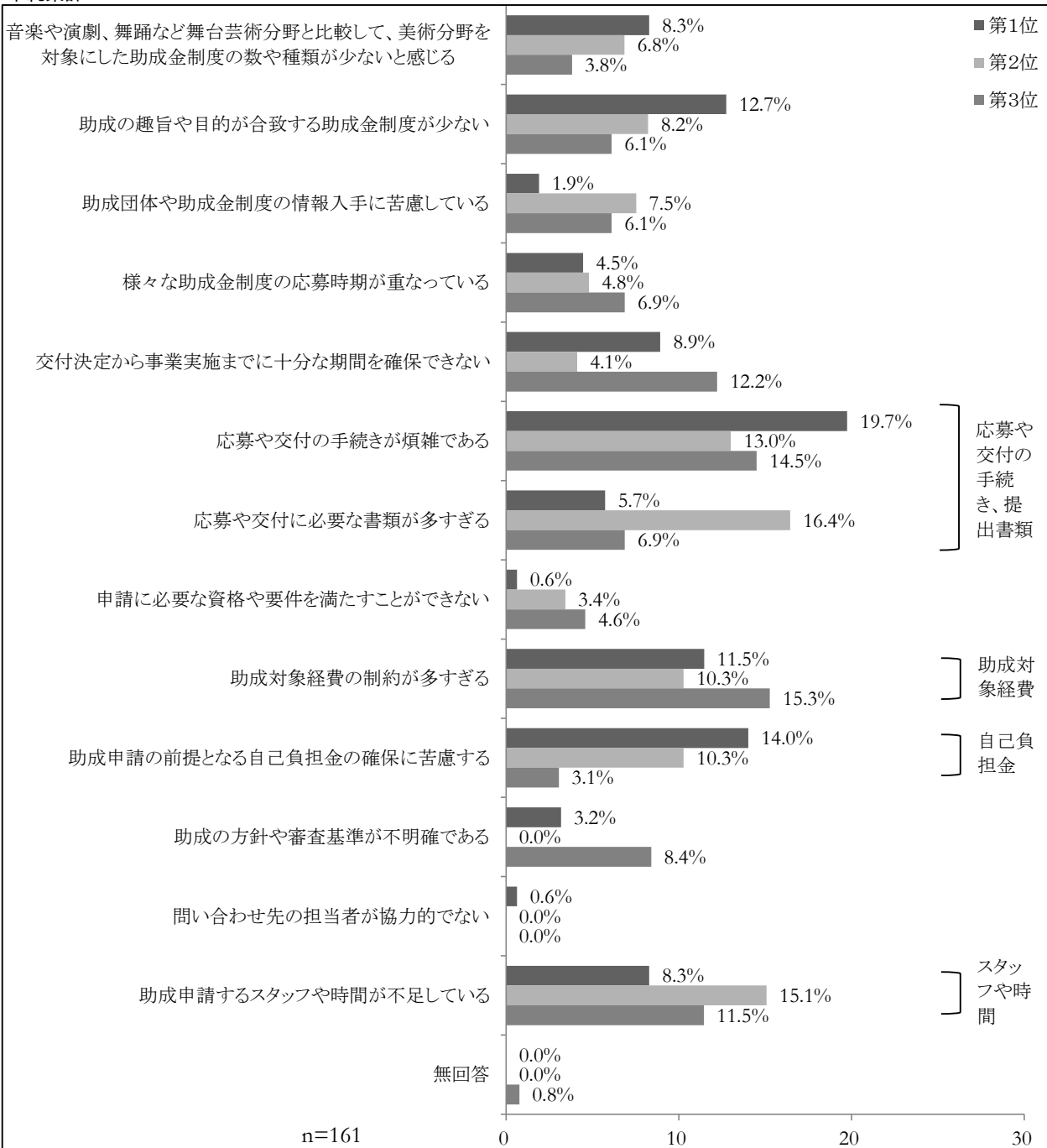
【単純集計】

Q7の回答のうち、最も問題点と感じる項目を順に3つ選択していただいたところ、第1位の理由として、「応募や交付の手続きが煩雑である」が19.7%で最も多く、次いで「助成申請の前提となる自己負担金の確保に苦慮する」が14.0%、「助成の趣旨や目的が合致する助成金制度が少ない」が12.7%となっている。

第2位の理由として、「応募や交付に必要な書類が多すぎる」が16.4%で最も多く、次いで「助成申請するスタッフや時間が不足している」が15.1%、「応募や交付の手続きが煩雑である」が13.0%となっている。

第3位の理由として、「助成対象経費の制約が多すぎる」が15.3%で最も多く、次いで「交付決定から事業実施までに十分な期間を確保できない」が12.2%となっている。

単純集計



【クロス集計(第1位)】

[団体種類]

・「応募や交付の手続きが煩雑である」と多く回答した団体は、国公立文化施設や民間文化施設、国公立大学であった。

・実行委員会で最も多い回答は「助成の趣旨や目的が合致する助成金制度が少ない」や「助成申請の前提となる自己負担金の確保に苦慮する」であった。

・非営利団体で最も多い回答は「応募や交付に必要な書類が多すぎる」、「助成申請の前提となる自己負担金の確保に苦慮する」、「助成申請するスタッフや時間が不足している」であった。

[美術の創造普及活動・地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

・美術の創造普及活動に採択された団体で最も回答が多くあったのは「助成申請の前提となる自己負担金の確保に苦慮する」で、地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)では「応募や交付の手続きが煩雑である」であった。

クロス集計

(単位: %)

	合計	Q7-SQ7-1.最も問題点と感ずる項目(第1位)							
		音楽や演劇、舞踊など舞台芸術分野と比較して、美術分野を対象とした助成金制度の数が種類が少ないと感じる	助成の趣旨や目的が合致する助成金制度が少ない	助成団体や助成金制度の情報入手に苦慮している	様々な助成金制度の応募時期が重なっている	交付決定から事業実施までに十分な期間を確保できない	応募や交付の手続きが煩雑である	応募や交付に必要な書類が多すぎる	申請に必要な資格や要件を満たすことができない
全体	157	8.3	12.7	1.9	4.5	8.9	19.7	5.7	0.6
Q14団体の種類									
国公立文化施設	90	7.8	10.0	1.1	3.3	10.0	27.8	5.6	0.0
民間文化施設	10	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	10.0
国公立大学	5	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
実行委員会	24	4.2	20.8	4.2	4.2	12.5	8.3	4.2	0.0
非営利団体	12	8.3	8.3	8.3	0.0	8.3	8.3	16.7	0.0
その他	14	21.4	21.4	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設 立年・開館年									
1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	27.3	0.0	0.0
1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	7.1	14.3	14.3	14.3	0.0
1980-1989年	33	3.0	9.1	0.0	3.0	12.1	33.3	0.0	0.0
1990-1999年	36	8.3	19.4	2.8	2.8	8.3	13.9	8.3	0.0
2000-2009年	31	16.1	12.9	3.2	3.2	6.5	29.0	6.5	0.0
2010-2016年	17	5.9	11.8	5.9	11.8	5.9	0.0	11.8	0.0
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動									
その助成金制度のことは知らない	17	5.9	5.9	0.0	5.9	11.8	23.5	5.9	0.0
知っているが応募したことはない	117	9.4	13.7	2.6	3.4	8.5	20.5	5.1	0.9
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	15	0.0	13.3	0.0	13.3	6.7	6.7	13.3	0.0
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)									
その助成金制度のことは知らない	8	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0
知っているが応募したことはない	42	9.5	19.0	2.4	4.8	7.1	14.3	4.8	0.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	95	8.4	11.6	2.1	4.2	9.5	24.2	6.3	1.1
Q6-SQ6-1.2013~ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数									
1-4	70	7.1	14.3	2.9	2.9	8.6	21.4	5.7	0.0
5-9	47	8.5	6.4	2.1	6.4	12.8	19.1	2.1	2.1
10-19	25	16.0	16.0	0.0	4.0	4.0	16.0	8.0	0.0
20以上	8	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5	25.0	0.0

(単位: %)

	合計	Q7-SQ7-1.最も問題点と感ずる項目(第1位)					
		助成対象経費の制約が多すぎる	助成申請の前提となる自己負担金の確保に苦慮する	助成の方針や審査基準が不明確である	問い合わせ先の担当者が協力的でない	助成申請するスタッフや時間が不足している	無回答
全体	157	11.5	14.0	3.2	0.6	8.3	0.0
Q14団体の種類							
国公立文化施設	90	12.2	14.4	1.1	0.0	6.7	0.0
民間文化施設	10	20.0	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
実行委員会	24	12.5	20.8	4.2	0.0	4.2	0.0
非営利団体	12	8.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
その他	14	7.1	7.1	14.3	7.1	14.3	0.0
Q15団体・施設の設 立年・開館年							
1969年以前	11	45.5	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0
1970-1979年	14	7.1	21.4	7.1	7.1	7.1	0.0
1980-1989年	33	15.2	12.1	3.0	0.0	9.1	0.0
1990-1999年	36	8.3	11.1	2.8	0.0	13.9	0.0
2000-2009年	31	9.7	6.5	0.0	0.0	6.5	0.0
2010-2016年	17	5.9	29.4	11.8	0.0	0.0	0.0
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動							
その助成金制度のことは知らない	17	11.8	17.6	5.9	0.0	5.9	0.0
知っているが応募したことはない	117	12.0	12.0	2.6	0.9	8.5	0.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	15	13.3	20.0	0.0	0.0	13.3	0.0
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)							
その助成金制度のことは知らない	8	0.0	37.5	12.5	0.0	12.5	0.0
知っているが応募したことはない	42	14.3	11.9	4.8	2.4	4.8	0.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	0.0	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0
応募して採択されたことがある	95	10.5	10.5	2.1	0.0	9.5	0.0
Q6-SQ6-1.2013~ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数							
1-4	70	11.4	15.7	1.4	0.0	8.6	0.0
5-9	47	14.9	12.8	6.4	0.0	6.4	0.0
10-19	25	8.0	12.0	4.0	0.0	12.0	0.0
20以上	8	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0

【クロス集計(第2位)】

[団体種類]

- ・「応募や交付に必要な書類が多すぎる」と多く回答した団体は、国公立文化施設、民間文化施設であった。
- ・実行委員会で最も回答が多くあったのは「音楽や演劇、舞踊など舞台芸術分野と比較して、美術分野を対象にした助成金制度の数や種類が少ないと感じる」であった。

[美術の創造普及活動の応募・採択状況]

- ・美術の創造普及活動に採択された団体で最も多い回答は「助成申請するスタッフや時間が不足している」であった。

[地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

- ・地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)に採択された団体で最も多い回答は「応募や交付に必要な書類が多すぎる」であった。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q7-SQ7-1.最も問題点と感じる項目(第2位)							
		音楽や演劇、舞踊など舞台芸術分野と比較して、美術分野を対象にした助成金制度の数や種類が少ないと感じる	助成の趣旨や目的が合致する助成金制度が少ない	助成団体や助成金制度の情報入手に苦慮している	様々な助成金制度の応募時期が重なっている	交付決定から事業実施までに十分な期間を確保できない	応募や交付の手続きが煩雑である	応募や交付に必要な書類が多すぎる	申請に必要な資格や要件を満たすことができない
全体	146	6.8	8.2	7.5	4.8	4.1	13.0	16.4	3.4
Q14団体の種類									
国公立文化施設	80	2.5	11.3	7.5	5.0	6.3	15.0	21.3	1.3
民間文化施設	10	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	30.0	0.0
国公立大学	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
実行委員会	23	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0	17.4	13.0	4.3
非営利団体	12	16.7	8.3	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
その他	14	0.0	14.3	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	14.3
Q15団体・施設の設 立年・開館年									
1969年以前	10	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
1970-1979年	13	0.0	7.7	15.4	0.0	7.7	7.7	30.8	0.0
1980-1989年	31	3.2	3.2	6.5	0.0	9.7	22.6	12.9	3.2
1990-1999年	33	6.1	16.2	6.1	12.1	0.0	9.1	18.2	9.1
2000-2009年	27	3.7	11.1	7.4	3.7	0.0	22.2	22.2	0.0
2010-2016年	17	17.6	0.0	11.8	11.8	0.0	11.8	5.9	5.9
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動									
その助成金制度のことは知らない	15	6.7	13.3	6.7	6.7	0.0	20.0	6.7	0.0
知っているが応募したことはない	109	5.5	7.3	8.3	3.7	5.5	12.8	18.3	4.6
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
応募して採択されたことがある	14	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	7.1	0.0
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)									
その助成金制度のことは知らない	7	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	41	14.6	7.3	7.3	0.0	0.0	9.8	9.8	7.3
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0
応募して採択されたことがある	87	4.6	9.2	8.0	6.9	6.9	14.9	20.7	2.3
Q6-SQ6-1.2013~ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数									
1-4	64	7.8	9.4	10.9	1.6	3.1	14.1	17.2	1.6
5-9	44	4.5	9.1	4.5	6.8	4.5	18.2	13.6	4.5
10-19	24	8.3	4.2	0.0	8.3	8.3	4.2	16.7	8.3
20以上	8	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0

(単位：%)

	合計	Q7-SQ7-1.最も問題点と感じる項目(第2位)					
		助成対象経費の制約が多すぎる	助成申請の前提となる自己負担金の確保に苦慮する	助成の方針や審査基準が不明確である	問い合わせ先の担当者が協力的でない	助成申請するスタッフや時間が不足している	無回答
全体	146	10.3	10.3	0.0	0.0	15.1	0.0
Q14団体の種類							
国公立文化施設	80	11.3	6.3	0.0	0.0	12.5	0.0
民間文化施設	10	10.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
国公立大学	5	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
実行委員会	23	4.3	8.7	0.0	0.0	13.0	0.0
非営利団体	12	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
その他	14	7.1	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0
Q15団体・施設の設 立年・開館年							
1969年以前	10	10.0	10.0	0.0	0.0	30.0	0.0
1970-1979年	13	7.7	0.0	0.0	0.0	23.1	0.0
1980-1989年	31	16.1	9.7	0.0	0.0	12.9	0.0
1990-1999年	33	9.1	3.0	0.0	0.0	9.1	0.0
2000-2009年	27	0.0	11.1	0.0	0.0	18.5	0.0
2010-2016年	17	17.6	11.8	0.0	0.0	5.9	0.0
Q1-SQ1-1.美術の 創造普及活動							
その助成金制度のことは知らない	15	0.0	13.3	0.0	0.0	26.7	0.0
知っているが応募したことはない	109	10.1	10.1	0.0	0.0	13.8	0.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	14	14.3	14.3	0.0	0.0	21.4	0.0
Q1-SQ1-2.地域文 化施設公演・展示活 動(美術館等展 示)							
その助成金制度のことは知らない	7	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0
知っているが応募したことはない	41	12.2	14.6	0.0	0.0	17.1	0.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	7	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0
応募して採択されたことがある	87	9.2	6.9	0.0	0.0	10.3	0.0
Q6-SQ6-1.2013~ 2015年度に応募し た助成金制度の件 数							
1-4	64	6.3	9.4	0.0	0.0	18.8	0.0
5-9	44	13.6	9.1	0.0	0.0	11.4	0.0
10-19	24	12.5	16.7	0.0	0.0	12.5	0.0
20以上	8	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0

【クロス集計(第3位)】

[団体種類]

- ・「応募や交付に必要な書類が多すぎる」と多く回答した団体は、国公立文化施設と実行委員会であった。
- ・「助成対象経費の制約が多すぎる」と多く回答した団体は、国公立大学、非営利団体であった。
- ・民間文化施設で最も多く回答があったのは、「助成団体や助成金制度の情報入手に苦慮している」であった。

[美術の創造普及活動の応募・採択状況]

- ・美術の創造普及活動に採択された団体で最も多い回答は「交付決定から事業実施までに十分な期間を確保できない」、「応募や交付に必要な書類が多すぎる」であった。

[地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)の応募・採択状況]

- ・地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)に採択された団体で最も多い回答は「応募や交付の手続きが煩雑である」であった。

クロス集計

(単位: %)

	合計	Q7-SQ7-1.最も問題点と感ずる項目(第3位)							
		音楽や演劇、舞踊など舞台芸術分野と比較して、美術分野を対象とした助成金制度の数が種類が少ないと感じる	助成の趣旨や目的が合致する助成金制度が少ない	助成団体や助成金制度の情報入手に苦慮している	様々な助成金制度の応募時期が重なっている	交付決定から事業実施までに十分な期間を確保できない	応募や交付の手続きが煩雑である	応募や交付に必要な書類が多すぎる	申請に必要な資格や要件を満たすことができない
全体	131	3.8	6.1	6.1	6.9	12.2	14.5	6.9	4.6
Q14団体の種類									
国公立文化施設	70	4.3	8.6	5.7	7.1	14.3	15.7	5.7	1.4
民間文化施設	9	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1
国公立大学	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
実行委員会	21	4.8	0.0	4.8	0.0	9.5	19.0	14.3	4.8
非営利団体	11	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	18.2	9.1
その他	13	7.7	7.7	0.0	23.1	23.1	7.7	0.0	7.7
Q15団体・施設の設立年・開館年									
1969年以前	9	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	33.3	0.0	0.0
1970-1979年	12	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	8.3
1980-1989年	30	6.7	13.3	6.7	13.3	13.3	6.7	10.0	0.0
1990-1999年	28	7.1	3.6	3.6	10.7	17.9	14.3	10.7	0.0
2000-2009年	24	4.2	0.0	8.3	4.2	8.3	16.7	12.5	8.3
2010-2016年	16	0.0	6.3	6.3	0.0	18.8	18.8	0.0	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動									
その助成金制度のことは知らない	14	7.1	14.3	7.1	0.0	21.4	14.3	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	97	4.1	6.2	7.2	8.2	10.3	15.5	5.2	5.2
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	13	0.0	0.0	0.0	7.7	23.1	0.0	23.1	7.7
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)									
その助成金制度のことは知らない	7	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0
知っているが応募したことはない	36	0.0	0.0	2.8	2.8	11.1	8.3	11.1	13.9
応募したことはあるが、採択されたことはない	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0
応募して採択されたことがある	79	5.1	8.9	8.9	10.1	11.4	15.2	5.1	1.3
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数									
1-4	59	3.4	8.5	5.1	1.7	11.9	18.6	6.8	5.1
5-9	42	2.4	4.8	11.9	14.3	14.3	14.3	7.1	2.4
10-19	19	5.3	5.3	0.0	10.5	10.5	5.3	10.5	10.5
20以上	7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0

(単位: %)

	合計	Q7-SQ7-1.最も問題点と感ずる項目(第3位)					
		助成対象経費の制約が多すぎる	助成申請の前提となる自己負担金の確保に苦慮する	助成の方針や審査基準が不明確である	問い合わせ先の担当者が協力的でない	助成申請するスタッフや時間が不足している	無回答
全体	131	15.3	3.1	8.4	0.0	11.5	0.8
Q14団体の種類							
国公立文化施設	70	12.9	1.4	11.4	0.0	10.0	1.4
民間文化施設	9	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2	0.0
国公立大学	5	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
実行委員会	21	14.3	4.8	9.5	0.0	14.3	0.0
非営利団体	11	36.4	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0
その他	13	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年							
1969年以前	9	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0
1970-1979年	12	25.0	0.0	8.3	0.0	25.0	0.0
1980-1989年	30	6.7	0.0	13.3	0.0	10.0	0.0
1990-1999年	28	28.6	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0
2000-2009年	24	4.2	0.0	8.3	0.0	20.8	4.2
2010-2016年	16	6.3	12.5	18.8	0.0	12.5	0.0
Q1-SQ1-1.美術の創造普及活動							
その助成金制度のことは知らない	14	7.1	0.0	14.3	0.0	7.1	7.1
知っているが応募したことはない	97	15.5	2.1	8.2	0.0	12.4	0.0
応募したことはあるが、採択されたことはない	3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
応募して採択されたことがある	13	15.4	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0
Q1-SQ1-2.地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)							
その助成金制度のことは知らない	7	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0
知っているが応募したことはない	36	25.0	2.8	5.6	0.0	13.9	2.8
応募したことはあるが、採択されたことはない	5	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
応募して採択されたことがある	79	12.7	2.5	10.1	0.0	8.9	0.0
Q6-SQ6-1.2013~2015年度に応募した助成金制度の件数							
1-4	59	16.9	0.0	11.9	0.0	8.5	1.7
5-9	42	9.5	2.4	4.8	0.0	11.9	0.0
10-19	19	15.8	5.3	10.5	0.0	10.5	0.0
20以上	7	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0

2. 2016年度の代表的な展覧会について

(25) 2016年度の展覧会等の事業や活動に対する芸術文化振興基金の助成金交付の有無

SQ9-1

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動に対する芸術文化振興基金からの助成金の交付の有無を尋ねたところ、設問に回答した153の団体のうち、「はい」と答えた団体が68件(44.4%)、「いいえ」と答えた団体が85件(55.6%)であった。

【クロス集計】

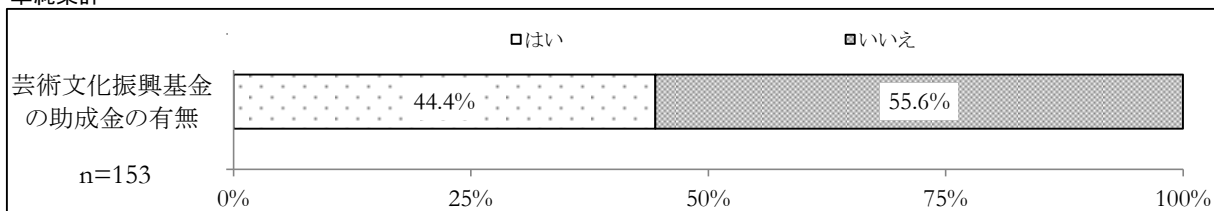
[団体種類]

- ・国公立文化施設の5割以上は「はい」と回答している。
- ・民間文化施設の6割以上、実行委員会や非営利団体の7割以上、国公立大学の8割以上は「いいえ」と回答している。

[事業の総事業費]

- ・総事業費が300万円以上1,000万円以上の団体の5割以上が「はい」と回答している。

単純集計



クロス集計

(単位：%)

	合計	Q9-SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の			
		はい	いいえ	無回答	
全体	153	44.4	55.6	0.0	
Q14団体の種類	国公立文化施設	89	55.1	44.9	0.0
	民間文化施設	9	33.3	66.7	0.0
	国公立大学	5	20.0	80.0	0.0
	実行委員会	22	22.7	77.3	0.0
	非営利団体	12	25.0	75.0	0.0
	その他	14	42.9	57.1	0.0
	Q15団体・施設の設 立年・開館年	1969年以前	11	45.5	54.5
1970-1979年		14	50.0	50.0	0.0
1980-1989年		32	62.5	37.5	0.0
1990-1999年		36	50.0	50.0	0.0
2000-2009年		30	40.0	60.0	0.0
2010-2016年		16	25.0	75.0	0.0
SQ9-1芸術文化振興 基金の助成金の有無	はい	68	100.0	0.0	0.0
	いいえ	85	0.0	100.0	0.0
Q10-SQ10-6.入場 者・参加者数合計	1-2,499人	38	36.8	63.2	0.0
	2,500-4,999人	20	65.0	35.0	0.0
	5,000-7,499人	31	48.4	51.6	0.0
	7,500-9,999人	14	42.9	57.1	0.0
	10,000-20,000人	22	50.0	50.0	0.0
	20,000人以上	22	31.8	68.2	0.0
	Q12事業の総事業 費	200万円未満	16	12.5	87.5
200万円以上300万円未満		13	38.5	61.5	0.0
300万円以上500万円未満		14	57.1	42.9	0.0
500万円以上1,000万円未満		52	53.8	46.2	0.0
1,000万円以上2,000万円未満		39	43.6	56.4	0.0
2,000万円以上		16	44.4	55.6	0.0

【単純集計】

SQ9-1で「はい」と回答した団体に、芸術文化振興基金から交付を受けた助成金制度の種類を尋ねたところ、「美術の創造普及活動」と答えた団体が7件(10.3%)、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」と答えた団体が57件(83.8%)、「その他」と答えた団体が4件(5.9%)であった。

【クロス集計】

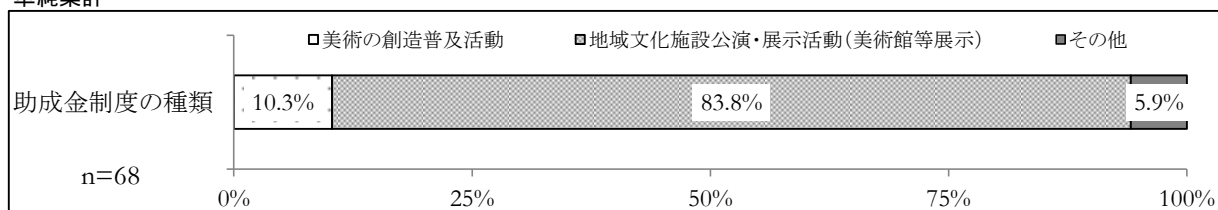
[団体種類]

・実行委員会の6割が「美術の創造普及活動」と回答し、国公立文化施設、民間文化施設の9割以上、非営利団体の6割以上が、「地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)」と回答している。

[事業の総事業費]

・総事業費は200万円未満の4割、200万円以上300万円未満の5割が、「美術の創造普及活動」と回答している。

単純集計



クロス集計

(単位：%)

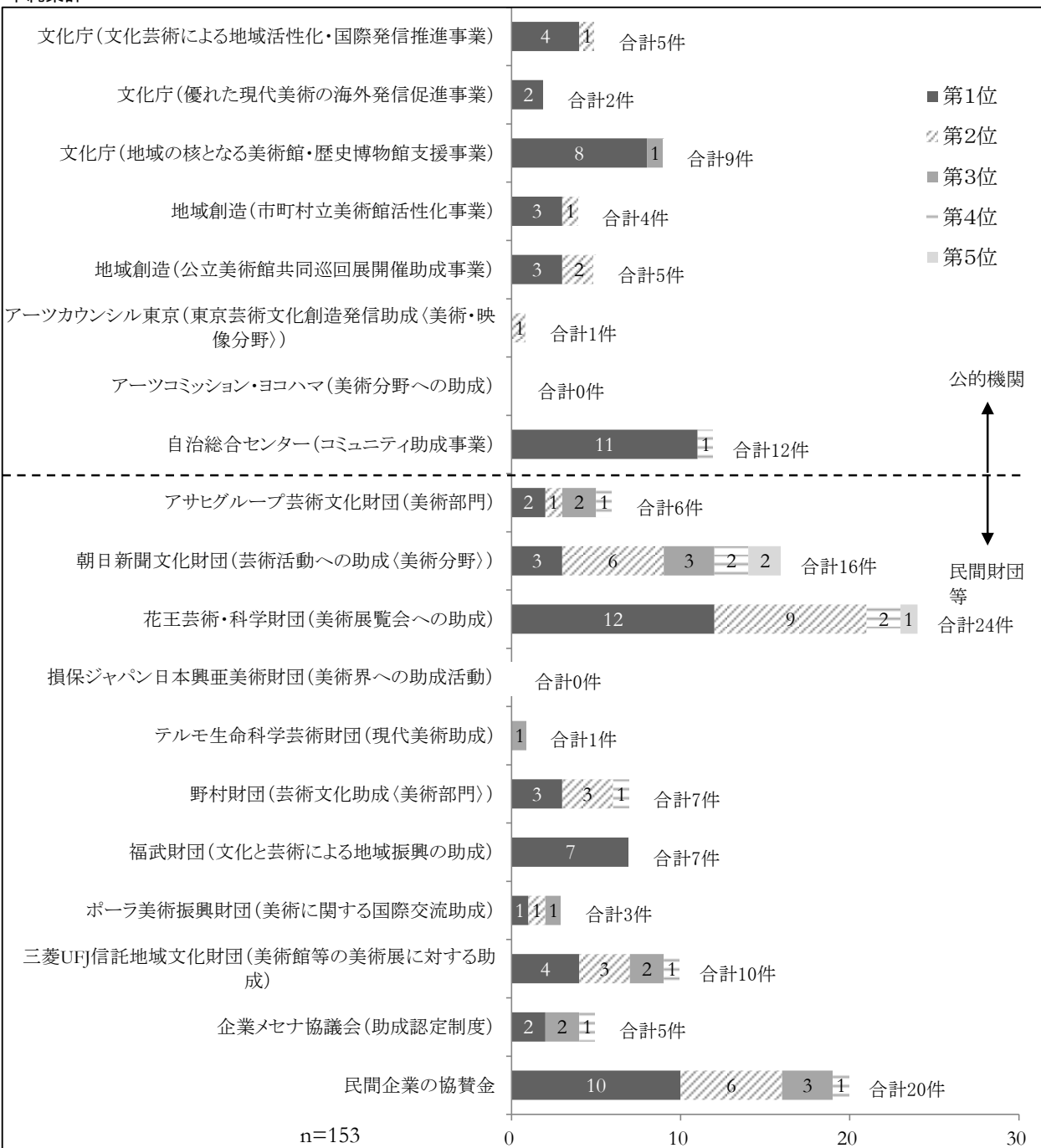
	合計	Q9-SQ9-2.それほどの助成金制度ですか			
		美術の創造普及活動	地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)	その他	無回答
全体	68	10.3	83.8	5.9	0.0
Q14団体の種類					
国公立文化施設	49	2.0	95.9	2.0	0.0
民間文化施設	3	0.0	100.0	0.0	0.0
国公立大学	1	100.0	0.0	0.0	0.0
実行委員会	5	60.0	0.0	40.0	0.0
非営利団体	3	33.3	66.7	0.0	0.0
その他	6	16.7	66.7	16.7	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年					
1969年以前	5	0.0	100.0	0.0	0.0
1970-1979年	7	0.0	85.7	14.3	0.0
1980-1989年	20	0.0	100.0	0.0	0.0
1990-1999年	18	5.6	83.3	11.1	0.0
2000-2009年	12	33.3	66.7	0.0	0.0
2010-2016年	4	25.0	50.0	25.0	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無					
はい	68	10.3	83.8	5.9	0.0
いいえ	0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計					
1-2,499人	14	28.6	64.3	7.1	0.0
2,500-4,999人	13	0.0	100.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	15	0.0	93.3	6.7	0.0
7,500-9,999人	6	0.0	100.0	0.0	0.0
10,000-20,000人	11	0.0	90.9	9.1	0.0
20,000人以上	7	28.6	57.1	14.3	0.0
Q12事業の総事業費					
200万円未満	2	50.0	50.0	0.0	0.0
200万円以上300万円未満	5	40.0	60.0	0.0	0.0
300万円以上500万円未満	8	0.0	87.5	12.5	0.0
500万円以上1,000万円未満	28	14.3	82.1	3.6	0.0
1,000万円以上2,000万円未満	17	0.0	94.1	5.9	0.0
2,000万円以上	6	0.0	83.3	16.7	0.0

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動に対して、芸術文化振興基金以外から交付を受けた助成金制度について金額の多い順に回答を求めたところ、第1位では、「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」と答えた団体が12件、「自治総合センター(コミュニティ助成事業)」と答えた団体が11件、「民間企業の協賛金」と答えた団体が10件であった。

また、第1位から第5位の合計では、「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」と答えた団体が24件、「民間企業の協賛金」と答えた団体が20件、「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」と答えた団体が16件、「自治総合センター(コミュニティ助成事業)」と答えた団体が12件であった。

単純集計



【クロス集計(第1位)】

[団体種類]

- ・国公立文化施設で最も多い回答は「自治総合センター(コミュニティ助成事業)」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は「文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は「福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は「自治総合センター(コミュニティ助成事業)」であった。

[芸術文化振興基金の助成金の有無]

- ・芸術文化振興基金の助成を受けた団体で最も多い回答は「花王芸術・科学財団(美術展覧会)」で、助成を受けていない団体で最も多い回答は「文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)」であった。

クロス集計

(単位: %)

	合計	Q9-SQ9-3.芸術文化振興基金以外の助成金、協賛金で交付を受けたもの(第1位)									
		文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)	文化庁(優れた現代美術の海外発信促進事業)	文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)	地域創造(市町村立美術館活性化事業)	地域創造(公立美術館共同巡回展開催助成事業)	アートカウンシル東京(東京芸術文化創造発催助成(美術・映像分野))	アーツカウンション・ヨコハマ(美術分野への助成)	自治総合センター(コミュニティ助成事業)	アサヒグループ財団(美術部門)	朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))
全体	153	2.6	1.3	5.2	2.0	2.0	0.0	0.0	7.2	1.3	2.0
Q14団体の種類											
国公立文化施設	89	2.2	0.0	6.7	2.2	3.4	0.0	0.0	9.0	1.1	1.1
民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
実行委員会	22	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5
非営利団体	12	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	8.3
その他	14	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年											
1969年以前	11	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1
1980-1989年	32	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
1990-1999年	36	2.8	0.0	11.1	8.3	2.8	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
2000-2009年	30	10.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
2010-2016年	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無											
はい	68	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	5.9	1.5	1.5
いいえ	85	4.7	2.4	9.4	2.4	3.5	0.0	0.0	8.2	1.2	2.4
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計											
1-2,499人	38	7.9	2.6	5.3	2.6	0.0	0.0	0.0	7.9	0.0	5.3
2,500-4,999人	20	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	0.0	3.2	9.7	0.0	3.2	0.0	0.0	3.2	3.2	0.0
7,500-9,999人	14	0.0	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	21.4	0.0	7.1
10,000-20,000人	22	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
20,000人以上	22	4.5	0.0	4.5	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0
Q12事業の総事業費											
200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300万円以上500万円未満	14	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	1.9	1.9	7.7	3.8	1.9	0.0	0.0	11.5	3.8	1.9
1,000万円以上2,000万円未満	39	0.0	2.6	7.7	2.6	5.1	0.0	0.0	12.8	0.0	0.0
2,000万円以上	16	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位: %)

	合計	Q9-SQ9-3.芸術文化振興基金以外の助成金、協賛金で交付を受けたもの(第1位)								
		花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)	損保ジャパン日本興亜美術財団(美術界への助成活動)	テルモ生命科学芸術財団(現代美術助成)	野村財団(芸術文化助成(美術部門))	福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)	ホーラ美術振興財団(美術に関する国際交流助成)	三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等に対する助成)	企業メセナ協議会(助成認定制度)	民間企業の協賛金
全体	153	7.8	0.0	0.0	2.0	4.6	0.7	2.6	1.3	6.5
Q14団体の種類										
国公立文化施設	89	7.9	0.0	0.0	2.2	1.1	0.0	3.4	0.0	5.6
民間文化施設	9	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
実行委員会	22	4.5	0.0	0.0	0.0	22.7	4.5	4.5	4.5	13.6
非営利団体	12	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	14	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	7.1
Q15団体・施設の設立年・開館年										
1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2
1970-1979年	14	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	7.1
1980-1989年	32	12.5	0.0	0.0	3.1	3.1	0.0	3.1	0.0	3.1
1990-1999年	36	2.8	0.0	0.0	2.8	2.8	0.0	5.6	0.0	5.6
2000-2009年	30	13.3	0.0	0.0	0.0	6.7	3.3	0.0	0.0	6.7
2010-2016年	16	0.0	0.0	0.0	6.3	18.8	0.0	0.0	6.3	12.5
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無										
はい	68	7.4	0.0	0.0	2.9	2.9	0.0	1.5	0.0	4.4
いいえ	85	8.2	0.0	0.0	1.2	5.9	1.2	3.5	2.4	8.2
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計										
1-2,499人	38	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	2.6	2.6	7.9
2,500-4,999人	20	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	9.7	0.0	0.0	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	6.5
7,500-9,999人	14	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0
10,000-20,000人	22	18.2	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	4.5	0.0	4.5
20,000人以上	22	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	4.5	0.0	4.5	18.2
Q12事業の総事業費										
200万円未満	16	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	12.5
200万円以上300万円未満	13	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0
300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	7.1
500万円以上1,000万円未満	52	7.7	0.0	0.0	1.9	3.8	0.0	3.8	0.0	1.9
1,000万円以上2,000万円未満	39	10.3	0.0	0.0	5.1	2.6	0.0	0.0	2.6	10.3
2,000万円以上	16	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	12.5

【クロス集計(第2位)】

[団体種類]

- ・国公立文化施設で最も多い回答は「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は「三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)」、「民間企業の協賛金」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は「野村財団(芸術文化助成(美術部門))」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は「民間企業の協賛金」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は「文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)」、「アーツカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術・映像分野))」、「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」、「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」であった。

クロス集計

(単位: %)

	合計	Q9-SQ9-3.芸術文化振興基金以外の助成金、協賛金で交付を受けたもの(第2位)									
		文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)	文化庁(優れた現代美術の海外発信促進事業)	文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)	地域創造(市町村立美術館活性化事業)	地域創造(公立美術館共同巡回展開催助成事業)	アーツカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術・映像分野))	アーツカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術・映像分野))	自治総合センター(コミュニティ助成事業)	アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)	朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))
全体	153	0.7	0.0	0.0	0.7	1.3	0.7	0.0	0.0	0.7	3.9
Q14団体の種類											
国公立文化施設	89	0.0	0.0	0.0	1.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4
民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
実行委員会	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5
非営利団体	12	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3
その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
Q15団体・施設の設立年・開館年											
1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
1980-1989年	32	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1
1990-1999年	36	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0
2000-2009年	30	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	6.7
2010-2016年	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無											
はい	68	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	1.5	4.4
いいえ	85	1.2	0.0	0.0	1.2	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	3.5
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計											
1-2,499人	38	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	5.3
2,500-4,999人	20	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7,500-9,999人	14	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10,000-20,000人	22	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0
20,000人以上	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6
Q12事業の総事業費											
200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
500万円以上1,000万円未満	52	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8
1,000万円以上2,000万円未満	39	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	2.6	5.1
2,000万円以上	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3

(単位: %)

	合計	Q9-SQ9-3.芸術文化振興基金以外の助成金、協賛金で交付を受けたもの(第2位)									
		花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)	損保ジャパン日本興亜美術財団(美術界への助成活動)	テルモ生命科学芸術財団(現代美術助成)	野村財団(芸術文化助成(美術部門))	福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)	ポーラ美術振興財団(美術に関する国際交流助成)	三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)	企業メッセ協議会(助成認定制度)	民間企業の協賛金	
全体	153	5.9	0.0	0.0	2.0	0.0	0.7	2.0	0.0	3.9	
Q14団体の種類											
国公立文化施設	89	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	2.2	0.0	1.1	
民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	
国公立大学	5	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
実行委員会	22	4.5	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	
非営利団体	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	
Q15団体・施設の設立年・開館年											
1969年以前	11	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	
1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
1980-1989年	32	9.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	3.1	
1990-1999年	36	2.8	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	
2000-2009年	30	6.7	0.0	0.0	3.3	0.0	3.3	3.3	0.0	6.7	
2010-2016年	16	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無											
はい	68	5.9	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	1.5	0.0	1.5	
いいえ	85	5.9	0.0	0.0	2.4	0.0	1.2	2.4	0.0	5.9	
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計											
1-2,499人	38	5.3	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	
2,500-4,999人	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	
5,000-7,499人	31	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	3.2	0.0	9.7	
7,500-9,999人	14	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
10,000-20,000人	22	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	
20,000人以上	22	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5	
Q12事業の総事業費											
200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	
200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
300万円以上500万円未満	14	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	
500万円以上1,000万円未満	52	5.8	0.0	0.0	5.8	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	
1,000万円以上2,000万円未満	39	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	7.7	
2,000万円以上	16	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	

【クロス集計(第3位)】

[団体種類]

- ・国公立文化施設で最も多い回答は「三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)」、「民間企業の協賛金」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は「企業メセナ協議会(助成認定制度)」、「民間企業の協賛金」であった。

クロス集計

(単位: %)

	合計	Q9-SQ9-3.芸術文化振興基金以外の助成金、協賛金で交付を受けたもの(第3位)										
		文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)	文化庁(優れた現代美術の海外発信促進事業)	文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)	地域創造(市町村立美術館活性化事業)	地域創造(公立美術館共同巡回展開催助成事業)	アートカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術・映像分野))	アーツカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術分野への助成))	自治総合センター(コミュニティ助成事業)	アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)	朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))	
Q14団体の種類	全体	153	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	2.0
	国公立文化施設	89	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
	国公立大学	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	実行委員会	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	9.1
	非営利団体	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1980-1989年	32	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1990-1999年	36	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0
	2000-2009年	30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	10.0
	2010-2016年	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無	はい	68	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5
	いいえ	85	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	2.4
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計	1-2,499人	38	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3
	2,500-4,999人	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5,000-7,499人	31	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0
	7,500-9,999人	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10,000-20,000人	22	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20,000人以上	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5
Q12事業の総事業費	200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
	200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	500万円以上1,000万円未満	52	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	1.9
	1,000万円以上2,000万円未満	39	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2,000万円以上	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3

(単位: %)

	合計	Q9-SQ9-3.芸術文化振興基金以外の助成金、協賛金で交付を受けたもの(第3位)									
		花王芸術科学財団(美術展覧会への助成)	損保ジャパン日本興亜美術財団(美術界への助成活動)	テルモ生命科学芸術財団(現代美術助成)	野村財団(芸術文化助成(美術部門))	福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)	ポータ美術振興財団(美術に関する国際交流助成)	三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)	企業メセナ協議会(助成認定制度)	民間企業の協賛金	
Q14団体の種類	全体	153	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	1.3	1.3	2.0
	国公立文化施設	89	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	1.1	2.2	0.0	2.2
	民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	国公立大学	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実行委員会	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0
	非営利団体	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3
	その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
	1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1980-1989年	32	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1
	1990-1999年	36	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	2.8	0.0	2.8
	2000-2009年	30	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.3
	2010-2016年	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無	はい	68	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5	0.0	2.9
	いいえ	85	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2	2.4	1.2
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計	1-2,499人	38	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	2.6	2.6
	2,500-4,999人	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5,000-7,499人	31	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0
	7,500-9,999人	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10,000-20,000人	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
	20,000人以上	22	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0
Q12事業の総事業費	200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
	200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	500万円以上1,000万円未満	52	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0
	1,000万円以上2,000万円未満	39	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	5.1	5.1
	2,000万円以上	16	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0

【クロス集計(第4位)】

[団体種類]

- ・国公立文化施設で最も多い回答は「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は「アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)」、「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は「野村財団(芸術文化助成(美術部門))」、「三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は「民間企業の協賛金」であった。

クロス集計

(単位: %)

	合計	Q9-SQ9-3.芸術文化振興基金以外の助成金、協賛金で交付を受けたもの(第4位)									
		文化庁(文化芸術による地域活性化、国際発信推進事業)	文化庁(優れた現代美術の海外発信促進事業)	文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)	地域創造(市町村立美術館活性化事業)	地域創造(公立美術館共同巡回展開催助成事業)	アーツカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術・映像分野))	アーツカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術分野への助成))	自治総合センター(コミュニティ助成事業)	アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)	朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))
全体	153	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	1.3
Q14団体の種類											
国公立文化施設	89	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	1.1
民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
実行委員会	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非営利団体	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年											
1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1980-1989年	32	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1990-1999年	36	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	2.8
2000-2009年	30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2010-2016年	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無											
はい	68	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0
いいえ	85	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	2.4
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計											
1-2,499人	38	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6
2,500-4,999人	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2
7,500-9,999人	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
10,000-20,000人	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20,000人以上	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
Q12事業の総事業費											
200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	3.8
1,000万円以上2,000万円未満	39	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2,000万円以上	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0

(単位: %)

	合計	花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)	損保ジャパン日本興亜美術財団(美術界への助成活動)	テルモ生命科学芸術財団(現代美術助成)	野村財団(芸術文化助成(美術部門))	福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)	ポータル芸術振興財団(美術に関する国際交流助成)	三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等に対する助成)	企業メセナ協議会(助成認定制度)	民間企業の協賛金
		全体	153	1.3	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7
Q14団体の種類										
国公立文化施設	89	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0
民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
実行委員会	22	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
非営利団体	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年										
1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1980-1989年	32	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1990-1999年	36	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2000-2009年	30	3.3	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	3.3	3.3	3.3
2010-2016年	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無										
はい	68	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
いいえ	85	1.2	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	1.2	1.2	1.2
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計										
1-2,499人	38	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6
2,500-4,999人	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0
7,500-9,999人	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10,000-20,000人	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0
20,000人以上	22	9.1	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q12事業の総事業費										
200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0
200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1,000万円以上2,000万円未満	39	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	2.6
2,000万円以上	16	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【クロス集計(第5位)】

[団体種類]

- ・国公立文化施設で最も多い回答は「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は「朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は「花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)」であった。

クロス集計

(単位: %)

	合計	Q9-SQ9-3.芸術文化振興基金以外の助成金、協賛金で交付を受けたもの(第5位)									
		文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)	文化庁(優れた現代美術の海外発信促進事業)	文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)	地域創造(市町村立美術館活性化事業)	地域創造(公立美術館共同巡回展開催助成事業)	アートカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術・映像分野))	アーツカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成(美術分野への助成))	自治総合センター(コミュニティ助成事業)	アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)	朝日新聞文化財団(芸術活動への助成(美術分野))
全体	153	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
Q14団体の種類											
国公立文化施設	89	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
実行委員会	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非営利団体	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設 立年・開館年											
1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1980-1989年	32	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1990-1999年	36	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2000-2009年	30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3
2010-2016年	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
SQ9-1芸術文化振興 基金の助成金の有無											
はい	68	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
いいえ	85	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4
Q10-SQ10-6.入場 者・参加者数合計											
1-2,499人	38	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2,500-4,999人	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7,500-9,999人	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
10,000-20,000人	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20,000人以上	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5
Q12事業の総事業 費											
200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
1,000万円以上2,000万円未満	39	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2,000万円以上	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3

(単位: %)

	合計	Q9-SQ9-3.芸術文化振興基金以外の助成金、協賛金で交付を受けたもの(第5位)									
		花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)	損保ジャパン日本興亜美術財団(美術界への助成活動)	テルモ生命科学芸術財団(現代美術助成)	野村財団(芸術文化助成(美術部門))	福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)	ポータ美術振興財団(美術に関する国際交流助成)	三菱UFJ信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)	企業×セナ協議会(助成認定制度)	民間企業の協賛金	
全体	153	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
Q14団体の種類											
国公立文化施設	89	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
国公立大学	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
実行委員会	22	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
非営利団体	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
Q15団体・施設の設 立年・開館年											
1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
1980-1989年	32	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
1990-1999年	36	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
2000-2009年	30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
2010-2016年	16	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
SQ9-1芸術文化振興 基金の助成金の有無											
はい	68	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
いいえ	85	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
Q10-SQ10-6.入場 者・参加者数合計											
1-2,499人	38	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
2,500-4,999人	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
5,000-7,499人	31	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
7,500-9,999人	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
10,000-20,000人	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
20,000人以上	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
Q12事業の総事業 費											
200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
500万円以上1,000万円未満	52	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
1,000万円以上2,000万円未満	39	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
2,000万円以上	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

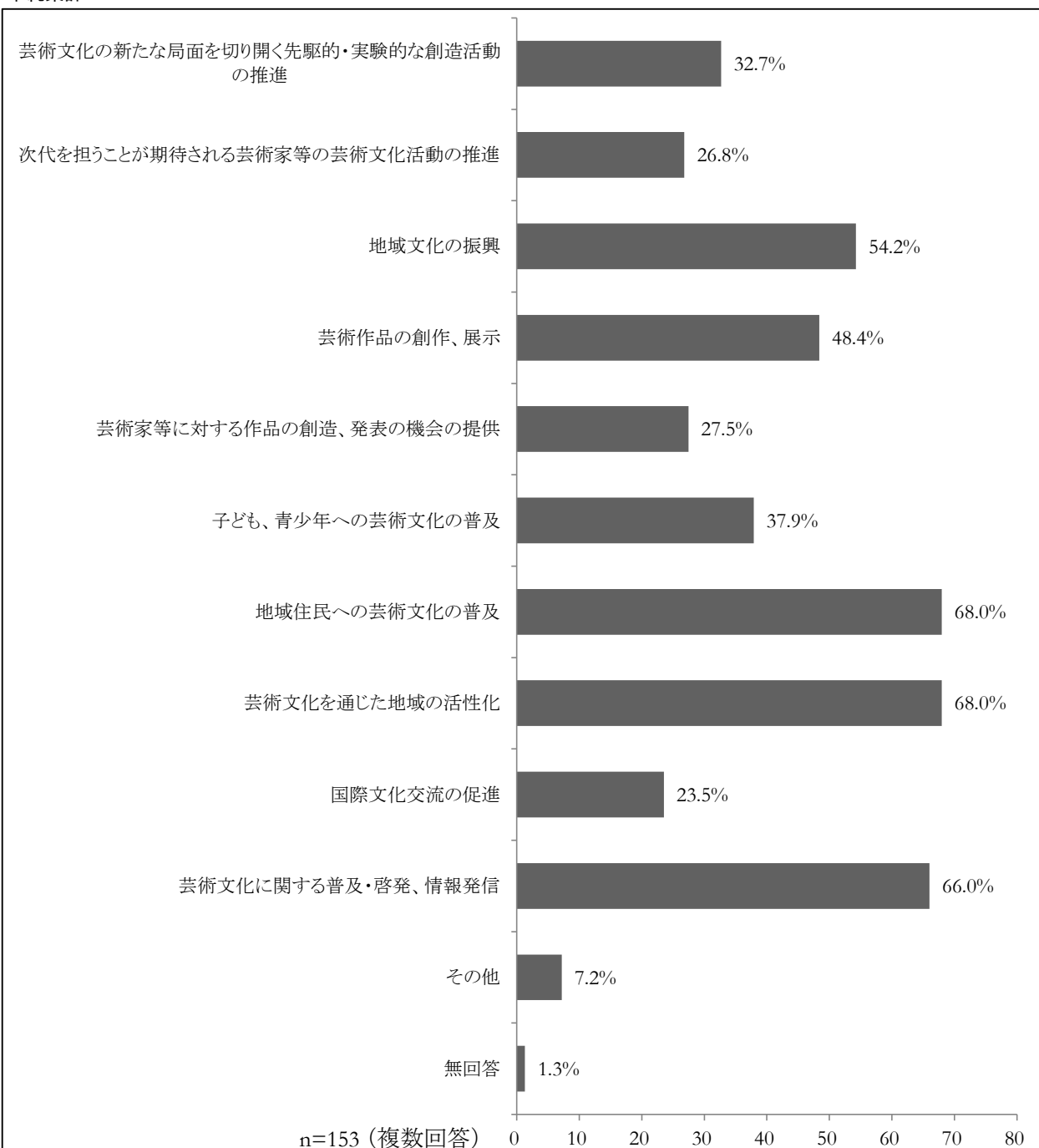
【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動の目的について尋ねたところ、「地域住民への芸術文化の普及」、「芸術文化を通じた地域の活性化」が68%で最も多く、次いで「芸術文化に関する普及・啓発、情報発信」が66.0%、「地域文化の振興」が54.2%となっている。

「芸術文化の新たな局面を切り開く先駆的・実験的な創造活動の推進」や「次代を担うことが期待される芸術家等の芸術文化活動の推進」に関する回答は比較的少なかった。

なお、「その他」では、「地域文化の保存と継承」、「震災からの文化的復興」、「アートによるまちづくり事業」、「空家の利活用」、「地域におけるアートマネジメント人材の育成」、「ソーシャルインクルージョン」などの具体的な回答があった。

単純集計



【クロス集計】

[団体種類]

- ・「地域住民への芸術文化の普及」の回答では、民間文化施設や国公立大学の回答が比較的少ない。
- ・「芸術文化の新たな局面を切り開く先駆的・実験的な創造活動の推進」や「次代を担うことが期待される芸術家等の芸術文化活動の推進」、「芸術作品の創作、展示」の回答では、国公立大学、実行委員会、非営利団体の回答が比較的多く、国公立文化施設や民間文化施設の回答が比較的少ない。

[設立年・開館年]

- ・「芸術文化の新たな局面を切り開く先駆的・実験的な創造活動の推進」や「次代を担うことが期待される芸術家等の芸術文化活動の推進」、「芸術家等に対する作品の創造、発表の機会の提供」では、2000年以降に開館・設立した団体の回答が比較的多い。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q10-SQ10-1.当該事業の目的について											無回答
		芸術文化の新たな局面を切り開く先駆的・実験的な創造活動の推進	次代を担うことが期待される芸術家等の芸術文化活動の推進	地域文化の振興	芸術作品の創作、展示	芸術家等に対する作品の創造、発表の機会の提供	子ども、青少年への芸術文化の普及	地域住民への芸術文化の普及	芸術文化を通じた地域の活性化	国際文化交流の促進	芸術文化に関する普及・啓発、情報発信	その他	
全体	153	32.7	26.8	54.2	48.4	27.5	37.9	68.0	68.0	23.5	66.0	7.2	1.3
Q14団体の種類													
国公立文化施設	89	20.2	13.5	56.2	43.8	14.6	34.8	70.8	65.2	9.0	66.3	6.7	0.0
民間文化施設	9	33.3	22.2	44.4	44.4	11.1	33.3	44.4	66.7	11.1	66.7	0.0	0.0
国公立大学	5	100.0	40.0	40.0	60.0	20.0	20.0	40.0	80.0	60.0	60.0	20.0	0.0
実行委員会	22	59.1	68.2	72.7	54.5	72.7	45.5	81.8	90.9	68.2	72.7	9.1	4.5
非営利団体	12	50.0	41.7	41.7	50.0	41.7	41.7	58.3	50.0	25.0	58.3	16.7	8.3
その他	14	35.7	35.7	35.7	64.3	42.9	42.9	64.3	57.1	42.9	71.4	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年													
1969年以前	11	36.4	18.2	72.7	36.4	18.2	27.3	36.4	72.7	18.2	90.9	0.0	0.0
1970-1979年	14	14.3	14.3	57.1	42.9	21.4	50.0	57.1	71.4	7.1	71.4	0.0	0.0
1980-1989年	32	18.8	6.3	40.6	37.5	9.4	43.8	78.1	59.4	6.3	65.6	9.4	0.0
1990-1999年	36	30.6	25.0	52.8	58.3	25.0	33.3	66.7	55.6	36.1	55.6	5.6	0.0
2000-2009年	30	43.3	36.7	53.3	60.0	43.3	30.0	80.0	76.7	26.7	70.0	6.7	0.0
2010-2016年	16	50.0	56.3	68.8	37.5	50.0	31.3	56.3	81.3	43.8	62.5	12.5	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無													
はい	68	26.5	22.1	64.7	47.1	29.4	33.8	69.1	66.2	20.6	66.2	2.9	0.0
いいえ	85	37.6	30.6	45.9	49.4	25.9	41.2	67.1	69.4	25.9	65.9	10.6	2.4
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計													
1-2,499人	38	34.2	31.6	52.6	42.1	34.2	36.8	76.3	68.4	36.8	71.1	5.3	0.0
2,500-4,999人	20	25.0	15.0	50.0	30.0	15.0	40.0	75.0	60.0	10.0	35.0	10.0	0.0
5,000-7,499人	31	25.8	12.9	54.8	48.4	12.9	35.5	74.2	74.2	9.7	74.2	6.5	0.0
7,500-9,999人	14	42.9	21.4	64.3	57.1	28.6	35.7	71.4	85.7	21.4	71.4	7.1	0.0
10,000-20,000人	22	31.8	31.8	54.5	63.6	27.3	36.4	50.0	63.6	13.6	68.2	9.1	0.0
20,000人以上	22	40.9	50.0	63.6	63.6	50.0	54.5	68.2	68.2	50.0	81.8	9.1	0.0
Q12事業の総事業費													
200万円未満	16	43.8	43.8	56.3	37.5	31.3	31.3	75.0	81.3	25.0	50.0	12.5	0.0
200万円以上300万円未満	13	23.1	15.4	61.5	46.2	23.1	30.8	84.6	69.2	7.7	53.8	0.0	7.7
300万円以上500万円未満	14	28.6	21.4	71.4	42.9	28.6	71.4	64.3	64.3	14.3	92.9	7.1	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	26.9	21.2	50.0	44.2	17.3	28.8	69.2	65.4	23.1	55.8	11.5	0.0
1,000万円以上2,000万円未満	39	35.9	28.2	51.3	51.3	33.3	41.0	66.7	66.7	23.1	76.9	2.6	0.0
2,000万円以上	16	43.8	43.8	56.3	75.0	50.0	50.0	56.3	75.0	50.0	87.5	6.3	0.0

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動の種類について尋ねたところ、「企画展」が67.3%で最も多く、次いで「アートプロジェクト」が9.2%、「芸術祭(フェスティバル)」が7.8%となっている。

なお、「その他」では、「教育普及活動」、「アートによるまちづくり事業」、「文化芸術による復興支援」などの具体的な回答があった。

【クロス集計】**[団体種類]**

・国公立文化施設の8割以上、民間文化施設の6割以上、国公立文化施設や非営利団体の4割以上が「企画展」と回答している。

・実行委員会で最も多い回答は「芸術祭(フェスティバル)」であった。

・実行委員会、非営利団体が「アートプロジェクト」を比較的多く回答している。

[設立年・開館年]

・「企画展」に関しては、開館・設立年からの年数が多い団体ほど、その回答の占める割合が高い。

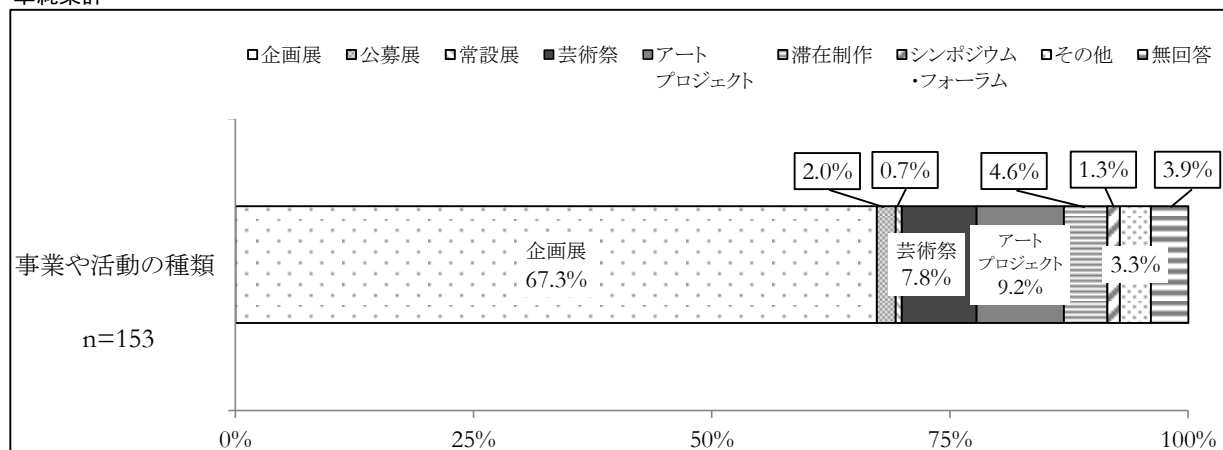
・2000年以降に開館・設立した団体が、「芸術祭(フェスティバル)」を比較的多く回答している。

・2010年以降に開館・設立した団体が、「アートプロジェクト」を比較的多く回答している。

[入場者数]

・20,000人以上の入場者が来場した事業の団体は、「企画展」、「芸術祭(フェスティバル)」を比較的多く回答している。

単純集計



クロス集計

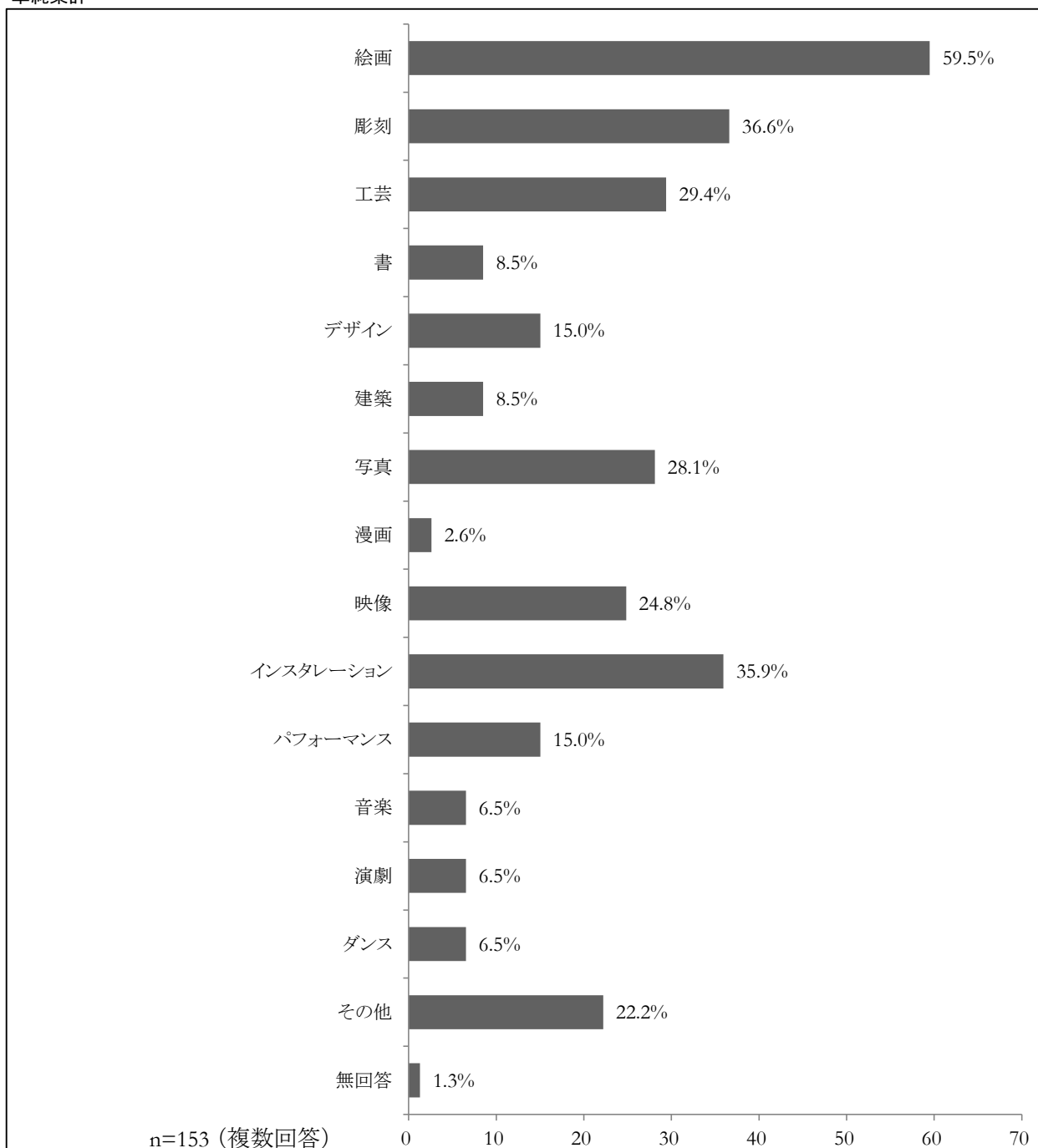
(単位: %)

	合計	Q10-SQ10-2.最も合致する事業の種類をお選びください								
		企画展	公募展	常設展	芸術祭 (フェスティバル)	アートプロジェクト	滞在制作 (レジデンス)	シンポジウム・フォーラム	その他	無回答
全体	153	67.3	2.0	0.7	7.8	9.2	4.6	1.3	3.3	3.9
Q14団体の種類										
国公立文化施設	89	83.1	0.0	1.1	2.2	3.4	2.2	1.1	3.4	3.4
民間文化施設	9	66.7	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0
国公立大学	5	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0
実行委員会	22	18.2	4.5	0.0	31.8	22.7	13.6	0.0	0.0	9.1
非営利団体	12	41.7	8.3	0.0	8.3	33.3	0.0	0.0	0.0	8.3
その他	14	71.4	7.1	0.0	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年										
1969年以前	11	90.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
1970-1979年	14	85.7	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
1980-1989年	32	84.4	0.0	3.1	0.0	6.3	0.0	0.0	3.1	3.1
1990-1999年	36	69.4	0.0	0.0	5.6	2.8	11.1	0.0	8.3	2.8
2000-2009年	30	66.7	3.3	0.0	13.3	3.3	10.0	0.0	0.0	3.3
2010-2016年	16	37.5	6.3	0.0	18.8	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0
SQ9-1 芸術文化振興基金の助成金の有無										
はい	68	85.3	2.9	0.0	7.4	0.0	1.5	0.0	0.0	2.9
いいえ	85	52.9	1.2	1.2	8.2	16.5	7.1	2.4	5.9	4.7
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計										
1-2,499人	38	60.5	2.6	0.0	2.6	18.4	5.3	2.6	2.6	5.3
2,500-4,999人	20	70.0	0.0	0.0	0.0	10.0	15.0	0.0	5.0	0.0
5,000-7,499人	31	80.6	3.2	3.2	6.5	3.2	0.0	0.0	3.2	0.0
7,500-9,999人	14	64.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	7.1	7.1	7.1
10,000-20,000人	22	90.9	0.0	0.0	4.5	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0
20,000人以上	22	45.5	0.0	0.0	31.8	9.1	4.5	0.0	4.5	4.5
Q12事業の総事業費										
200万円未満	16	56.3	0.0	0.0	0.0	37.5	6.3	0.0	0.0	0.0
200万円以上300万円未満	13	53.8	7.7	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	7.7
300万円以上500万円未満	14	78.6	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	69.2	1.9	0.0	7.7	9.6	3.8	1.9	3.8	1.9
1,000万円以上2,000万円未満	39	71.8	2.6	0.0	7.7	7.7	2.6	2.6	0.0	5.1
2,000万円以上	16	62.5	0.0	0.0	18.8	0.0	6.3	0.0	6.3	6.3

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動のジャンルについて尋ねたところ、「絵画」が59.5%で最も多く、次いで「彫刻」が36.6%、「インスタレーション」が35.9%となっている。なお、「その他」では、「版画」、「映画」、「文学」、「歴史」、「文化財」、「食」、「ソーシャリーエンゲージドアート」などの具体的な回答があった。

単純集計



【クロス集計】

[団体種類]

- ・国公立文化施設の6割以上、国公私大学の8割以上が「絵画」と回答している。
- ・民間文化施設の5割以上が「工芸」と回答している。
- ・実行委員会の7割以上、非営利団体の5割以上が「インスタレーション」と回答している。

[事業の総事業費]

- ・事業の総事業費が200万円未満の団体の7割以上が「インスタレーション」と回答している。
- ・事業の総事業費が200万円以上の団体で最も多い回答は「絵画」であった。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q10-SQ10-3.当該事業で扱ったジャンル										
		絵画	彫刻	工芸	書	デザイン	建築	写真	漫画	映像	インスタレーション	
全体	153	59.5	36.6	29.4	8.5	15.0	8.5	28.1	2.6	24.8	35.9	
Q14団体の種類	国公立文化施設	89	64.0	33.7	23.6	9.0	10.1	2.2	25.8	0.0	16.9	21.3
	民間文化施設	9	44.4	33.3	55.6	11.1	22.2	11.1	33.3	0.0	22.2	33.3
	国公立大学	5	80.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0
	実行委員会	22	63.6	63.6	54.5	13.6	27.3	18.2	50.0	4.5	50.0	72.7
	非営利団体	12	16.7	8.3	0.0	0.0	8.3	25.0	16.7	8.3	41.7	50.0
	その他	14	64.3	35.7	28.6	0.0	21.4	14.3	21.4	0.0	14.3	50.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	11	45.5	27.3	18.2	0.0	36.4	9.1	18.2	0.0	18.2	45.5
	1970-1979年	14	28.6	50.0	42.9	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	14.3	7.1
	1980-1989年	32	81.3	34.4	31.3	15.6	9.4	3.1	18.8	0.0	12.5	15.6
	1990-1999年	36	55.6	33.3	25.0	11.1	11.1	2.8	38.9	2.8	33.3	41.7
	2000-2009年	30	63.3	40.0	26.7	3.3	16.7	16.7	20.0	0.0	26.7	43.3
	2010-2016年	16	56.3	50.0	43.8	6.3	18.8	18.8	37.5	6.3	43.8	68.8
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無	はい	68	57.4	35.3	30.9	11.8	10.3	5.9	27.9	1.5	22.1	30.9
	いいえ	85	61.2	37.6	28.2	5.9	18.8	10.6	28.2	3.5	27.1	40.0
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計	1-2,499人	38	50.0	28.9	36.8	2.6	5.3	10.5	31.6	2.6	23.7	47.4
	2,500-4,999人	20	35.0	50.0	25.0	5.0	5.0	0.0	25.0	0.0	20.0	40.0
	5,000-7,499人	31	77.4	25.8	32.3	16.1	12.9	3.2	12.9	0.0	3.2	12.9
	7,500-9,999人	14	50.0	21.4	14.3	7.1	21.4	21.4	35.7	7.1	28.6	35.7
	10,000-20,000人	22	63.6	36.4	27.3	4.5	13.6	9.1	27.3	0.0	36.4	40.9
	20,000人以上	22	81.8	68.2	36.4	18.2	36.4	9.1	50.0	9.1	50.0	45.5
Q12事業の総事業費	200万円未満	16	37.5	37.5	25.0	0.0	6.3	12.5	43.8	6.3	31.3	75.0
	200万円以上300万円未満	13	84.6	30.8	38.5	15.4	30.8	7.7	38.5	0.0	15.4	30.8
	300万円以上500万円未満	14	64.3	14.3	42.9	21.4	7.1	7.1	14.3	0.0	14.3	35.7
	500万円以上1,000万円未満	52	51.9	32.7	25.0	7.7	11.5	7.7	25.0	1.9	23.1	25.0
	1,000万円以上2,000万円未満	39	59.0	46.2	35.9	5.1	15.4	10.3	20.5	2.6	25.6	38.5
	2,000万円以上	16	87.5	56.3	18.8	12.5	25.0	6.3	50.0	6.3	43.8	37.5

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動の最も中心的なジャンルについて尋ねたところ、「絵画」が33.3%で最も多く、次いで「インスタレーション」が20.9%、「その他」が16.3%となっている。

【クロス集計】

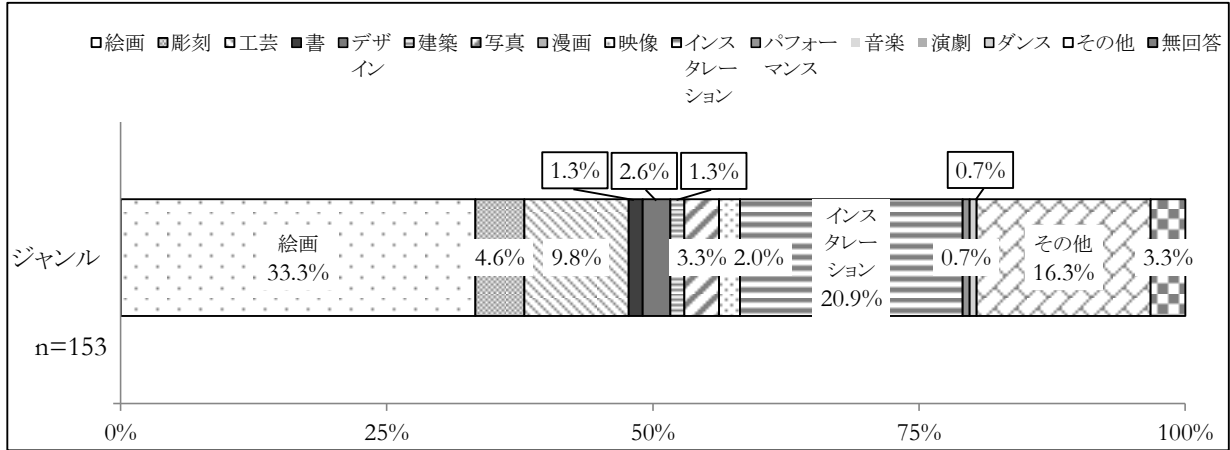
[団体種類]

- ・国公立文化施設、国公私大学の4割以上が「絵画」と回答している。
- ・民間文化施設の4割以上が「工芸」と回答している。
- ・実行委員会の4割以上「インスタレーション」と回答している。
- ・非営利団体の5割以上が「その他」と回答している。

[事業の総事業費]

- ・事業の総事業費が200万円未満の団体の4割以上が「インスタレーション」と回答している。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

	合計	Q10-SQ10-4.最も中心的なジャンルの番号										
		絵画	彫刻	工芸	書	デザイン	建築	写真	漫画	映像	インスタレーション	
全体	153	33.3	4.6	9.8	1.3	2.6	1.3	3.3	0.0	2.0	20.9	
Q14団体の種類												
国公立文化施設	89	46.1	5.6	7.9	1.1	2.2	0.0	4.5	0.0	1.1	13.5	
民間文化施設	9	11.1	0.0	44.4	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	
国公立大学	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	
実行委員会	22	13.6	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	45.5	
非営利団体	12	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3	16.7	
その他	14	21.4	7.1	14.3	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	7.1	21.4	
Q15団体・施設の設立年・開館年												
1969年以前	11	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	27.3	
1970-1979年	14	21.4	7.1	35.7	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	
1980-1989年	32	56.3	6.3	9.4	3.1	3.1	3.1	0.0	0.0	0.0	6.3	
1990-1999年	36	30.6	5.6	2.8	2.8	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	16.7	
2000-2009年	30	40.0	6.7	3.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	36.7	
2010-2016年	16	18.8	0.0	12.5	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	37.5	
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無												
はい	68	33.8	7.4	10.3	2.9	2.9	1.5	4.4	0.0	1.5	19.1	
いいえ	85	32.9	2.4	9.4	0.0	2.4	1.2	2.4	0.0	2.4	22.4	
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計												
1-2,499人	38	34.2	2.6	10.5	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	23.7	
2,500-4,999人	20	20.0	10.0	25.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	
5,000-7,499人	31	54.8	3.2	6.5	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	3.2	6.5	
7,500-9,999人	14	21.4	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	21.4	
10,000-20,000人	22	27.3	4.5	4.5	0.0	4.5	4.5	9.1	0.0	4.5	22.7	
20,000人以上	22	31.8	4.5	9.1	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	36.4	
Q12事業の総事業費												
200万円未満	16	18.8	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	43.8	
200万円以上300万円未満	13	38.5	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	
300万円以上500万円未満	14	28.6	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	
500万円以上1,000万円未満	52	36.5	1.9	15.4	1.9	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	17.3	
1,000万円以上2,000万円未満	39	33.3	5.1	10.3	0.0	2.6	2.6	5.1	0.0	5.1	17.9	
2,000万円以上	16	37.5	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	31.3	

(単位: %)

	合計	Q10-SQ10-5.最も中心的なジャンルの番号					
		パフォーマンス	音楽	演劇	ダンス	その他	無回答
全体	153	0.7	0.0	0.0	0.7	16.3	3.3
Q14団体の種類							
国公立文化施設	89	0.0	0.0	0.0	0.0	15.7	2.2
民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
実行委員会	22	0.0	0.0	0.0	4.5	18.2	9.1
非営利団体	12	8.3	0.0	0.0	0.0	33.3	8.3
その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年							
1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	0.0	36.4	0.0
1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	7.1
1980-1989年	32	0.0	0.0	0.0	0.0	9.4	3.1
1990-1999年	36	0.0	0.0	0.0	0.0	30.6	0.0
2000-2009年	30	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
2010-2016年	16	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3	6.3
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無							
はい	68	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	1.5
いいえ	85	1.2	0.0	0.0	1.2	17.6	4.7
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計							
1-2,499人	38	2.6	0.0	0.0	0.0	18.4	2.6
2,500-4,999人	20	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
5,000-7,499人	31	0.0	0.0	0.0	0.0	16.1	3.2
7,500-9,999人	14	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	7.1
10,000-20,000人	22	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0
20,000人以上	22	0.0	0.0	0.0	4.5	9.1	0.0
Q12事業の総事業費							
200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	6.3
200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4
300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	0.0	0.0	35.7	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	1.9	0.0	0.0	1.9	15.4	1.9
1,000万円以上2,000万円未満	39	0.0	0.0	0.0	0.0	17.9	0.0
2,000万円以上	16	0.0	0.0	0.0	0.0	18.8	0.0

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動の展示作品数について尋ねたところ、「50～99点」が30.1%で最も多く、次いで「100～199点」が24.2%、「200点以上」が18.3%となっている。展示作品数が100点未満の事業は、全体の55.1%であった。

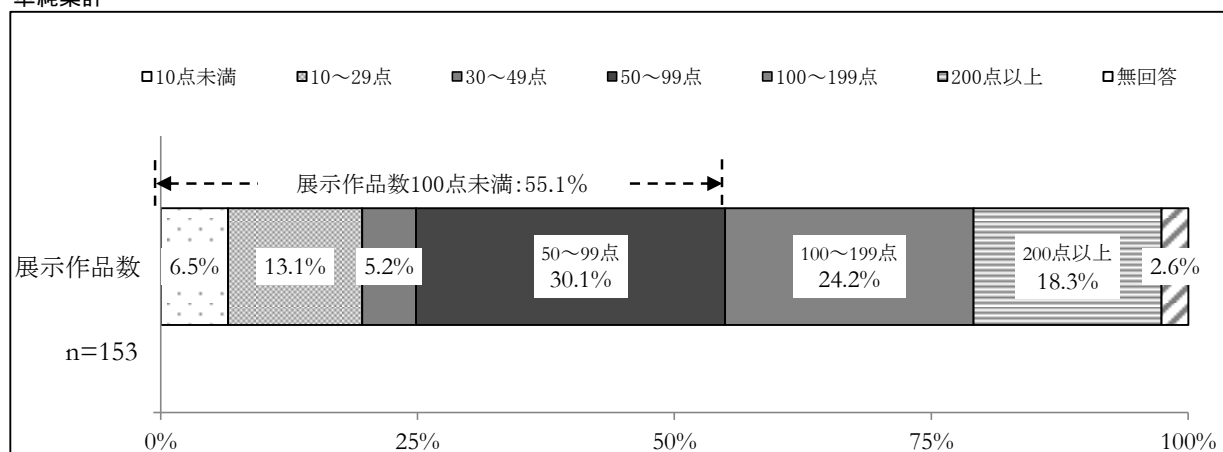
【クロス集計】**[団体種類]**

- ・国公立文化施設、民間文化施設、国公私大学で最も多い回答は「50～99点」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は「200点以上」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は「10点未満」であった。

[入場者数]

- ・20,000以上の入場者が来場した事業の団体で最も多い回答は、「100～199点」、「200点以上」で、全体で最も多い回答であった「50～99点」よりも多い。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

	合計	Q10-SQ10-5.当該事業で展示された作品数						
		10点未満	10~29点	30~49点	50~99点	100~199点	200点以上	無回答
全体	153	6.5	13.1	5.2	30.1	24.2	18.3	2.6
Q14団体の種類								
国公立文化施設	89	3.4	9.0	6.7	31.5	28.1	20.2	1.1
民間文化施設	9	0.0	22.2	0.0	66.7	11.1	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0
実行委員会	22	13.6	18.2	0.0	22.7	13.6	27.3	4.5
非営利団体	12	25.0	16.7	8.3	8.3	16.7	8.3	16.7
その他	14	0.0	28.6	0.0	28.6	35.7	7.1	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年								
1969年以前	11	9.1	9.1	9.1	18.2	36.4	18.2	0.0
1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	42.9	42.9	7.1	7.1
1980-1989年	32	0.0	3.1	3.1	53.1	21.9	18.8	0.0
1990-1999年	36	13.9	13.9	2.8	22.2	30.6	16.7	0.0
2000-2009年	30	3.3	23.3	13.3	13.3	20.0	26.7	0.0
2010-2016年	16	12.5	25.0	0.0	43.8	6.3	12.5	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無								
はい	68	4.4	10.3	2.9	38.2	27.9	14.7	1.5
いいえ	85	8.2	15.3	7.1	23.5	21.2	21.2	3.5
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計								
1-2,499人	38	13.2	26.3	10.5	21.1	10.5	15.8	2.6
2,500-4,999人	20	10.0	10.0	0.0	40.0	35.0	0.0	5.0
5,000-7,499人	31	3.2	6.5	6.5	41.9	25.8	16.1	0.0
7,500-9,999人	14	7.1	21.4	0.0	28.6	7.1	35.7	0.0
10,000-20,000人	22	0.0	9.1	4.5	45.5	36.4	4.5	0.0
20,000人以上	22	0.0	4.5	4.5	9.1	40.9	40.9	0.0
Q12事業の総事業費								
200万円未満	16	12.5	31.3	6.3	12.5	12.5	25.0	0.0
200万円以上300万円未満	13	0.0	23.1	7.7	7.7	38.5	15.4	7.7
300万円以上500万円未満	14	7.1	0.0	14.3	35.7	28.6	14.3	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	7.7	13.5	5.8	42.3	15.4	13.5	1.9
1,000万円以上2,000万円未満	39	7.7	10.3	0.0	25.6	35.9	17.9	2.6
2,000万円以上	16	0.0	6.3	6.3	31.3	25.0	31.3	0.0

【単純集計】

2016年度の展覧会等の展示に関する入場者数について尋ねたところ、
 入場者数の最大値は47万人で、最小値は0人、平均値は1万5,735人で、入場者数を以下のようなグループ
 に区分したところ、「1-2,499人」が26.8%で最も多く、次いで「5,000-7,499人」が22.2%、「20,000人以上」が
 14.4%となっている。

入場者数が10,000人未満の事業は全体で68.6%であった。

【クロス集計】

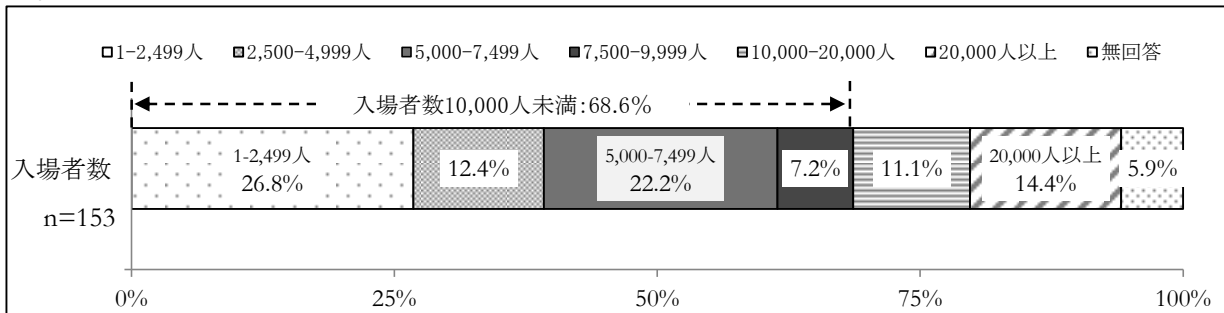
[団体種類]

- ・国立文化施設、国公立大学で最も多い回答は「5,000-7,499人」であった。
- ・民間文化施設、実行委員会、非営利団体で最も多い回答は「1-2,499人」であった。

[総事業費]

- ・事業の総事業費が多い団体ほど、入場者数が多い傾向にある。

単純集計



クロス集計

(単位：%)

	合計	Q10-SQ10-6.(a)展示活動の入場者数						
		1-2,499人	2,500-4,999人	5,000-7,499人	7,500-9,999人	10,000-20,000人	20,000人以上	無回答
全体	153	26.8	12.4	22.2	7.2	11.1	14.4	5.9
Q14団体の種類								
国立文化施設	89	16.9	13.5	28.1	11.2	12.4	13.5	4.5
民間文化施設	9	33.3	22.2	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0
国公立大学	5	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0
実行委員会	22	40.9	4.5	13.6	0.0	0.0	31.8	9.1
非営利団体	12	50.0	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	25.0
その他	14	42.9	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年								
1969年以前	11	9.1	9.1	36.4	9.1	9.1	18.2	9.1
1970-1979年	14	0.0	28.6	28.6	14.3	7.1	14.3	7.1
1980-1989年	32	21.9	21.9	40.6	3.1	6.3	3.1	3.1
1990-1999年	36	30.6	11.1	11.1	8.3	19.4	16.7	2.8
2000-2009年	30	30.0	3.3	10.0	13.3	16.7	23.3	3.3
2010-2016年	16	43.8	12.5	18.8	0.0	0.0	18.8	6.3
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無								
はい	68	22.1	20.6	23.5	10.3	10.3	10.3	2.9
いいえ	85	30.6	5.9	21.2	4.7	11.8	17.6	8.2
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計								
1-2,499人	38	92.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.9
2,500-4,999人	20	15.0	85.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	6.5	3.2	90.3	0.0	0.0	0.0	0.0
7,500-9,999人	14	7.1	0.0	28.6	64.3	0.0	0.0	0.0
10,000-20,000人	22	0.0	4.5	9.1	9.1	77.3	0.0	0.0
20,000人以上	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
Q12事業の総事業費								
200万円未満	16	81.3	6.3	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0
200万円以上300万円未満	13	69.2	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7
300万円以上500万円未満	14	42.9	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	17.3	17.3	26.9	9.6	7.7	13.5	7.7
1,000万円以上2,000万円未満	39	10.3	10.3	33.3	12.8	17.9	12.8	2.6
2,000万円以上	16	0.0	0.0	0.0	6.3	25.0	62.5	6.3

【単純集計】

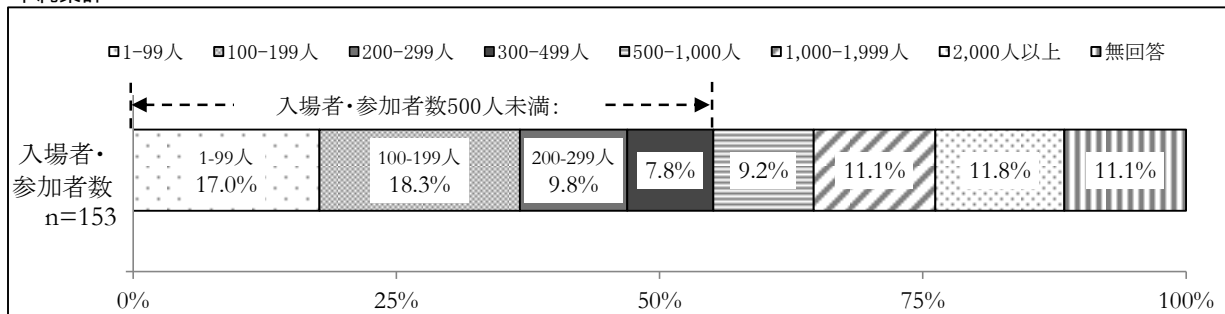
2016年度の展覧会等の展示以外の活動に関する入場者・参加者数について尋ねたところ、入場者・参加者数の最大値は2万人で、最小値は0人、平均値は988人で、入場者・参加者数を以下のようなグループに区分したところ、「100-199人」が18.3%で最も多く、次いで「1-99人」が17.0%、「1,000-1,999人」が11.8%となっている。入場者・参加者数が500人未満の事業は全体で52.9%であった。

【クロス集計】

[団体種類]

- ・国公立文化施設で最も多い回答は「100-199人」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は「1-99人」、「100-199人」であった。
- ・国公立大学で最も多い回答は「2,000人以上」であった。
- ・実行委員会で最も多い回答は「1-99人」であった。
- ・非営利団体で最も多い回答は「1-99人」、「100-199人」、「500-1,000人」、「2,000以上」であった。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

	合計	Q10-SQ10-6.(b)展示以外の活動の入場者・参加者数								
		1-99	100-199	200-299	300-499	500-1,000	1,000-1,999	2,000以上	無回答	
全体	153	17.0	18.3	9.8	7.8	9.2	11.1	11.8	15.0	
Q14団体の種類	国公立文化施設	89	13.5	23.6	10.1	7.9	10.1	12.4	10.1	12.4
	民間文化施設	9	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	11.1	11.1	11.1
	国公立大学	5	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	実行委員会	22	27.3	4.5	9.1	0.0	9.1	4.5	18.2	27.3
	非営利団体	12	16.7	16.7	8.3	0.0	16.7	8.3	16.7	16.7
	その他	14	21.4	7.1	7.1	21.4	7.1	14.3	0.0	21.4
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	11	9.1	9.1	9.1	27.3	18.2	0.0	9.1	18.2
	1970-1979年	14	21.4	7.1	14.3	14.3	0.0	14.3	7.1	21.4
	1980-1989年	32	3.1	37.5	12.5	9.4	6.3	9.4	15.6	6.3
	1990-1999年	36	13.9	11.1	5.6	2.8	13.9	25.0	13.9	13.9
	2000-2009年	30	16.7	20.0	13.3	10.0	10.0	6.7	3.3	20.0
	2010-2016年	16	43.8	18.8	6.3	0.0	6.3	0.0	12.5	12.5
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無	はい	68	10.3	20.6	13.2	8.8	11.8	8.8	10.3	16.2
	いいえ	85	22.4	16.5	7.1	7.1	7.1	12.9	12.9	14.1
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計	1-2,499人	38	39.5	26.3	10.5	2.6	5.3	0.0	2.6	13.2
	2,500-4,999人	20	15.0	20.0	15.0	10.0	5.0	25.0	5.0	5.0
	5,000-7,499人	31	19.4	25.8	9.7	12.9	6.5	6.5	9.7	9.7
	7,500-9,999人	14	0.0	7.1	14.3	21.4	14.3	14.3	21.4	7.1
	10,000-20,000人	22	4.5	13.6	4.5	9.1	13.6	13.6	27.3	13.6
	20,000人以上	22	4.5	9.1	9.1	0.0	18.2	22.7	18.2	18.2
	200万円未満	16	50.0	31.3	0.0	6.3	0.0	6.3	0.0	6.3
Q12事業の総事業費	200万円以上300万円未満	13	23.1	7.7	0.0	15.4	0.0	23.1	7.7	23.1
	300万円以上500万円未満	14	14.3	14.3	0.0	7.1	21.4	7.1	21.4	14.3
	500万円以上1,000万円未満	52	11.5	21.2	13.5	11.5	9.6	5.8	9.6	17.3
	1,000万円以上2,000万円未満	39	17.9	17.9	15.4	5.1	10.3	7.7	17.9	7.7
	2,000万円以上	16	0.0	6.3	12.5	0.0	12.5	37.5	12.5	18.8

【単純集計】

2016年度の展覧会等の展示及び展示以外の活動に関する入場者・参加者数の合計について尋ねたところ、
最大値は47万1,100人で、最小値は0人、平均値は1万6,623人で、以下のようなグループに区分したところ、「1-2,499人」が24.8%で最も多く、次いで「5,000-7,499人」が20.3%、「10,000-20,000人」、「20,000人以上」が14.4%となっている。
入場者・参加者数が10,000人未満の事業は全体で67.4%であった。

【クロス集計】

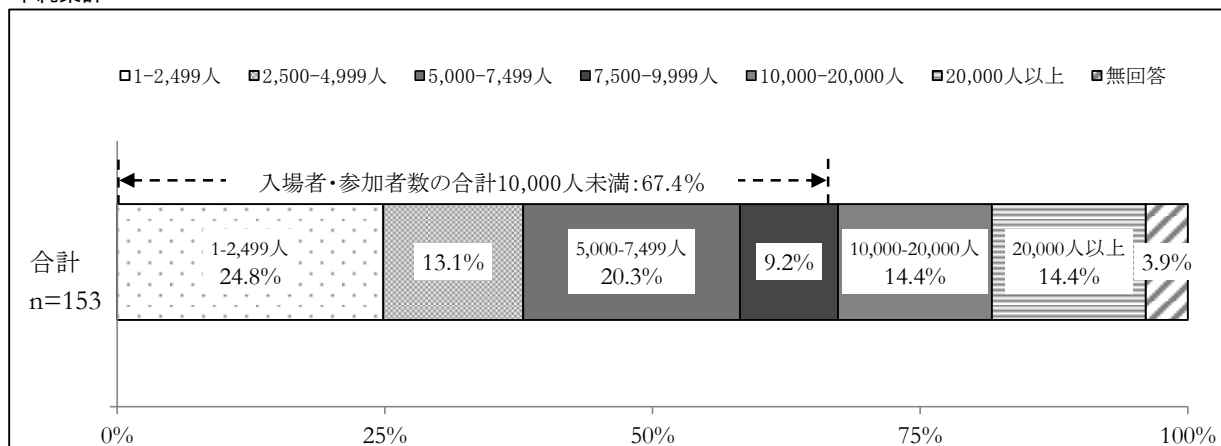
[団体種類]

- ・国公立文化施設、国公私大学で最も多い回答は「5,000-7,499人」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は「2,500-4,999人」であった。
- ・実行委員会、非営利団体で最も多い回答は「1-2,499人」であった。
- ・非営利団体で2番目に多い回答は「20,000人以上」であった。

[総事業費]

- ・事業の総事業費が多い団体ほど、入場者数が多い傾向にある。

単純集計



クロス集計

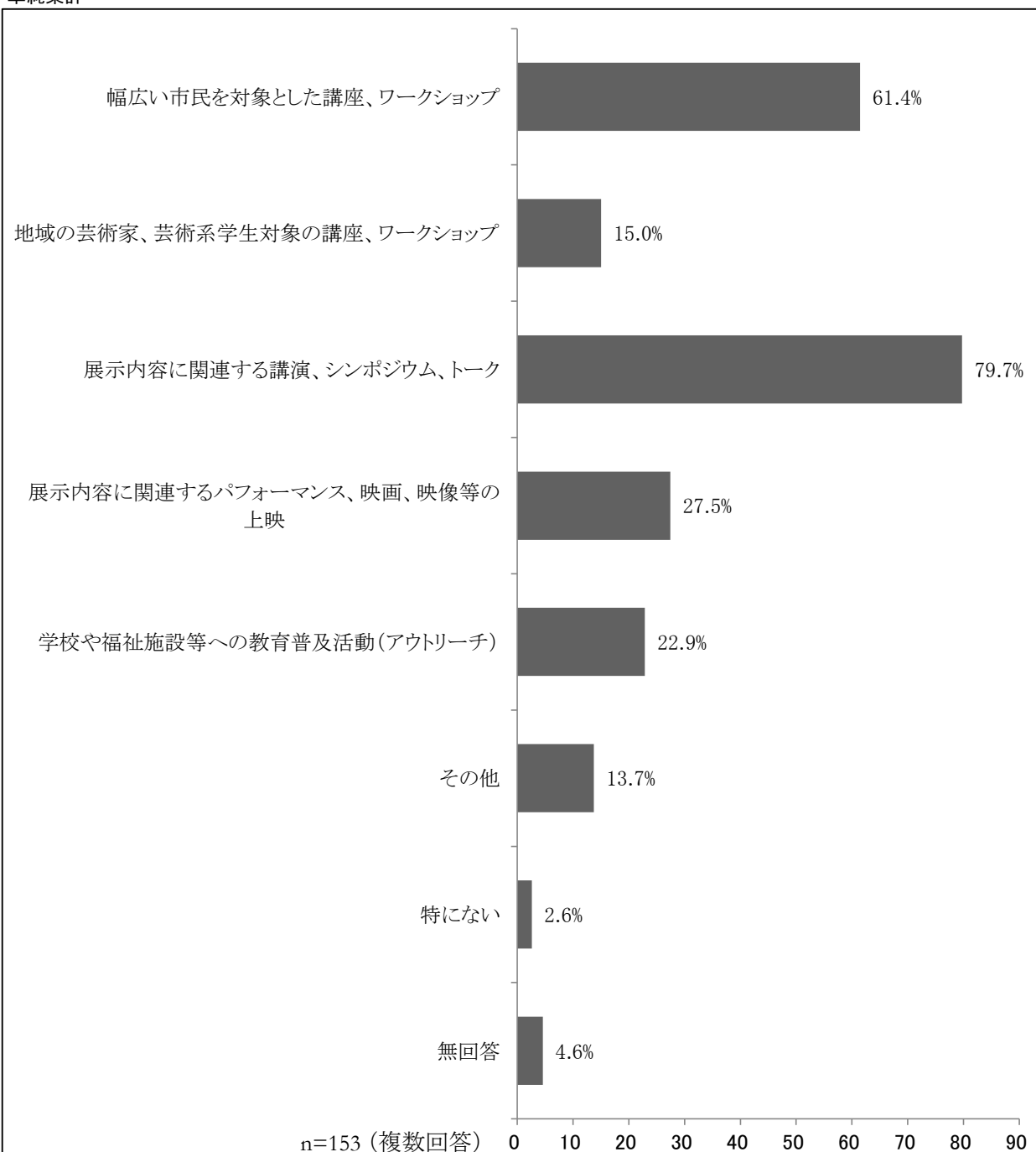
(単位: %)

	合計	Q10-SQ10-6.合計(a)+(b)						
		1-2,499人	2,500-4,999人	5,000-7,499人	7,500-9,999人	10,000-20,000人	20,000人以上	無回答
全体	153	24.8	13.1	20.3	9.2	14.4	14.4	3.9
Q14団体の種類								
国公立文化施設	89	16.9	13.5	25.8	11.2	16.9	13.5	2.2
民間文化施設	9	22.2	33.3	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0
実行委員会	22	36.4	4.5	9.1	4.5	4.5	31.8	9.1
非営利団体	12	50.0	8.3	0.0	8.3	16.7	0.0	16.7
その他	14	42.9	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年								
1969年以前	11	18.2	9.1	27.3	18.2	9.1	18.2	0.0
1970-1979年	14	0.0	28.6	28.6	7.1	14.3	14.3	7.1
1980-1989年	32	18.8	18.8	37.5	6.3	12.5	3.1	3.1
1990-1999年	36	25.0	16.7	13.9	8.3	19.4	16.7	0.0
2000-2009年	30	30.0	3.3	10.0	10.0	20.0	23.3	3.3
2010-2016年	16	43.8	6.3	12.5	6.3	6.3	18.8	6.3
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無								
はい	68	20.6	19.1	22.1	8.8	16.2	10.3	2.9
いいえ	85	28.2	8.2	18.8	9.4	12.9	17.6	4.7
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計								
1-2,499人	38	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2,500-4,999人	20	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7,500-9,999人	14	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
10,000-20,000人	22	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
20,000人以上	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
Q12事業の総事業費								
200万円未満	16	81.3	6.3	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0
200万円以上300万円未満	13	46.2	23.1	7.7	7.7	7.7	0.0	7.7
300万円以上500万円未満	14	35.7	14.3	42.9	0.0	7.1	0.0	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	19.2	19.2	21.2	11.5	11.5	13.5	3.8
1,000万円以上2,000万円未満	39	10.3	10.3	28.2	15.4	23.1	12.8	0.0
2,000万円以上	16	0.0	0.0	0.0	6.3	25.0	62.5	6.3

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動で展示以外に実施している活動・事業について尋ねたところ、「展示内容に関連する講演、シンポジウム、トーク」が79.7%で最も多く、次いで「幅広い市民を対象とした講座、ワークショップ」が61.4%、「展示内容に関連するパフォーマンス、映画、映像等の上映」が27.5%となっている。なお、「その他」では、「被災地支援イベント」、「コンサート」、「朗読会」、「ギャラリー・ツアー」、「鑑賞教室」、「アートによるまちづくり事業」、「里山環境整備」などの具体的な回答があった。

単純集計



【クロス集計】

〔団体種類〕

・非営利団体を除く全ての団体で、「展示内容に関連する講演、シンポジウム、トーク」が最も多い回答であった。

・非営利団体で最も多い回答は、「幅広い市民を対象とした講座、ワークショップ」であった。

〔事業の総事業費〕

・事業の総事業費が200-300万円未満の団体を除く全ての団体で、「展示内容に関連する講演、シンポジウム、トーク」が最も多い回答であった。

・事業の総事業費が200-300万円未満の団体で最も多い回答は「幅広い市民を対象とした講座、ワークショップ」であったが、「展示内容に関連する講演、シンポジウム、トーク」も比較的多い回答であった。

クロス集計

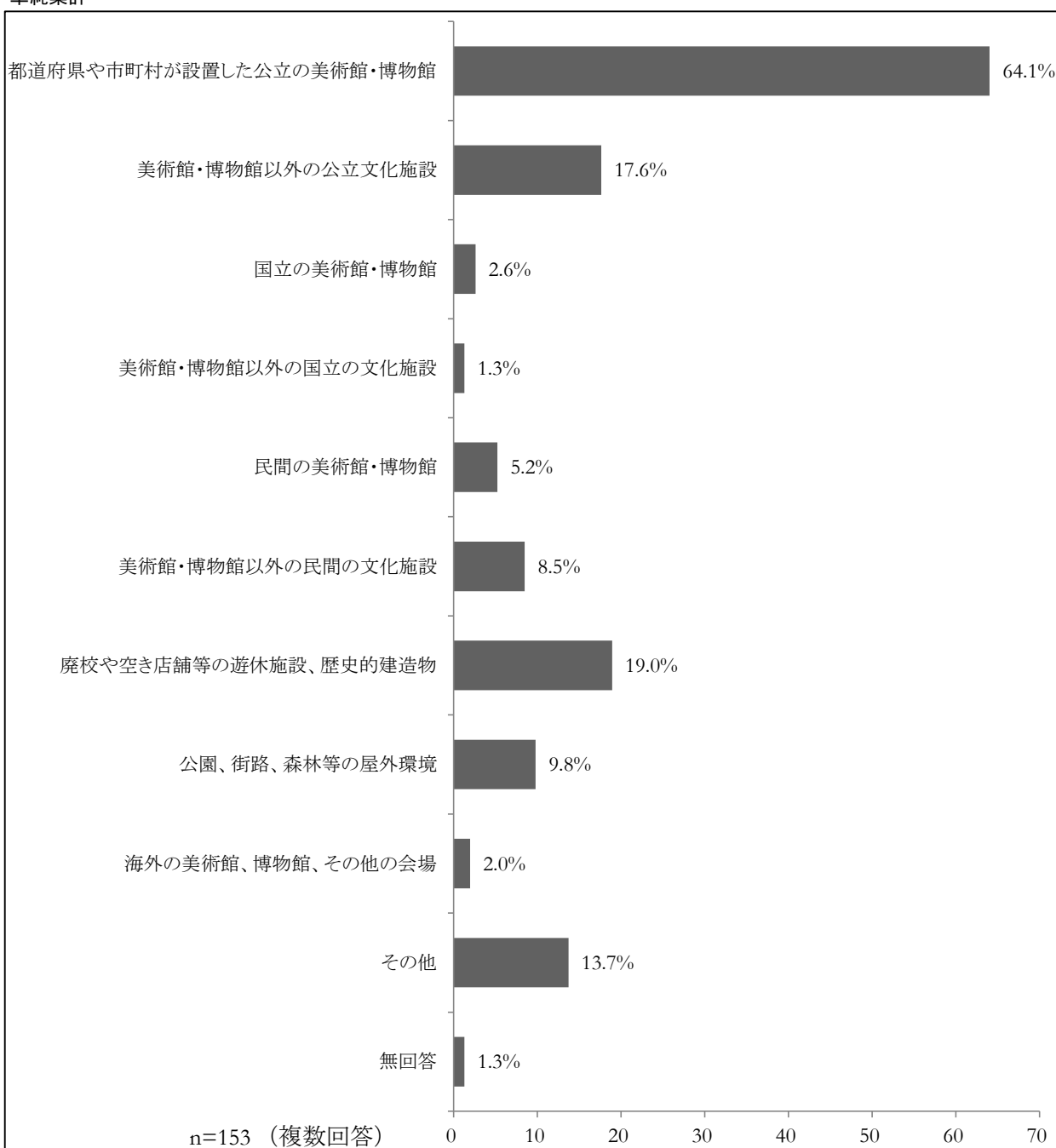
(単位：%)

	合計	Q10-SQ10-7.当該事業で展示以外に実施している活動・事業								
		幅広い市民 を対象とした 講座、ワーク ショップ	地域の芸術 家、芸術系 学生対象の 講座、ワーク ショップ	展示内容に 関連する講 演、シンポジ ウム、トーク	展示内容に 関連するパ フォーマンス、 映画、映像 等の上映	学校や福祉 施設等への 教育普及活 動（アウト リーチ）	その他	特にな い	無回答	
全体	153	61.4	15.0	79.7	27.5	22.9	13.7	2.6	4.6	
Q14団体の種類	国公立文化施設	89	62.9	5.6	80.9	29.2	23.6	13.5	2.2	4.5
	民間文化施設	9	22.2	22.2	100.0	33.3	11.1	22.2	0.0	0.0
	国公立大学	5	80.0	80.0	100.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	実行委員会	22	50.0	36.4	63.6	27.3	22.7	9.1	9.1	9.1
	非営利団体	12	75.0	16.7	58.3	16.7	33.3	25.0	0.0	8.3
	その他	14	71.4	14.3	92.9	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0
Q15団体・施設の設 立年・開館年	1969年以前	11	63.6	9.1	81.8	45.5	0.0	18.2	0.0	0.0
	1970-1979年	14	35.7	0.0	71.4	14.3	7.1	14.3	0.0	14.3
	1980-1989年	32	71.9	9.4	93.8	21.9	31.3	15.6	3.1	0.0
	1990-1999年	36	63.9	16.7	77.8	38.9	33.3	8.3	2.8	2.8
	2000-2009年	30	70.0	20.0	83.3	30.0	20.0	10.0	0.0	6.7
	2010-2016年	16	31.3	25.0	87.5	12.5	18.8	18.8	12.5	0.0
SQ9-1芸術文化振興 基金の助成金の有無	はい	68	60.3	13.2	85.3	22.1	16.2	13.2	1.5	2.9
	いいえ	85	62.4	16.5	75.3	31.8	28.2	14.1	3.5	5.9
Q10-SQ10-6.入場 者・参加者数合計	1-2,499人	38	73.7	18.4	78.9	15.8	18.4	18.4	2.6	2.6
	2,500-4,999人	20	50.0	15.0	75.0	45.0	25.0	10.0	0.0	0.0
	5,000-7,499人	31	48.4	6.5	87.1	19.4	16.1	19.4	6.5	3.2
	7,500-9,999人	14	78.6	28.6	78.6	42.9	35.7	14.3	0.0	7.1
	10,000-20,000人	22	54.5	0.0	90.9	31.8	18.2	13.6	0.0	0.0
	20,000人以上	22	72.7	22.7	77.3	36.4	40.9	4.5	4.5	4.5
Q12事業の総事業 費	200万円未満	16	56.3	18.8	81.3	12.5	12.5	6.3	0.0	0.0
	200万円以上300万円未満	13	61.5	23.1	53.8	23.1	7.7	7.7	7.7	15.4
	300万円以上500万円未満	14	71.4	7.1	92.9	21.4	28.6	14.3	0.0	0.0
	500万円以上1,000万円未満	52	57.7	19.2	80.8	23.1	19.2	13.5	1.9	3.8
	1,000万円以上2,000万円未満	39	64.1	10.3	82.1	41.0	30.8	20.5	5.1	0.0
	2,000万円以上	16	68.8	12.5	81.3	37.5	37.5	6.3	0.0	12.5

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動で使用した会場について尋ねたところ、「都道府県や市町村が設置した公立の美術館・博物館」が64.1%で最も多く、次いで「廃校や空き店舗等の遊休施設、歴史的建造物」が19.0%、「美術館・博物館以外の公立文化施設」が17.6%となっている。なお、「その他」では、「小中学校」、「大学施設」、「特別支援学校」、「民間ギャラリー」、「古民家」、「地域の商店」、「市内のホテル」などの具体的な回答があった。

単純集計



【クロス集計】

[団体種類]

- ・国公立文化施設で最も多い回答は、「都道府県や市町村が設置した公立の美術館・博物館」であった。
- ・民間文化施設で最も多い回答は、「民間の美術館・博物館」であった。
- ・国私立大学で最も多い回答は、「美術館・博物館以外の公立文化施設」であった。
- ・実行委員会、非営利団体で最も多い回答は、「廃校や空き店舗等の遊休施設、歴史的建造物」であった。

[設立年・開館年]

- ・2010年以降に開館・設立した団体で最も多い回答は「廃校や空き店舗等の遊休施設、歴史的建造物」であった。

[事業の総事業費]

- ・事業の総事業費が200万円未満の団体で最も多い回答は「廃校や空き店舗等の遊休施設、歴史的建造物」であった。

クロス集計

(単位：%)

	合計	Q10-SQ10-8.当該事業で利用した会場について										
		都道府県や市町村が設置した公立の美術館・博物館	美術館・博物館以外の公立文化施設	国立の美術館・博物館	美術館・博物館以外の国立文化施設	民間の美術館・博物館	美術館・博物館以外の民間文化施設	廃校や空き店舗等の遊休施設、歴史的建造物	公園、街路、森林等の屋外環境	海外の美術館、博物館、その他の会場	その他	無回答
全体	153	64.1	17.6	2.6	1.3	5.2	8.5	19.0	9.8	2.0	13.7	1.3
Q14団体の種類												
国公立文化施設	89	91.0	12.4	3.4	2.2	0.0	5.6	5.6	5.6	2.2	4.5	0.0
民間文化施設	9	11.1	0.0	0.0	0.0	66.7	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	5	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0
実行委員会	22	22.7	36.4	0.0	0.0	4.5	9.1	59.1	31.8	4.5	22.7	4.5
非営利団体	12	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	50.0	16.7	0.0	50.0	8.3
その他	14	42.9	35.7	0.0	0.0	7.1	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年												
1969年以前	11	63.6	18.2	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
1970-1979年	14	78.6	7.1	0.0	0.0	21.4	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0
1980-1989年	32	93.8	6.3	0.0	0.0	3.1	6.3	9.4	0.0	0.0	9.4	0.0
1990-1999年	36	72.2	30.6	2.8	2.8	2.8	8.3	13.9	8.3	2.8	8.3	0.0
2000-2009年	30	60.0	20.0	3.3	0.0	0.0	6.7	26.7	23.3	3.3	13.3	0.0
2010-2016年	16	25.0	12.5	0.0	0.0	6.3	25.0	50.0	18.8	6.3	31.3	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無												
はい	68	80.9	17.6	0.0	1.5	5.9	5.9	13.2	5.9	1.5	10.3	0.0
いいえ	85	50.6	17.6	4.7	1.2	4.7	10.6	23.5	12.9	2.4	16.5	2.4
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計												
1-2,499人	38	36.8	18.4	2.6	2.6	2.6	7.9	31.6	7.9	2.6	21.1	0.0
2,500-4,999人	20	80.0	15.0	5.0	5.0	15.0	5.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0
5,000-7,499人	31	77.4	16.1	0.0	0.0	3.2	3.2	3.2	6.5	0.0	6.5	0.0
7,500-9,999人	14	64.3	14.3	7.1	0.0	7.1	7.1	21.4	21.4	0.0	14.3	0.0
10,000-20,000人	22	77.3	13.6	0.0	0.0	9.1	0.0	13.6	4.5	0.0	9.1	0.0
20,000人以上	22	72.7	27.3	4.5	0.0	0.0	31.8	31.8	22.7	9.1	18.2	0.0
Q12事業の総事業費												
200万円未満	16	18.8	12.5	6.3	0.0	6.3	12.5	37.5	0.0	6.3	31.3	0.0
200万円以上300万円未満	13	46.2	38.5	0.0	7.7	7.7	0.0	23.1	0.0	0.0	15.4	7.7
300万円以上500万円未満	14	71.4	21.4	0.0	0.0	7.1	0.0	14.3	21.4	0.0	7.1	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	65.4	19.2	1.9	0.0	7.7	5.8	17.3	5.8	0.0	13.5	0.0
1,000万円以上2,000万円未満	39	74.4	7.7	2.6	2.6	0.0	12.8	15.4	15.4	2.6	10.3	0.0
2,000万円以上	16	87.5	25.0	6.3	0.0	6.3	18.8	18.8	18.8	6.3	12.5	0.0

【単純集計】

当該事業の企画の検討時期について尋ねたところ、
 企画の検討時期については、「実施の1～2年前」が41.8%で最も多く、「実施の2～3年前」「実施の半年から1年前」が19.0%となっている。なお、実施の2年未満は全体の62.8%であった。

【クロス集計】

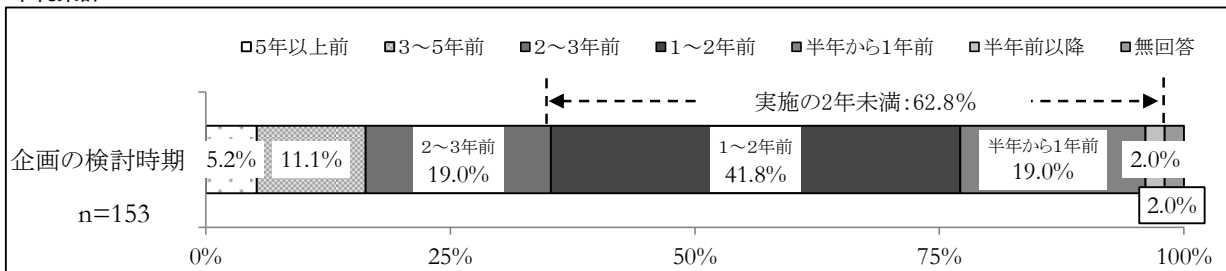
〔団体種類〕

- ・実行委員会を除き、「実施の1～2年前」が最も多い回答であった。
- ・実行委員会でも最も多い回答は「実施の半年前から1年前」であった。

〔事業の総事業費〕

- ・事業の総事業費が500万円未満の団体は「実施の1～2年前」、「実施の半年から1年前」の回答が多いが、500万円以上の団体は「実施の1～2年前」よりも前から検討し始める回答が多い。

単純集計



クロス集計

	合計	Q11-SQ11-2.当該事業の企画内容はいつ頃から検討し始めましたか (単位: %)						
		実施の5年以上前	実施の3～5年前	実施の2～3年前	実施の1～2年前	実施の半年から1年前	実施の半年前以降	無回答
全体	153	5.2	11.1	19.0	41.8	19.0	2.0	2.0
Q14団体の種類								
国公立文化施設	89	2.2	15.7	23.6	44.9	12.4	0.0	1.1
民間文化施設	9	0.0	11.1	11.1	66.7	11.1	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0
実行委員会	22	13.6	4.5	4.5	18.2	45.5	9.1	4.5
非営利団体	12	16.7	0.0	16.7	41.7	16.7	0.0	8.3
その他	14	7.1	7.1	14.3	42.9	28.6	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年								
1969年以前	11	0.0	27.3	27.3	27.3	18.2	0.0	0.0
1970-1979年	14	0.0	0.0	28.6	64.3	7.1	0.0	0.0
1980-1989年	32	3.1	18.8	25.0	50.0	3.1	0.0	0.0
1990-1999年	36	5.6	8.3	27.8	33.3	22.2	2.8	0.0
2000-2009年	30	6.7	10.0	13.3	40.0	23.3	0.0	6.7
2010-2016年	16	12.5	12.5	0.0	31.3	31.3	12.5	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無								
はい	68	4.4	10.3	23.5	42.6	19.1	0.0	0.0
いいえ	85	5.9	11.8	15.3	41.2	18.8	3.5	3.5
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計								
1-2,499人	38	10.5	7.9	2.6	39.5	34.2	2.6	2.6
2,500-4,999人	20	0.0	10.0	45.0	40.0	5.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	0.0	6.5	16.1	61.3	16.1	0.0	0.0
7,500-9,999人	14	7.1	14.3	21.4	50.0	0.0	0.0	7.1
10,000-20,000人	22	4.5	9.1	22.7	40.9	22.7	0.0	0.0
20,000人以上	22	4.5	27.3	18.2	22.7	18.2	9.1	0.0
Q12事業の総事業費								
200万円未満	16	12.5	0.0	0.0	50.0	31.3	6.3	0.0
200万円以上300万円未満	13	7.7	7.7	15.4	23.1	46.2	0.0	0.0
300万円以上500万円未満	14	7.1	0.0	14.3	57.1	21.4	0.0	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	3.8	7.7	19.2	50.0	17.3	1.9	0.0
1,000万円以上2,000万円未満	39	5.1	20.5	23.1	33.3	12.8	0.0	5.1
2,000万円以上	16	0.0	18.8	31.3	37.5	6.3	6.3	0.0

【単純集計】

助成金や協賛金への申請の検討時期については、「実施の1～2年前」が48.4%で最も多く、「実施の半年から1年前」が30.1%、「実施の2～3年前」が9.8%となっている。なお、実施の2年未満は全体の83.7%であった。

【クロス集計】

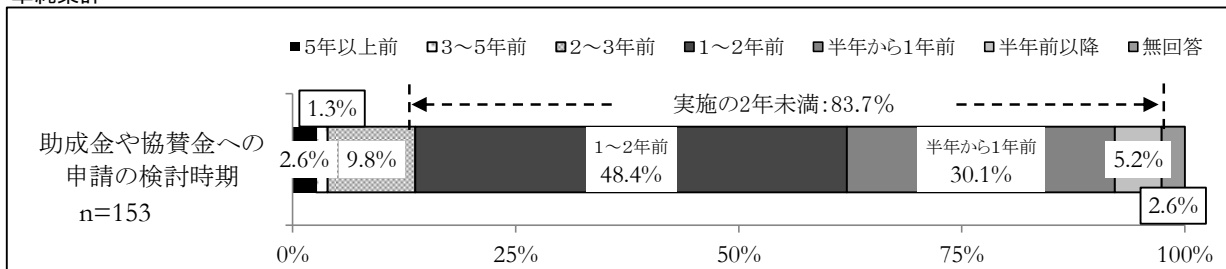
[団体種類]

- ・国公立大学、実行委員会を除き、「実施の1～2年前」が最も多い回答であった。
- ・国公立大学、実行委員会で最も多い回答は「実施の半年前から1年前」であった。

[事業の総事業費]

- ・事業の総事業費が500万円以上1,000万円未満の団体を除き、「実施の1～2年前」が最も多い回答であった。

単純集計



クロス集計

	合計	Q11-SQ11-3.当該事業の助成金や協賛金への申請はいつ頃から検討し始めましたか (単位: %)						
		実施の5年以上前	実施の3～5年前	実施の2～3年前	実施の1～2年前	実施の半年から1年前	実施の半年前以降	無回答
全体	153	2.6	1.3	9.8	48.4	30.1	5.2	2.6
Q14団体の種類								
国公立文化施設	89	1.1	1.1	12.4	51.7	27.0	4.5	2.2
民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	55.6	33.3	11.1	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0
実行委員会	22	9.1	4.5	0.0	27.3	50.0	4.5	4.5
非営利団体	12	8.3	0.0	8.3	66.7	16.7	0.0	0.0
その他	14	0.0	0.0	14.3	50.0	28.6	0.0	7.1
Q15団体・施設の設立年・開館年								
1969年以前	11	0.0	0.0	9.1	45.5	18.2	18.2	9.1
1970-1979年	14	0.0	0.0	7.1	42.9	42.9	7.1	0.0
1980-1989年	32	0.0	0.0	12.5	59.4	21.9	6.3	0.0
1990-1999年	36	2.8	2.8	19.4	38.9	30.6	2.8	2.8
2000-2009年	30	6.7	0.0	6.7	56.7	26.7	3.3	0.0
2010-2016年	16	6.3	6.3	0.0	43.8	37.5	6.3	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無								
はい	68	2.9	1.5	8.8	52.9	30.9	1.5	1.5
いいえ	85	2.4	1.2	10.6	44.7	29.4	8.2	3.5
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計								
1-2,499人	38	5.3	2.6	5.3	39.5	42.1	2.6	2.6
2,500-4,999人	20	0.0	5.0	10.0	55.0	30.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	0.0	0.0	12.9	45.2	29.0	9.7	3.2
7,500-9,999人	14	0.0	0.0	21.4	64.3	7.1	0.0	7.1
10,000-20,000人	22	0.0	0.0	4.5	59.1	27.3	9.1	0.0
20,000人以上	22	4.5	0.0	13.6	45.5	31.8	4.5	0.0
Q12事業の総事業費								
200万円未満	16	0.0	6.3	0.0	50.0	25.0	12.5	6.3
200万円以上300万円未満	13	7.7	7.7	15.4	38.5	30.8	0.0	0.0
300万円以上500万円未満	14	7.1	0.0	0.0	57.1	28.6	7.1	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	3.8	0.0	9.6	40.4	40.4	1.9	3.8
1,000万円以上2,000万円未満	39	0.0	0.0	12.8	56.4	25.6	5.1	0.0
2,000万円以上	16	0.0	0.0	18.8	56.3	18.8	6.3	0.0

質問間クロス集計 (SQ11-2 × SQ11-3)

	合計	Q11-SQ11-3.当該事業の助成金や協賛金への申請はいつ頃から検討し始めましたか						
		実施の5年以上前	実施の3～5年前	実施の2～3年前	実施の1～2年前	実施の半年から1年前	実施の半年前以降	無回答
全体	153	2.6	1.3	9.8	48.4	30.1	5.2	2.6
Q11-SQ11-2.当該事業の企画内容(いつ頃から検討し始めましたか)								
実施の5年以上前	8	50.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5
実施の3～5年前	17	0.0	5.9	11.8	82.4	0.0	0.0	0.0
実施の2～3年前	29	0.0	0.0	37.9	44.8	10.3	6.9	0.0
実施の1～2年前	64	0.0	0.0	1.6	59.4	32.8	4.7	1.6
実施の半年から1年前	29	0.0	0.0	3.4	17.2	72.4	3.4	3.4
実施の半年前以降	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動に関する助成金や協賛金の交付決定時期について尋ねたところ、「実施の半年前頃」が47.1%で最も多く、次いで「実施の3ヶ月前頃」が13.1%、「実施の1年前頃」が10.5%となっている。

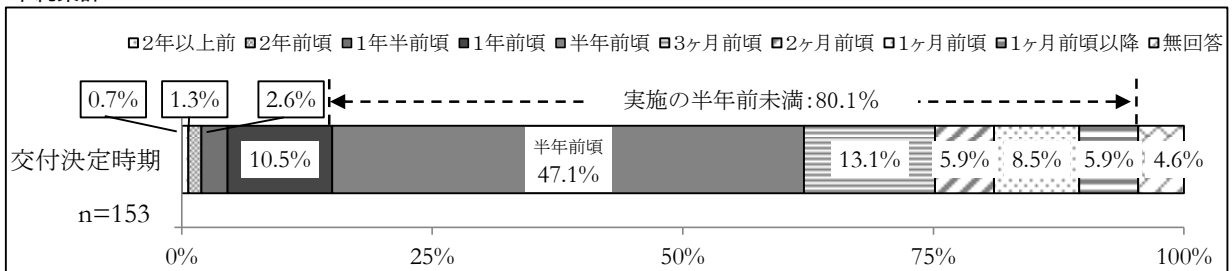
なお、実施の半年前未満は全体の80.1%であった。

【クロス集計】

[団体種類]、[設立年・開館年]、[入場者数]、[総事業費]

・全ての項目で最も多い回答は、「実施の半年前頃」であった。

単純集計



クロス集計

	合計	Q11-SQ11-4.当該事業の助成金や協賛金の交付の決定（内定を含む）はいつ頃でしたか									
		実施の2年以上前	実施の2年前頃	実施の1年半前頃	実施の1年前頃	実施の半年前頃	実施の3ヶ月前頃	実施の2ヶ月前頃	実施の1ヶ月前頃	実施の1ヶ月前頃以降	無回答
全体	153	0.7	1.3	2.6	10.5	47.1	13.1	5.9	8.5	5.9	4.6
Q14団体の種類	国公立文化施設	89	1.1	1.1	2.2	11.2	50.6	13.5	6.7	5.6	2.2
	民間文化施設	9	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	11.1	11.1	0.0	0.0
	国公立大学	5	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	実行委員会	22	0.0	0.0	4.5	9.1	31.8	18.2	4.5	18.2	4.5
	非営利団体	12	0.0	0.0	0.0	16.7	41.7	8.3	0.0	16.7	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	その他	14	0.0	7.1	0.0	14.3	42.9	0.0	7.1	7.1	14.3
	1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	9.1	45.5	18.2	9.1	0.0	18.2
	1970-1979年	14	0.0	0.0	7.1	21.4	28.6	21.4	14.3	0.0	7.1
	1980-1989年	32	3.1	0.0	0.0	6.3	65.6	6.3	3.1	3.1	12.5
	1990-1999年	36	0.0	5.6	5.6	5.6	41.7	13.9	5.6	11.1	5.6
	2000-2009年	30	0.0	0.0	3.3	16.7	56.7	13.3	3.3	6.7	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無	2010-2016年	16	0.0	0.0	0.0	18.8	31.3	18.8	12.5	6.3	0.0
	はい	68	0.0	0.0	1.5	8.8	57.4	13.2	4.4	1.5	8.8
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計	いいえ	85	1.2	2.4	3.5	11.8	38.8	12.9	7.1	14.1	3.5
	1-2,499人	38	0.0	2.6	0.0	13.2	47.4	10.5	2.6	10.5	7.9
	2,500-4,999人	20	0.0	5.0	5.0	10.0	50.0	10.0	5.0	10.0	5.0
	5,000-7,499人	31	3.2	0.0	6.5	3.2	51.6	12.9	6.5	3.2	12.9
	7,500-9,999人	14	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	28.6	7.1	14.3	0.0
	10,000-20,000人	22	0.0	0.0	0.0	13.6	50.0	22.7	9.1	4.5	0.0
Q12事業の総事業費	20,000人以上	22	0.0	0.0	0.0	22.7	45.5	4.5	4.5	13.6	0.0
	200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	6.3	43.8	18.8	6.3	12.5	0.0
	200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	7.7	7.7	38.5	0.0	0.0	23.1	15.4
	300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	0.0	0.0	64.3	21.4	7.1	7.1	0.0
	500万円以上1,000万円未満	52	0.0	3.8	5.8	9.6	46.2	17.3	7.7	3.8	3.8
	1,000万円以上2,000万円未満	39	2.6	0.0	0.0	12.8	51.3	10.3	2.6	7.7	10.3
2,000万円以上	16	0.0	0.0	0.0	25.0	43.8	6.3	6.3	12.5	0.0	

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動に関する助成金や協賛金の交付決定時期について尋ねたところ、「適切なタイミングで事業を円滑に行うことができた」と答えた団体が45.8%、「決定が遅すぎて、事業の実施に不安があった」と答えた団体が41.6%、「その他」と答えた団体が10.1%であった。

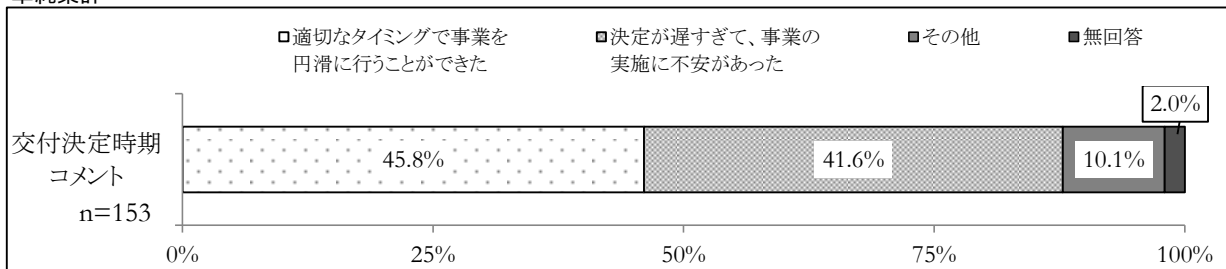
なお、「その他」では、「申請時期に対して決定が遅い」、「予算が直前まで確定せず、多くの調整が必要だった」、「遅いとは思いますが、事前に分かっていたので柔軟に対応した」などの具体的な回答があった。

【クロス集計】

[団体種類]

・国立文化施設、民間文化施設で最も多い回答は「適切なタイミングで事業を円滑に行うことができた」で、国公立大学、実行委員会、非営利団体で最も多い回答は「決定が遅すぎて、事業の実施に不安があった」であった。

単純集計



クロス集計

	合計	Q11-SQ11-5.その交付の決定時期についてどのようにお			
		適切なタイミングで事業を円滑に行うことができた	決定が遅すぎて、事業の実施に不安があった	その他	無回答
全体	153	45.8	41.8	10.5	2.0
Q14団体の種類					
国立文化施設	89	51.7	37.1	10.1	1.1
民間文化施設	9	77.8	22.2	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	80.0	20.0	0.0
実行委員会	22	31.8	54.5	9.1	4.5
非営利団体	12	16.7	58.3	25.0	0.0
その他	14	42.9	42.9	7.1	7.1
Q15団体・施設の設立年・開館年					
1969年以前	11	45.5	36.4	18.2	0.0
1970-1979年	14	57.1	42.9	0.0	0.0
1980-1989年	32	43.8	43.8	12.5	0.0
1990-1999年	36	38.9	47.2	11.1	2.8
2000-2009年	30	63.3	30.0	6.7	0.0
2010-2016年	16	37.5	43.8	18.8	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無					
はい	68	44.1	45.6	8.8	1.5
いいえ	85	47.1	38.8	11.8	2.4
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計					
1-2,499人	38	42.1	44.7	10.5	2.6
2,500-4,999人	20	50.0	40.0	10.0	0.0
5,000-7,499人	31	58.1	25.8	16.1	0.0
7,500-9,999人	14	7.1	85.7	7.1	0.0
10,000-20,000人	22	63.6	31.8	4.5	0.0
20,000人以上	22	50.0	40.9	4.5	4.5
Q12事業の総事業費					
200万円未満	16	50.0	31.3	12.5	6.3
200万円以上300万円未満	13	38.5	46.2	15.4	0.0
300万円以上500万円未満	14	42.9	42.9	14.3	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	42.3	46.2	11.5	0.0
1,000万円以上2,000万円未満	39	46.2	43.6	7.7	2.6
2,000万円以上	16	68.8	25.0	6.3	0.0

質問間クロス集計 (SQ11-2 × SQ11-3)

	合計	Q11-SQ11-5.その交付の決定時期についてどのようにお			
		適切なタイミングで事業を円滑に行うことができた	決定が遅すぎて、事業の実施に不安があった	その他	無回答
全体	153	45.8	41.8	10.5	2.0
Q11-SQ11-4.当該事業の助成金や協賛金の交付の決定(内定を含む)はいいつ頃でしたか					
実施の2年以上前	1	100.0	0.0	0.0	0.0
実施の2年前頃	2	100.0	0.0	0.0	0.0
実施の1年半前頃	4	25.0	75.0	0.0	0.0
実施の1年前頃	16	68.8	12.5	18.8	0.0
実施の半年前頃	72	52.8	36.1	11.1	0.0
実施の3ヶ月前頃	20	50.0	50.0	0.0	0.0
実施の2ヶ月前頃	9	22.2	77.8	0.0	0.0
実施の1ヶ月前頃	13	30.8	53.8	15.4	0.0
実施の1ヶ月前頃以降	9	0.0	88.9	11.1	0.0

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動に関する助成金や協賛金の交付がない場合の対応について尋ねたところ、

「事業の規模を縮小して実施する」と答えた団体が56.2%、「自身の美術館や団体の他の予算を活用して実施する」と答えた団体が29.4%、「新たに民間企業の協賛金などを獲得する」と答えた団体が4.6%、「事業を中止もしくは延期する」と答えた団体が5.2%、「その他」と答えた団体が2.0%であった。

なお、「その他」では、「措置されている予算範囲内での実施」、「市の一般財源でまかなう」などの具体的な回答があった。

単純集計

【クロス集計】

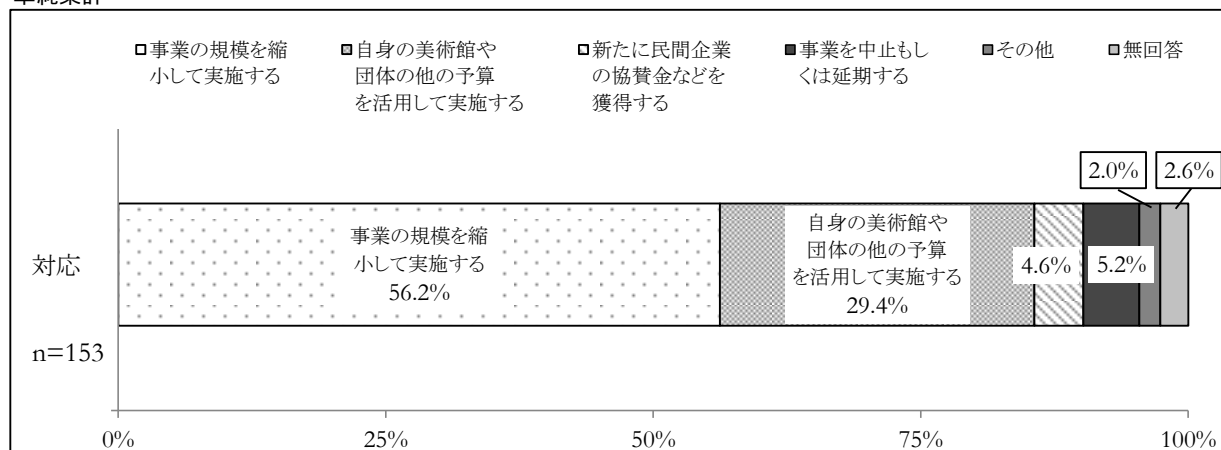
[団体種類]

- ・全ての団体で最も多い回答は「事業の規模を縮小して実施する」であった。
- ・国公立文化施設、民間文化施設で2番目に多い回答は「自身の美術館や団体の他の予算を活用して実施する」であった。
- ・実行委員会、非営利団体で最も多い回答は「新たに民間企業の協賛金などを獲得する」であった。

[設立年・開館年]

- ・全ての団体で最も多い回答は「事業の規模を縮小して実施する」であった。
- ・2009年以前に開館・設立した団体で2番目に多い回答は「自身の美術館や団体の他の予算を活用して実施する」であった。
- ・2010年以降に開館・設立した団体で最も多い回答は「新たに民間企業の協賛金などを獲得する」であった。

単純集計



クロス集計

(単位：%)

	合計	Q11-SQ11-6.その助成金や協賛金が交付されなかった場合、どのような対応を考えて					
		事業の規模を縮小して実施する	自身の美術館や団体の他の予算を活用して実施する	新たに民間企業の協賛金などを獲得する	事業を中止もしくは延期する	その他	無回答
全体	153	56.2	29.4	4.6	5.2	2.0	2.6
Q14団体の種類							
国立文化施設	89	50.6	36.0	0.0	6.7	3.4	3.4
民間文化施設	9	55.6	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	5	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
実行委員会	22	63.6	13.6	18.2	0.0	0.0	4.5
非営利団体	12	50.0	16.7	25.0	8.3	0.0	0.0
その他	14	78.6	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年							
1969年以前	11	54.5	27.3	0.0	9.1	9.1	0.0
1970-1979年	14	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0
1980-1989年	32	50.0	40.6	0.0	6.3	0.0	3.1
1990-1999年	36	63.9	22.2	0.0	11.1	0.0	2.8
2000-2009年	30	53.3	30.0	6.7	0.0	6.7	3.3
2010-2016年	16	43.8	25.0	31.3	0.0	0.0	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無							
はい	68	63.2	29.4	1.5	1.5	0.0	4.4
いいえ	85	50.6	29.4	7.1	8.2	3.5	1.2
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計							
1-2,499人	38	55.3	21.1	5.3	10.5	5.3	2.6
2,500-4,999人	20	55.0	40.0	0.0	5.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	51.6	35.5	3.2	6.5	3.2	0.0
7,500-9,999人	14	64.3	28.6	0.0	7.1	0.0	0.0
10,000-20,000人	22	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0
20,000人以上	22	50.0	36.4	9.1	0.0	0.0	4.5
Q12事業の総事業費							
200万円未満	16	50.0	43.8	6.3	0.0	0.0	0.0
200万円以上300万円未満	13	61.5	23.1	0.0	15.4	0.0	0.0
300万円以上500万円未満	14	71.4	14.3	0.0	0.0	7.1	7.1
500万円以上1,000万円未満	52	61.5	23.1	7.7	3.8	3.8	0.0
1,000万円以上2,000万円未満	39	46.2	41.0	5.1	7.7	0.0	0.0
2,000万円以上	16	62.5	25.0	0.0	6.3	0.0	6.3

【単純集計】

2016年度の展覧会等の事業や活動の総事業費について尋ねたところ、「500万円以上1,000万円未満」が34.0%で最も多く、次いで「1,000万円以上2,000万円未満」が25.5%、「300万円以上500万円未満」が9.2%となっている。

1,000万円未満の総事業費の団体は全体の62.1%であった。

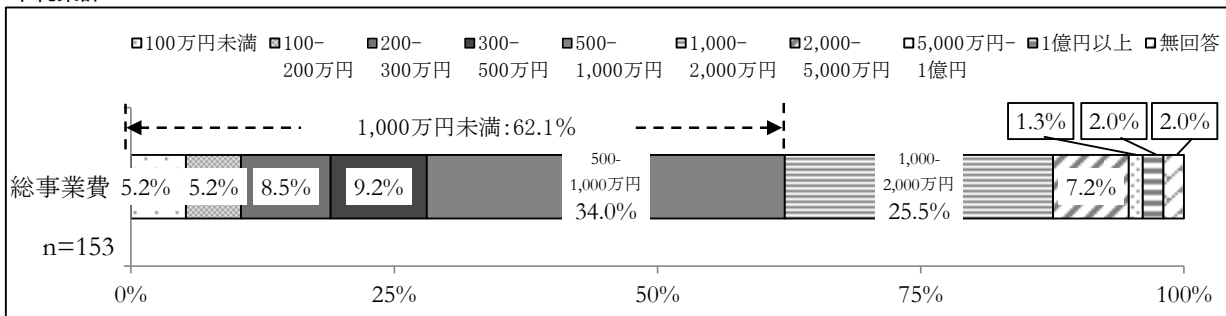
【クロス集計】

[団体の種類]

・国公立文化施設、民間文化施設、国公立大学、実行委員会が最も多い回答は、「500万円以上1,000万円未満」であった。

・実行委員会が最も多い回答は、「1,000万円以上2,000万円未満」であった。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

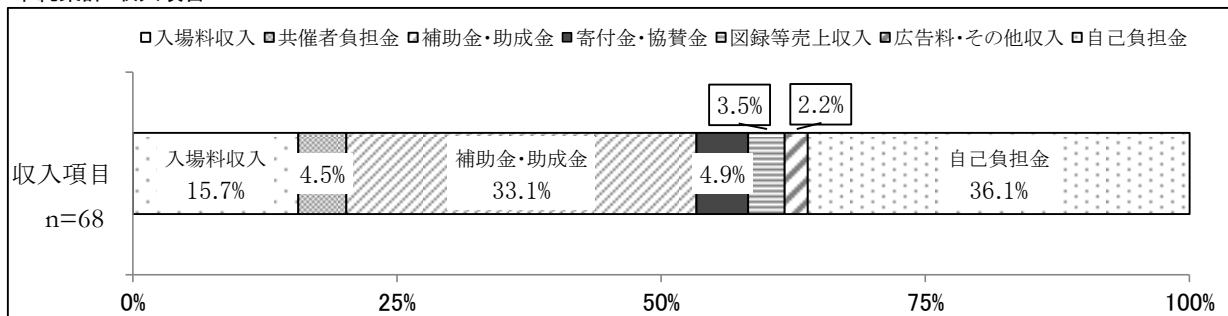
	合計	Q12.Q9で記入頂いた事業の総事業費									
		100万円未満	100万円以上200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上500万円未満	500万円以上1,000万円未満	1,000万円以上2,000万円未満	2,000万円以上5,000万円未満	5,000万円以上1億円未満	1億円以上	無回答
全体	153	5.2	5.2	8.5	9.2	34.0	25.5	7.2	1.3	2.0	2.0
Q14団体の種類											
国公立文化施設	89	2.2	2.2	6.7	7.9	34.8	31.5	10.1	2.2	0.0	2.2
民間文化施設	9	0.0	22.2	11.1	11.1	44.4	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立大学	5	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
実行委員会	22	13.6	9.1	0.0	9.1	36.4	13.6	4.5	0.0	9.1	4.5
非営利団体	12	8.3	16.7	16.7	8.3	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	14	7.1	0.0	28.6	14.3	14.3	21.4	7.1	0.0	7.1	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年											
1969年以前	11	0.0	0.0	0.0	9.1	63.6	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0
1970-1979年	14	0.0	0.0	0.0	14.3	35.7	35.7	14.3	0.0	0.0	0.0
1980-1989年	32	0.0	0.0	9.4	12.5	34.4	37.5	3.1	0.0	0.0	3.1
1990-1999年	36	2.8	5.6	8.3	8.3	41.7	16.7	8.3	2.8	5.6	0.0
2000-2009年	30	3.3	6.7	10.0	10.0	20.0	30.0	13.3	3.3	3.3	0.0
2010-2016年	16	25.0	18.8	0.0	6.3	25.0	18.8	0.0	0.0	0.0	6.3
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無											
はい	68	0.0	2.9	7.4	11.8	41.2	25.0	7.4	1.5	0.0	2.9
いいえ	85	9.4	7.1	9.4	7.1	28.2	25.9	7.1	1.2	3.5	1.2
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計											
1-2,499人	38	15.8	18.4	15.8	13.2	26.3	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0
2,500-4,999人	20	5.0	0.0	15.0	10.0	50.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5,000-7,499人	31	3.2	0.0	3.2	19.4	35.5	35.5	0.0	0.0	0.0	3.2
7,500-9,999人	14	0.0	0.0	7.1	0.0	42.9	42.9	7.1	0.0	0.0	0.0
10,000-20,000人	22	0.0	4.5	4.5	4.5	27.3	40.9	18.2	0.0	0.0	0.0
20,000人以上	22	0.0	0.0	0.0	0.0	31.8	22.7	22.7	9.1	13.6	0.0
Q12事業の総事業費											
200万円未満	16	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
500万円以上1,000万円未満	52	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1,000万円以上2,000万円未満	39	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2,000万円以上	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	68.8	12.5	18.8	0.0

【単純集計】

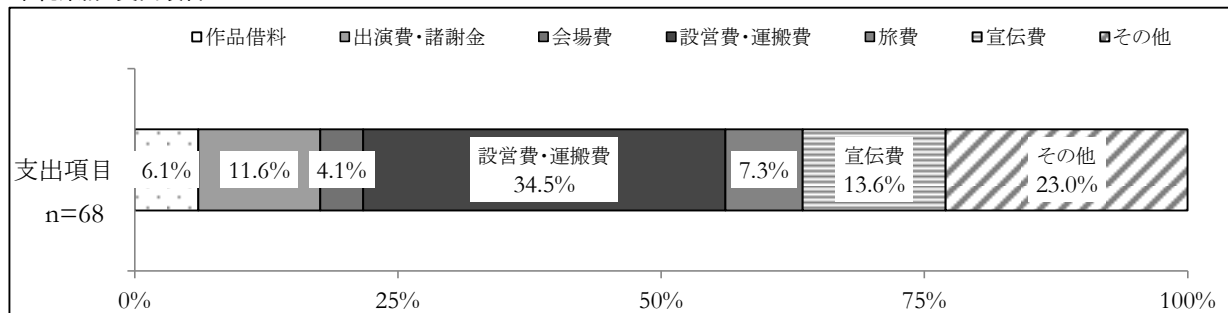
2016年度の展覧会等の事業や活動の総事業費の内訳について尋ね、各項目の平均値を算出したところ、収入項目では、「自己負担金」が36.1%で最も多く、次いで「補助金・助成金」が33.1%、入場料収入が15.7%となっている。

また、支出項目では、「設営費・運搬費」が34.5%で最も多く、次いで「その他」が23.0%、「宣伝費」が13.6%となっている。

単純集計：収入項目



単純集計：支出項目



3. 団体の概要

(42) 団体の種類

Q14

【単純集計】

団体の種類について尋ねたところ、「国公立文化施設」が57.7%で最も多く、次いで「実行委員会」が15.5%、「非営利団体」が7.5%となっている。

なお、「その他」では、「公益財団法人」、「地方公共団体」、「指定管理団体」、「協会組織」、「社会福祉法人」などの具体的な回答があった。

【クロス集計】

[開館年・設立年]

- ・2009年以前に最も多く開館・設立したのは国公立文化施設であった。
- ・2010-2016年に最も多く開館・設立した団体は実行委員会であった。

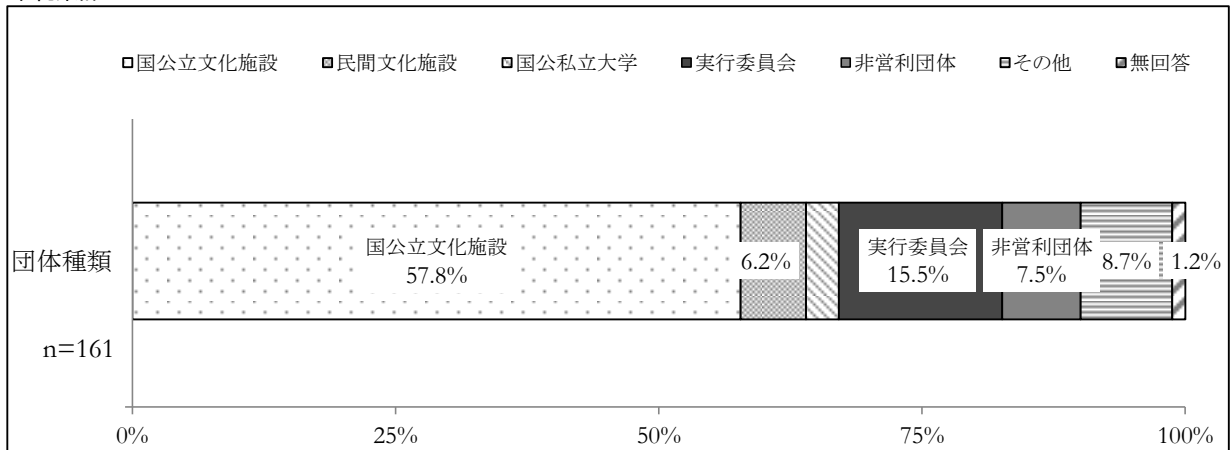
[芸術文化振興基金の助成金の有無]

- ・2016年の事業や活動で、最も多く芸術文化振興基金の助成金を受けたのは国公立文化施設であった。

[事業の総事業費]

- ・事業の総事業費が200万円の団体で最も多い回答は「実行委員会」であった。
- ・事業の総事業費が200万円以上の団体で最も多い回答は「国公立文化施設」であった。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

	合計	Q14団体の種類						
		国公立文化施設	民間文化施設	国公立大学	実行委員会	非営利団体	その他	無回答
全体	161	57.8	6.2	3.1	15.5	7.5	8.7	1.2
Q14団体の種類	国公立文化施設	93	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	民間文化施設	10	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	国公立大学	5	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	実行委員会	25	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	非営利団体	12	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	75.0	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3
	1970-1979年	14	64.3	21.4	0.0	0.0	0.0	14.3
	1980-1989年	33	87.9	3.0	0.0	0.0	3.0	6.1
	1990-1999年	36	63.9	0.0	5.6	11.1	5.6	11.1
	2000-2009年	33	63.6	9.1	0.0	18.2	3.0	6.1
	2010-2016年	17	5.9	5.9	0.0	64.7	11.8	5.9
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無	はい	68	72.1	4.4	1.5	7.4	4.4	8.8
	いいえ	85	47.1	7.1	4.7	20.0	10.6	9.4
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計	1-2,499人	38	39.5	5.3	0.0	21.1	15.8	15.8
	2,500-4,999人	20	60.0	15.0	0.0	5.0	5.0	10.0
	5,000-7,499人	31	74.2	3.2	9.7	6.5	0.0	6.5
	7,500-9,999人	14	71.4	7.1	7.1	7.1	7.1	0.0
	10,000-20,000人	22	68.2	9.1	0.0	4.5	9.1	9.1
	20,000人以上	22	54.5	0.0	4.5	31.8	0.0	9.1
	200万円未満	16	25.0	12.5	0.0	31.3	18.8	6.3
Q12事業の総事業費	200万円以上300万円未満	13	46.2	7.7	0.0	0.0	15.4	30.8
	300万円以上500万円未満	14	50.0	7.1	7.1	14.3	7.1	14.3
	500万円以上1,000万円未満	52	59.6	7.7	7.7	15.4	3.8	3.8
	1,000万円以上2,000万円未満	39	71.8	2.6	0.0	7.7	10.3	7.7
	2,000万円以上	16	68.8	0.0	0.0	18.8	0.0	12.5

【単純集計】

文化施設の開館年または団体の設立年について尋ねたところ、

「1990-1999年」が22.4%で最も多く、次いで「1980-1989年」、「2000-2009年」が20.5%、「2010-2016年」が10.6%となっている。

1999年以前に開館・設立した団体は全体の約6割で、2000年以降に開館・設立した団体は全体の約3割であった。

【クロス集計】**[団体種類]**

- ・国公立文化施設は「1980-1989年」に開館・設立した団体が最も多かった。
- ・民間文化施設は「1970-1979年」、「2000-2009年」に開館・設立した団体が最も多かった。
- ・国公立大学は「1990-1999年」に開館・設立した団体が最も多かった。
- ・実行委員会は「2010-2016年」に開館・設立した団体が最も多かった。
- ・非営利団体は「1990-1999年」、「2010-2016年」に開館・設立した団体が最も多かった。

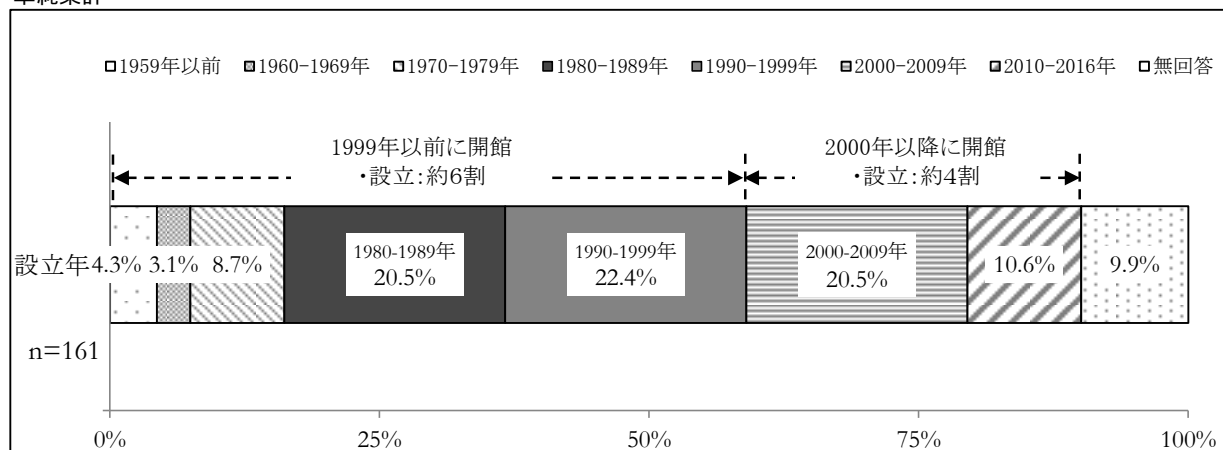
[芸術文化振興基金の助成金の有無]

- ・2016年の事業や活動で、最も多く芸術文化振興基金の助成金を受けたのは「1980-1989年」に開館・設立した団体であった。

[総事業費]

- ・総事業費が200万円未満の活動や事業の団体は「2010-2016年」に開館・設立した団体が最も多かった。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

	合計	Q15団体の設立年について								
		1959年以前	1960-1969年	1970-1979年	1980-1989年	1990-1999年	2000-2009年	2010-2016年	無回答	
全体	161	4.3	3.1	8.7	20.5	22.4	20.5	10.6	9.9	
Q14団体の種類	国公立文化施設	93	6.5	3.2	9.7	31.2	24.7	22.6	1.1	1.1
	民間文化施設	10	0.0	10.0	30.0	10.0	0.0	30.0	10.0	10.0
	国公立大学	5	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	40.0
	実行委員会	25	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	24.0	44.0	16.0
	非営利団体	12	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7	8.3	16.7	50.0
	その他	14	0.0	7.1	14.3	14.3	28.6	14.3	7.1	14.3
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	58.3	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1970-1979年	14	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1980-1989年	33	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1990-1999年	36	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	2000-2009年	33	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	2010-2016年	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無	はい	68	1.5	5.9	10.3	29.4	26.5	17.6	5.9	2.9
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計	いいえ	85	5.9	1.2	8.2	14.1	21.2	21.2	14.1	14.1
	1-2,499人	38	5.3	0.0	0.0	15.8	23.7	23.7	18.4	13.2
	2,500-4,999人	20	5.0	0.0	20.0	30.0	30.0	5.0	5.0	5.0
	5,000-7,499人	31	3.2	6.5	12.9	38.7	16.1	9.7	6.5	6.5
	7,500-9,999人	14	0.0	14.3	7.1	14.3	21.4	21.4	7.1	14.3
	10,000-20,000人	22	4.5	0.0	9.1	18.2	31.8	27.3	4.5	4.5
Q12事業の総事業費	20,000人以上	22	4.5	4.5	9.1	4.5	27.3	31.8	13.6	4.5
	200万円未満	16	0.0	0.0	0.0	0.0	18.8	18.8	43.8	18.8
	200万円以上300万円未満	13	0.0	0.0	0.0	23.1	23.1	23.1	0.0	30.8
	300万円以上500万円未満	14	0.0	7.1	14.3	28.6	21.4	21.4	7.1	0.0
	500万円以上1,000万円未満	52	5.8	7.7	9.6	21.2	28.8	11.5	7.7	7.7
	1,000万円以上2,000万円未満	39	5.1	0.0	12.8	30.8	15.4	23.1	7.7	5.1
2,000万円以上	16	6.3	0.0	12.5	6.3	37.5	37.5	0.0	0.0	

【単純集計】

団体の活動や事業の拠点の地域について尋ねたところ、「関東・甲信越地方（東京都を除く）」が21.7%で最も多く、次いで「近畿地方」、「中国・四国地方」が15.5%、「東京都」、「中部地方」が13.7%となっている。東日本に属する団体が約6割で、西日本に属する団体が約4割であった。

【クロス集計】**[団体種類]**

- ・国公立文化施設で最も回答が多かった地域は「関東・甲信越地方」であった。
- ・民間文化施設で最も回答が多かった地域は「近畿地方」、「中国・四国地方」であった。
- ・国公立大学で最も回答が多かった地域は「東京都」であった。
- ・実行委員会で最も回答が多かった地域は「関東・甲信越地方」、「近畿地方」であった。
- ・非営利団体で最も回答が多かった地域は「近畿地方」、「中国・四国地方」であった。

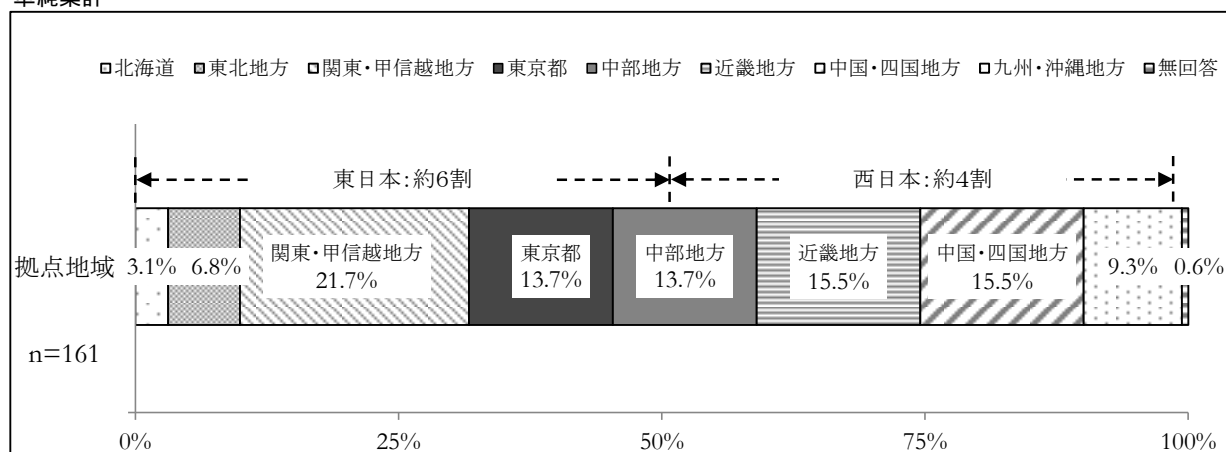
[芸術文化振興基金の助成金の有無]

- ・2016年の事業や活動で、最も多く芸術文化振興基金の助成金を受けたのは「関東・甲信越地方」で、次いで「近畿地方」、「中国・四国地方」であった。

[総事業費]

- ・総事業費が200万円未満の活動や事業の団体は「中国・四国地方」が最も多かった。
- ・総事業費が200万円以上300万円未満の活動や事業の団体は「中部地方」、「近畿地方」が最も多かった。
- ・総事業費が300万円500万円未満の活動や事業の団体は「中国・四国地方」が最も多かった。
- ・総事業費が500万円1000万円未満の活動や事業の団体は「近畿地方」が最も多かった。
- ・総事業費が1,000万円以上の活動や事業の団体は「関東・甲信越地方」が最も多かった。

単純集計



クロス集計

(単位: %)

	合計	Q16貴団体が活動や事業を行う拠点の地域									
		北海道	東北地方	関東・甲信越地方 (東京都を除く)	東京都	中部地方	近畿地方	中国・四国地方	九州・沖縄地方	無回答	
全体	161	3.1	6.8	21.7	13.7	13.7	15.5	15.5	9.3	0.6	
Q14団体の種類	国公立文化施設	93	2.2	7.5	25.8	9.7	15.1	9.7	15.1	14.0	1.1
	民間文化施設	10	0.0	0.0	10.0	20.0	0.0	30.0	30.0	10.0	0.0
	国公立大学	5	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	実行委員会	25	8.0	8.0	24.0	8.0	12.0	24.0	16.0	0.0	0.0
	非営利団体	12	0.0	8.3	16.7	16.7	8.3	25.0	25.0	0.0	0.0
	その他	14	7.1	0.0	14.3	35.7	14.3	21.4	0.0	7.1	0.0
Q15団体・施設の設立年・開館年	1969年以前	12	0.0	0.0	33.3	16.7	8.3	25.0	8.3	0.0	8.3
	1970-1979年	14	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0
	1980-1989年	33	3.0	15.2	21.2	12.1	15.2	15.2	12.1	6.1	0.0
	1990-1999年	36	0.0	5.6	19.4	11.1	19.4	8.3	25.0	11.1	0.0
	2000-2009年	33	0.0	0.0	36.4	6.1	9.1	15.2	15.2	18.2	0.0
	2010-2016年	17	11.8	5.9	11.8	11.8	11.8	29.4	17.6	0.0	0.0
SQ9-1芸術文化振興基金の助成金の有無	はい	68	2.9	7.4	19.1	8.8	14.7	17.6	17.6	11.8	0.0
	いいえ	85	3.5	7.1	22.4	16.5	12.9	15.3	15.3	7.1	0.0
Q10-SQ10-6.入場者・参加者数合計	1-2,499人	38	2.6	5.3	10.5	13.2	21.1	21.1	23.7	2.6	0.0
	2,500-4,999人	20	5.0	10.0	10.0	5.0	20.0	15.0	20.0	15.0	0.0
	5,000-7,499人	31	3.2	9.7	12.9	12.9	22.6	16.1	12.9	9.7	0.0
	7,500-9,999人	14	7.1	14.3	50.0	7.1	0.0	7.1	14.3	0.0	0.0
	10,000-20,000人	22	0.0	0.0	40.9	22.7	0.0	0.0	18.2	18.2	0.0
	20,000人以上	22	0.0	9.1	22.7	18.2	9.1	27.3	4.5	9.1	0.0
Q12事業の総事業費	200万円未満	16	6.3	6.3	6.3	12.5	6.3	18.8	25.0	18.8	0.0
	200万円以上300万円未満	13	7.7	7.7	0.0	15.4	23.1	23.1	15.4	7.7	0.0
	300万円以上500万円未満	14	0.0	0.0	14.3	7.1	28.6	7.1	42.9	0.0	0.0
	500万円以上1,000万円未満	52	1.9	5.8	21.2	11.5	15.4	25.0	17.3	1.9	0.0
	1,000万円以上2,000万円未満	39	2.6	12.8	30.8	15.4	7.7	7.7	5.1	17.9	0.0
	2,000万円以上	16	0.0	6.3	31.3	18.8	6.3	12.5	12.5	12.5	0.0

I 芸術文化振興基金及びその他の美術分野の助成金制度についてお尋ねします。

Q1 芸術文化振興基金には、美術分野を対象にした次の2種類の助成金制度があります。それぞれについて該当するものをお選びください。

SQ1-1 美術の創造普及活動(「舞台芸術等の創造普及活動」の活動区分のひとつです)(☑はひとつ)。

- 1 その助成金制度のことは知らない(→SQ1-2, Q4へ) 2 知っているが応募したことはない(→SQ1-2, Q2へ)
 3 応募したことはあるが、採択されたことはない(→SQ1-2, Q3へ) 4 応募して採択されたことがある(→SQ1-2, Q3へ)

SQ1-2 地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)(「地域の文化振興等の活動」の活動区分のひとつです)(☑はひとつ)。

- 1 その助成金制度のことは知らない(→Q4へ) 2 知っているが応募したことはない(→Q2へ)
 3 応募したことはあるが、採択されたことはない(→Q3へ) 4 応募して採択されたことがある(→Q3へ)
 ※SQ1-1及びSQ1-2の選択肢を選び直す場合にクリック

Q2 (SQ1-1、SQ1-2のどちらかもしくは両方で「2. 知っているが応募したことはない」と回答された方へ) ←
 その理由を次の中からお選びください(☑はいくつでも)。

- 1 助成の趣旨や目的が合致しない 2 応募や交付の手続きが煩雑である
 3 募集時期と企画スケジュールが合致しない 4 募集回数(年1回)と企画スケジュールが合致しない
 5 要望書や申請書、報告書等の作成に手間がかかる 6 交付内定の時期が遅い
 7 助成の対象となる団体・主催者の要件、実績要件を満たせない 8 助成の対象となる活動に合致しない
 9 助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限があるため、魅力を感じない
 10 美術作品の制作費が助成対象経費に含まれていない 11 所蔵品のみでの展示、常設展が助成対象とならない
 12 文化庁の補助金等と重複応募できない 13 審査基準が不明確である
 14 他の助成金制度を活用した 15 助成金の必要性がない
 16 その他(具体的に_____)

SQ2-1 ではその中で最も大きな理由を順に3つ選んで番号をご記入ください。

第1位

第2位

第3位

Q3 (Q1の SQ1-1、SQ1-2のどちらかもしくは両方で「3. 応募したことはあるが、採択されたことはない」もしくは「4. 応募して採択されたことがある」と回答された方へ) Q1の二つの助成金制度に対するご要望があれば、該当するものをお選びください(☑はいくつでも)。選択肢以外のもがある場合は Q4にご記入下さい。

SQ3-1 芸術文化振興基金の助成金の応募や交付の手続きに関するご要望(☑はいくつでも)。

- 1 応募から助成金交付までの手続きを簡素化してほしい 2 応募時の要望書や添付書類を簡素化してほしい
 3 内定通知後に提出する助成金交付申請書、助成対象活動実績報告書、助成金支払申請書を簡略化してほしい
 4 インターネットやメールで申請ができるようにしてほしい 5 募集から交付内定までの期間を短くしてほしい
 6 交付内定の時期を早めてほしい 7 事業実施の2～3年前に応募受付、交付内定をしてほしい
 8 募集を年2回に増やしてほしい 9 口頭での説明やプレゼンテーションの機会を設けてほしい
 10 不採択の理由を教えてください

SQ3-2 芸術文化振興基金の助成金の内容や制度に関するご要望(☑はいくつでも)。

- 11 美術分野独自の助成金制度を整えてほしい 12 作品の展示だけでなく制作活動も助成対象に含めてほしい
 13 トリエナーレ等の芸術祭やアートプロジェクトを対象にした助成金制度を用意してほしい
 14 ワークショップやシンポジウムなど、展示以外への事業も支援できる助成金制度を用意してほしい
 15 所蔵品のみでの展示、常設展も助成対象にしてほしい 16 展示作品の制作費も対象経費に含めてほしい
 17 助成対象の団体・主催者の要件、実績要件を緩和してほしい 18 複数年または継続的な助成金制度を用意してほしい
 19 助成対象経費の2分の1以内、かつ、自己負担金と同額以下という助成金の上限を緩和してほしい
 20 交付が決定した時点で助成金の一部前払いができる概算払いの制度を導入してほしい
 21 (採択件数が少なくなっても) 一件あたりの助成金額を増やしてほしい
 22 (一件あたりの助成金額が少なくなっても) 採択件数を増やしてほしい
 23 助成した事業を見に来てほしい 24 助成した事業について意見やコメントがほしい

SQ3-3では、SQ3-1、SQ3-2の回答の中から優先順位の高いご要望を3つ選んで、順に番号をご記入ください。

第1位

第2位

第3位

Q4 (全員の方へ) Q1の二つの制度を含め芸術文化振興基金の美術分野の助成金制度について、ご意見やご要望があればご記入ください。

Q5 芸術文化振興基金以外の美術分野を対象とした助成金制度には下表のようなものがあります。それぞれについて次の設問にお答えください。

SQ5-1 以下の図表の1~19の助成金制度の中で、ご存知の制度をお選びください(☑はいくつでも)。

SQ5-2 その中で、2013~2015年度に一度でも応募をしたことがある制度はどれですか(☑はいくつでも)。

SQ5-3 その中で採択されて助成金が交付された制度はどれですか(☑はいくつでも)。

SQ5-4 2016年度に応募された助成金制度があれば、お選びください(☑はいくつでも)。

SQ5-5 その中で、採択されて助成金が交付された制度はどれですか(☑はいくつでも)。

	SQ5-1 知っている 助成金制度	SQ5-2 2013-15年度 の応募実績	SQ5-3 2013-15年度 の交付実績	SQ5-4 2016年度の 応募実績	SQ5-5 2016年度の 交付実績
1. 文化庁(文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)	1-1 <input type="checkbox"/>	1-2 <input type="checkbox"/>	1-3 <input type="checkbox"/>	1-4 <input type="checkbox"/>	1-5 <input type="checkbox"/>
2. 文化庁(優れた現代美術の海外発信促進事業)	2-1 <input type="checkbox"/>	2-2 <input type="checkbox"/>	2-3 <input type="checkbox"/>	2-4 <input type="checkbox"/>	2-5 <input type="checkbox"/>
3. 文化庁(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)	3-1 <input type="checkbox"/>	3-2 <input type="checkbox"/>	3-3 <input type="checkbox"/>	3-4 <input type="checkbox"/>	3-5 <input type="checkbox"/>
4. 地域創造(市町村立美術館活性化事業)	4-1 <input type="checkbox"/>	4-2 <input type="checkbox"/>	4-3 <input type="checkbox"/>	4-4 <input type="checkbox"/>	4-5 <input type="checkbox"/>
5. 地域創造(公立美術館共同巡回展開催助成事業)	5-1 <input type="checkbox"/>	5-2 <input type="checkbox"/>	5-3 <input type="checkbox"/>	5-4 <input type="checkbox"/>	5-5 <input type="checkbox"/>
6. アーツカウンシル東京(東京芸術文化創造発信助成〈美術・映像分野〉)	6-1 <input type="checkbox"/>	6-2 <input type="checkbox"/>	6-3 <input type="checkbox"/>	6-4 <input type="checkbox"/>	6-5 <input type="checkbox"/>
7. アーツコミッション・ヨコハマ(美術分野への助成)	7-1 <input type="checkbox"/>	7-2 <input type="checkbox"/>	7-3 <input type="checkbox"/>	7-4 <input type="checkbox"/>	7-5 <input type="checkbox"/>
8. 自治総合センター(コミュニティ助成事業)	8-1 <input type="checkbox"/>	8-2 <input type="checkbox"/>	8-3 <input type="checkbox"/>	8-4 <input type="checkbox"/>	8-5 <input type="checkbox"/>
9. アサヒグループ芸術文化財団(美術部門)	9-1 <input type="checkbox"/>	9-2 <input type="checkbox"/>	9-3 <input type="checkbox"/>	9-4 <input type="checkbox"/>	9-5 <input type="checkbox"/>
10. 朝日新聞文化財団(芸術活動への助成〈美術分野〉)	10-1 <input type="checkbox"/>	10-2 <input type="checkbox"/>	10-3 <input type="checkbox"/>	10-4 <input type="checkbox"/>	10-5 <input type="checkbox"/>
11. 花王芸術・科学財団(美術展覧会への助成)	11-1 <input type="checkbox"/>	11-2 <input type="checkbox"/>	11-3 <input type="checkbox"/>	11-4 <input type="checkbox"/>	11-5 <input type="checkbox"/>
12. 損保ジャパン日本興亜美術財団(美術界への助成活動)	12-1 <input type="checkbox"/>	12-2 <input type="checkbox"/>	12-3 <input type="checkbox"/>	12-4 <input type="checkbox"/>	12-5 <input type="checkbox"/>
13. テルモ生命科学芸術財団(現代美術助成)	13-1 <input type="checkbox"/>	13-2 <input type="checkbox"/>	13-3 <input type="checkbox"/>	13-4 <input type="checkbox"/>	13-5 <input type="checkbox"/>

	SQ5-1 知っている 助成金制度	SQ5-2 2013-15年度 の応募実績	SQ5-3 2013-15年度 の交付実績	SQ5-4 2016年度の 応募実績	SQ5-5 2016年度の 交付実績
14. 野村財団(芸術文化助成(美術部門))	14-1 <input type="checkbox"/>	14-2 <input type="checkbox"/>	14-3 <input type="checkbox"/>	14-4 <input type="checkbox"/>	14-5 <input type="checkbox"/>
15. 福武財団(文化と芸術による地域振興の助成)	15-1 <input type="checkbox"/>	15-2 <input type="checkbox"/>	15-3 <input type="checkbox"/>	15-4 <input type="checkbox"/>	15-5 <input type="checkbox"/>
16. ポーラ美術振興財団(美術に関する国際交流助成)	16-1 <input type="checkbox"/>	16-2 <input type="checkbox"/>	16-3 <input type="checkbox"/>	16-4 <input type="checkbox"/>	16-5 <input type="checkbox"/>
17. 三菱 UFJ 信託地域文化財団(美術館等の美術展に対する助成)	17-1 <input type="checkbox"/>	17-2 <input type="checkbox"/>	17-3 <input type="checkbox"/>	17-4 <input type="checkbox"/>	17-5 <input type="checkbox"/>
18. 企業メセナ協議会(助成認定制度)	18-1 <input type="checkbox"/>	18-2 <input type="checkbox"/>	18-3 <input type="checkbox"/>	18-4 <input type="checkbox"/>	18-5 <input type="checkbox"/>
19. 民間企業の協賛金	19-1 <input type="checkbox"/>	19-2 <input type="checkbox"/>	19-3 <input type="checkbox"/>	19-4 <input type="checkbox"/>	19-5 <input type="checkbox"/>

SQ5-6 Q5の1～19以外の助成金制度でこれまでに応募したり、採択されたりしたものがあれば、団体名と助成金制度の名前をご記入ください。

団体名	助成金制度名
20.	
21.	
22.	

Q6 次の設問は芸術文化振興基金及びそれ以外も含めた美術分野全体の助成金制度についてお答えください。

SQ6-1 2013～2015年度に応募した助成金制度の件数と、そのうち採択されて助成金が交付された助成金制度の件数をご記入ください。

応募 件	採択 件
---------	---------

(ひとつの事業・企画で複数の助成金制度に応募した場合は、その数を足し合わせて3年間の合計の件数をご記入ください。正確な数字がわからない場合は概数で結構です)

SQ6-2 2016年度に応募した助成金制度の応募件数と応募金額の合計及び採択された助成金制度の件数と交付金額の合計をご記入ください。

応募 件	応募 万円	採択 件	採択 万円
---------	----------	---------	----------

(正確な数字がわからない場合は概数で結構です)

Q7 美術分野の助成金制度についてどのような問題点がありますか(☑はいくつでも)。選択肢以外のものがある場合はQ8にご記入下さい。

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1 <input type="checkbox"/> 音楽や演劇、舞踊など舞台芸術分野と比較して、美術分野を対象にした助成金制度の数や種類が少ないと感じる | 3 <input type="checkbox"/> 助成団体や助成金制度の情報入手に苦慮している |
| 2 <input type="checkbox"/> 助成の趣旨や目的が合致する助成金制度が少ない | 4 <input type="checkbox"/> 交付決定から事業実施までに十分な期間を確保できない |
| 4 <input type="checkbox"/> 様々な助成金制度の応募時期が重なっている | 5 <input type="checkbox"/> 応募や交付に必要な書類が多すぎる |
| 6 <input type="checkbox"/> 応募や交付の手続きが煩雑である | 7 <input type="checkbox"/> 助成対象経費の制約が多すぎる |
| 8 <input type="checkbox"/> 申請に必要な資格や要件を満たすことができない | 8 <input type="checkbox"/> 助成の方針や審査基準が不明確である |
| 10 <input type="checkbox"/> 助成申請の前提となる自己負担金の確保に苦慮する | 9 <input type="checkbox"/> 助成申請するスタッフや時間が不足している |
| 12 <input type="checkbox"/> 問い合わせ先の担当者が協力的でない | |

SQ7-1 では、Q7のご回答から最も問題点と感じる項目を3つ選んで、順に番号をご記入ください。

第1位 第2位 第3位

Q8 美術分野の助成金制度について、全般的にお感じになっている問題点、あるいはご意見やご提案がございましたら、自由にご記入ください。

II 貴団体の2016年度の代表的な展覧会等についてお尋ねします。

Q9 貴団体(あなた)が2016年度に行った展覧会等の事業や活動のうち、交付された助成金額(複数ある場合はその合計)の最も大きかった展覧会等の名称をご記入ください。2016年度に助成金が交付された事業を行っていない場合は、2015年度以前で助成金が交付された直近の事業についてご記入ください。

SQ9-1 その事業は芸術文化振興基金から助成金の交付を受けましたか(☑はひとつ)。

- 1 はい(→SQ9-2へ) 2 いいえ(→SQ9-3へ) ※選択肢を選び直す場合にクリック

SQ9-2 (SQ9-1で「1.はい」と回答された方へ)それはどの助成金制度ですか(☑はひとつ)。

- 1 美術の創造普及活動 2 地域文化公演・展示活動(美術館等展示)
3 その他(具体的に_____) ※選択肢を選び直す場合にクリック

SQ9-3 芸術文化振興基金以外の助成金、協賛金で交付を受けたものがあれば Q5の一覧表(SQ5-6でご記入頂いたものも含む)の中から選んで、その番号を金額の多い順にご記入下さい。

第1位 第2位 第3位 第4位 第5位

Q10 Q9でご記入頂いた事業の内容についてお尋ねします。

SQ10-1 当該事業の目的について、当てはまるものをお選びください(☑はいくつでも)。

- 1 芸術文化の新たな局面を切り拓く先駆的・実験的な創造活動の推進
2 次代を担うことが期待される芸術家等の芸術文化活動の推進 3 地域文化の振興
4 芸術作品の創作、展示 5 芸術家等に対する作品の創造、発表の機会の提供
6 子ども、青少年への芸術文化の普及 7 地域住民への芸術文化の普及
8 芸術文化を通じた地域の活性化 9 国際文化交流の促進
10 芸術文化に関する普及・啓発、情報発信 11 その他(具体的に_____)

SQ10-2 最も合致する事業の種類をお選びください(☑はひとつだけ)。

- 1 企画展 2 公募展 3 常設展 4 芸術祭(フェスティバル)
5 アートプロジェクト 6 滞在制作(レジデンシー) 7 シンポジウム・フォーラム
8 その他(具体的に_____) ※選択肢を選び直す場合にクリック

SQ10-3 当該事業で扱ったジャンルは、次のうちどれが該当しますか(☑はいくつでも)。

- 1 絵画 2 彫刻 3 工芸 4 書
5 デザイン 6 建築 7 写真 8 漫画
9 映像 10 インスタレーション 11 パフォーマンス 12 音楽
13 演劇 14 ダンス 15 その他(具体的に_____)

SQ10-4 SQ10-3で選んだものの中から、最も中心的なジャンルの番号を1つだけ選んでご記入ください。

SQ10-5 当該事業で展示された作品数は次のうちどれに該当しますか(☑はひとつだけ)。

- 1 10点未満 2 10～29点 3 30～49点
4 50～99点 5 100～199点 6 200点以上 ※選択肢を選び直す場合にクリック

SQ10-6 当該事業の、延べ入場者・参加者数の実績を、展示活動と展示以外の活動(講座、ワークショップ、講演、シンポジウムなど)に分けてご記入ください。正確な数字が不明な場合は、概算の人数で結構です(「約」や「およそ」といった文字は省いて、半角数字のみでご記入ください)。

(a)展示活動の入場者数	人	(b)展示以外の活動の入場者・参加者数	人	合計(a)+(b)	人
--------------	---	---------------------	---	-----------	---

SQ10-7 当該事業で展示以外に実施している活動・事業があれば、次の中からお選びください(☑はいくつでも)。

- 1 幅広い市民を対象とした講座、ワークショップ 2 地域の芸術家、芸術系学生対象の講座、ワークショップ
3 展示内容に関連する講演、シンポジウム、トーク 4 展示内容に関連するパフォーマンス、映画、映像等の上映
5 学校や福祉施設等への教育普及活動(アウトリーチ) 6 その他(具体的に_____)
7 特になし

SQ10-8 当該事業で使用した会場について、当てはまるものをお選びください(☑はいくつでも)。

- 1 都道府県や市町村が設置した公立の美術館・博物館 2 美術館・博物館以外の公立文化施設
3 国立の美術館・博物館 4 美術館・博物館以外の国立の文化施設
5 民間の美術館・博物館 6 美術館・博物館以外の民間の文化施設
7 廃校や空き店舗等の遊休施設、歴史的建造物 8 公園、街路、森林等の屋外環境
9 海外の美術館、博物館、その他の会場 10 その他(具体的に_____)

Q11 Q9でご記入頂いた事業の企画や運営についてお尋ねします。

SQ11-1 当該事業の会期または実施期間を西暦でご記入ください。

(開始) _____年_____月_____日 ~ (終了) _____年_____月_____日

SQ11-2 当該事業の企画内容はいつ頃から検討し始めましたか(☑はひとつだけ)。

- 1 実施の5年以上前 2 実施の3～5年前
3 実施の2～3年前 4 実施の1～2年前
5 実施の半年から1年前 6 実施の半年前以降
 ※選択肢を選び直す場合にクリック

SQ11-3 当該事業の助成金や協賛金への申請はいつ頃から検討し始めましたか(☑はひとつだけ)。

- 1 実施の5年以上前 2 実施の3～5年前
3 実施の2～3年前 4 実施の1～2年前
5 実施の半年から1年前 6 実施の半年前以降
 ※選択肢を選び直す場合にクリック

SQ11-4 当該事業の助成金や協賛金の交付の決定(内定を含む)はいつ頃でしたか。複数の助成金、協賛金を受けた場合は金額の最も大きかったものについてお答え下さい(☑はひとつだけ)。

- 1 実施の2年以上前 2 実施の2年前頃
3 実施の1年半前頃 4 実施の1年前頃
5 実施の半年前頃 6 実施の3ヶ月前頃
7 実施の2ヶ月前頃 8 実施の1ヶ月前頃
9 実施の1ヶ月前頃以降
 ※選択肢を選び直す場合にクリック

SQ11-5 その交付の決定時期についてどのようにお感じですか(☑はひとつだけ)。

- 1 適切なタイミングで事業を円滑に行うことができた 2 決定が遅すぎて、事業の実施に不安があった
3 その他(具体的に_____)
 ※選択肢を選び直す場合にクリック

SQ11-6 その助成金や協賛金が交付されなかった場合、どのような対応を考えていましたか(☑はひとつだけ)。

- 1 事業の規模を縮小して実施する
 2 自身の美術館や団体の他の予算を活用して実施する
 3 新たに民間企業の協賛金などを獲得する
 4 事業を中止もしくは延期する
 5 その他(具体的に_____)
 ※選択肢を選び直す場合にクリック

Q12 Q9でご記入頂いた事業の総事業費は、次のうちどれに該当しますか (☑はひとつだけ)。

- 1 100万円未満
 2 100万円以上200万円未満
 3 200万円以上300万円未満
 4 300万円以上500万円未満
 5 500万円以上1,000万円未満
 6 1,000万円以上2,000万円未満
 7 2,000万円以上5,000万円未満
 8 5,000万円以上1億円未満
 9 1億円以上
 ※選択肢を選び直す場合にクリック

SQ12-1 当該事業の収入と支出の内訳について比率をご記入ください。

- Q9に記入した展覧会等の事業や活動の決算数字から算出してください。決算数字が確定していない場合は概算で結構ですが、合計が100%となるようご記入下さい。
- 収入額と支出額は同額であることを前提として、支出額が収入額を上回る場合(赤字事業)は、収入項目の「自己負担金」に、借入金や自己負担額を含めてご回答ください。支出額が収入額を下回る場合(黒字事業)は、支出項目の「その他」に経常利益や次年度繰越金を含めてご回答ください。

収入項目	内訳比率
入場料収入	%
共催者負担金	%
補助金・助成金※1	%
寄付金・協賛金※2	%
図録等売上収入	%
広告料・その他収入	%
自己負担金	%

支出項目	内訳比率
作品借料	%
出演費・諸謝金	%
会場費	%
設営費・運搬費	%
旅費	%
宣伝費	%
その他	%

※1 補助金・助成金: 国や地方公共団体からの補助金もしくはそれらの外郭団体や民間財団からの助成金

※2 寄付金・協賛金: 民間企業からの寄付金・協賛金

Q13 Q9でご記入頂いた事業を実施する上でご苦労した点、特に助成金や協賛金の申請や交付について課題に感じる点がございましたら、自由にご記入下さい。

Ⅲ 貴団体についてお伺いします

Q14 貴団体は次のどれに該当しますか(☑はひとつだけ)。

- | | |
|----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 1 <input type="checkbox"/> 都道府県や市町村が設置した公立の美術館・博物館 | 2 <input type="checkbox"/> 美術館・博物館以外の公立文化施設 |
| 3 <input type="checkbox"/> 国立の美術館・博物館 | 4 <input type="checkbox"/> 美術館・博物館以外の国立の文化施設 |
| 5 <input type="checkbox"/> 民間の美術館・博物館 | 6 <input type="checkbox"/> 美術館・博物館以外の民間の文化施設 |
| 7 <input type="checkbox"/> 国立大学 | 8 <input type="checkbox"/> 公立大学 |
| 9 <input type="checkbox"/> 私立大学 | 10 <input type="checkbox"/> 事業を実施するために組織された実行委員会等 |
| 11 <input type="checkbox"/> (施設運営を行わない)非営利団体(財団・社団、NPO等) | 12 <input type="checkbox"/> その他(具体的に_____) |
- ※選択肢を選び直す場合にクリック

Q15 Q14で1~6を選択した場合は貴美術館や博物館、文化施設の開館年について、Q14で7~12を選択した場合は貴団体の設立年について、当てはまるものをお選びください(☑はひとつだけ)。

- | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 <input type="checkbox"/> 1959年以前 | 2 <input type="checkbox"/> 1960-1969年 | 3 <input type="checkbox"/> 1970-1979年 |
| 4 <input type="checkbox"/> 1980-1989年 | 5 <input type="checkbox"/> 1990-1999年 | 6 <input type="checkbox"/> 2000-2009年 |
| 7 <input type="checkbox"/> 2010-2016年 | <input type="checkbox"/> ※選択肢を選び直す場合にクリック | |

Q16 貴団体が活動や事業を行う拠点の地域は、次のうちどれに該当しますか(☑はひとつだけ)。

- | | | | |
|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------------|------------------------------------|
| 1 <input type="checkbox"/> 北海道 | 2 <input type="checkbox"/> 東北地方 | 3 <input type="checkbox"/> 関東・甲信越地方(東京都を除く) | 4 <input type="checkbox"/> 東京都 |
| 5 <input type="checkbox"/> 中部地方 | 6 <input type="checkbox"/> 近畿地方 | 7 <input type="checkbox"/> 中国・四国地方 | 8 <input type="checkbox"/> 九州・沖縄地方 |
- ※選択肢を選び直す場合にクリック

Q17 貴団体の団体名称、ご回答者のお名前やご連絡先等をご記入ください。今後、調査にご協力をお願いするためのご連絡で使用させていただく場合がありますが、その他の目的で使用することは一切ありません。

①貴団体の名称	(美術館や博物館、ギャラリー等を管理・運営している場合は運営団体の正式名称をご記入ください。)		
②貴施設の名称	(美術館や博物館、ギャラリー等を管理・運営していない場合はご記入頂く必要はありません。)		
③ご回答者のお名前			
④担当部署のお名前			⑤役職名
⑥ご住所	〒		
⑦お電話番号			⑧メールアドレス
⑨貴団体の URL			

Q18 アンケート調査では把握しきれない詳細な状況を調査するため、2017年8月~10月頃にヒアリング調査を実施する予定です。ご協力いただけるかどうかお答えください。(☑はひとつだけ)

- 1 協力してもよい 2 協力は見送りたい ※選択肢を選び直す場合にクリック

アンケート調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

美術の創造普及活動に対する助成に関する調査研究
報告書

発行 2018年3月

委託 独立行政法人日本芸術文化振興会
〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1
TEL 03-3265-7411 (代)

受託 株式会社ニッセイ基礎研究所
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7
TEL 03-3512-1799
FAX 03-5211-1084

*無断複写・転載はお断りします。
